令和 7(2025)年度

学習の手引き（シラバス）

宇 都 宮 短 期 大 学

音 楽 科

本学園の建学の精神「全人教育」

建学の精神は、「全人教育(人間形成の教育)」です。創始者 須賀栄子は、明治33年(1900年)の共和女学校創設以来、学校の教育に専心するとともに、当時の寮生活において、学生と寝食をともにし、文字どおり一人ひとりの個性を伸ばす生活指導を行いました。それが、「共和(共にあい和して事にあたる-史記)の精神による全人教育」の原点です。

「全人教育(人間形成の教育)」とは、「学生生徒一人ひとりが持って生まれた優れた個性・能力・特質を最大限に伸ばしていく人間教育」です。

本学園の教育理念

Ⅰ．人間尊重の精神と豊かな人間性を啓培し、民主社会における真にのぞましい人間を育成する。
Ⅱ．円満な教養と高い徳性とを培い、個々の特性の伸長につとめ、心身ともに健康な人物を育成する。
Ⅲ．自主自立の気風を高め、忍耐力と実践究明の態度を涵養し、勤労と責任を尊ぶ人材を育成する。

宇都宮短期大学の三つの方針

卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

宇都宮短期大学は、本学園の建学の精神、教育理念に基づき、次の教育目的・目標を掲げます。

【教育目的・目標】

宇都宮短期大学は、教育基本法及び学校教育法の精神に従って大学教育を施し、一般教養及び専門の知識と技能を授け、文化の創造と発展に貢献し得る有為な青年を育成することを目的とする。(学則第１条)

この教育目的・目標に基づいて、次の学習成果を身につけた人材を養成します。

【学習成果】

1.広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。
2.豊かな人間性と感性をもち、目指す専門分野に係わる基本的な知識・技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができる。
3.専門的な知識・技術・方法、態度を身につけ、倫理性をもって地域や社会に貢献できる。

以上の学習成果を達成するために、編成された教育課程において所定の単位を修得した人に卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。

取得できる資格取得の要件は、次のとおりです。

【取得できる資格取得の要件】

各学科又は専攻課程で資格を取得するには、卒業要件を満たし、その資格に必要な科目を履修し、単位を修得する。

別途、受験が必要な資格は、試験に合格することで取得する。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

本学の学習成果を体系的に達成するために、教育課程を次の方針に基づいて編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

学習成果を達成するために各学科・専攻の教育課程は、基礎教育科目、専門教育科目及び資格取得科目等をもって編成します。

【教育課程実施の方針】

学生が主体的・能動的・協働的に学習に取り組むことができるように、シラバスにおいて授業内・外の学習の明示をするとともに、学習内容の理解を深めるための学生と教員相互のチェックを積極的に行い、学びを促進します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー)

高等教育に備える基礎学力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）を身につけ、専門性を活かして地域貢献を希望する人を幅広く受け入れます。各学科では、多様な受験機会を用意し、書類審査、実技試験、口頭試問、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

音楽科の三つの方針

卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

音楽科は、本学の卒業認定・学位授与の方針に基づき、次の教育目的・目標を掲げます。

【教育目的・目標】

1. 広い教養と、自立・自律した生活者としての行動規範を身につける。
2. 音楽における基本的な理論と演奏技術を学ぶとともに、豊かな感性を磨く。
3. 個々の特性を活かした芸術表現と、音楽に関わる広い職種に適う知識・技術や態度を学ぶ。

音楽科の教育目的・目標に鑑み、以下の学習成果を達成するために編成された教育課程において、所定の単位を修得した人に卒業を認定し、短期大学士(音楽)の学位を授与します。

【学習成果】

1. 広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。
2. 音楽の意義を学び、音楽の基礎的知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができる。
3. 音楽分野のキャリアにおける知識と教養を学び、専門家として必要な技術・方法、態度を身につけ、音楽に関わる職業人として、地域や文化の発展に貢献することができる。
4. 演奏技術を習得する教育課程により、演奏の基礎を身につけ、公開の場で発表することができる。
5. 音楽教育に関わる教育課程により、音楽教育の基礎を身につけ、指導者として地域の教育活動に貢献することができる。

音楽科で取得できる資格取得の要件は、次のとおりです。

【取得できる資格取得の要件】

1. 教育職員免許状中学校二種(音楽)を取得するには、卒業要件を満たし、その資格に必要な基礎教育科目、専門教育科目、教職に関する専門教育科目及び介護等の体験を履修し、単位を修得する。
2. その他の取得できる資格を取得するには、卒業要件を満たし、その資格に必要な科目を履修し、単位を修得する。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

音楽科の学習成果を達成するために、教育課程を次の方針に基づいて編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 基礎教育科目は、広い教養を身につけ人間と生活を理解するための科目で編成し、建学の精神を学ぶための科目と音楽キャリア講座等を必修とする。
2. 専門教育科目は、音楽の理論と技術の基本を理解するための専門教育科目（必修）と音楽の豊かな表現

を伸長するための専門教育科目（選択）で編成する。

3. 中学校教諭二種免許状（音楽）を取得するために、教職に関する専門科目（選択）で編成する。その他の資格取得では、その資格を取得するために必要な専門教育科目（選択）で編成する。

【教育課程実施の方針】

学生が主体的・能動的・協働的に学習に取り組むことができるように、シラバスにおいて授業内・外の学習の明示をするとともに、学習内容の理解を深めるための学生と教員相互のチェックを積極的に行い、学びを促進します。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

高等教育に備える基礎学力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）を身につけ、専門性を活かして地域に貢献したい学生を幅広く受け入れます。このため、次の点を重視します。

1. 音楽の基本的な奏法・表現能力を身につけている人
2. 音楽の幅広いジャンルの表現や活動に強い関心を持ち、意欲的に学習する人
3. 音楽の専門的な知識・技術を、学内外の活動や実習で活かし、コミュニケーション力をもって、社会に貢献する意欲をもつ人

令和7年度　音楽科カリキュラムツリー

【音楽科のディプロマ・ポリシーの学習成果】

1　広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。
2　音楽の意義を学び、音楽の基礎的知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができる。
3　音楽分野のキャリアにおける知識と教養を学び、専門家として必要な技術・方法、態度を身につけ、音楽に関わる職業人として、地域や文化の発展に貢献することができる。
4　演奏技術を習得する教育課程により、演奏の基礎を身につけ、公開の場で発表することができる。
5　音楽教育に関わる教育課程により、音楽教育の基礎を身につけ、指導者として地域の教育活動に貢献することができる。

	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
	英語Ⅰ	英語Ⅱ	日本国憲法	哲学
	全人教育	音楽キャリア講座	発達心理学	経済学
	体育実技	体育実技		外国語コミュニケーション
	情報機器操作	言語表現法		障害者福祉論
	歴史学	心理学		リハビリテーション論
	ドイツ語	DTM概論		
	演奏と身体	介護の基本		
	音楽療法概論			
DP1	合唱	合唱	合唱	合唱
DP1	合奏	合奏	合奏	合奏
DP1	重唱	重唱	音楽療法Ⅱ（臨床）	音楽療法総合演習
DP1	療法音楽研究	指揮法	音楽療法Ⅲ（技法）	音楽療法実習
DP1	アンサンブル演習	ピアノ指導法	吹奏楽実践演習	
DP1		音楽科教育法	吹奏楽運営法	
DP1		音楽療法Ⅰ（基礎）		
DP1	教育原理	教育心理	道徳教育の指導法	教職実践演習（中学校）
DP1	教職概論	特別活動の指導法	総合的な学習の時間の指導法	
DP1	教育相談	教育実習	生徒・進路指導	
DP1	特別支援教育	教育とICT活用	教育実習	
DP2	演奏と身体	音楽キャリア講座		
DP2	音楽療法概論	DTM概論		
DP2	ピアノ（主科）	ピアノ（主科）	ピアノ（主科）	ピアノ（主科）
DP2	声楽（主科）	声楽（主科）	声楽（主科）	声楽（主科）
DP2	ピアノ以外の器楽（主科）	ピアノ以外の器楽（主科）	ピアノ以外の器楽（主科）	ピアノ以外の器楽（主科）
DP2	ピアノ（副科）	ピアノ（副科）	ピアノ（副科）	ピアノ（副科）
DP2	声楽（副科）	声楽（副科）	ピアノ以外の器楽（副科）	ピアノ以外の器楽（副科）
DP2	ピアノ以外の器楽（副科）	ピアノ以外の器楽（副科）	ソルフェージュ	ソルフェージュ
DP2	ソルフェージュ	ソルフェージュ	音楽史	音楽史
DP2	合唱	合唱	合唱	合唱
DP2	合奏	合奏	合奏	合奏
DP2	重唱	重唱	初見・伴奏法	音楽療法総合演習
DP2	療法音楽研究	指揮法	音楽療法Ⅱ（臨床）	音楽療法実習
DP2	アンサンブル演習	ピアノ指導法	音楽療法Ⅲ（技法）	卒業演奏
DP2	音楽理論	音楽科教育法	吹奏楽実践演習	音楽基礎演習Ⅱ
DP2	和声学	音楽療法Ⅰ（基礎）	吹奏楽運営法	コード進行法Ⅱ
DP2	音楽基礎演習Ⅰ	音楽理論	音楽基礎演習Ⅱ	電子オルガン創作編曲Ⅱ
DP2	楽曲分析	和声学	創作研究	ポリフォニーの演奏法
DP2	吹奏楽概論Ⅰ	音楽基礎演習Ⅰ	コード進行法Ⅱ	邦楽合奏研究
DP2	コード進行法Ⅰ	演奏表現法	電子オルガン創作編曲Ⅱ	邦楽総合演習
DP2	電子オルガン創作編曲Ⅰ	コード進行法Ⅰ	邦楽合奏研究	
DP2	邦楽概論Ⅰ	電子オルガン創作編曲Ⅰ	邦楽総合演習	
DP2	楽器調整法（和楽器）	コード進行法基礎（グレード）		
DP2		邦楽概論Ⅱ		
DP2		楽器調整法（和楽器）		
DP2		吹奏楽概論Ⅱ		
DP2		楽曲編曲		
DP3	演奏と身体	音楽キャリア講座		
DP3	音楽療法概論	DTM概論		
DP3	ピアノ（主科）	ピアノ（主科）	ピアノ（主科）	ピアノ（主科）
DP3	声楽（主科）	声楽（主科）	声楽（主科）	声楽（主科）
DP3	ピアノ以外の器楽（主科）	ピアノ以外の器楽（主科）	ピアノ以外の器楽（主科）	ピアノ以外の器楽（主科）
DP3	ピアノ（副科）	ピアノ（副科）	ピアノ（副科）	ピアノ（副科）
DP3	声楽（副科）	声楽（副科）	ピアノ以外の器楽（副科）	ピアノ以外の器楽（副科）
DP3	ピアノ以外の器楽（副科）	ピアノ以外の器楽（副科）	ソルフェージュ	ソルフェージュ
DP3	ソルフェージュ	ソルフェージュ	音楽史	音楽史
DP3	合唱	合唱	合唱	合唱
DP3	合奏	合奏	合奏	合奏
DP3	重唱	重唱	初見・伴奏法	卒業演奏
DP3	療法音楽研究	指揮法	吹奏楽実践演習	音楽基礎演習Ⅱ
DP3	アンサンブル演習	ピアノ指導法	音楽基礎演習Ⅱ	コード進行法Ⅱ
DP3	音楽理論	音楽科教育法	創作研究	電子オルガン創作編曲Ⅱ
DP3	和声学	音楽理論	コード進行法Ⅱ	ポリフォニーの演奏法
DP3	音楽基礎演習Ⅰ	和声学	電子オルガン創作編曲Ⅱ	邦楽合奏研究
DP3	楽曲分析	音楽基礎演習Ⅰ	邦楽合奏研究	邦楽総合演習
DP3	コード進行法Ⅰ	演奏表現法	邦楽総合演習	音楽療法総合演習
DP3	電子オルガン創作編曲Ⅰ	コード進行法Ⅰ	音楽療法Ⅱ（臨床）	音楽療法実習
DP3	邦楽概論Ⅰ	電子オルガン創作編曲Ⅰ	音楽療法Ⅲ（技法）	
DP3	楽器調整法（和楽器）	コード進行法基礎（グレード）	吹奏楽運営法	
DP3	吹奏楽概論Ⅰ	楽曲編曲		
DP3		音楽療法Ⅰ（基礎）		
DP3		邦楽概論Ⅱ		
DP3		吹奏楽概論Ⅱ		

DP4	ピアノ（主科）	ピアノ（主科）	ピアノ（主科）	ピアノ（主科）
	声楽（主科）	声楽（主科）	声楽（主科）	声楽（主科）
	ピアノ以外の器楽（主科）	ピアノ以外の器楽（主科）	ピアノ以外の器楽（主科）	ピアノ以外の器楽（主科）
	ピアノ（副科）	ピアノ（副科）	ピアノ（副科）	ピアノ（副科）
	声楽（副科）	声楽（副科）	ピアノ以外の器楽（副科）	ピアノ以外の器楽（副科）
	ピアノ以外の器楽（副科）	ピアノ以外の器楽（副科）	ソルフェージュ	ソルフェージュ
	合唱	合唱	合唱	合唱
	合奏	合奏	合奏	合奏
				卒業演奏
DP5	ソルフェージュ	ソルフェージュ	音楽史	音楽史
	重唱	重唱	吹奏楽実践演習	
	アンサンブル演習	指揮法		
	音楽理論	ピアノ指導法		
	楽曲分析	音楽科教育法		
		音楽理論		
		教育実習	生徒・進路指導	教職実践演習（中学校）
			教育実習	

音楽科のカリキュラムマップ

令和7年4月

【音楽科のディプロマ・ポリシーの学習成果】

1　広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。
2　音楽の意義を学び、音楽の基礎的知識、技術・方法、態度を身につけ、社会の一員として、協働して課題に取り組むことができる。
3　音楽分野のキャリアにおける知識と教養を学び、専門家として必要な技術・方法、態度を身につけ、音楽に関わる職業人として、地域や文化の発展に貢献することができる。
4　演奏技術を習得する教育課程により、演奏の基礎を身につけ、公開の場で発表することができる。
5　音楽教育に関わる教育課程により、音楽教育の基礎を身につけ、指導者として地域の教育活動に貢献することができる。

●は各科目が学習成果の1～5のどれに当てはまるかを表している。

科目区分		科目番号	科目名	時間数	単位数	配当年次 学年	前期	後期	ディプロマ・ポリシー 1	2	3	4	5	卒業要件 教員免許	主要科目
基礎教育科目	必修	25M1BC001	英語　Ⅰ	30	2	1	○		●						
		25M1BC002	英語　Ⅱ	30	2	1		○	●						
		25M1BC003	音楽キャリア講座	15	1	1		○	●	●	●				●
		25M1BC004	全人教育講座	15	1	1	○		●						●
		25M1BC005	体育実技	60	2	1	○	○	●						
		25M1BC006	情報機器操作	30	2	1	○		●						
	選択必修	25M2BD007	哲学	30	2	2		○	●						
		25M1BD008	歴史学	30	2	1	○		●						
		25M1BD009	言語表現法	30	2	1		○	●						
		25M2BD010	経済学	30	2	2		○	●						
		25M2BD011	日本国憲法	30	2	2	○		●					●	
		25M1BD012	心理学	30	2	1		○	●						
	選択	25M2BS013	ドイツ語	30	2	1	○		●						
		25M2BS014	外国語コミュニケーション	30	2	2		○	●					●	
		25M1BS015	演奏と身体	30	2	1	○		●	●	●				
		25M1BS016	DTM概論	30	2	1		○	●	●	●				
		25M1BS017	音楽療法概論	30	2	1	○		●	●	●				
		25M1BS018	介護の基本	30	2	1		○	●						
		25M2BS019	障害者福祉論	30	2	2		○	●						
		25M2BS020	リハビリテーション論	30	2	2		○	●						
		25M2BS021	発達心理学	30	2	2	○		●						
専門教育科目	必修	25M1SC022・023	音楽理論（作曲法・編曲法を含む）	90	4	1	○	○		●	●		●		●
		25M2SC024	音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	60	4	2	○	○		●	●		●		●
		25M1SC025	ソルフェージュ	120	4	1・2	○	○		●	●		●		●
		25M1SC026	合唱	120	4	1・2	○	○	●	●	●	●			●
		25M2SC027	卒業演奏		2	2		○		●	●	●			●
	音楽実技	25M1SP028～034	（A）ピアノ(合奏法・伴奏法を含む)	60	8	1・2	○	○		●	●	●			●
		25M1SP035	（B）声楽	60	8	1・2	○	○		●	●	●			●
		25M1SP036～049	（C）ピアノ以外の器楽(合奏法・伴奏法を含む)	60	8	1・2	○	○		●	●	●			●
			（D）作曲	60	8	1・2	○	○		●	●	●			●
	副科実技	25M1SP050	（A）ピアノ(合奏法・伴奏法を含む)	30	4	1・2	○	○		●	●	●		(●)	●
		25M1SP051～052	（B）声楽	30	2	1	○	○		●	●	●			
				60	2	1・2	○	○		●	●	●		(●)	
		25M1SP053～058	（C）ピアノ以外の器楽（合奏法・伴奏法を含む）	30	2	1・2	○	○		●	●	●		(●)	
	選択	25M1SP059	合奏	120	4	1・2	○	○	●	●	●	●			
		25M1SP060	指揮法	30	2	1		○	●	●	●		●	●	
		25M1SP061	重唱	30	2	1	○	○	●	●	●		●	●	
		25M2SP062	創作研究	15	1	2	○			●	●			●	
		25M1SP063	楽曲分析	15	1	1	○			●	●		●	●	
		25M1SP064	音楽科教育法	30	2	1		○	●	●	●		●	●	
		25M1SP065	コード進行法基礎（ｸﾞﾚｰﾄﾞ）	15	1	1		○		●	●				
		25M1SP066	コード進行法　Ⅰ	30	1	1	○	○		●	●				
		25M2SP067	コード進行法　Ⅱ	30	1	2	○	○		●	●				
		25M1SP068	電子オルガン創作編曲　Ⅰ	15	1	1	○	○		●	●				
		25M2SP069	電子オルガン創作編曲　Ⅱ	15	1	2	○	○		●	●				
		25M2SP070	ポリフォニーの演奏法	30	2	2		○		●	●				
		25M1SP071	ピアノ指導法	30	2	1		○	●	●	●		●		
		25M1SP072	演奏表現法	30	2	1	○			●	●				
		25M2SP073	初見・伴奏法	30	2	2	○			●	●				
		25M1SP074	音楽療法Ⅰ〈基礎〉	30	2	1		○	●	●	●				
		25M2SP075	音楽療法Ⅱ〈臨床〉	15	1	2	○		●	●	●				
		25M2SP076	音楽療法Ⅲ〈技法〉	15	1	2	○		●	●	●				
		25M1SP077	邦楽概論　Ⅰ	30	2	1	○			●	●				
		25M1SP078	邦楽概論　Ⅱ	30	2	1		○		●	●				
		25M1SP079	療法音楽研究	15	1	1	○		●	●	●				
		25M1SP080	音楽基礎演習Ⅰ	30	1	1	○	○		●	●				
		25M2SP081	音楽基礎演習Ⅱ	30	1	2	○	○		●	●				
		25M2SP082	音楽療法総合演習	30	2	2		○	●	●	●				
		25M2SP083	音楽療法実習	90	3	2		○	●	●	●				
		25M1SP084	楽器調整法〈和楽器〉	30	2	1	○	○		●	●				
		25M2SP085	邦楽合奏研究	30	2	2	○	○		●	●				
		25M2SP086	邦楽総合演習	30	2	2	○	○		●	●				
		25M1SP087	吹奏楽概論Ⅰ	30	2	1	○			●	●				
		25M1SP088	吹奏楽概論Ⅱ	30	2	1		○		●	●				
		25M1SP089	アンサンブル演習	15	1	1	○		●	●	●		●		
		25M1SP08990	楽曲編曲	15	1	1		○		●	●				
		25M2SP091	吹奏楽実践演習	30	2	2	○		●	●	●		●		
		25M2SP092	吹奏楽運営法	30	2	2	○		●	●	●				
教職に関する専門科目	選択	25M1EC093	教育原理	30	2	1	○		●					●	
		25M1EC094	教職概論	30	2	1	○		●					●	
		25M1EC095	教育心理	15	1	1		○	●					●	
		25M1EC096	特別支援教育	15	1	1	○		●					●	
		25M2EC097	道徳教育の指導法	15	1	2	○		●					●	
		25M2EC098	総合的な学習の時間の指導法	15	1	2	○		●					●	
		25M1EC099	特別活動の指導法	15	1	1		○	●					●	
		25M1EC100	教育課程・方法論	15	1	1		○	●					●	
		25M1EC101	教育とICT活用	15	1	1		○	●					●	
		25M1EC102	生徒・進路指導	15	1	2	○		●				●	●	
		25M2EC103	教育相談	15	1	1	○		●					●	
		25M1EC104	教育実習	150	5	1・2	2年前期	1年後期	●				●	●	
		25M2EC105	教職実践演習（中学校）	30	2	2		○	●				●	●	

卒業要件:
2年間で62単位以上修得する
①基礎教育科目から18単位以上修得する
②専門教育科目必修18単位、音楽実技8単位、合計26単位以上修得する
③基礎教育科目及び専門教育科目から18単位以上修得する

目　　次

基礎教育科目
1　英　語Ⅰ（25M1BC001）
2　英　語Ⅱ（25M1BC002）
3　音楽キャリア講座（25M1BC003）
4　全人教育講座（25M1BC004）
5　体育実技（25M1BC005）
6　情報機器操作（25M1BC006）
7　哲学（25M2BD007）
8　歴史学（25M1BD008）
9　言語表現法（25M1BD009）
10　経済学（25M2BD010）
11　日本国憲法（25M2BD011）
12　心理学（25M1BD012）
13　ドイツ語（25M2BS013）
14　外国語コミュニケーション（25M2BS014）
15　演奏と身体(25M1BS015)
16　DTM概論（25M1BS016）
17　音楽療法概論（25M1BS017）
18　介護の基本（25M1BS018）
19　障害者福祉論（25M2BS019）
20　リハビリテーション論（25M2BS020）
21　発達心理学（25M2BS021）
専門教育科目
22　音楽理論（25M1SC022）
23　音楽理論〈和声学〉（25M1SC023）
24　音楽史（25M2SC024）
25　ソルフェージュ（25M1SC025）
26　合　唱（25M1SC026）
27　卒業演奏（25M2SC027）
28　音楽実技・ピアノ演奏（25M1SP028）
29　音楽実技・ピアノ（25M1SP029）
30　音楽実技・ピアノ教養（25M1SP030）
31　音楽実技・ピアノ応用のピアノ（25M1SP031）
32　音楽実技・ピアノ応用の電子オルガン(25M1SP032)
33　音楽実技・電子オルガン（25M1SP033）
34　音楽実技・音楽療法士のピアノ（25M1SP034）
35　音楽実技・声楽（25M1SP035）
36　音楽実技・ヴァイオリン（25M1SP036）
37　音楽実技・チェロ（25M1SP037）
38　音楽実技・フルート（25M1SP038）
39　音楽実技・オーボエ（25M1SP039）
40　音楽実技・クラリネット（25M1SP040）
41　音楽実技・ファゴット（25M1SP041）
42　音楽実技・ホルン（25M1SP042）
43　音楽実技・トランペット（25M1SP043）
44　音楽実技・サクソフォーン（25M1SP044）
45　音楽実技・トロンボーン（25M1SP045）
46　音楽実技・ユーフォニアム・チューバ（25M1SP046）
47　音楽実技・打楽器（25M1SP047）

48　音楽実技・マリンバ（25M1SP048）
49　音楽実技・邦楽（25M1SP049）
50　副科実技・ピアノ（25M1SP050）
51　副科実技・声楽（25M1SP051）
52　副科実技・音楽療法士の声楽（25M1SP052）
53　副科実技・ヴァイオリン（25M1SP053）
54　副科実技・フルート（25M1SP054）
55　副科実技・電子オルガン（25M1SP055）
56　副科実技・箏曲（25M1SP056）
57　副科実技・三絃（25M1SP057）
58　副科実技・尺八（25M1SP058）
59　合　奏（25M1SP059）
60　指揮法（25M1SP060）
61　重　唱（25M1SP061）
62　創作研究（25M2SP062）
63　楽曲分析（25M1SP063）
64　音楽科教育法（25M1SP064）
65　コード進行法基礎（グレード）（25M1SP065）
66　コード進行法Ⅰ（25M1SP066）
67　コード進行法Ⅱ（25M2SP067）
68　電子オルガン創作編曲Ⅰ（25M1SP068）
69　電子オルガン創作編曲Ⅱ（25M2SP069）
70　ポリフォニーの演奏法（25M2SP070）
71　ピアノ指導法（25M1SP071）
72　演奏表現法（25M1SP072）
73　初見・伴奏法（25M2SP073）
74　音楽療法Ⅰ〈基礎〉（25M1SP074）
75　音楽療法Ⅱ〈臨床〉（25M2SP075）
76　音楽療法Ⅲ〈技法〉（25M2SP076）
77　邦楽概論Ⅰ（25M1SP077）
78　邦楽概論Ⅱ（25M1SP078）
79　療法音楽研究（25M1SP079）
80　音楽基礎演習Ⅰ（25M1SP080）
81　音楽基礎演習Ⅱ（25M2SP081）
82　音楽療法総合演習（25M2SP082）
83　音楽療法実習（25M2SP083）
84　楽器調整法〈和楽器〉（25M1SP084）
85　邦楽合奏研究（25M2SP085）
86　邦楽総合演習（25M2SP086）
87　吹奏楽概論Ⅰ(25M1SP087)
88　吹奏楽概論Ⅱ(25M1SP088)
89　アンサンブル演習(25M1SP089)
90　楽曲編曲(25M1SP090)
91　吹奏楽実践演習(25M2SP091)
92　吹奏楽運営法(25M2SP092)

教職科目

93　教育原理（25M1EC093）
94　教職概論（25M1EC094）
95　教育心理（25M1EC095）
96　特別支援教育（25M1EC096）
97　道徳教育の指導法（25M2EC097）

98　総合的な学習の時間の指導法（25M2EC098）
99　特別活動の指導法（25M1EC099）
100 教育課程・方法論（25M1EC100）
101 教育とICT活用（25M1EC101）
102 生徒・進路指導（25M1EC102）
103 教育相談（25M2EC103）
104 教育実習（25M1EC104）
105 教職実践演習（中学校）（25M2EC105）

シラバス科目番号／ナンバリングについて

（例）25M1SC022＝音楽理論

25＝2025年度（西暦下二桁）
M＝音楽科
1＝開講年次
BC＝基礎教育科目必修　BD＝基礎教育科目選択必修　BS＝基礎教育科目選択
SC＝専門教育科目必修　SP＝専門教育科目選択
EC＝教職科目
22＝科目の通し番号

吹奏楽・アンサンブル専攻コースの実技に関して

吹奏楽・アンサンブル専攻コースの実技は以下の通り行います。

＜音楽実技＞
各専攻楽器のシラバスに沿って，個々のレベルに応じた内容で行います。

＜副科実技・ピアノ＞
副科実技・ピアノのシラバス（ハノンも含む）に沿って，個々のレベルに応じた内容で行います。

実務経験のある教員による授業科目一覧

令和7年度

音楽科

実務経験のある教員	授業科目名	配当年次	単位数
直井　研二	音楽キャリア講座	1	1単位
岸本　伸子			
平賀　紀章	障害者福祉論	2	2単位
高橋　一将	リハビリテーション論	2	2単位
益子　徹	教育とＩＣＴ活用	1	1単位
大島　美知恵	音楽療法概論	1	2単位
	音楽療法Ⅰ（基礎）	1	2単位
	音楽療法Ⅱ（臨床）	2	1単位
	音楽療法Ⅲ（技法）	2	1単位
	療法音楽研究	1	1単位
	音楽療法総合演習	2	2単位
	音楽療法実習	2	3単位
田村　和久	吹奏楽概論Ⅰ	1	2単位
	吹奏楽概論Ⅱ	1	2単位
	吹奏楽運営法	2	2単位
田渕　哲也	吹奏楽実践演習	2	2単位
梅澤　圭子	教職概論	1	2単位
	道徳教育の指導法	2	1単位
	生徒・進路指導	1,2	1単位
	教育相談		1単位
	教育実習	2	5単位
	教職実践演習（中学校）	2	2単位
田上　富男	教育原理	1	2単位
	特別活動の指導法	1	1単位
松岡　展世	特別支援教育	1	1単位
山口　宏	総合的な学習の時間の指導法	2	1単位

合計　　43単位

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BC001	英語Ⅰ	1年	前期	講義	2	阿部 巧

授業概要

日常に関連した様々な場面を設定した題材を通して、これまでに学んできた語彙、英語表現や一般的に必要とされる基礎的文法などを復習し、より実践的な技能を高める。また、文章読解、聴解、作文、発話等を通して、「リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング」の４技能を総合的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

到達目標(学習の成果)

・コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる。
・場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。
・積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。

授業計画

回	表 題	学習内容
1回	受講の仕方、授業の内容や目標について確認 レディネステスト	○英語の授業の受け方について知り、前期の学習の見通しを持つ。 ○レディネステストを受け、自分の英語のレベルを確認する。 【予習】 高校で習った文法事項の復習 【復習】 Task1:動画を視聴し内容をまとめる。
2回	Unit1: Occupations Conversation & Grammar	○職業に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task1:トピックを考え、内容を整理する。
3回	Unit1: Occupations Reading & Writing	○職業に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task1:原稿を準備する。
4回	Unit2: At the dinner table Conversation & Grammar	○食事に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task1:資料を準備する。
5回	Unit2: At the dinner table Reading & Writing	○食事に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task1:動画を撮影・編集する。
6回	Unit3: Sports Conversation & Grammar	○スポーツに関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task2:動画を視聴し内容をまとめる。

7回	Unit3: Sports Reading & Writing	○スポーツに関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task2:トピックを考え、内容を整理する。
8回	Unit1~Unit3 の復習	○Unit1～Unit3 の復習をし、学習内容を定着させる。 【予習】 Unit1~Unit3 の問題に再度取組む。 【復習】 Task2:原稿を準備する。
9回	Unit4: Health Conversation & Grammar	○健康に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task2:資料を準備する。
10 回	Unit4: Health Reading & Writing	○健康に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task2:動画を撮影・編集する。
11 回	Unit5: What's on Your Playlist? Conversation & Grammar	○音楽に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task3:動画を視聴し内容をまとめる。
12 回	Unit5: What's on Your Playlist? Reading & Writing	○音楽に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task3:トピックを考え、内容を整理する。
13 回	Unit6: At the Movies? Conversation & Grammar	○映画に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task3:原稿を準備する。
14 回	Unit6: At the Movies? Reading & Writing	○映画に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task3:資料を準備する。

15回	Review 1 & speaking task	○夏学期の学習を振り返り、弱点を克服する。 ○speaking task に取り組み、前期の成果を確認する。 【予習】 Unit5～Unit6 の問題に再度取組む。 【復習】 Task3:動画を撮影・編集する。

準備学習(予習・復習)について

本科目は、講義科目 2 単位ですので授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

観点	S	A	B	C	D
コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる	ほとんど誤りなく実際の場面で活用することができる。	コミュニケーションに支障がない程度の誤りはあるものの、実際の場面で活用することができる。	誤りは多いものの、実際の場面で活用することができる。	サポートがなければ活用が難しいものの、努力している。	到達目標を達成していない
場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。	多様な場面や状況に応じた適切な表現を的確に選択し、自然にコミュニケーションを図ることができる。	場面や状況に応じた表現を選択でき、意図が正確に伝わる。	場面や状況に適した表現選択に一定の誤りがあるが、全体として意味が伝わる。	サポートがなければ意図を伝えることが難しい場合があるものの、努力している。	到達目標を達成していない
積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。	主体的にコミュニケーションを図り、他者と協働して課題解決に貢献できる。	積極的にコミュニケーションを図り、他者との協働がほぼ円滑に行える。	課題に取り組むことができる。サポートがあればより効果的に参加できる。	コミュニケーションや協働に消極的である。サポートがなければ課題に十分取り組めない場合があるものの、努力している。	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

・定期試験 50%、課題 30%、実技(スピーキングテスト)20%

・課題の評価についてはクラスルーム上で個別にフィードバックを行う。

教科書

Live Escalate Book 2: Trekking　成美堂　2021 年　2500 円

参考書等

必要な資料やプリントは【予習】もしくは授業時に配布する。

学習支援・履修上の注意

・授業の内容は英検準 2 級程度を基本することから、英語が苦手な学生は各自自習に取り組むこと。

・授業は英語で行うことを基本とする。

・授業前に単語の意味を調べ、予習をしてくること。※予習と復習の内容は授業の初めに毎回確認します。

・間違いを恐れず、積極的に参加すること。

・どのような質問でも積極的に聞くこと。

オフィスアワー

質問等があれば、メールまたは研究室へ来ること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BC002	英語Ⅱ	1年	後期	講義	2	阿部 巧

授業概要

日常に関連した様々な場面を設定した題材を通して、これまでに学んできた語彙、英語表現や一般的に必要とされる基礎的文法などを復習し、より実践的な技能を高める。また、文章読解、聴解、作文、発話等を通して、「リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング」の４技能を総合的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

到達目標(学習の成果)

・コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる。
・場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。
・積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。

授業計画

回	表 題	学習内容
1回	受講の仕方、授業の内容や目標について確認 レディネステスト	○英語の授業の受け方について知り、前期の学習の見通しを持つ。 ○レディネステストを受け、自分の英語のレベルを確認する。 【予習】 高校で習った文法事項の復習 【復習】 Task4:動画を視聴し内容をまとめる。
2回	Unit7: Technology in Daily Life Conversation & Grammar	○テクノロジーに関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task4:トピックを考え、内容を整理する。
3回	Unit7: Technology in Daily Life Reading & Writing	○テクノロジーに関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task4:原稿を準備する。
4回	Unit8: Social Network Conversation & Grammar	○SNS に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task4:資料を準備する。
5回	Unit8: Social Network Reading & Writing	○SNS に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task4:動画を撮影・編集する。
6回	Unit9: Looking on the Bright Side Conversation & Grammar	○マインドセットに関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task5:動画を視聴し内容をまとめる。

7回	Unit9: Looking on the Bright Side Reading & Writing	○マインドセットに関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task5:トピックを考え、内容を整理する。
8回	Unit7~Unit9 の復習	【予習】 Unit1~Unit3 の問題に再度取組む。 【復習】 Task5:原稿を準備する。
9回	Unit10: Love Affairs Conversation & Grammar	○恋愛に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task5:資料を準備する。
10 回	Unit10: Love Affairs Reading & Writing	○恋愛に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task5:動画を撮影・編集する。
11 回	Unit11: Storytelling? Conversation & Grammar	○物語に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task6:動画を視聴し内容をまとめる。
12 回	Unit11: Storytelling? Reading & Writing	○物語に関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task6:トピックを考え、内容を整理する。
13 回	Unit12: The Power of Words? Conversation & Grammar	○言葉に関する語彙を理解し、文法や表現の復習をする。 【予習】 Listening Section の音声を聞き、Roleplay で話す内容を準備する。 Reading Section の本文の音声を聞き、わからない単語を調べる。 【復習】 Task6:原稿を準備する。
14 回	Unit12: The Power of Words? Reading & Writing	○言葉関する表現活動を通して、語彙、表現、文法等の定着を目指す。 【予習】 Reading Section の本文をすべて日本語に訳す。 Writing Section に目を通し、トピックを考える。 【復習】 Task6:資料を準備する。

15 回	Review 2 & speaking task	○秋学期の学習を振り返り、弱点を克服する。 ○speaking task に取り組み、前期の成果を確認する。 【予習】 Unit5～Unit6 の問題に再度取組む。 【復習】 Task6:動画を撮影・編集する。

準備学習(予習・復習)について

本科目は、講義科目 2 単位ですので授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

観点	S	A	B	C	D
コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる	ほとんど誤りなく実際の場面で活用することができる。	コミュニケーションに支障がない程度の誤りはあるものの、実際の場面で活用することができる。	誤りは多いものの、実際の場面で活用することができる。	サポートがなければ活用が難しいものの、努力している。	到達目標を達成していない
場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。	多様な場面や状況に応じた適切な表現を的確に選択し、自然にコミュニケーションを図ることができる。	場面や状況に応じた表現を選択でき、意図が正確に伝わる。	場面や状況に適した表現選択に一定の誤りがあるが、全体として意味が伝わる。	サポートがなければ意図を伝えることが難しい場合があるものの、努力している。	到達目標を達成していない
積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。	主体的にコミュニケーションを図り、他者と協働して課題解決に貢献できる。	積極的にコミュニケーションを図り、他者との協働がほぼ円滑に行える。	課題に取り組むことができる。サポートがあればより効果的に参加できる。	コミュニケーションや協働に消極的である。サポートがなければ課題に十分取り組めない場合があるものの、努力している。	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

・定期試験 50%、課題 30%、実技(スピーキングテスト)20%

・課題の評価についてはクラスルーム上で個別にフィードバックを行う。

教科書

Live Escalate Book 2: Trekking　成美堂　2021 年　2500 円

参考書等

必要な資料やプリントは【予習】もしくは授業時に配布する。

学修支援・・履修上の注意

・授業の内容は英検準 2 級程度を基本することから、英語が苦手な学生は各自自習に取り組むこと。

・授業は英語で行うことを基本とする。

・授業前に単語の意味を調べ、予習をしてくること。※予習と復習の内容は授業の初めに毎回確認します。

・間違いを恐れず、積極的に参加すること。

・どのような質問でも積極的に聞くこと。

オフィスアワー

質問等があれば、メールまたは研究室へ来ること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BC003	音楽キャリア講座	1年	後期 ＊掲示に注意 日程等が変更 される場合あり	講義 オムニバス 水曜日 第7・8時限	1	田島恵理 総括 須賀英之・直井研二・直井文子・小山啓久・岸本伸子・大島美知恵・阿久澤政行・篠崎加奈子

授業概要

音楽の知識と経験が生かせる職業を、広範囲に分かり易く紹介する。現代のクラシック音楽業界に、新しく形成されてきているビジネススタイルを含めて、其々の講座担当教員が現場で実践してきた仕事の内容を説明する。将来の不安や疑問にも応えていく。

到達目標(学習の成果)

音楽に関わる様々な仕事へ興味・関心の深まりを通して、卒業後の稼働が複眼的に見られるようになる。職に繋がる学習には、実技力や音楽知識と共に社会性・一般常識・幅広い教養等が求められ、自己アピールやコミュニケーションの能力も必須である。将来が具体的に見えることで在学中の課題が明確になり、各職種へのアプローチパターンが理解できる。

授業計画

回	表題	学習内容
1回 9/ 17	授業の進め方 自営の音楽教室を開き経営するノウハウ。	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を説明する。 **直井文子**（本学名誉教授）個人教室の募集にはじまる実状を伝える。人気を集める教室を経営する本学の卒業生をゲストに招き、実働（生徒を育てる実技指導の醍醐味や難しさ）を紹介する。
2回 9/24	ホスピタリティー産業 アートマネージメントとの 共通項	**須賀英之**（本学学長）ディズニーシ―立ち上げ経験者として、「ディズニーリゾート」のキャスト教育から、人を相手にする仕事に共通のもてなしの心を考える。来場者のリピーター率の高さをホスピタリティービジネスの秘訣に結ぶ。
3回 10/ 8	オペラ演出家の仕事と周辺 「 舞台で働く」ということ	**直井研二**（オペラ演出家・本学特別講師）舞台公演の内容（目的、手法、体制、実施事業）を説明。総予算・会場・指揮者・オケ・キャスト選出から美術・照明・衣装・出演者のメンタルケアまで。
4回 10/15	国内外で活躍し、教育現場でも大奮闘の歌姫が、「音楽と生きて働く」を語る	**篠崎加奈子**（本学非常勤講師）本学附属高校音楽科からウィーン国立音楽大学修了に至る研鑽を活かし、数々の受賞歴を経て活躍の日々。ステージと指導の両立、双方を仕事にする現実は如何に。
5回 10/22	ニューノーマル時代 「音楽を仕事として生き抜いていく」ということ	**小山啓久**（東京21世紀管弦楽団コンサートマスター・本学非常勤講師）音楽を仕事として生きていくという事の実際。今だからこそ社会に求められる新しい形の音楽家の使命をコンサートマスターの視点で語る。
6回 10/ 29	音楽団体の事業と運営法 演奏やレッスンを行いつつ、音楽業界人になったプロセスは生きた就活マニュアル	**岸本伸子**（AZAMIY 音楽企画代表取締役・本学特別講師） 自身ピアノ専攻の音大卒。コレペティ等の仕事を経て、舞台企画・監督の現職。実務から、公演の立案・開催、そして公演後までを、全員参加のワークショップを通して伝える。

7回 11/5	音楽療法士の仕事とは 「セッションの現場」	**大島美知恵**（共和大学子ども生活学部 准教授）音楽の力を借りて、困難を抱えている人が本来持っている力で克服できる様に手伝う職業。病院・福祉施設や学校でのセッションを紹介する。
8回 11/ 19	教員と演奏活動の共通点と相違点。「両立を可能にする学生時代の学び」を考える	**阿久澤政行**（本学専任講師）学校勤務の一方で、演奏会はじめ様々な音楽活動をこなす日々を実録の動画で伝える。自身の経験から、学生時代に蓄えるべき力と、卒業後の継続的研鑽を薦める。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目１単位ですので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。

・実効性を身につける為には、予め学習内容に目を通し、授業担当への積極的な質問を考えておくこと。
・各授業の後に、それぞれの教員が紹介した参考書、参考文献を読み進め、リアクションペーパーや課題に備えるようにする。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
１．音楽に関わる様々な仕事へ興味・関心の深まりを通じて、卒業後の稼働が複眼的に見られるようになる。 ２．在学中の課題が明確になり、各職種へのアプローチパターンが理解できる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
・各講座後提出のリアクションペーパー類の評価、８講座の合計 80％
・全講座終了後、定期試験（レポート）（20％＝タイトル「関心のある職について」）

教科書

各担当教員が、当日の内容に合わせた資料を配布する。

参考書籍（図書館にあります。）

「クラシック音楽マネジメント」武濤京子編　ヤマハミュージックメディア 1600 円
「音楽とキャリア」久保田慶一　スタイルノート 1600 円
「音楽家を目指す人へ」青島広志　筑摩書房 800 円
「楽の匠」大山真人　音楽之友社 880 円
「音大生のための就職徹底ガイド」新村優子　ヤマハミュージックメディア 1600 円
「音大卒の戦い方」大内孝夫　ヤマハミュージックメディア 1600 円
「音大卒」は武器になる　大内孝夫　ヤマハミュージックメディア 1600 円

学習支援・履修上の注意・

・授業にはクロムブックを持参すること。(Classroom または Google フォームを使用する。)
・不明なことは常に調べ、質問すること。

オフィスアワー
質問等があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)を利用すること。

実務経験の概要
直井研二
オペラ演出家として、数多くのオペラ公演の演出を手掛けている。
岸本伸子
オペラを中心に各種の公演に携わり、主には舞台監督として活躍している。

実務経験と授業科目との関連性
直井研二
オペラ演出の長年の経験をもとに、様々な視点から総合舞台芸術の仕事を説明する。
岸本伸子
舞台監督としての実務経験を活かし、企画から本番までの手順や仕事内容を解説する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BC004	全人教育講座	１年	前期	講義	1	須賀英之・新井啓泰 鎌田亮子・土橋典子 田島理恵・益川順子 新井祐子・梅澤圭子

授業概要

本講座では、須賀学園の建学の精神である「全人教育（人間形成の教育）」を学ぶ。その理念と思想を理解することで、学生が自ら、これから本学で身につける学習成果を認識できるようになることを目的とする。学長及び本学教員が、教育、音楽、芸術など、それぞれの専門分野から「全人教育」にスポットを当て、講義を１回ずつオムニバス形式で担当する。

到達目標（学習の成果）

・建学の精神「全人教育（人間形成の教育）」及びその教育理念「人間尊重の精神と豊かな人間性を啓培すること」を理解できるようになる。
・各専門分野の講義から、教養と徳性を培い、自主自立の気風を高め、忍耐力と実践究明の姿勢ができる。
・本学の学習成果を認識し、目的を持った学生生活がおくれるようになる。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 須賀学園の人と精神 ～創立者須賀栄子の生涯と須賀学園の建学の精神～	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 **須賀英之（本学学長）** 創立 125 周年を迎えた須賀学園。創立者である須賀栄子先生は学校教育に専心され、学生一人ひとりの個性を伸ばす生活指導を行った。その理念と思想に「全人教育」の原点を学ぶ。 予習：学校法人須賀学園 120 周年記念誌（HP にて閲覧可）を読んでおくこと。 復習：学習したことをまとめ、定期試験に備えること。
２回	芸術文化と個性の創造 ～表現者の個性を考える～	**新井啓泰（本学音楽科学科長）** 強烈な個性を放つ大作曲家や芸術家。その人生と言葉は、私たちにたくさんのヒントを与えてくれる。自分自身の個性をポジティブに見つめ直し、芸術の世界で自分の魅力を最大限発揮できるメンタリティを探る。 予習：檜山乃武『音楽家の名言』ヤマハミュージックメディア（図書館にて閲覧可）等を読み、作曲家の個性や音楽大学で学べることを考察すること。 復習：学習したことをまとめ、定期試験に備えること。
３回	フランス・スペイン文化 ～フランス・スペインの文化と音楽の関わり～	**鎌田亮子（本学音楽科准教授）** 文化や歴史などで互いに影響し合ってきたフランスとスペイン。とくに音楽において深く関わりのある作曲家に着目し、それぞれの国の特徴をふまえて、音楽がどのように影響し、関わってきたのかを知る。 予習：フランス・スペインの国や芸術の特徴などを調べておくこと。 復習：学習したことをまとめ、定期試験に備えること。
４回	食の大切さ ～豊かな感性は豊かな食生活から～	**土橋典子（本学食物栄養学科専任講師）** 食と音楽はともに人生を豊かにしてくれる。一方、食は芸術に対する豊かな感性の基礎となるからだづくりと健全な心を形成する上で必要であるという側面もある。古来、偉大な音楽家が心を揺さぶられてきた料理について触れながら、食生活の基本を学ぶ。

		予習：千葉 真知子『食べるクラシック』幻冬舎等を参考に、食と音楽の関係について調べておくこと。 復習：学習したことをまとめ、定期試験に備えること。
5回	ドイツとオーストリアの文化と歴史 ～息づく創作の源泉～	**田島恵理（本学音楽科講師）** クラシック音楽の発展において重要な役割を果たしてきたオーストリアとドイツ。ヨーロッパ王室の影響や世界史における出来事がどのように音楽と結びついているのかを知る。また現代に至る都市形成、文化的背景をひもとき、森や伝説、カフェ文化や散歩、などの人々の生活に息づく創作の源泉を探る。 予習：ドイツ語圏を地図で確認し、 ドイツ語が話されている主な都市や地域を把握する。 復習：学習したことをまとめ、定期試験に備えること。
6回	福祉と音楽 ～暮らしの中での福祉と音楽の役割を考える～	**益川順子（本学人間福祉学科教授）** 音楽にはストレスの開放や、精神的な緊張を解きほぐす等の作用や心身相関がある。また、人々の人生や暮らしに想像力、励まし、生きる勇気を授けてくれる。医療や福祉の場での事例を通し、音楽の役割を探求していく。 予習：鎌田滋子『音楽を福祉に』中央法規　2005 等を参考に、音楽と福祉の関係について調べてくること。 復習：学習したことをまとめ、定期試験に備えること。
7回	子供の音楽教育 ～幼児期の音楽教育～	**新井祐子（共和大学子ども生活学部准教授）** 人は生を享けた時から音と共に歩んでいる。また、幼児期における音楽活動は、子供の生活と様々な活動を支える役割を果たしている。音楽が子供にどのような影響を与えているか、音楽的能力の発達や、音楽効果を学ぶ。 予習：梅本堯夫 『子供と音楽』東京大学出版会　等を参考に幼児期の音楽教育について、関心を持つこと。 復習：学習したことをまとめ、定期試験に備えること。
8回	自他尊重のコミュニケーション ～日常に生かすアサーション～	**梅澤圭子（本学音楽科教授）** 人間関係の基盤となるコミュニケーションには、自己表現の仕方や思考の癖、非言語的要素などが影響する。よりよいコミュニケーションのために、自他尊重のアサーティブな自己表現や、それを支える考え方について学ぶ。 予習：平木典子『三訂版　アサーション・トレーニング　さわやかな＜自己表現＞のために』日本・精神技術研究所　等を参考に自身の自己表現の特徴について考えておくこと。 復習：学習したことをまとめ、定期試験に備えること。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

本科目は、講義科目 1 単位ですので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。
・授業の前にできるだけ本学学園長 須賀　淳先生の書かれた書物、冊子、文章などを読んでおく。
・各授業の後に、それぞれの教員が紹介した参考書、参考文献を読み進め、期末レポートの課題に備えるようにする。

成績評価の基準・方法

宇都宮短期大学での学びの基本である「全人教育」についての授業であるので、１年生は全員履修するものとする。

成績の評価基準

評価	S	A	B	C	D
・建学の精神「全人教育（人間形成の教育）」及び教育理念を理解できている。 ・各分野の講義への理解 ・本学での学習成果獲得へ学習計画を立てられている。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
各講座終了後、提出のリアクションペーパー評価の 8 講座合計（80%）
全講座終了後、定期試験（レポート）（20%＝タイトル「私が宇都宮短期大学で学びたいこと。」）

教科書
須賀　淳『人間教育に生涯をささげた須賀学園創立者　須賀栄子先生』（大学より配布）
須賀　淳『未来を育む「全人教育」 』下野新聞社　2012
須賀　淳『ひかり輝く全人教育―須賀学園の百年―』学校法人須賀学園

参考文書等
学校法人須賀学園 120 周年記念誌（HP にて閲覧可）
宇都宮短期大学 50 周年誌（HP にて閲覧可）
小原國芳『全人教育論』玉川大学
檜山乃武『音楽家の名言』ヤマハミュージックメディア
千葉真知子『食べるクラシック』幻冬舎
鎌田滋子『音楽を福祉に』中央法規　2005
梅本堯夫『子供と音楽』東京大学出版会
平木典子『三訂版アサーション・トレーニングさわやかな＜自己表現＞のために』日本・精神技術研究所

学習支援・履修上の注意
各教員の評価の割合は同等である。８回すべての授業を履修してこの授業のねらいを達成する。なお、単位の履修に関係なく聴講を希望する学生、教員は、参加できる授業である。

オフィスアワー
授業に関する質問・相談は担当教員、新井まで。（arai@ujc.ac.jp）

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BC005	体育実技	1年	通年	実技	2	本並　健太

授業概要

運動は、栄養、休養と共に健康を維持・回復するために必要な要素である。体育実技では、身体のしくみと運動の効果を理解するとともに、ライフステージに合わせた運動・スポーツの種類とその方法を、実践を通して理解する。また、後半ではレクリエーションスポーツであるターゲット・バード・ゴルフを通して、①知的価値、②情緒的価値、③身体的価値④社会的価値が高まるという効果を学習する。以上の学習から、生涯スポーツの重要性及び生活化の重要性を理解する。

到達目標（学習の成果）

・生涯にわたって自己の心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れ、自立・自律した豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける（方法・態度）。
・多くのスポーツを体験し、スポーツの楽しさを味わいながら、技術やルール・マナーを身につけ、自己および他者を理解し、体験したスポーツ活動ができるようになる（技術・方法・態度）。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 体操、ストレッチ	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を説明する。 身体の各部位のストレッチ体操を学ぶ。 予習：体操、ストレッチの効果について調べておく。 復習：体操、ストレッチを実践する。
2回	手具運動①	基礎技術として、ボール・縄の運動を展開することでその手具の基本的特性を生かした運動体験を通してスキルポイントを学ぶ。 予習：手具運動の具体的な運動（ボール・縄）について調べておく。 復習：手具運動を実践する。
3回	手具運動②	基礎技術として、棒・フープの運動を展開することでその手具の基本的特性を生かした運動体験を通してスキルポイントを学ぶ。 予習：手具運動の具体的な運動（棒・フープ）について調べておく。 復習：手具運動を実践する。
4回	バスケットボール①	基礎技術として、パス、ドリブル、シュートのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。 予習：バスケットボールについて調べておく。 復習：動画閲覧サイトで実際のゲームを視聴する。
5回	バスケットボール②	ゲームにおけるルール・マナーを学び、バスケットボールのチームゲームとしての楽しさを学ぶ。 予習：バスケットボールのルールについて理解しておく。 復習：バスケットボールの授業を通しての感想・意見等をまとめておく。
6回	バドミントン①	基礎技術として、フォアーハンドハンドストローク、バックハンドストローク、サーブのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。 予習：バドミントンについて理解しておく。 復習：動画閲覧サイトで実際のゲームを視聴する。
7回	バドミントン②	ゲームにおけるルール・マナーを学び、バドミントンのゲームの楽しさを学ぶ。 予習：バスケットボールのルールについて理解しておく。 復習：バドミントンの授業を通しての感想・意見等をまとめておく。
8回	テニス①	基礎技術として、フォアーハンドハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレーのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。 予習：テニスについて理解しておく。 復習：動画閲覧サイトで実際のゲームを視聴する。
9回	テニス②	ゲームにおけるルール・マナーを学び、テニスのゲームの楽しさを学ぶ。 予習：テニスのルールについて理解しておく。 復習：テニスの授業を通しての感想・意見等をまとめておく。
10回	ターゲット・バードゴルフ①	基礎技術として、グリップ、アドレス、クラブスイングのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。 予習：ターゲット・バードゴルフについて理解しておく。 復習：動画閲覧サイトで実際のラウンドの様子を視聴する。
11回	ターゲット・バードゴルフ②	ゲームにおけるルール・マナーを学び、ターゲット・バード・ゴルフのゲームの楽しさを学ぶ。 予習：ターゲット・バードゴルフのルールについて理解しておく。 復習：ターゲット・バードゴルフの授業を通しての感想・意見等をまとめておく。

12 回	フットサル①	基礎技術として、パス、ドリブル、シュートのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。 予習：フットサルについて理解しておく。 復習：動画閲覧サイトで実際のゲームを視聴する。
13 回	フットサル②	ゲームにおけるルール・マナーを学び、フットサルの楽しさを学ぶ。 予習：バスケットボールのルールについて理解しておく。 復習：バドミントンの授業を通しての感想・意見等をまとめておく。
14 回	インディアカ①	基礎技術として、パス、サーブのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。 予習：インディアカについて理解しておく。 復習：動画閲覧サイトで実際のゲームを視聴する。
15 回	インディアカ②	ゲームにおけるルール・マナーを学び、インディアカのチームゲームとしての楽しさを学ぶ。 予習：インディアカのルールについて理解しておく。 復習：インディアカの授業を通しての感想・意見等をまとめておく。
16 回	ゴルフルール・マナー・の道具	ゴルフのルール・マナーについて学習する。また道具としてゴルフクラブの役割を学習する。 予習：ターゲット・バードゴルフについて理解をさらに深めておく。 復習：既習のターゲット・バードゴルフの授業を振り返っておく。
17 回	グリップとアドレス	インターロックのグリップを学習する。またクラブを持ちながらアドレスを学習する。 予習：グリップについて調べておく。 復習：授業を振り返りグリップの理解を深めておく。
18 回	スイング	フルスイングのスイング軌道の確認をしながら、スイングの技術学習をする。 予習：スイングについて調べておく。 復習：授業を振り返りスイングの理解を深めておく。
19 回	スイング（ボール打ち）	フルスイングでボール打ちをする。距離・方向を確認しながらスイングの技術を学習する。 予習：スイングについて理解を深めておく。 復習：授業を振り返りスイングの理解をさらに深めておく。
20 回	ショートコース（10～20m）	パー3 のコースのゲームを行う。パー・バーディー・イーグルを多くとる。同伴競技者との競技方法を学習する。 予習：ショートコースについて調べておく。 復習：授業を振り返りコースを回る際の注意点を振り返る。
21 回	ショートコース（10～20m）	パー3 のコースのゲームを行う。パー・バーディー・イーグルを多くとる。同伴競技者との競技方法を学習する。 予習：ショートコースのポイントについて調べておく。 復習：ショートコースのポイントを振り返る。
22 回	ミドルコース（20～30m）	パー4 のコースのゲームを行う。パー・バーディー・イーグルを多くとる。同伴競技者との競技方法を学習する。 予習：ミドルコースについて調べておく。 復習：授業を振り返りコースを回る際の注意点を振り返る。
23 回	ミドルコース（20～30m）	パー4 のコースのゲームを行う。パー・バーディー・イーグルを多くとる。同伴競技者との競技方法を学習する。 予習：ミドルコースのポイントについて調べておく。 復習：ミドルコースのポイントを振り返る。
24 回	ロングコース（40～50m）	パー5 のコースのゲームを行う。パー・バーディー・イーグルを多くとる。同伴競技者との競技方法を学習する。 予習：ロングコースについて調べておく。 復習：授業を振り返りコースを回る際の注意点を振り返る。
25 回	ロングコース	パー5 のコースのゲームを行う。パー・バーディー・イーグルを多くとる。同伴競技者との競技方法を学習する。 予習：ロングコースのポイントについて調べておく。 復習：ロングコースのポイントを振り返る。
26 回	9 ホールラウンド	パー36 のハーフコースをラウンドする。トータルスコアで同伴競技者と競技方法を学習する。 予習：ラウンドマナーについて調べておく。 復習：9 ホールランドハーフコースのポイントを振り返る。
27 回	9 ホールラウンド	パー36 のハーフコースをラウンドする。トータルスコアで同伴競技者と競技方法を学習する。 予習：ラウンドマナーについて調べておく。 復習：9 ホールランドハーフコースのポイントを振り返る。

28 回	競技会１	競技会の企画・運営準備を実際に行い、競技会マネージメントを学習する。 予習：コース、ラウンドについて振り返る。 復習：競技会の企画・運営準備注意点を振り返る。
29 回	競技会２	競技会を行う。 予習：競技会について振り返っておく。 復習：ラウンドをしての感想・意見・反省・改善点をまとめておく。
30 回	競技会３	競技会を行う 予習：競技会について振り返っておく。 復習：ラウンドをしての感想・意見・反省・改善点をまとめておく。

準備学習(予習・復習)について

本科目は実技科目 1 単位ですので授業時間 90 分以外に 15 時間の授業外学習が必要になります。
授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の方法・基準

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
①運動・スポーツの基礎的理解 ②積極的なスキルアップ及び課題克服度 ③運動・スポーツを取り入れた豊かなライフスタイルを形成できる能力の獲得	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

１．積極的なスキルアップのための取り組み度及び課題克服度（60%）
・体操やストレッチ、球技、ニュースポーツであるターゲット・バード・ゴルフやインディアカなどにおいて、スキルアップを目指している。
・技術向上はもちろんのこと、ゲームにおけるルールやマナーについて理解している。
２．定期試験　レポート（40%）
・生涯スポーツの重要性について具体的に述べていること。
・生涯スポーツに対する自らの考えを表明できること。

教科書

使用しない

参考書等

上杉尹宏・晴山紫恵子・川初清典 監修、『新版 生涯スポーツと運動の科学』、市村出版、2016 年

履修上の注意・学習支援

運動着、運動靴(グラウンド用、室内用)を着用すること。

オフィスアワー

疑問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約(メールアドレスは授業内で示す)のうえ、時間を設定する)。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BC006	情報機器操作	1年	前期	講義	2	堀 圭三

授業概要
人と生活を理解するために，情報化社会において必須である情報リテラシーを身につけることを目的とする。インターネットの利用方法，Googleアプリケーションの基本的な操作方法を学ぶ。また、情報モラルやネットトラブルについて理解する。

到達目標(学習の成果)
1.情報リテラシーについて理解し、コンピュータを利用するにあたってのモラルを理解する（知識）。
2.日本情報処理検定協会の日本語ワープロ検定2級（タイピング、文書デザイン）、表計算検定3級程度（四則計算や関数の使い方）、プレゼンテーション3級程度の技術を身につける（技術）。
3.以上により、社会生活でコンピュータを適切に使うことができる。

授業計画

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 情報モラルとグーグルワークスペース基本操作①	授業計画・準備学習・成績評価の方法・基準等について理解する。 情報モラルやネットトラブルについて説明する。そして、本学発行のユーザアカウントを用いてコンピュータシステムにログインし、基本的な操作方法を学ぶ。 復習：情報モラルやインターネットトラブルについてまとめる。
2回	グーグルワークスペースの基本操作②	クラスルーム、ドライブ、meet などの利用方法を学ぶ。あわせて、スマートフォンとのリンクの方法を学ぶ。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
3回	グーグルワークスペースの基本操作　ドキュメント①	ドキュメントの基本的機能を、文書作成を通して学ぶ。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
4回	グーグルワークスペースの基本操作　ドキュメント②	文書作成を通して、段組み。表の挿入の方法を学ぶ。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
5回	グーグルワークスペースの基本操作　ドキュメント③	文書作成を通して、さまざまな表や写真、グラフの挿入の方法を学ぶ。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
6回	グーグルワークスペースの基本操作　ドキュメント④	実際に、課題としてポスターの作成を行う（小テスト）。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
7回	グーグルワークスペースの基本操作　スプレットシート①	表計算問題を通して、スプレッドシートの基本操作、四則計算を学ぶ。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
8回	グーグルワークスペースの基本操作　スプレットシート②	表計算問題を通して、基本関数（sum、average、min関数）を学ぶ。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
9回	グーグルワークスペースの基本	表計算問題を通して、ROUND関数の使い方を学ぶ。

	操作　スプレットシート③	予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
10回	グーグルワークスペースの基本操作　スプレットシート④	表計算問題を通して、IF関数の使い方を学ぶ。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
11回	グーグルワークスペースの基本操作　スプレットシート⑤	表計算問題を通して、罫線や表示形式を学ぶ。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
12回	グーグルワークスペースの基本操作　スプレットシート⑥	実際に課題として、表計算問題を行う（小テスト）。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
13回	グーグルワークスペースの基本操作　スライド①	プレゼンテーション問題を通して、文書作成を学ぶ。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
14回	グーグルワークスペースの基本操作　スライド②	プレゼンテーション問題を通して、図形、写真の挿入と加工などを学ぶ。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。
15回	グーグルワークスペースの基本操作　スライド③	実際に課題として、プレゼンテーション問題を行う（小テスト）。あわせてタイピングの小テストを行う。 予習：時間を見つけてタイピング練習を行う。 復習：指定された課題（日本情報処理検定協会）を行う。

準備学習（予習・復習について）

この科目は、2単位ですので、授業時間30時間と準備学習60時間が必要になります。
・自宅でもクロムブックを使って、タイピングの練習を行う。
・指定された課題（日本情報処理検定協会）を練習する。
・授業記録を記入し、基本操作を練習する。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. タイピングの速度（600以上、500以上、400以上、300以上） 2. 文書デザイン課題が時間内に作成できる。 3. 表計算課題が時間内に作成できる。 4. プレゼンテーション課題が時間内に作成できる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している。	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	到達目標の最低限を達成している。	到達目標を達成していない。
100点法	**90点以上**	**80点以上**	**70点以上**	**69点以上**	**59点以下**

評価方法
・定期試験（指定した検定問題）　100％

教科書

事前にレジュメを配布する。

参考書等

学研プラス編、『500円でわかる エクセル関数2016 (コンピュータムック500円シリーズ) 』、Kindle版

学習支援・履修上の注意
授業の最初に、タイピングの練習を行う。自宅でも練習し、タイピングの速度向上を目指す。
Google classroomにて、課題の提出等を行う。

オフィスアワー
疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(k3@ujc.ac.jp) のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2BD007	哲学	2	後期	講義	2	増渕幸男

授業概要

感性と知性と理性の位置づけと役割が混乱している時代にあって、それらの関係について理解することが哲学の役割です。人間形成の基本には知・情・意の調和的発達が不可欠ですから、人間を理解するために先哲たちの思想を踏まえて自分自身の人生観・世界観を考えていく学びができるようにします。そのためには歴史上重要な思想を構築した代表的哲学者の考え方を取り入れつつ、現実に生きている自分のあり方を深く考えられる手がかりが身に付くように学んでいきます。履修の心得としては、毎回資料プリントを配布しますので、それを手がかりに議論できるようにします。

到達目標（学習の成果）

豊かな人間性を身に付けるために必要とされる深い教養のひとつの、哲学的なものの見方を獲得できるようになる。
真実は見えないことが多い現代社会の中で、本物に気づくための人間の知恵を形成し見分ける能力を身につけるための考え方や行動の仕方を理解できるようになる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 「哲学とは何か?」の概観	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 哲学とはどのような学問であるかを語源的観点から捉え、それを各人の身近な問題と関連づけられるようにします。 予習：自分が考える哲学のイメージを記録してきます。 復習：配布プリントを振り返り感想を記録します。
2回	理論と実践の関係	人間の行為はその意味を知るために理論を必要としますので、実践と理論の関係性について理解できるようにします。 予習：前時間配布の資料プリントについて意見をまとめる。 復習：学んだ内容についてノートをまとめる。
3回	知の役割と理解の関係について	知ることは「わかる」ということであり、わかるためには解釈する力が必要であるので、その方法を身に付けます。 予習：前時間配布の資料プリントについて意見をまとめる。 復習：学んだ内容についてノートをまとめる。
4回	可能性と現実性の相互連関性について	何かを実践することは可能性への挑戦とも言えます。可能性は実現されて現実性となりますので、両者の関係構造について理解できるようにします。 予習：前時間配布の資料プリントについて意見をまとめる。 復習：学んだ内容について図書館で調べ学習をする。
5回	感性の役割と位置について	感じる働きは人間存在の最基底部にある大切な部分ですので、感性の意味と役割について考えられるようにします。 予習：前時間配布の資料プリントについて感想をまとめる。 復習：学んだ内容についてノートにまとめる。
6回	知性の役割と現代的課題について	感性を正しい方向に導く役割をもつ知性の働きについて、欧米の哲学者の知見を理解できるようにします 予習：前時間配布の資料プリントについて意見をまとめる。 復習：学んだ内容について自分の考えを記録する。
7回	時間の構造、空間の構造を各人の体験から理解します。	人間が他の存在者と決定的に異なる資質としての理性の役割について考え、理性的に行動できるようにしまう。 予習：資料のプリントに関係する資料を図書館で探す。

		復習：学んだ内容から疑問点を探してノートをまとめる。
8回	美と調和の奥深さについて	芸術が人間生活および精神形成に果たす役割は計り知れないことを「美」の意味解釈から理解できるようにします。 予習：テーマについて自分の考えをまとめてくる。 復習：学んだ内容についてノートをまとめる。
9回	音楽の教育的価値について	社会現象としての音楽の変遷を日本の学校での音楽教育のあり方から見直すことができるようにします。 予習：前時間配布の資料プリントと自分の経験をまとめる。 復習：授業で議論したことについてノートをまとめる。
10回	人間と技術の距離間について	現代の知識基盤社会では高度な情報力を駆使して生きていますので、人間と技術の関係を考えられるようにします。 予習：前時間配布の資料プリントについて意見をまとめる。 復習：学んだ内容について疑問点を抽出しノートにまとめる。
11回	文化と文明の関係性について	文化の豊かさは文明の便利さと対立する側面があり、より人間らしく生きていくための文化について考えていきます。 予習：配布資料のプリントについて図書館で調べてくる。 復習：学んだ内容を深めるための意見をまとめる。
12回	人間と自然の関係性について	人間は自然の一部であることを忘れている現代社会の中で、人間性を構成している人間の自然性について考えます。 予習：配布資料プリントと関連する資料を見つける。 復習：新しい知見を整理してノートをまとめる。
13回	人間の尊厳と科学の関係について	医療の世界も科学技術が支配的であることを踏まえ、人間の尊厳についての哲学的解釈を身に付けられるようにします。 予習：前時間配布の資料プリントについて意見をまとめる。 復習：講義で指示された課題を図書館で調べる。
14回	教養の意味について	道徳性や生活習慣をはじめ人間としての行動の仕方が問われる時代に、教養の意義を理解できるようにします。 予習：自分の教養観について考えをまとめてくる。 復習：学んだ内容との自分の違いについてまとめる。
15回	哲学の課題について	これまでの講義をとおして見えてきた課題について検討します。

準備学習（予習・復習について）

各々の授業で取り扱うテーマに沿った資料プリントを参考にしながら、自分の考えをまとめるためのリアクション・ペーパーを毎回提出していただきますので、配布された資料には必ず目を通して予め準備しておくことが大切です。

本科目は、講義科目2単位ですので授業時間90分以外に60時間の授業外学習が必要になります。

関係する書籍を提示することもありますから、図書館で関係する資料となる本を利用するようにして下さい。復習については次の授業時に確認作業として意見の交換を行います。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
哲学の理解力と論理力および表現力の習熟度による評価	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

毎回講義後に提出するリアクション・ペーパーでの評価（80%）
講義テーマの中で特に関心を持ったものについての定期試験レポート(20%)

教科書

使用しません。毎時間の始めに資料のコピーを配布します。テーマによって新聞・雑誌の記事を案内することがありますので、その場合は各人で確認作業をお願いすることもあります。

参考書等

ヤスパース『哲学入門』草薙征夫訳、新潮文庫

学習支援・履修上の注意

配慮を必要とする事情がある場合は事前に相談して下さい。

オフィスアワー

質問等があればオフィース・アワー（講義開始前）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BD008	歴史学	１年	前期	講義	２	江田　郁夫

授業概要

「過去を広く深く見渡すことができれば、未来を広く深く見渡すことができる」。イギリスの元首相で、第二次世界大戦の国民的英雄であるチャーチル（1874～1965）がのこした言葉です。先行きが不透明な現代だからこそ、歴史をつうじて未来を考えるという視点がますます重要となりつつあります。現在の国際化社会の原点ともいえる大航海時代の西洋と日本との出会いについて学びます。

到達目標（学習の成果）

１.歴史上の転換点を基礎知識として身につける（知識・態度）。
２.自己と他者との違いを理解し、自立・自律した生活者としての教養を身につける（知識・方法・態度）。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	ヨーロッパ文化と日本文化の出会い	宣教師ルイス・フロイスは戦国日本の何に驚いたのかを考える。 予習:イエズス会を調べる。 復習：授業記録をまとめる。
２回	ヨーロッパ世界の拡大	大航海時代で一体化する世界について学ぶ。 予習：当時のヨーロッパ諸国を調べる。 復習：授業記録をまとめる。
３回	ルネサンス	ヒューマニズム思想の広まりと科学技術の革新を学ぶ。 予習：当時のイタリアを調べる。 復習：授業記録をまとめる。
４回	宗教改革	キリスト教の革新運動について考える。 予習：カトリック教会について調べる。 復習：授業記録をまとめる。
５回	ヨーロッパ主権国家の成立	当時のスペイン・オランダ・イギリスについて学ぶ。 予習：エリザベス１世を調べる。 復習：授業記録をまとめる。
６回	オーストリア・プロイセン・ロシアの台頭	啓蒙専制君主とロシアの西欧化について学ぶ。 予習：ヴェルサイユ宮殿を調べる。 復習：授業記録をまとめる。
７回	17・18 世紀のヨーロッパ社会	啓蒙思想と華麗なヨーロッパ文化を理解する。 予習：バロック・古典派音楽を調べる。 復習：授業記録をまとめる。
８回	西洋と日本の出会い―室町文化―	日本の唐物へのあこがれについて学ぶ。 予習：能・狂言について調べる。 復習：授業記録をまとめる。
９回	西洋と日本の出会い―南蛮文化―	南蛮貿易の発展と南蛮文化について学ぶ。 予習：ポルトガル由来の日本語を調べる。 復習：授業記録をまとめる。
10 回	宣教師がみた戦国日本―織田信長―	織田信長と本能寺の変について考える。 予習：安土城を調べる。 復習：授業記録をまとめる。
11 回	宣教師がみた戦国日本―豊臣秀吉―	豊臣秀吉と天下統一について考える。 予習：宇都宮仕置について調べる。 復習：授業記録をまとめる。
12 回	宣教師がみた戦国日本―桃山文化―	茶の湯と桃山文化を理解する。 予習：教会音楽について調べる。 復習：授業記録をまとめる。

13 回	宣教師がみた戦国日本―徳川家康―	徳川家康と江戸幕府の成立について考える。 予習：小山評定について調べる。 復習：授業記録をまとめる。
14 回	ヨーロッパと日本の新たなる関係―朱印船貿易―	江戸幕府と周辺地域との交流を学ぶ。 予習：アイヌの歴史を調べる。 復習：授業記録をまとめる。
15 回	ヨーロッパと日本の新たなる関係―禁教と鎖国―	キリスト教の禁教や鎖国の実態について学ぶ。 予習：長崎を調べる。 復習：授業記録をまとめる。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 2 単位ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。
学習内容中に記載された予習・復習を実践して、内容の理解を深めてください。
その他、毎回の授業ごとに自分自身の考えをまとめた課題を提出してください。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
１歴史上の転換点への理解 ２ヨーロッパと日本社会の相違点への理解	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期試験（筆記試験）（授業の内容を正確に理解し、それを的確に表現できる）70%
授業内課題（毎回）（授業の内容を理解したうえで、それへの考えを表現できているかを確認する課題）30%

教科書

『図説　日本史通覧』帝国書院、2025 年、990 円

参考書等

ルイス・フロイス『ヨーロッパ文化と日本文化』岩波文庫、1991 年、792 円
ルイス・フロイス『完訳フロイス日本史１～12』中公文庫、2000 年、1,257 円

学習支援・履修上の注意

授業中に関連事項をみなさんに質問しますので、積極的に発言してください。

オフィスアワー
必要な配慮のある場合は事前に相談すること。
疑問があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約（i.eda@ujc.ac.jp）のうえ、時間を設定する）。

［実務経験の概要］
県立高等学校地歴科教諭として 17 年間、日本史・世界史等の教科教育や進路・生活指導全般を担当。そのほか、栃木県立文書館指導主事として 6 年間、歴史資料の調査・整理・展示等の業務に携わった。また、栃木県立博物館学芸員として 12 年間、多様な資料の調査・展示・保存業務等を行った。以上の実務を通じて、歴史学の前提となる史資料の特徴やその役割・重要性に関しての知見を深めることができた。

［実務経験と授業科目との関連性］
上記の教員経験や博物館での経験、とくに高校での進路・生活指導経験をいかして、より具体的でわかりやすい講義を行うことができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BD009	言語表現法	１年	後期	講義	２	山口　宏

授業概要

学生生活や社会生活において、他者に「伝える」ことを前提とした様々な文章表現を学び、基礎的な言語表現スキルの習得ができる。

また、実用文からレポート・論文に至る書き言葉や口頭発表などの優れた表現に接して、その特長を理解・考察し、効果的な表現法を学ぶ。

到達目標（学習の成果）

１．文や文章の組み立て、語句の意味、用法や表記の仕方等を理解し、自分の考えや意見を表現することに必要な語彙を豊かにすることができる。（知識・技術）

２．相手や目的に応じて題材を選定し、文章の形態や文体、表現の仕方を工夫して文章を作成・口頭発表するスキルを身につけることができる。（技術・方法・態度）

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	よりよい言語表現	「表現する力」の大切さを理解し、自分の日本語の使い方について省察する。ノートの取り方について学ぶ。(教科書第１・２章) 予習：漢字学習を行い、教科書をよく読んでおくこと。 復習：教科書の課題を解き、学習した内容を整理すること。
２回	日本語の特質	主語、述語、係り受け、日本語の曖昧さなど、日本語について考察する。（「橋本文法」や日本語の構造） 予習：漢字学習及び学校文法について Web 等で調べておくこと。 復習：学習した内容を整理すること。
３回	話し言葉と書き言葉	話し言葉と書き言葉の違い、文体や日本語の語順、語句の選択などについて具体例をもとに考察する。 （話し言葉と書き言葉の違いについて考察） 予習：漢字学習を行い、話し言葉と書き言葉の違いについて Web 等で調べておくこと。 復習：学習した内容を整理すること。
４回	日本語の表記	日本語の文字体系、仮名遣い、送り仮名、漢字表記、記号の使い方などについて理解する。（漢字、平仮名、片仮名等の表記等） 予習：漢字学習及び日本語の成り立ちについて Web 等で調べておくこと。漢字学習を行うこと。 復習：学習した内容を整理すること。
５回	敬語の使い方	待遇表現、尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語、丁重語及び誤りやすい敬語表現について考察する。（教科書第３章） 予習：漢字学習を行い、教科書をよく読んでおくこと。 復習：教科書の課題を解き、学習した内容を整理すること。
６回	手紙・E メール・SNS	手紙の書き方、手紙の注意点、手紙と E メールや SNS との相違点について学ぶ。（教科書第５・６章） 予習：漢字学習を行い、教科書をよく読んでおくこと。 復習：教科書の課題を解き、学習した内容を整理すること。
７回	事実と意見	事実と意見の区別、情報の信憑性、情報を見極めたり整理したりすることの必要性について学習する。（メディアリテラシー） 予習：フェイクニュースやメディアリテラシーについて Web 等で調べておくこと。漢字学習を行うこと。 復習：学習した内容を整理すること。
８回	わかりやすい文章	相手に伝わる文章の技法、5W1H、３段落構成について学ぶ。（教科書第４章） 予習：漢字学習を行い、教科書をよく読んでおくこと。 復習：教科書の課題を解き、学習した内容を整理すること。
９回	大学生の調べ方	アンケートの３大要素、インターネットの活用、図書館の利用について学習する。（教科書第８～10 章） 予習：漢字学習を行い、教科書をよく読んでおくこと。 復習：教科書の課題を解き、学習した内容を整理すること。

10 回	新聞を読む　NIE	新聞記事の要約や構成を通して新聞の特徴を学び、NIE について理解を深める。　（新聞の構成や NIE について考察） 予習：漢字学習を行い、新聞や NIE について Web 等で調べておくこと。 復習：学習した内容を整理すること。
11 回	レポートの作成方法	レポート・小論文の書き方について知り、データ収集や構成、引用の仕方などについて学ぶ。　（教科書第 13・14 章） 予習：漢字学習を行い、教科書をよく読んでおくこと。 復習：教科書の課題を解き、学習した内容を整理すること。
12 回	話し方を知る	情報を正確に伝えるための適切な話し言葉について学び、口頭発表や討論の方法を習得する。　（教科書第 7 章） 予習：漢字学習を行い、教科書をよく読んでおくこと。 復習：教科書の課題を解き、学習した内容を整理すること。
13 回	効果的なプレゼンテーション	スライド作成の基本や文字の大きさ、色使い、レイアウトなどについて学び、効果的な発表方法を考察する。　（教科書第 12 章） 予習：漢字学習を行い、教科書をよく読んでおくこと。 復習：教科書の課題を解き、学習した内容を整理すること。
14 回	表現力を高める(1) ～戦略的な文書作成～	履歴書・エントリーシートなどの効果的な書き方・表現について基礎的な方法を学ぶ。　（教科書第 16 章） 予習：漢字学習を行い、教科書をよく読んでおくこと。 復習：教科書の課題を解き、学習した内容を整理すること。
15 回	表現力を高める(2) 面接の心得・言語表現のスキル	社会で求められる表現力のスキルアップを図ると共に、これからの言語表現について考察する。　（教科書第 17 章） 予習：漢字学習を行い、教科書をよく読んでおくこと。 復習：教科書の課題を解き、学習した内容を整理すること。

準備学習（予習・復習について）

本科目は講義科目 2 単位ですので授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

1．授業計画の内容に示した部分の教科書を読んでまとめたり、学習内容をあらかじめ WEB 等で調べたりしておくこと。
2．社会で必要とされる日本語能力を身につけるために、毎回漢字確認試験及び小論文の作成をするので対策を各自行うこと。
3．授業内容に関する課題がある場合には、必要に応じて提出すること。
4．必要に応じて、グループワークや課題解決型の話合い活動を授業の中に取り入れるので、積極的に参加すること。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 文の構造や語句の意味・用法、表記等に関する理解 2. 相手や目的に応じて、文章の形態や文体を変え、文章を作成するスキルの習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

・定期試験〈筆記試験〉（60%）＋　授業内課題等〈漢字テスト・小論文、授業外課題等〉（40%）で評価する。

教科書

・『大学生のための日本語表現トレーニング　スキルアップ編』　橋本　修／安部朋世／福嶋健伸　編著　三省堂　2,090 円

参考書等

・漢検 3 級　　漢字学習ステップ　　日本漢字能力検定協会
・漢検準 2 級　漢字学習ステップ　　日本漢字能力検定協会

学習支援・履修上の注意

・提出された小論文等は、コメントをつけて返却する。
・各授業毎にパワーポイント資料を配布する。
・配慮・相談事項等がある場合には、事前に申し出ること。
・言語能力を向上させるために、各種メディアを活用し、意図的に良書に親しむこと。

オフィス・アワー

・質問や相談があれば、オフィス・アワー（講義開始前、1 号館 1 階「講師教員センター」）を利用すること。具体的時間は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2BD010	経済学	2年	後期	講義	2	中川英子

授業概要

私たちは、生涯、お金と密接に関わりながら生活をしていくことになる。本授業は、自己および他者を理解し、自立・自律した生活者としての知識や行動規範を身につけるために、生活に関わるお金（＝経済）について学ぶものである。

授業では、経済についての諸知識を学ぶとともに、予習で課された課題について、アクティブ・ラーニング（プレゼンテーションやグループディスカッション等）により理解を深める。さらに前回の授業時、図書館で調べた新聞記事を持ちより、各自のプレゼンテーションにより、この一週間の経済ニュースを共通理解する。

到達目標（学習の成果）

・自己および他者を理解し、自立・自律した生活者となることができること。（態度）

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	1．授業の進め方 2．「経済学」を学ぶにあたって	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る 「経済学」を学ぶことの意義について、教育目標・学習の成果等から理解する 【予習】シラバスを読んで本授業の概要を把握する。 【復習】自立・自律した生活者を目指すための本授業の意義を再確認する。
2回	経済とは、市場経済とは	経済とは何か、また、市場における経済のメカニズムについて理解する。 【予習】市場経済とはどういうことかについて調べてくる。 【復習】市場経済のメカニズムについて再確認する。
3回	市場経済と独占・寡占	市場経済を阻むものとしての独占・寡占の問題から市場経済の意味を理解する。 【予習】市場経済における独占・寡占とはどういうことか調べてくる。 【復習】市場経済における独占・寡占の問題について再確認する。
4回	マクロ経済・ミクロ経済	経済の見方について、一国の経済活動からみる「マクロ経済」と、一経済主体(家計、企業、政府)の経済活動からみる「ミクロ経済」から、その概要を理解する。 【予習】「マクロ経済」・「ミクロ経済」の意味を調べてくる。 【復習】「ミクロ経済」について再確認する。
5回	戦後の経済と生活の変化	戦後(第2次大戦)から今日までの77年間、経済と人びとの経済生活がどのように変化してきたのか、1945年のDVDから考える。(DVD「あの頃の日本」) 【予習】戦後(第2次大戦)から今日までの77年間の歴史(概要)について調べてくる。 【復習】授業でみたDVDの内容と戦後以降の経済について再確認する。
6回	ミクロ経済としての家計	ミクロ経済における一経済主体としての家計の経済活動について理解する。

		【予習】「家計」とは何かについて調べてくる。 【復習】家計の経済活動について再確認する。
7回	家計の構造	総務省の「家計調査」(総務省)の収入・支出分類などについて、実際の家計簿例から記帳(EXCEL)してみることで、家計の構造を理解する。 【予習】「家計調査」(総務省)における家計の分類方法を調べてくる。 【復習】家計分類について再確認する。
8回	高齢者世帯の家計	少子・高齢社会における高齢者世帯の家計の現状について理解する。 【予習】少子・高齢者社会とはどういうことか調べてくる。 【復習】高齢者世帯の家計について再確認する。
9回	消費者問題	消費者の権利の歴史や今日の悪質商法(You Tube)などから、消費者問題について理解する。 【予習】消費者権利の歴史（概要）について調べてくる。 【復習】今日の悪質商法について再確認する。
10回	ライフサイクルと我が国の社会保障制度	日本の社会保障制度が、生涯にわたり私たちの生活のセフティーネットとなっていることを理解する。 【予習】日本の社会保障制度（概要）について調べてくる。 【復習】セフティネットとしての我が国の社会保障制度について再確認す る。
11回	自助・共助・公助	自助・共助・公助の意味を理解する。 【予習】「自助・共助・公助」とは、どういうことか調べてくる。 【復習】「自助・共助・公助の意味」を再確認する。
12回	生活設計(1)	生活設計を立てるにあたって、ライフステージ別の家計について理解する。 【予習】生活設計がなぜ必要なのか調べてくる。 【復習】生活設計の意味を再確認する。
13回	生活設計(2)	Net のライフプラン・シミュレーションから生活設計を作成することで、自身の生涯生活について考える。 【予習】あなたの生活設計（概要）を考えてくる。 【復習】あなたが立てた生活設計を再確認する。
14回	生活と環境問題	持続可能な生活の実現のために、SDGs から地球の温暖化問題や資源・エネルギー問題について考えていくことの重要性を理解する。 【予習】「持続可能な生活」とはどういうことか調べてくる。 【復習】地球環境問題について再確認する。
15回	経済的自立の意義	14 回の授業を振り返って、自身の生涯生活から、本講義のテーマでもある“生涯、経済的に自立して生きることの大切さ”について考える。 【予習】本授業１～14 回までの授業内容（レジュメ）を見直してくる。 【復習】生涯、経済的に自立していくことの大切さを再確認する。

準備学習(予習・復習について)

本科目は、講義科目 2 単位ですので授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・日々の生活は、経済とは不可分で、その最新の情報がわかるのが新聞である。授業内容の理解を深めるためにも日頃から自宅や図書館で新聞記事をしっかり読み、授業内容と関連した内容は、メモしておくこと。また、シラバスに示された予習内容は授業前までに完成させておいてください。（予習）

・授業で学んだことを見直しておくとともに、授業中の課題は、必ず完成させておいてください。（復習）

＊授業内容は、レジュメや資料として、グーグル・クラスルームにアップロードしておくので、各自、積極的に利用するようにしてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
広く教養を学び、社会規範や自己管理力、基本的なスキルを身につけ、自立・自律した生活者となることができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

・定期試験（自由記述）50%
・授業内課題　　50%

教科書

特になし

参考書等

重川純子『改訂新版　生活経済学 』 放送大学教育振興会　2020
井堀利宏『図解　大学４年間の経済学がざっと 10 時間で学べる』　株式会社 KADOKAWA　2023

学習支援・履修上の注意

・本授業は、生涯、自立した経済生活を送るために、生活経済の観点から理解していこうとするものです。授業内容については、　すべて自分自身のこととして捉え、学習していくようにしてください。
・疑問に思ったことは、出来るだけ授業中に質問して、理解しておくようにしてください。

オフィスアワー

・質問等があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)でお応えします。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2BD011	日本国憲法	2年	前期	講義	2	渡辺　靖明

授業概要

私たちの現実の身近な暮らしと生活に、具体的にいかなる法がどのように関わっているのか、憲法を中心にして、その基礎を学びます。また、家族や福祉に深く関わる重要な法的問題も学びます。

適宜、重要な事例や問題について、クラスルームの機能などを使って意見を書いてもらい、一覧にまとめられた他の人の意見も見て、自分の考えをさらに深めてもらう予定です。

到達目標(学習の成果)

１．憲法を中心とした法について基本的な知識を身につける(知識)。
２．法の基本的な知識を具体的事例に当てはめることができる(知識・方法)。
３．様々な社会的問題について法的な観点から考えることができる(知識・方法)。

授業計画

回	表題	学習内容
１回	授業の進め方 法がなぜ必要なのか	授業計画、授業方法 予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。私たちの社会、生活での法の分類、意義、役割などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、法についての自分のイメージや知っている法、関心のある法などを整理しておく。 【復習】法の意義、役割、自分たちの生活や暮らしとの関わりなどを振り返っておく。
２回	法令の体系及び法の分類	法令の種類・体系(システム)の概要、憲法の最高法規性、憲法と条約との関係などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、「憲法」、「法令」、「法律」、「条例」などの言葉の意味を調べて整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
３回	日本国憲法の基礎	市民の「あたりまえ」を守る法としての憲法の意義、基本構造、憲法の定める人権とその制約などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、高校等で習ったことを思い出しながら、「日本国憲法」とはどのような法かを整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
４回	基本的人権	憲法の定める平等権、自由権、社会権、参政権、幸福追求権及び国民の義務を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、高校等で習った「日本国憲法」の知識を思い出しながら、憲法の「人権」の種類や内容について調べて整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
５回	平等とは？	具体的な事例から、平等とは何かをさらに考えてみる。 【予習】前回の授業での「平等」の項目を踏まえつつ、事前配布のレジュメに目を通して、「事例」について自分はどう考えるか整理しておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
６回	表現の自由（１）表現の自由の基礎	表現の自由はなぜ保障されるのか、検閲の禁止、集団行動の自由、報道の自由・知る権利などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「表現の自由」、「検閲」、「知る権利」などについて調べておく。

		【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
7回	表現の自由（２）刑法の犯罪との関係	表現の自由と刑法によるビラの貼り付け・配布の規制、名誉毀損罪との関係を学ぶ。基本的人権の保障のうち、精神的自由権の保障の内容を理解する。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「刑法」とはどのような法律か、「住居侵入罪」、「名誉毀損罪」とはどのような犯罪かを調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
8回	自己決定権	自己決定権の意義、憲法における幸福追求権との関係や、生命をめぐる自己決定権の尊重の限界などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「輸血拒否事件」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
9回	家族と法（１）夫婦（婚姻・離婚）	家族に関する憲法の規定、民法における夫婦関係（婚姻・離婚）の基礎を学ぶ。夫婦別姓をめぐる判例（裁判所の判断）についても考える。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、家族に関する憲法の規定や、民法における「婚姻」、「離婚」、「夫婦別姓」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
10回	家族と法（２）親子、相続	民法における親子、相続の基礎を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、民法における「親子」と「相続」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
11回	学校教育と法	憲法における学問の自由、教育を受ける権利、学校での平等と学校でのいじめの問題を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「学問の自由」や「教育を受ける権利」などについて調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
12回	子どもの貧困と法	子どもの貧困の現状と対策や社会権、生存権との関係などを学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授　業を踏まえながら、「社会権」や「生存権」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
13回	生命と法	法ではいつから「人」になるか、また人の「死」とはいつか、などの基礎を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、民法と刑法とでの人の始まりや、人の終わり（死）をめぐる「心臓死説」と「脳死説」について調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。
14回	労働と法	憲法の労働権、労働基準法の原則、職場での平等の基礎を学ぶ。 【予習】事前配布のレジュメに目を通しつつ、「労働法」の意味や憲法との関係を調べておく。 【復習】授業を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。

15回	これまでの総括とこれからの展望 ※授業の進み具合に応じて、内容変更の可能性がある。	これまでの授業で得た知識をもとに、具体的事例についてどのように考えるべきか、自分の理解を整理する。 【予習】これまでの授業を振り返って、理解が充分でないと思うところについて調べて整理しておく。 【復習】授業の内容を振り返り、自分の理解を整理する。

準備学習(予習・復習について)

本科目は、講義科目（２単位）ですので、準備学習60時間が必要になります。

学習内容に記載された予習・復習を実践して内容の理解を深めてください。その際には、授業で扱った具体的事例の内容を見直すとともに、レジュメや図書を用いて、授業中に充分に理解できなかった部分を補いノートにまとめるなどして整理してください。

日ごろから自身が関係しそうな社会の問題について関心を持ち、法的な観点からどのような解決ができるかを考える癖をつけることが望ましいです。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
1. 法の基本的な用語の意味・考え方を理解できている。 2. 法の基本的な知識を具体的事例に当てはめて考えることができている。 3. 様々な社会的問題について法的な観点から考えることができている。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している。	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	到達目標の最低限を達成している。	到達目標を達成していない。
100点法	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	59点以下

・定期試験（筆記試験）　70%
・授業外での小テスト（クラスルームを使用する予定）３回　25%
・授業内での質問への回答等　5%

教科書

なし

参考書等

村中洋介ほか『嫌いにならない法学入門』（２版、信山社、2023年）2,750円

斎藤一久・城野一憲編著『教職のための憲法』（ミネルヴァ書房、2020年）2,200円

履修上の注意・学習支援

・授業中の不要な私語はつつしんでください。他の人の迷惑を考えられなければ、法（ルール）を正しく学べません。
・特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけたいと思っています。
・授業を受けて分からなかったところは気軽に質問してください。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15分間程度、１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BD012	心理学	1年	後期	講義	2	大島美知恵

授業概要

毎回のエクササイズを通して、自身の行動、心の有り様を振り返り、自己理解、他者理解を深めていく。エクササイズの振り返りを基に、心理学の基礎知識を学び、セルフケア、コミュニケーション、対人援助に活かせる技術を習得する。また後半の授業では音楽にかかわる広い職種に適う教養として、音楽心理学にも触れ、音楽にまつわる人の知覚認知や感情のメカニズムとプロセスに対する理解を深める。

到達目標（学習の成果）

1）自身の認知や行動の傾向と、状況に応じた他者関係の傾向を知る（知識）
2）他者を尊重する、自分の意見を正しく伝える、人を援助するスキルを身に着ける（技術）。
3）自己理解、他者理解に関する心理学用語を習得する（知識）。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	自己開示	自己紹介カードを通したゲームを通して自己開示することにより、互いを理解しあえる互恵性の原理を体験する。 予習：教科書の第1章を読んでおく 復習：ワークでの気づきをまとめておく。
2回	他者理解とカウンセリング	相手の語調や表情、状況や意図するものを注意深く傾聴する姿勢を身に着け、クライエント中心療法などのカウンセリングの手法を学ぶ。 予習：教科書の第2章を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
3回	ストレスのしくみと対処法	ストレッサーの種類、ストレスが起こるしくみ、ストレス反応を決める認知的評価、対処行動について学ぶ。 予習：教科書の第3章を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
4回	心と社会	われわれの行動は他者の存在やその働きかけによって大きく影響される。こうした社会的影響について学ぶ。 予習：教科書の第4章を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
5回	ジェノグラム	ジェノグラムを作成し、家族関係から自身の存在を見つめ直す。ライフサイクル、家族療法、世代間連鎖について学ぶ。 予習：教科書の第5章を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
6回	ライフサイクル	自分史を作成し、エリクソンの発達理論と照らし合わせながら、ライフサイクルにおける発達課題について考察する。 予習：教科書の第6章を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
7回	知覚と記憶	見る、聞く、理解する、覚える、考えるなどの人間の認知活動の仕組みを知り、それに関する専門用語を習得する。 予習：教科書の第7章を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
8回	動機付けと学習	行動を始発させる様々な動機付けの知識を得る。また新しい行動様式や知識が習得される基礎的過程について学ぶ。 予習：教科書の第8章を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめ

		ておく
9回	コミュニケーション① （コンテクストとアサーション）	相手を理解しつつ、自分の気持ちを正しく伝えるにはどうすれば良いのか。コンテクストの理解やアサーティブコミュニケーションについて学ぶ。 予習：教科書の第9章を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
10回	コミュニケーション② （ノンバーバルコミュニケーションとオープンクエスチョン）	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション、クローズクエスチョンとオープンクエスチョンの比較をエクササイズで行い、それぞれの活用技術を習得する。 予習：教科書の第10章を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
11回	音楽心理学の体系	音楽心理学の歴史や手法を学ぶと共に、音楽と脳の研究について最新の知見を得る。 予習：配付資料を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
12回	旋律の認知と記憶及び心理的作用	音の高さの変化が心の中でどのように処理され、メロディとして認知されるのかを学び、旋律の心理的作用についてエクササイズを通して考察する。 予習：配付資料を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
13回	リズムの知覚と記憶及び心理的作用	リズムとは幅広い概念で定義が難しいが、ここではリズムパターンの知覚と記憶について学ぶ。またリズムの心理的、身体的作用についてエクササイズを通して考察する。 予習：配付資料を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
14回	音の響き(和声)による心理的作用	協和音、不協和音、和声進行の違いを、どのように感じているのか、文化やジャンルによる感じ方の違いはあるのか、エクササイズと研究の両面から学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく
15回	音楽の多様性と心理学	映像、運動など日常生活に活かされている音楽の多様性を学び、その心理的効果について学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく 復習：小テストの復習をする。ワークでの気づきをまとめておく。これまでの学びについてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 2 単位なので授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
① 自身の認知・行動や他者関係の傾向を知る。 ② 自己表現と対人援助のスキル習得 ③ 心理学用語の習得	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
定期テスト 60％　課題･小テスト等の提出物 30％　授業に対する積極的な姿勢 10％
※課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

書名：対人コミュニケーションの心理学
著者名：水國昭允・青木智子・木附千晶　　出版社：北樹出版　2024 年 2,090 円

第 11 回から第 15 回の資料はクラスルームへ授業 1 週間前に投稿する。各自ダウンロードする。

参考書等

なし

学習支援・履修上の注意

各回のワークには積極的に参加すること。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。（事前予約 (oshima@ujc.ac.jp)
のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BS013	ドイツ語	１年	前期	講義	２	斎藤享久

授業概要

ドイツ語学習を通じて、ドイツ語文化圏への理解を深め環境対策先進国であるドイツ連邦共和国の現状等を知ることを目的とする。ドイツ語を学習するにあたり語学の基本である文法の学習、発音の仕方、ヒアリングのトレーニングなどを順序立てて学習していく。

到達目標(学習の成果)

ドイツ語学習を通じて、ドイツ語文化圏への理解を深め、環境対策先進国であるドイツ連邦共和国の現状等を知ることができる。
ドイツ語を学習するにあたり語学の基本である文法の学習、発音の仕方がわかる。ヒアリングのトレーニング方法を学習する。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 文字と発音	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 ドイツ語の母音、子音の基礎を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
２回	規則変化動詞 動詞の位置	動詞の現在人称変化と動詞の位置を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
３回	sein と haben 名詞の性と数	名詞の性と複数形を知る。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
４回	冠詞と名詞格変化 不規則変化動詞	不規則動詞と名詞の格変化，不規則変化動詞を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
５回	命令形 定冠詞類/不定冠詞類	命令形，冠詞を理解する。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
６回	指示代名詞/疑問代名詞 人称代名詞の格変化	代名詞と格変化について学ぶ。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
７回	前置詞の格支配 話法の助動詞/未来形	前置詞の格支配，助動詞を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
８回	従属接続詞と定動詞の位置 分離動詞/再帰動詞	接続詞，定動詞と分離動詞を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
９回	es の用法 形容詞の格変化	形容詞の格変化を中心に学ぶ。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
10 回	形容詞の名詞化 動詞の3基本形	形容詞の名詞化，動詞の基本形を知る。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
11 回	過去人称変化 完了形	過去人称変化，完了形を理解する。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する

12 回	関係代名詞 比較級と最上級	関係代名詞と比較級を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
13 回	zu 不定詞 受動態	不定詞と受動態を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
14 回	接続法 文法の総復習	接続法及び文法の総復習をする。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する
15 回	長文読解	長文読解を学ぶ。 予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：授業で学習した箇所を復習する

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目(2 単位)ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。

1　事前に辞書等でテキストの内容を理解しておく。

2　各課の内容をしっかり理解し、単語はしっかり暗記しておくこと。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
文法の習得と理解 発音の正確さ 各課コラムの理解度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期試験　50%、音読試験 50%

教科書

書名：わかるぞドイツ語！ みえるぞドイツ！(WEB 改訂版) 春日 正男/松澤 淳 著 朝日出版社 2,750 円

授業の際、各課の練習問題等を必要に応じて配付する。

参考書

特になし

履修上の注意・学習支援

教科書の予習復習をしっかり行う。

音声再生アプリ「リスニング・トレーナー」を使用して発音とヒアリングの練習をする。

オフィス・アワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分間程度、
1 号館 1 階「講師教員センター」）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2BS014	外国語コミュニケーション	2年	後期	講義	2	石崎達也

授業概要

日常生活で使用する英語表現を学習しながら、英語の基礎的な文法、語彙、音声、意味について理解を深めることにより、英語のオーラルコミュニケーションの能力を養う。

英単語や英文を聞き取る練習、話す練習、読む練習、書く練習を行い、英語の4つの技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を総合的に習得する。

「音楽科と英語の関連性」というテーマで、自分の考えを主張出来る能力を身につける。

到達目標（学習の成果）

様々な英語表現を習得することが出来る（知識）。

日常生活において英語を使いコミュケーションすることが出来る（技術、知識、方法、態度）。

「音楽科における英語の意義」について考え、自分の意見を主張出来る（知識、方法）。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 Nice to meet you.	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 personal information に関する英語表現や sentence stress について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 01 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 01 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
2回	What do you like to do?	hobbies and pastimes に関する英語表現や contractions について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 02 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 02 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
3回	Where are you from?	location に関する英語表現や音素/ʃi:/、/si:/について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 03 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 03 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
4回	Who's that?	family members に関する英語表現や linking /t/について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 04 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 04 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
5回	Where's that?	places に関する英語表現や sentence stress について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。

		予習：Unit 05 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 05 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
6回	How do we get there?	transportation and directions に関する英語表現や音素/l/、/r/について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 06 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 06 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
7回	Are you hungry?	food and drink に関する英語表現や intonation について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 07 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 07 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
8回	Let's eat!	restaurants and meals に関する英語表現や word stress について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 08 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 08 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
9回	What are you watching?	movies and TV programs に関する英語表現や reduction /t/について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 09 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 09 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
10回	What music do you like?	music に関する英語表現や linking /n/について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 10 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 10 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
11回	How much is it?	shopping に関する英語表現や音素/ʌ/、/æ/について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 11 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 11 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
12回	Let's play!	sports and exercise に関する英語表現や音素/d/、/t/について学び、意見交換、

		議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 12 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 12 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
13 回	Where are you going?	travel and vacations に関する英語表現や音素/u:/、/ʊ/について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 13 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 13 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
14 回	Do you work?	work and jobs に関する英語表現や音素/ɔ/について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 14 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 14 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。
15 回	What do you want to do?	future plans に関する英語表現や reduction /g/について学び、意見交換、議論、英語によるロールプレイを行う。 予習：Unit 15 I Vocabulary Part1 英単語の意味と音声記号を調べておくこと。 復習：Unit 15 II Listening Practice 聞き取れない単語とその音声記号をまとめておくこと。

準備学習（予習・復習について）

本科目は講義科目なので、授業時間以外に授業外学習（60 時間）が必要になります。
授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。
教科書を予め読み、予習したことをノートにまとめること。
授業で扱った音声について、復習したことをノートにまとめること。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 日常生活で使われる英語の語彙、意味の理解 2. 日常生活で使われる英語の文法、音声の理解 3. 様々な英語表現の習得	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

・定期試験（筆記試験）（平易な英語表現を習得出来る） 50%
・小テスト（基礎的な英単語を理解出来る） 30%
・レポート（「音楽科と英語の関連性」というテーマで自分の考えを主張出来る） 20%

教科書

James Bury / Anthony Sellick / 堀内香織 共著 『コミュニケーションのための実践演習 Book 1〈初級編〉 Complete Communication Book 1 -Basic-』 成美堂 2022年 2,640円

参考書等

服部義弘編 『音声学』 朝倉書店 2012年 3,080円

学習支援・履修上の注意

私語を慎み、他の学生に迷惑となる行為をしないこと。

英語の辞書（電子辞書も可）を持参すること。

この授業では、個人またはグループでの学習・調査・考察を行う時間を取るので、積極的に参加すること。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15分間程度、１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BS015	演奏と身体	1年	前期	講義	2	鎌田 亮子

授業概要

音楽家もアスリートと同様に、繊細に身体を使って生活をし、演奏している。本講義では、より良いパフォーマンスをするために、演奏と身体がどのように関わっているかを知り、身体の構造や仕組み、またそれを構築する食生活など様々な角度から、自身の演奏するための身体づくりや無理のない身体の使い方を学ぶ。また、自身の専攻に限らず、幅広い知識を知ることで、将来的に様々な職業において活用出来るようにする。よって、受講生の専攻は問わない。

到達目標（学習の成果）

1．人体の骨格や筋肉について知り、説明できるようになる。(知識)

2．脳と身体がどのように演奏に作用しているか学び、説明できるようになる。(知識)

3．演奏する際の身体の使い方を学び、姿勢や筋肉などを、より良い状態で使って演奏することができるようになる。(技術・方法)

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 演奏と身体の関係	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 自己紹介を通して、演奏する際の身体の使い方の悩みや演奏による故障について話し合い、演奏することでどのような事が起きているか知る。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習：演奏する際に起きる問題や悩みについてまとめておくこと。
2回	身体の構造	人体の骨格について学ぶ。 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：骨格図を描いて確認すること。
3回	身体の構造	頭と首について学ぶ。 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：今回学んだ身体の部分を描いて確認すること。
4回	身体の構造	背中について学ぶ。 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：今回学んだ身体の部分を描いて確認すること。
5回	身体の構造	胴体について学ぶ。 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：今回学んだ身体の部分を描いて確認すること。
6回	身体の構造	脚について学ぶ。 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：今回学んだ身体の部分を描いて確認すること。
7回	脳内マップ	脳内ではどこでどんな動きを促しているかを学ぶ。 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：今回学んだ身体の部分を描いて確認すること。
8回	ボディ・マッピング腕編	自身の身体の地図を描き、実際に身体を動かして筋感覚を養う。 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：今回学んだ身体の部分を使用したストレッチを実践すること。
9回	ボディ・マッピング手編	自身の身体の地図を描き、実際に身体を動かして筋感覚を養う。 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：今回学んだ身体の部分を使用したストレッチを実践すること。
10回	ボディ・マッピング呼吸編	自身の身体の地図を描き、実際に身体を動かして筋感覚を養う 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。

		復習：今回学んだ身体の部分を使用したストレッチを実践すること。
11回	ボディ・マッピング頭編	自身の身体の地図を描き、実際に身体を動かして筋感覚を養う 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：今回学んだ身体の部分を使用したストレッチを実践すること。
12回	ボディ・マッピング脚編	自身の身体の地図を描き、実際に身体を動かして筋感覚を養う 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：今回学んだ身体の部分を使用したストレッチを実践すること。
13回	ボディ・マッピング背中編	自身の身体の地図を描き、実際に身体を動かして筋感覚を養う 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：今回学んだ身体の部分を使用したストレッチを実践すること。
14回	食と身体	毎日の食生活や演奏に向けての食事などを見直し、音楽家のために必要な栄養素を学ぶ 予習：配付した資料をよく読んでおくこと。 復習：栄養素を意識した食事メニューを考案すること。
15回	演奏発表	発表会形式で実際に演奏し、演奏する際の姿勢や身体の使い方などの変化をまとめる。 予習：練習動画を撮影し身体の動きを確認しながら練習を進めること。 復習：必要なストレッチを書き出してまとめること。

準備学習(予習・復習について)

本科目は、講義科目2単位なので、授業時間90分以外に60時間の授業外学習が必要になります。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
１．人体の骨格や筋肉についての基礎的理解 ２．脳・身体と演奏の関係性の基礎的理解 ３．演奏する際の身体の使い方の習得度と姿勢や筋肉についての基礎的理解	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

評価方法

定期試験(レポート試験)40%
演奏発表 60%

教科書

教科書は使用せず、各回、参考資料をコピーして配付する。

参考書等

バーバラ・コナブル「音楽家ならだれでも知っておきたいからだのこと」2000年　誠信書房出版　2,200円

学習支援・履修上の注意

学習内容によっては実際に身体を動かすことがあるので動きやすい服装で受講すること。
演奏における心身の悩み等あれば質問すること。また、演奏発表会で身体の変化を実感させるために、普段から配付資料を参考に練習に励むこと。

オフィスアワー
質問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約(kamata@ujc.ac.jp)のうえ、時間を設定する）。
具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BS016	DTM 概論	1年	後期	講義	2	渡辺 雄司

授業概要

この授業では、コンピュータを使用した音楽制作の基本となるDTM（デスクトップミュージック）に必要な知識と技法を修得します。最新の音楽ソフトウェア（DAW）を活用し、現代の音楽制作において求められる技術（サウンドデザイン、ミキシング、マスタリング）の基礎を身につけるとともに、音楽理論を応用した楽曲制作を実践します。また、映画音楽やゲーム音楽、ポップスなど多様なジャンルに触れ、実際の音楽制作現場で必要となるスキルを応用する力を養います。これにより、音楽の表現力やクリエイティブな発想力を広げることを目指します。

到達目標（学習の成果）

1.DTMの基本操作を習得し、音楽理論をDTMに応用できる。
2.MIDIとオーディオの録音・編集、サウンドデザインやエフェクト処理を行い、ミキシング・マスタリングの基礎を理解する。
3.オリジナル楽曲を制作し、音楽制作におけるクリエイティブなアプローチを身につける。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 イントロダクションとDTMの基本概念	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 ・ **学習内容**: DTM（デジタル音楽制作）の概要と歴史について学びます。デジタル音楽制作がどのように発展してきたのか、またそれに伴う技術の進化について紹介します。 ・ **学習目的**: DTMの基礎的な概念を理解し、音楽制作のデジタル化がもたらした影響を学ぶ。 予習：DAW（デスクトップオーディオワークステーション）の種類と特徴を調べる 復習：DAWの操作方法を確認し、基本的なインターフェースに慣れる
2回	DTMに必要な機材とソフトウェアの基本	DTMに必要な機材やソフトウェアの基本を学び、制作環境の構築と使用ツールについて理解する。 予習：DAW（デスクトップオーディオワークステーション）の種類と特徴を調べる 復習：DAWの操作方法を確認し、基本的なインターフェースに慣れる
3回	DAWの基本操作とトラックの作成	DAWの基本操作を習得し、トラック作成や録音、再生、エディットの基礎を理解する。 予習：使用するDAWのインターフェースと操作マニュアルを確認する 復習：トラックの作成方法を再確認し、簡単なトラックを作成してみる
4回	MIDIとオーディオ録音の基礎	MIDIとオーディオ録音の違いを学び、両者の使い分けと基本的な録音技術を実践する。 予習： MIDIの基本的な概念とオーディオ録音の違いについて調べる 復習： MIDIとオーディオ録音の使い分けについて整理する
5回	音源とインストゥルメントの選択と使用	ソフトウェア音源とハードウェア音源の特徴を理解し、音源選択とエフェクトの使用方法を学ぶ。 予習：使用する音源の種類とその特徴について調べる 復習：インストゥルメントの使用方法と音源選択のコツを整理し、再確認する
6回	サウンドデザインとエフェクトの基礎	EQやリバーブ、ディレイなどのエフェクトを使い、サウンドデザインの基本技術を習得する。 予習： EQ、リバーブ、ディレイなどのエフェクトについて調べる

		復習：実際にエフェクトをかけてみて、効果を確認する
7回	音楽理論の基礎と DTM への応用	和音、メロディ、リズムの基本を学び、それらを DTM 制作に応用する方法を習得する。 予習：和音、メロディ、リズムの基礎知識を復習する 復習：音楽理論の知識を DTM でどう活かせるかを実践的に考える
8回	編曲と楽曲構成の基礎	楽曲の構成や編曲技法を学び、イントロ、ヴァース、コーラスなどの構造を理解する。 予習：イントロ、ヴァース、コーラスなどの楽曲構成について調べる 復習：実際に簡単な楽曲の構成を考えてみる
9回	MIDI プログラミングと編集	MIDI データの編集方法を学び、ノート、ベロシティ、コントロールチェンジなどを駆使してプログラミング技術を習得する。 予習： MIDI のノート、ベロシティ、コントロールチェンジの編集方法を調べる 復習： MIDI データを実際に編集して、使い方を練習する
10回	オーディオ編集とサンプルの使用	オーディオの編集技術を学び、サンプルの取り扱いや加工方法を実践する。 予習：オーディオ編集の基本技術を調べる 復習：サンプル編集と加工方法について自分で練習する
11回	ミキシングの基本	音量バランス、パン、EQ などのミキシング技術を学び、トラックのバランス調整方法を習得する。 予習：ミキシングに必要な基本的な概念とテクニックを調べる 復習：ミキシングでのバランス調整や EQ の使い方を実践してみる
12回	エフェクトとダイナミクス処理	コンプレッサーやリバーブなどを使用して、ダイナミクス処理を行い、音楽に適切なエフェクトを施す技術を学ぶ。 予習：各エフェクトの働きと使い方を調べる 復習：実際にエフェクトを適用し、効果を確認する
13回	マスタリングと音源の仕上げ	マスタリングの基本技術を学び、完成度の高い音源を作り上げる方法を習得する。 予習：マスタリングとは何か、どのようなプロセスかを調べる 復習：マスタリング技術を確認し、自分の作品に適用してみる
14回	オリジナル楽曲制作実習	これまで学んだ技術を駆使してオリジナル楽曲を制作し、実践的な制作力を養う。 予習：自分のアイデアを元に、作曲のための準備をする 復習：作成した楽曲の改善点を見つけて、改良する
15回	成果発表とフィードバック	制作したオリジナル楽曲を発表し、クラスメートや教員からフィードバックを受け、改良点を見つける。 予習：自分の楽曲を最終確認し、発表の準備をする 復習：フィードバックをもとに、作品を振り返り、今後の改善点を考える

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 2 単位の授業ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践し、内容の理解を深めてください。

また、以下の授業外学習を常に心がけてください。

（予習）各回の授業において、DTM ソフトウェアのインターフェースや基本的な機能を事前に理解しておくことで、授業がスムーズに進みます。また、音楽理論の基本（和音、スケール、リズムなど）を復習し、授業内で使用する用語や概念に慣れておくことで、理解が深まります。

（復習）授業で学んだ内容を DTM ソフトを使って実際に手を動かしながら復習してください。特に実習課題では、授業で学んだ操作や理論を実践に移し、反復することで確実に身につけることが大切です。また、授業後にはミキシングやサウンドデザインの復習を行い、技術的な理解を深めることができます。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1.DTMの基本操作を習得し、音楽理論をDTMに応用できる。 2.MIDI とオーディオの録音・編集、サウンドデザインやエフェクト処理を行い、ミキシング・マスタリングの基礎を理解する。 3.オリジナル楽曲を制作し、音楽制作におけるクリエイティブなアプローチを身につける。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

評価方法

定期実技試験（最終プロジェクトの提出）（100%）

教科書

なし

必要に応じて資料を配布

参考書等

東 哲哉『FL STUDIO 21 攻略BOOK』 サウンド・デザイナー 2023

横川 理彦『サウンドプロダクション入門 DAWの基礎と実践』ビー・エヌ・エヌ

学習支援・履修上の注意

授業で不明な点は積極的に質問してください。実技中心の授業ですので、課題やプロジェクトに積極的に取り組んでください。DTMを初めて学ぶ方も歓迎いたしますので、心配せずに取り組んでください。本授業では基礎からしっかり学べる環境を提供しますので、初心者でも安心して進められます。必要であれば、ソフトや機材について事前に確認しておくとスムーズに進めます。必要な配慮がある場合は事前にご相談ください。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15分間程度、1号館1階「教員センター」)を利用すること。

［実務経験の概要］

·業務内容:

私は映画音楽の作曲、音楽監督、プロデューサーとしての経験があり、国際映画祭での受賞歴や著名な俳優や監督と共に仕事をした経験があります。これらの経験を通じて、音楽制作の実務における創造性、技術力、クライアントとのコミュニケーション方法などを学びました。さらに、音楽教育の分野でもピアノ講師として実績を積んでおり、音楽の基礎から応用まで、そのほか作曲を指導しています。また、イタリアのフィレンツェ大学で特別講義を行った経験があります。

·関わったプロジェクト例:

·国際映画祭で上映された映画音楽の制作や、受賞歴のある映画やCMなどの音楽制作

·有名な俳優やアーティストとコラボレーションした作品や映画音楽、ドラマ音楽制作、CM音楽制作

·音楽理論やDTMを駆使した映像音楽の作成

［実務経験と授業の関連性］

·実務経験と授業の関連性:

実務での音楽制作経験を活かし、授業では実際の音楽制作現場で必要とされるスキルや知識を学生に伝授します。特 に、映画音楽やCM音楽などの制作過程を踏まえた音楽理論や、DTMを使用したサウンドデザイン、ミキシングの実践的 な技術を学びます。実務経験を通じて得た「クライアントワーク」や「制作の締め切り管理」などの重要性も、授業におけるプ ロジェクトや課題を通じて実践的に指導します。

·授業の内容との連携:
授業で学ぶ内容（DAW の使い方、音源・エフェクトの扱い方、ミキシング技術など）は、私の実務経験から来る実践的な 知識に基づいています。特に、学生が自身で楽曲を制作する際に、プロの現場で必要とされる技術や考え方を反映させる ことを目指しています。学生たちには、DTM の技術だけでなく、音楽制作における創造性とプロフェッショナリズムを学び取ってほしいと考えています。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BS017	音楽療法概論	1年	前期	講義	2	大島美知恵

授業概要

音楽療法の定義や歴史、音楽の機能及び音楽の治療特性など音楽療法の基本的な理論を学ぶ。日本で行われている音楽療法や、欧米や北欧、アジアで行われている音楽療法の実際を DVD で視聴し、その目的や特性について学ぶ。

到達目標

1）日本における音楽療法の実際（対象者別）を知り、理解し、概要を説明できる（知識）。
2）音楽が治療に使われていた歴史や、いろいろな国で行われている音楽療法の実際を知る（知識）。
3）音楽療法のアセスメント、目的、内容、方法、査定の概略を説明できる（知識）。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	音楽療法の理念・概要	本講義の講義内容、構成、目標、評価について理解する。音楽療法の理念、概要について理解する。 予習：シラバスの内容をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答
2回	音楽療法の定義と歴史	対象者、セラピスト、音楽の三項関係や音楽表現と音楽療法の相違、古代から現在までの世界と日本の歴史を知る。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
3回	音楽の機能及び、治療特性	生理的、心理的、社会的、霊的な音楽の働きを知り、人との関わりの中で、その機能を活用する例を学ぶ。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
4回	音楽療法の対象と診断	障害児者、高齢者、精神疾患の方、緩和ケア、介護予防など、各領域別に対象児者が抱えている課題の特性を知る。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
5回	治療目標と治療構造	対象者のアセスメントから、長期・短期の目標を明確に立てること、物理的構造と人的構造の内容を把握する。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
6回	音楽の機能（人に及ぼす影響）	メロディー、リズム、ハーモニー、歌、楽器、身体表現、鑑賞、創作の音楽療法の視点での機能を知り、体験する。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
7回	音楽療法セッションの組立	個人と集団の比較や目的による教材選択の大切さを知り、ペアによる教材作りを通して、双方向の立場を経験する。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
8回	治療の経過	働きかけたことの結果は、対象者の反応となって、現れます。事実を看取る力の重要性を確認する。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
9回	記録と評価	集めた記録から何がわかったか、何が課題なのかまとめ、新たな計画を立案する過程を、実際の事例から学ぶ。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
10回	音楽療法の実際（日本）	DVD を視聴しながら、日本の現場で行われている音楽療法の現実を把握する。 予習：配付資料をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習

11 回	音楽療法の実際（米国）	ノードフ・ロビンズ音楽療法研究所の創造的音楽療法のセッションの DVD を見ながら、その手法と反応を学ぶ。 予習：配付資料をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
12 回	音楽療法の実際（北欧）	スウェーデンの FMT 機能回復促進音楽療法の DVD を見ながら、制度と内容を学ぶ。 予習：配付資料をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
13 回	音楽療法の実際（アジア）	韓国と台湾の地域に根付いた音楽療法の DVD を見ながら、国と文化と音楽療法の関連性をグループトークする。 予習：配付資料をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
14 回	音楽療法士の仕事	音楽療法士の資質、量的な仕事内容と同時に質的な治療的自我の育成について、かるたを通して学ぶ。 予習：配付資料をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
15 回	音楽療法の倫理・まとめ	音楽療法士として、守らなければならない倫理上の事柄をしり、音楽療法の繊細な仕事内容や方法を理解する。 予習：配付資料をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習。レポートを作成する。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 2 単位なので授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
①日本における音楽療法の理解。 ②音楽の歴史の理解。 ③音楽療法のプロセス（目的・内容等）の	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
定期試験レポート 40%、各回の小テスト 60%、
※課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

村井靖児　『音楽療法の基礎』音楽之友社　2014 年　1,980 円

参考書等

日野原重明監修　『標準　音楽療法入門上、下』春秋社　2009 年　3,520 円
松井紀和　『音楽療法の手引き』牧野出版　2002 年　3,300 円

履修上の注意・学習支援

各回小テストを行う。

オフィス・アワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。（事前予約 (oshima@ujc.ac.jp)
のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

宇都宮市子ども発達センター若葉園　音楽療法士
宇都宮市子ども発達センター若葉園　かすが園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会　すぎの芽学園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会デイサービスセンターすぎの芽　音楽療法士
社会福祉協議会　宇都宮市障がい者福祉センター音楽療法士
認知症カフェアダージョでの音楽療法実施
栃木県那須町黒田原第二保育園にて肢体不自由児に対する音楽療法研修実施

［実務経験と授業科目との関連性］

知的障害児、肢体不自由児、成人領域、高齢者における音楽療法の実践

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1BS018	介護の基本	1年	後期	講義	2	堀 圭三

授業概要
福祉の基礎を学ぶために必要な、社会の仕組みについて学んでいく。福祉とは何か、私たちの生活と具体的にはどのように関連しているのかについて理解していく。さらに、現代社会の特徴を通して、よりよい生活をしていく方法を考えていく。

到達目標(学習の成果)
１．「福祉とは何か」について、自身の生活と関連づけながら説明することができる（知識）。
２．家族や地域社会の今後のあり方について、自分の考えを述べることができる（知識）。

授業計画

回	表題	学習内容
１回	授業の進め方 生活の基本機能	授業計画・準備学習・成績評価の基準・方法を理解する。 社会生活、家族生活について理解する。 予習：教科書の第１章２節までをまとめておく。 復習：授業で示された課題を行う。
２回	ライフスタイルの変化	生活と働き方、少子高齢化社会を理解する。 予習：該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
３回	家族の機能と役割	家族と世帯の変容、家族機能の変化について理解する。 予習：該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
４回	社会・組織の機能と役割	社会・組織の概念を理解する。 予習：該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
５回	地域社会	コミュニティの概念、地域社会の変化を理解する。 予習：該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
６回	地域社会における生活支援	生活支援と福祉について理解する。 予習：該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
７回	地域福祉の発展	地域福祉の基本的な考え方を理解する。 予習：該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
８回	地域福祉の推進	コミュニティ・ソーシャルワーク、地域福祉計画を理解する。 予習：該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
９回	地域情勢社会	地域共生社会の理念について理解する。 予習：該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
10回	地域共生社会の実現	３つの地域づくりの方向性と取り組みを理解する。 予習：該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。

11回	地域包括ケア	地域包括ケアの理念とシステムを理解する。 予習：該当する教科書の部分を読んでまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
12回	介護福祉士国家試験に向けて	社会の理解の過去問から、要点を確認する。 予習：授業で示された課題を調べてまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
13回	現代社会の諸相①	統計資料を基に、人口動態や出生率などを確認し、現代社会について理解する。 予習：授業で示された課題を調べてまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
14回	現代社会の諸相②	少子化の現状について統計資料を基に理解し、日本特有の問題（パラサイト・シングルなど）について理解する。 予習：授業で示された課題を調べてまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。
15回	現代社会の諸相③	ファスト・フードとスロー・フードの概念から、日本の食生活やライフスタイルを理解する。 予習：授業で示された課題を調べてまとめる。 復習：授業で示された課題を行う。

準備学習(予習・復習について)

この科目は、講義科目(2単位)ですので、授業時間30時間と準備学習60時間が必要になります。
・ニュースやコラム等で授業に関係することがあれば、その内容をノートにまとめること。
・授業記録の記入し、基本概念についてはきちんとノートにまとめておく。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1.日本の社会の現状について、統計資料に基づいて理解している。 2.福祉と取り巻く社会の仕組みについて、その基本概念を理解している。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している。	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	到達目標の最低限を達成している。	到達目標を達成していない。
100点法	**90点以上**	**80点以上**	**70点以上**	**60点以上**	**59点以下**

評価方法
・定期試験（筆記試験）　100%

教科書

・介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座2　社会の理解』中央法規、2420円（税込）

参考書等

・『未来の年表』講談社現代新書、924円（税込）

履修上の注意・学習支援

質問等がある場合は、電子メールでいつでも受け付ける。また、オフィス・アワーでも受け付ける。

オフィス・アワー

疑問があれば、オフィス・アワーを利用すること。事前予約(k3@ujc.ac.jp）のうえ、時間を設定する。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2BS019	障害者福祉論	２年	後期	講義	２	平賀 紀章

授業概要

本講義では、障害のある人々の生活を支える上で必要な知識と視点を学ぶ。まずは、障害を理解するための基本的な考え方、障害に関わる重要な思想・理念、障害と環境との相互作用の中で生じる課題を学ぶ。その上で、音楽療法の専門職として障害のある人々に提供すべき援助について、自身の考えを深める。それにより、障害者の生活を支える専門職として必要な知識の学習と課題への対応策を考える力を身につけていく。

到達目標（学習の成果）

１．障害を理解するための基本的な理念を説明できる【知識】

２．障害のある人の生活を支え、質を向上させるために必要な考え方を身につけ、実践に生かすことができる【技術・態度】

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 「障害」とは?	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 「障害」について、自身の持つイメージを確認しながら、これからの学びについての課題を設定していく。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。
２回	障害者を取り巻く社会①	障害を持つ人々の背景について教科書を読みながら理解を深め、環境（社会）との相互作用の中で生じる課題を考える。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。
３回	障害者を取り巻く社会②	近年さかんに言われている「共生社会」「我が事丸ごと」等の各事業について理解しながら、今後の障害者福祉のあり方について、思いを深めてみる。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。
４回	障害者福祉の歴史	古代から現代までの我が国の障害者福祉の歴史について学んでいく。なお、海外の過去の出来事についても我が国のそれに関連付けて理解していく。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内容(流れ・背景など)を確認・理解しておくこと。
５回	我が国における「障害者」の定義①	「障害」についての定義を諸外国のそれらと比較しながら理解していく。それを講義６に引き継いでいく。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。
６回	我が国における「障害者」の定義②	障害者基本法に則った「障害」の概念について、そのメカニズムを学んでいく。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。
７回	障害者福祉における概念①	障害を持つ人々を援助することに際し、重要な理念となる「ノーマライゼーション」「インクルージョン」等について、事例を交えながら学んでいく。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。
８回	障害者福祉における概念②	障害を持つ人々の自立生活を送るに際し、それを阻害する「エクスクルージョン」「スティグマ」「パターナリズム」等の事象について、事例を交えながら学んでいく。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。

9回	障害者福祉に関わる制度①	講義６で示した障害の概念に基づいた「身体障害」「知的障害」「精神障害」「発達障害」「難病」についての制度とその支援政策について学んでいく。 予習：これらの制度についての新聞記事や参考図書等を読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。
10回	障害者福祉に関わる制度②	21世紀の障害者福祉サービスの核となる「障害者総合支援制度」について、そのサービスの理念や内容について理解していく。 予習：これらの制度についての新聞記事や参考図書等を読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。
11回	障害者福祉に関わる制度③	「成年後見制度」「虐待防止制度」「福祉サービス利用援助事業」「バリアフリー」等の障害を持つ人々に対する権利擁護の各制度について、その理念と内容について学んでいく。 予習：これらの制度についての新聞記事や参考図書等を読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。
12回	障害者福祉に関わる専門職	社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、その他の職種の役割やその実践について事例等を交えながら理解していく。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。
13回	障害者福祉に関わる機関等	行政機関、サービス事業所、労働機関、教育機関の役割やその実践について事例等を交えながら理解していく。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義で出た専門用語について、その意味を確認・理解しておくこと。
14回	音楽療法と障害者福祉①	障害を持つ人々への音楽療法や、障害児・者とともに行う音楽・表現活動の事例を学ぶ。 予習：音楽療法実習が終了していると思われるので、その振りかえりをしておくこと。 復習：新たに学んだ事項について、参考文献や他科目で学んだこととともに確認しておくこと。
15回	音楽療法と障害者福祉②	障害を持つ人々への音楽療法や、ともに行う音楽・表現活動の事例をふりかえり、課題と可能性を考える。 予習：音楽療法実習が終了していると思われるので、その振りかえりをしておくこと 復習：新たに学んだ事項について、参考文献や他科目で学んだこととともに確認しておくこと。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目30時間2単位ですので授業時間90分以外に60時間の授業外学習が必要になる。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めておくこと。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
①「障害」の理解 ②障害者福祉制度等の概要の理解 ③ソーシャルワークの視点で音楽療法が実践できる	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

評価方法

①授業中の取り組み【発表】：20%（日頃どのような意識で障害者福祉を学ぼうとしているか説明できる）
②毎回のリアクションペーパー：30%（2%×15回、今日どんな学びをしたのか明確化できる）
③定期試験 レポート：50%（15回の講義の学びを糧に、今後自分がどうすればいいのかを表明できる）

教科書

結城 俊哉　編『共に生きるための障害福祉学入門』大月書店, 2018 年, 2, 420 円

参考書等

・佐藤久夫・小澤温著『障害者福祉の世界』有斐閣アルマ, 2016 年, 2, 310 円

・藤井克徳著『障害者をしめ出す社会は弱くもろい』日本障害者協議会出版部, 2017 年, 1, 650 円

・二本柳覚著『図解でわかる障害福祉サービス』中央法規出版, 2022 年, 2, 420 円

学習支援・履修上の注意

・理解度を確認するため、講義期間中に 2 度、小テストを実施する。教科書だけでなく板書等の内容も問うので、ノートをしっかりとること。

・不明なことは、常に調べ、質問する習慣を身につけること。

・必要な配慮等ある場合は事前(初講時でも可)に相談すること。

オフィスアワー

・質問や相談等があれば、オフィスアワー（原則出講日昼休み及び講義終了後 15 分間、1 号館 1 階「講師教員センター」にて）を利用すること。

・急な、あるいは期間外の質問等については、担当教員のメールに送信すること（メールアドレスは初講の際にお示しする)。

［実務経験の概要］

担当教員は社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持ち、かつて特別養護老人ホームの生活相談員や地域中核病院・回復期リハビリテーション病院のソーシャルワーカーとして勤務していた。それらの実務経験から音楽療法をどのように活かしていくのか、協働・連携相手としてのソーシャルワーカーはどんな視点で勤務しているのか、サービス利用者にどう向き合うのか、についても学んでいく。

［実務経験と授業の関連性］

音楽療法士も社会福祉の一翼を担う専門職である。音楽療法士の活躍の場は、高齢者・児童福祉、医療、教育等多領域に及ぶ。本科目の内容にとどまらず、ソーシャルワーカーを含め他職種との協働・連携の方法等についても、実務経験に基づき、教授できる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2BS020	リハビリテーション論	2年	後期	講義	2	髙橋　一将

授業概要

自己および他者を尊重した支援を行うために必要な知識の一つとして、リハビリテーションの理念と基本原則を理解することを目的とする。
障害や疾患の特徴について、具体的な例を挙げながら講義をしていく。

到達目標（学習の成果）

1. 「リハビリテーション」の考え方と実践方法について、適切に理解することができる。
2. 「リハビリテーション」の理念を自らの専門領域と関連付けて説明することができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 リハビリテーションの歴史と理念	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 リハビリテーションの歴史的な成り立ちや理念について理解する。 予習：自己紹介を考えておくこと 復習：リハビリテーションの歴史について自身で調べること
2	国際障害分類と国際生活機能分類、障害受容について	障害を国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）に基づき解説し、障害受容の過程について概説する(小テスト1)。 予習：該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習：小テストの不正解分に関して理解を深めること
3	映画に観るリハビリテーション（1）	アクティブラーニング：脊髄損傷を受傷した主人公を題材とした映画を視聴し、中途障害者の心身の経過を学ぶ 予習：障害受容について理解を深めること 復習：グループワークの内容を再確認すること
4	映画に観るリハビリテーション（2）	アクティブラーニング：前回視聴した映画をもとに、主人公の心身の変化や自身の専門領域への活用をディスカッションする。 予習・復習：共に同上
5	リハビリテーションの基礎知識1	リハビリの理解に必要な基礎知識（解剖生理学）を学ぶ。 予習：該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習：興味を持った領域について調べること
6	リハビリテーションの基礎知識2	リハビリテーションの理解に必要な基礎知識（運動学）を学ぶ。（小テスト2） 予習：該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習：小テストの不正解分に関して理解を深めること
7	脳血管障害のリハビリテーション	脳血管障害の病態・症状と支援・環境整備について理解する。 予習：該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習：興味を持った領域について調べること
8	運動器疾患のリハビリテーション	運動器疾患の病態・症状と支援・環境整備について理解する。（小テスト3） 予習：該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習：小テストの不正解分に関して理解を深めること
9	映画に観るリハビリテーション（3）	アクティブラーニング：運動器疾患(外傷)の主人公を題材とした映画を視聴し、回復を含めた心身の経過を学ぶ。 予習：障害受容について理解を深めること 復習：グループワークの内容を再確認すること
10	映画に観るリハビリテーション（4）	アクティブラーニング：前回視聴した映画をもとに、主人公の心身の変化や自身の専門領域への活用をディスカッションする。 予習・復習：共に同上
11	疾患別リハビリテーション1	ケアの現場で出会う頻度の高い疾患（生活不活発病、パーキンソン病、脊髄損傷）の支援・環境整備について理解する。 予習：該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習：興味を持った領域について調べること
12	疾患別リハビリテーション2	ケアの現場で出会う頻度の高い疾患（認知症など）の支援・環境整備について理解する(小テスト4）。 予習：該当する章について教科書を良く読んでおくこと

		復習：小テストの不正解分に関して理解を深めること
13	行動リハビリテーションと介護場面への応用	重症例や困難例へのリハビリテーション・介護場面での対応を学ぶ。 予習：該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習：興味を持った領域について調べること
14	基本動作と介助方法（演習）	ケア場面で自身の心身を守るため、力学・運動学に基づいた、身体負担の少ない基本動作介助の原則について理解する（演習、小テスト5）。 予習：該当する章について教科書を良く読んでおくこと 復習：小テストの不正解分に関して理解を深めること
15	まとめ	1～14 回の講義内容のまとめと復習。定期試験でも求められる総合的な知識の整理を行い、理解を深める。 予習：これまでの内容を整理すること 復習：定期テストや国家試験対策を含め総合的に整理すること

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目(2 単位)なので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になる

1. 事前学習：授業計画で示された教科書の範囲を読み込むこと（教科書の範囲は括弧内に示してある）。
2. 事後学習：次の授業までに、前回の学修内容を復習しておくこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
1. リハビリテーション・障がいの捉え方の理念と歴史を、国際分類の変化と共に理解する。 2. リハビリテーションの基礎知識を理解する。 3. 各疾患のリハビリテーションを理解し、自身の領域と関連して説明できる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

・定期試験（筆記試験）：100%（60 点以上取ることを基準とする）

教科書

・『PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論』 椿原 彰夫（編） 診断と治療社 2017 年　4,180 円

参考書等

・『ICF 国際生活機能分類』 障害者福祉研究会（編） 中央法規出版 2002 年
・『絵でみる脳と神経』馬場元毅 第 3 版 2009 年

履修上の注意・学習支援

授業中の録音・撮影・携帯端末の使用は原則認めない。私語や居眠りを慎み、マナーを守ること。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後 15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」）を利用すること。（事前予約（ktakahashi.pt@ujc.ac.jp）が望ましい）。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2BS021	発達心理学	2 年次	前期	講義	2	松岡展世

授業概要

発達過程における心理臨床的な課題、各時期で顕著となる心理的な問題や不適応行動、精神疾患に対する支援について学ぶ。発達の問題を、身体・運動・認知・社会性・人格等の各領域について概説し、特に、乳児期・幼児期・児童期について詳しく学ぶ。事例等を通して具体的にイメージできるようにしながら、その実態、アセスメント法、生起・維持のメカニズム、心理的援助について理解し、問題の改善や予防について考えられるようにする。

到達目標（学習の成果）

・子どもの心理臨床的な課題について、見立てと具体的援助方法を説明できる。（知識・理解）
・各発達段階で現れやすい課題とその支援について説明できる。（知識・理解）
・子どもが見せる言動や他児・大人との相互作用に対し、発達過程において生じる心理的課題との関連で考え、その内容を説明できる（思考・判断）。
・心理臨床的な課題について専門的な見立てや援助方法に触れ、自ら体験してみる。（関心・意欲）
・子どもの心の問題について、必要な情報を収集し、適切な方法で伝えることができる。（技能・表現）

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	発達と適応	発達の要因や適応の問題について学び、子どもの精神病理についての概略を知る 予習：子どもの呈する問題にはどのようなものがあるか、小説やドラマ、自分の見聞きした体験から書き出す。 復習：子どもの精神病理の特徴についてまとめる。
2回	発達臨床の背景としての人間観と発達の基礎理論	発達期の心理臨床的な問題の特徴と要因について知り、その関連について理解する 予習：基本的な発達原則について調べて、疑問点を書き出す。 復習：発達の基礎用語について整理してまとめておく。
3回	胎生期・新生児期・乳児期の発達と問題	胎児期や乳児期の発達の特徴について学ぶ。特に、精神面に大きな影響を及ぼす脳の発達とその問題について理解する 発達臨床の背景としての人間観と発達の基礎理論について学ぶ
4回	周産期・育児期にある母親の精神的問題	周産期・育児期にある母親の精神的問題とそれが子どもに及ぼす影響について理解する 予習：周産期の母親の精神で気になることを書き出す。 復習：周産期の母親の精神的特徴と留意点をまとめる。
5回	脳や神経系の発達とその問題	心理発達や精神面と関連の深い脳や神経系の発達について学ぶ。 予習：脳のはたらきや発達について調べておく。 復習：脳と神経系の発達についての学びをまとめる。
6回	生活習慣形成の問題	生活習慣の問題の意味について学ぶ。食問題を中心として、その表れ方と対応について理解する。 予習：子どもの生活習慣で気になることを書き出す。 復習：生活習慣の問題と対応についてまとめる。
7回	発達臨床的な心理理解に基づく支援の基本的な視点	発達臨床的な心理理解について、基本的な視点を学ぶ 予習：子どもの心の問題で気になることを書きだす。 復習：発達臨床的心理理解の基本をまとめる。
8回	幼児期の発達の特徴	幼児期の各年齢の発達の特徴およびこの時期に生じる課題とその支援について学ぶ 予習：1～6 歳の各時期にみられる問題を書き出す。 復習：幼児期に見られる課題と支援についてまとめる。
9回	児童期の発達の特徴	児童期の各年齢の発達の特徴およびこの時期に生じる課題とその支援について学ぶ 予習：小学生時代に見られる問題をいくつか書き出す。 復習：児童期にみられる特徴と課題についてまとめる。

10 回	青年期の発達の特徴	青年期の各年齢の発達の特徴およびこの時期に生じる課題とその支援について学ぶ 予習：青年期に見られる問題をいくつか書き出す。 復習：青年期にみられる特徴と課題についてまとめる。
11 回	精神障害における問題	精神的な障害の発達的な問題の意味と、その症状および支援について学ぶ 予習：メンタルヘルスの問題で気になることを書き出す。 復習：精神的な障害の症状と支援についてまとめる。
12 回	代表的な発達障害の特徴	発達障害についての特徴について学び、発達障害を持つ児・人への支援の基本姿勢について学ぶ 予習：子どもの発達障害で気になることを書き出す。 復習：発達障害の現れ方と支援についてまとめる。
13 回	成人期・高齢期の発達の特徴	成人期および高齢期の発達の特徴およびこの時期に生じる課題とその支援について学ぶ 予習：成人期の問題として気になることを書きだす 復習：成人期、高齢期の特徴と課題についてまとめる。
14 回	愛着の障害や心理的トラウマにおける問題	育児ストレスと児童虐待、虐待などによる愛着の障害や心理的トラウマが子どもに及ぼす影響と支援について学ぶ予習：愛着や虐待について気になることを書き出す。 復習：愛着障害やトラウマの影響と支援をまとめる。
15 回	発達のための臨床心理学と音楽	発達臨床心理学的視点の有用性と、発達期にある個人への全人的な成長を促す営みについて考える 予習：1 から 14 回の学びを振り返り、質問を書き出す。 復習：自らの幼少期～現在までの心理的発達を振り返る。

準備学習（予習・復習について）

本科目は講義科目（2 単位）ですので、授業時間の他に準備学習計 60 時間が必要となります。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1．心理臨床的課題の理解 2．発達過程で生じる心理的課題に関する思考と判断 3．子どもの個別性と環境との関連の理解 4．専門的見立てや援助方法の体験的習得 5．情報収集と適した表現	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
①授業後レポート：各回の学習内容の理解度と率直な気づき・内省の表現（30%）
②授業内発表・グループ討議：気づきや理解を簡潔な言葉でまとめることができる（20%）
③定期試験レポート：子どもの心理臨床的課題について、授業内容を理解し、自らの考えをまとめ簡潔に文章表現ができる（50%）
＊課題については、次回の授業内でフィードバックを行い、適宜補足説明を行う。

教科書

使用しない

毎回の授業で、内容に合わせて理解を深めるための資料を作成し、配布する。

その他、映像資料・スライド資料等を視聴する。

参考書等

田中千穂子著「母と子のこころの相談室―“関係”を育てる心理臨床」山王出版

加藤繁美著「０歳～６歳心の育ちと対話する保育の本」学研教育出版

学習支援・履修上の注意

授業では、心の問題をより深く扱うことになる。自分自身の心身の変調に留意して、セルフケア（自身をいたわり大切にする行動）を適宜生活に取り入れて臨むこと。

個別に配慮が必要な場合には、事前に相談すること。

授業内で、質問を随時受け付ける。積極的に質問し、できる限りその場で解決すること。

オフィスアワー

水曜日 16:25～17:55　（5 号館 2 階　松岡研究室）

・授業内で解決できなかった疑問・質問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約の上、時間を設定する。具体的な日時は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SC022	音楽理論	１年	通年	講義	２	益子　徹

授業概要

音楽を演奏するためには基本的な理論と演奏技術を学ぶとともに，豊かな感性を磨くことが大切です。そのためには，まず楽譜を正しく読むことが基本となり，この科目では，楽譜に書かれている情報を十分に理解するための知識を身に着けていきます。既習の内容もしっかりと振り返り，確かなものにしていきます。

到達目標(学習の成果)

１．理論を段階的に理解している。
２．理論を演奏や創作へ結びつけることができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 譜表	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を確認します。 譜表を構成する五線、音部記号、加線について確認します。それぞれの名称の読み方についても、今一度確認します。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
２回	音名	イタリア音名、日本音名、ドイツ音名、英米音名について学びます。それぞれの名称を読んでいきます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
３回	音符と休符	音符と休符について、読み方の確認、また正しく記譜できるようにします。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
４回	拍子とリズム	拍子とリズムについて、既習内容の確認と同時に正しい記譜を身につけます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
５回	音程（幹音のみ）	２つの音の高さのへだたりを音程と言います。ここでは幹音のみの音程について学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
６回	音程（派生音を含む）	前回の幹音に続いて、ここでは臨時記号のついた派生音、また重嬰音、重変音を含む音程を学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
７回	複音程と転回音程	複音程、転回音程について学びます。これまでの音程の授業内容が理解できていれば難しいことはありません。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
８回	音階	長音階、短音階（自然短音階、和声短音階、旋律短音階）について学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。

9回	調と調号	調号の書き方を確認します。何も見ずに、全ての調を調号で書けるように練習します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
10回	五度圏（上方五度圏）	五度圏（ここでは属調へとむかう上方五度圏のことです）について学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
11回	五度圏（下方五度圏）	前回の上方五度圏に続いて、下方五度圏（下属調へ向かう）について学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
12回	近親調	主調と近親調の関係にある同主調、平行調、下属調、属調について学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
13回	遠隔調	近親調のさらに近親調、という二次的に近い関係にある調について学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
14回	移調（１）	演奏の際に、音域等の都合で原調を他の調へ移すことがあります。その方法について学びます。（調号を用いて） 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
15回	移調（２）	前回は調号を用いての移調でしたが、ここでは臨時記号を用いた移調の方法について学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
16回	調判定（１）	調判定は、演奏においても大切な知識です。音階の種類（長音階、自然・和声・旋律短音階）や調判定を学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
17回	調判定（２）	実際に作品の調判定を練習します。その後、実践として自分が取り組んでいる作品の調も見ていきます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
18回	三和音の種類と転回	和音は、音楽にさまざまな表情を与えてくれます。ここでは、三和音に限ってその種類と転回について学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
19回	和音連結と終止形	音楽の進行に、和音連結や終止形は重要な役割を担っています。学んだことを演奏にも応用できるようにします。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
20回	四和音（七の和音、添加六度の和音）	七の和音、添加六度の和音について学びます。三和音との響きの違いにも注目します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。

21 回	長・短三和音を基礎とした四和音	四和音のなかでも、特に長三和音、短三和音を基礎としたものを学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
22 回	減・増三和音を基礎とした四和音	四和音のなかでも、特に減三和音、増三和音を基礎としたものを学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
23 回	コードネーム	コードネームの知識は、さまざまな場面で役立ちます（初見の伴奏付け等）。各名称を覚えましょう。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
24 回	旋律と和音の関係（１）	和音の支えの中で、旋律がどのように音楽的に動いているのか、そのしくみについて学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
25 回	旋律と和音の関係（２）	非和声音をとりいれながら、旋律が音楽的に動いていることを学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
26 回	非和声音の種類	非和声音の種類と、その効果について学びます。確かな知識にするため、課題の実施を十分にします。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
27 回	音階・調・和音の関係（１）	ここまで学んできた各項目が深く関わりあって音楽ができていることを学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
28 回	音階・調・和音の関係（２）	各和音は唯一つの調にではなく、他の調にも機能を変えて属していることを学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
29 回	記号と標語（１）	演奏に不可欠な知識です。速度、曲想、強弱等の標語を覚え、演奏に活かせるようにします。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
30 回	記号と標語（２）	おもに奏法に関する標語を覚えます。ソロやアンサンブル等、演奏にも必要な知識です。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 2 単位なので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

学習した内容を，問題集を使いながら復習すること。また，自分が現在学んでいる楽曲を用いて，学習した内容を確認すること。関連する他科目で学んだことと照合しながら復習をしていくこと。現在受けているレッスンや様々な講義における教育方法に関心を持ち，教育に関する意識を高めること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
１．理論を段	完全にないし	若干不十分	不十分な点	到達目標の	到達目標を

階的に理解している ２．理論を演奏や創作へ結びつけることができる	ほぼ完全に到達目標を達成している	な点は認められるものの、到達目標を達成している	は認められるものの、到達目標を達成している	最低限を達成している	達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期試験　100%

教科書

書名：やさしく学べる「音楽理論」　著者名：桶谷弘美／熊谷新次郎他　出版社：音楽之友社　ISBN　978-4276101241　2,310 円

参考テキスト　書名：「楽典／理論と実習」　著者名：石桁真礼生他　　出版社：音楽之友社

学習支援・履修上の注意

この授業は，いわゆる「楽典」全般の内容を扱っていきます。日々の学習を欠かさず，確かな知識として身につけてください。また、自分の専門楽器の演奏等にも役立ててもらえればと思います。

オフィス・アワー

授業前後、またはメール（mashiko@ujc.ac.jp）にて。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SC023	音楽理論 〈和声学〉	1年	通年	講義	2	菊地由記子

授業概要

和声の習得は、音楽にたずさわる者として必須のものです。実際の作品から抽出した美しい和声を体感し、音楽作品における和声の果たす役割について学びます。毎回の授業で、実習の時間を中心に進めていきます。

到達目標（学習の成果）

和声の基礎知識を身につける。
和声の実習において、基礎的なことを踏まえたうえで、音楽的に充実した和声を書くことができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 基礎知識の確認	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 既習の音楽理論について、身についているか今一度確認していきます。和声の実習に入る前に必須の知識の確認になります。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
2回	4声体の和声(1)	和声習得の必要性について理解します。声部ごとの音域や役割、また配分について学びます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
3回	4声体の和声(2)	前時で学んだことをもとに、実際に4声体の和声を書きます。連結に入る前に、何度も書いて覚えます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
4回	和音の連結(1)	和音の連結に入ります。まずは2つの和音を連結させます。共通音を含む課題を中心に行います。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
5回	和音の連結(2)	前時では、共通音を含む2つの和音連結でしたが、本時は共通音を含まない課題を中心に行います。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
6回	和音の連結(3)	禁則の確認をします。連続5度・8度、並達5度・8度について理解します。響きを聴いて確認をします。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
7回	和音の連結(4)	前時の内容を踏まえた上で、Ⅱ→Ⅴ、Ⅴ→Ⅵの進行について学びます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
8回	カデンツについて	カデンツについて学びます。実際の楽曲で確認し、型別に響きを聴き、それぞれの特徴と違いを確認します。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
9回	各種の調(長調)(1)	これまで、ハ長調の中でのみ考えてきましたが、他の調でも和声を実習していきます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
10回	各種の調(長調)(2)	ハ長調以外の長調について、それぞれの調そのものの響きを感じながら、和声の実習をすすめます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。

11 回	各種の調(短調)(1)	長調とは異なり、導音の臨時記号や増音程に気をつけて実習していきます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
12 回	各種の調(短調)(2)	前時の内容をもとに、バス課題を実習します。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
13 回	第 1 転回型(1)	基本位置と第１転回位置の違いを、実際の作品の中で視覚的に、また聴覚的に確認します。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
14 回	第 1 転回型(2)	前時の内容をもとに、第１転回位置の課題を実施します。小節数が短いものから徐々に長いものへと実施します。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
15 回	これまでの復習	これまでの既習事項を踏まえて、第１転回位置までの内容を含んだバス課題を実施します。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
16 回	既習事項の確認(1)	和声に関する既習事項を確認し、第１転回位置までの内容を確実なものにします。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
17 回	既習事項の確認(2)	前時に続き、和声の既習事項について確認します。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
18 回	第 2 転回位置 (1)	第２転回位置の重要事項について学びます。実際の作品でどのように用いられているか確認します。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
19 回	第 2 転回位置 (2)	前時の内容を確認し、第２転回位置を含むバス課題を実施していきます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
20 回	Ｖ7 の和音(1)	４和音のＶ７について学びます。これまでと大きく異なる、第７音の存在に気をつけて学びます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
21 回	Ｖ7 の和音(2)	前時の内容を確認し、実際にＶ７の基本位置を含むバス課題を実施します。第７音の処理に気をつけます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
22 回	Ｖ7 の和音(3)	前時のＶ７基本位置の内容を振り返り、本時ではＶ７根音省略について学びます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
23 回	Ｖ7 の和音(4)	Ｖ７根音省略のかたちを含むバス課題を実施します。根音省略を学ぶために、根音省略のかたちを多用します。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
24 回	Ｖ9 の和音(1)	属９の配置と連結について学びます。第９音の扱いについて学びます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。

25 回	Ｖ9 の和音(2)	長調の属９根音省略の配置と連結について学びます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
26 回	Ｖ9 の和音(3)	前時で学んだ内容を踏まえ、属９根音省略(長調)のバス課題を実施します。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
27 回	Ｖ9 の和音(4)	短調の属９根音省略の配置と連結について学びます。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
28 回	Ｖ9 の和音(5)	前時で学んだ内容を踏まえ、属９根音省略(短調)のバス課題を実施します。 予習：該当する箇所について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
29 回	復習(1)	これまで学んだことの総復習として、バス課題を実施し、学び足りないところを補充していきます。 予習：既習事項について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。
30 回	復習(2)	既習事項の振り返りをし、和声の基礎を確実に身につけます。 予習：既習事項について教科書を読んでおきましょう。 復習：プリント・ノートの内容を再度確認しましょう。

準備学修（予習・復習について）

本科目は、講義科目なので授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要です。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を含めてください。

和声は実技の練習と同じく、日頃の積み重ねが必要です。授業で扱った和声は必ず音を出し、響きを聴いて確認しましょう。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
和声の基礎を理解し、音楽的に充実した 4 声体の和声を書くことができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
・定期試験（レポート）60%　　授業内小テスト 40%

教科書
使用テキスト
書名：和声　理論と実習　著者名：池内友次郎ほか 他　出版社：音楽之友社 3,080 円
参考書等
適宜、プリントを配布します。

学修支援・履修上の注意
音楽的な和声の実習をおこなうには、日頃の音楽的な積み重ねが必要です。和声実習時に限らず、楽器の練習時にも楽曲分析を心掛け、和声を感じるようにしてください。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SC024	音楽史	２年	通年	講義	4	阿久澤政行

授業概要

西洋音楽史の各時代の社会的背景、音楽様式を作曲家とその作品を通して追求する。音楽の理論と技術の基本を理解するための専門教育科目として、音楽がいかに生まれ、いかなる変遷を遂げ伝承してきたのか、各過程を譜例などの資料や鑑賞を通して学ぶ。

到達目標(学習の成果)

１．音楽の知識の幅を広げるだけでなく、如何に演奏法に結び付けられるかが大切である。毎回の講義で取り扱う作品や作曲家を基に、各自の意見を持ち、演奏に反映されることを目標とする(知識)。
２．前期は中世の音楽から古典派の音楽を中心に学び、説明できる(方法)。
３．後期はロマン派の音楽から現代の音楽を中心に学び、説明できる(方法)。
４．音楽の意義を理解し、専門的な知識や態度を身につける(知識・態度)。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 音楽史の概念 古代からグレゴリオ聖歌の成立まで	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 音楽史の定義を理解する。古代文明の中の音楽、ギリシャの音楽、音楽理論とエトス論、キリスト教音楽の始まり、グレゴリオ聖歌の成立を知る。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめること。
２回	中世の音楽１	ポリフォニーの発生と進展、オルガヌム、ノートルダム楽派、世俗音楽を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめること。
３回	中世の音楽２	中世の音楽理論と記譜法、リズム、教会旋法から全音階、聖ヨハネの賛歌と階名の起源を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめること。
４回	ルネサンスの音楽１	アルス ノバの音楽、アルス ノバ時代の楽曲、中世からルネサンスへの変遷、14 世紀のイタリアの世俗音楽を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
５回	ルネサンスの音楽２	15,16 世紀の音楽、ブルグンド楽派、ネーデルランド楽派、ベネチア楽派、ローマ楽派を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめること。
６回	ルネサンスの音楽３	イタリアの世俗的歌曲、フランスのシャンソン、鍵盤楽器の音楽、弦楽器と管楽器、コラールを知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
７回	バロックの音楽１	バロック時代のヨーロッパ世界、ルネサンスからの影響、カメラータと歌劇の誕生、モンテヴェルディの歌劇を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
８回	バロックの音楽２	オペラ セリアとブッファ、ナポリ派の歌劇、フランスの歌劇、イギリスとドイツの歌劇を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
９回	バロックの音楽３	バロック時代の楽器と器楽、オルガン音楽、D.スカルラッティのソナタ、ラモーとクープランの作品を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。

10回	バロックの音楽4	ドイツのチェンバロ音楽の特徴、J.S.バッハとヘンデルの作品を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
11回	古典派の音楽1	音楽史における古典派の時代、古典主義音楽の背景、器楽の発展を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
12回	古典派の音楽2	オーケストラ音楽とマンハイム楽派、グルックとハイドンの作品を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
13回	古典派の音楽3	モーツァルトについて、トリオ・ソナタ・協奏曲・変奏曲を学ぶ。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
14回	古典派の音楽4	ベートヴェンについて、トリオ・ソナタ・協奏曲・変奏曲を学ぶ。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
15回	古典派の音楽5	古典主義音楽の確立とその意義を知る。中世から古典派までのまとめ。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
16回	ロマン主義の始まり	ロマン主義の音楽の始期と終期、文学と美術からみる時代背景を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
17回	ロマン主義の音楽1	19世紀のイタリア歌劇、ロッシーニ、ヴェルディの作品を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
18回	ロマン主義の音楽2	19世紀のドイツ歌劇、ウェーバー、ワーグナー、同じ時期のフランスの歌劇を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
19回	ロマン主義の音楽3	名演奏家の出現、バイオリンの名手たち、ピアノの名手たち、メンデルスゾーン、シューベルトを知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
20回	ロマン主義の音楽4	ベルリオーズと標題音楽、ショパンのピアノ作品を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
21回	ロマン主義の音楽5	リストの果たした役割、ブラームスの音楽にみる保守性を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
22回	19世紀後半から20世紀1	19世紀後半のヨーロッパ世界、ロシア五人組について、リムスキー＝コルサコフ、バラキレフの作品を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
23回	19世紀後半から20世紀2	ロシア五人組について、ムソルグスキー、ボロディン、キュイの作品を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。

24 回	19 世紀後半から 20 世紀 3	ロシア音楽、チャイコフスキーの作品からみる歌劇・協奏曲・交響曲の特徴を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
25 回	19 世紀後半から 20 世紀 4	ボヘミアの国民主義音楽：スメタナ、ドボルザーク、北欧の作曲家、グリーグ、シベリウスの作品を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
26 回	19 世紀後半から 20 世紀 5	R. シュトラウス、サン＝サーンス、ファリャ、グラナドス、エルガーなどの作品を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
27 回	20 世紀の音楽 2	20 世紀音楽の始まりとその背景、印象主義音楽、ドビュッシー、ラヴェルの作品を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
28 回	20 世紀の音楽 3	ラフマニノフ、ストラヴィンスキー、ガーシュインの作品を知る。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
29 回	日本古来の楽器、民族音楽概論	日本の伝統音楽と世界の民族楽器による作品を鑑賞する。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。
30 回	日本音楽の鑑賞	日本の古典音楽を代表する雅楽、能、文楽、歌舞伎、箏、尺八音楽から抜粋し、鑑賞する。 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめ、紹介した楽曲を聴くこと。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目(4 単位)ですので、授業時間 90 分以外に 120 時間の授業外学習が必要になります。
・学習内容に示した部分のテキストを予め読んでまとめてくること。
・前回の授業内容に係る小テストを実施することがありますので、復習すること。
・授業で扱った用語、作曲家、作品について述べられるようにしておくこと。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
①中世から古典派までの音楽史についての理解度 ②ロマン派から現代(邦楽、民族音楽を含む)についての理解度 ③講義内での課題レポート内容についての理解度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
・定期試験(筆記試験) 50%　授業内の課題レポート 50%
※課題に対しては、授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

使用テキスト

書名：『音楽史を学ぶ（古代ギリシャから現代まで）』
著書名：久保田慶一　出版社：教育芸術社　990 円

参考テキスト

なし
毎回、資料をコピーして配布する。

学習支援・履修上の注意

1．卒業後は音楽専門家として多様な対応が求められる。講義内容は必ずノートにすること。
2．学習内容の疑問・質問、また進め方に対する要望は常時受け付けるので、授業中に発言して差し支えない。

オフィス・アワー

授業内容についての質問や課題の問い合わせは、オフィスアワーを利用すること（事前予約(akuzawa@ujc.ac.jp)のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SC025	ソルフェージュ	１年・２年	２年通年	演習	4	坪山恵子・新井啓泰・鎌田亮子

授業概要

ソルフェージュという言葉はフランス語で、元々は旋律をドレミ音名などで歌う読譜唱法（視唱）をさしますが、本学ではそれにとどまらず、広い基礎的な理論と表現力を磨き、聴音（音を聞いて楽譜にする）、キーボードソルフェージュ（鍵盤を使用した歌唱）を中心に学び、芸術表現を実践するための基礎訓練を行います。

2 年次には、刺繍音や経過音、倚音などの非和声音に関しても積極的に学習し、聴音では、三段譜（ト記号、ハ音記号、ヘ音記号）による三声体聴音に取り組み、更に調号を増やし、高度な課題に挑戦します。視唱では、弾き歌いの新曲練習（コンコーネ 50 番程度）を学習し、またハ音記号（アルト譜表）と高音部譜表と交互に歌うことを学習し、広い職種に適う音楽知識を身につけます。キーボードソルフェージュは即興演奏の理論と実践方法を学習します。

本学のソルフェージュの授業は習熟度別に応用Ａ、応用Ｂ、基礎の３クラス制で行います。それぞれのレベルに応じた課題を２年間かけて学び、芸術表現を実践する上での基礎能力の向上を目指します。

到達目標(学習の成果)

音楽の基礎能力とされる音感、リズム感、和声感、読譜力を身に付け、総合的音楽能力を高める事ができる。

授業計画

回	表　題	学習内容		
		応用Ａ	応用Ｂ	基礎
１回	授業の進め方 旋律聴音１ 新曲視唱１	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 簡単な聴音や視唱から学習ポイントを確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 聴音・視唱から学習ポイントを確認し目標をたてる。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 聴音や視唱から記譜法等の基本を確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
２回	複旋律聴音１ キーボード１	複旋律聴音、キーボードソルフェージュの基礎を学ぶ。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	複旋律聴音、キーボードソルフェージュの基礎を学ぶ。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	複旋律聴音、キーボードソルフェージュの基礎を学ぶ。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
３回	和声聴音１ 新曲視唱２	和声聴音の方法を学び能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	三和音から和声聴音を学び聞き分け能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	和音の聴き方、響きを確認しながら能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
４回	旋律聴音２ キーボード２	キーボードでは和音記号やコードネームを学ぶ。 予習：課題を読む、	より高度な旋律聴音を実践していく。 予習：課題を読む、歌う	記譜法を意識しながら、旋律聴音を実践する。 予習：課題を読む、

		歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
5回	複旋律聴音2 新曲視唱3	段階的に難易度を上げていき能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	難易度を上げていき能力の向上を図る。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より高度な課題に取り組み、能力の向上を図る。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
6回	和声聴音2 キーボード3	伴奏型を学び、コードネームと結びつける。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より高度な和声聴音を実践していく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	和音記号やコードネームになれるよう課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
7回	旋律聴音3 新曲視唱4	より複雑な課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	拍子やリズムの複雑な課題に取り組んでいく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	調や拍子の複雑な課題に取り組んでいく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
8回	複旋律聴音3 キーボード4	ハーモニー感を養いながら聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	聴音とキーボードの関連を意識し課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より複雑な課題に取り組み、能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
9回	和声聴音3 新曲視唱5	四声体の和声聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	四声体の聴音に取り組みながら和声の知識も学ぶ。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	四声体の響きを幹事ながら聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
10回	旋律聴音4 キーボード5	メロディーと和音記号を視ながら視奏する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	弾き歌いの方法を実践し、学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	和音記号やコードネームを見ながら視奏する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
11回	複旋律聴音4 新曲視唱6	聴音や視唱を通して、基礎を固めていく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	拍子感や音程感を聴音や視唱通し、学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	拍子感や音程感覚が定着するよう学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる

12回	和声聴音４ キーボード６	多様な伴奏型を用い視奏する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	メロディーに合う伴奏型を考え視奏できるよう学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	様々な伴奏の形を学び視奏する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
13回	旋律聴音５ 新曲視唱７	拍子や特徴的なリズムに慣れるよう課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	複合拍子や増音程になどにも取り組んでいく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より複雑な拍子に取り組み、能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
14回	複旋律聴音５ キーボード７	伴奏付き聴音にも取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	伴奏付き聴音に取り組み弾き歌いに応用していく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	聴音で学んだことをキーボードに応用していく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
15回	和声聴音５ キーボード８	より高度な和声聴音に取り組んでいく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	和声の禁則事項を聴音に応用しながら学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	和声学の知識を聴音にも応用し学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
16回	旋律聴音６ 新曲視唱８	既習の聴音や視唱から学習ポイントを確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	既習の学習ポイントを確認し後期の目標をたてる。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	既習の基本を再確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
17回	複旋律聴音６ キーボード９	キーボードソルフェージュの内容を確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	複旋律聴音などのポイントを確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	既習分野のポイントを再度確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
18回	和声聴音６ 新曲視唱９	和声聴音の聞き分け能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	四声体聴音により、さらに聞き分け能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	和音の聴き方、響きを再度確認し聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
19回	旋律聴音７ キーボード１０	和音記号やコードネームを再確認し、発展させる。 予習：課題を読む、	より高度な旋律聴音を実践していく。 予習：課題を読む、歌う	記譜法を意識し、より高度な旋律聴音を実践する。 予習：課題を読む、

		歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
20回	複旋律聴音７ 新曲視唱１０	視唱も段階的に難易度を上げていき能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	聴音視唱ともに難易度を上げて能力の向上を図る。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より高度な課題に取り組み、能力を向上させる。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
21回	和声聴音７ キーボード１１	伴奏型を学び、コードネームと結びつける。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	複雑な伴奏型に視奏に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	和音記号やコードネームに慣れる課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
22回	旋律聴音８ 新曲視唱１１	前期より複雑な課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	拍子やリズムの更に複雑な課題に取り組んでいく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	調や拍子がより複雑な課題に取り組んでいく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
23回	複旋律聴音８ キーボード１２	ハーモニー意識しながら聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	ハーモニー感を養うよう、課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より複雑な課題に取り組み、さらに能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
24回	和声聴音８ 新曲視唱１２	音部譜表の混合課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より複雑な視唱の課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	高度な音程の視唱課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
25回	旋律聴音９ キーボード１３	和音記号のない伴奏付けの方法を学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	メロディーから和音が認識できるよう課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	高度な和音記号やコードネームの課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
26回	複旋律聴音９ 新曲視唱１３	聴音や視唱を通して、より深く拍子感などを固めていく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より深く拍子感や音程感を聴音や視唱通し学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	拍子感や音程感覚が更に定着するよう学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる

27回	和声聴音９ キーボード１４	メロディーに合う和音や伴奏を考えて視奏する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	メロディーに合う和音を考え視奏できるよう学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	様々な和音や伴奏の形を考え視奏する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
28回	旋律聴音１０ 新曲視唱１４	より複雑な拍子やリズムに慣れるよう課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	複雑な拍子や音程、リズムの課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より複雑な拍子に取り組み、能力の向上を図る。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
29回	複旋律聴音１０ キーボード１５	旋律のみの弾き歌い課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	ハーモニーを意識し伴奏付け課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	聴音で学んだことをキーボードにより深く応用していく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
30回	和声聴音１０ キーボード１６	これまでの課題を総合的にとらえ、関連性を確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	これまでの課題を総合的にとらえ、関連性を確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	これまでの課題を総合的にとらえ、関連性を確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
31回	旋律聴音１１ 新曲視唱１５	１年次の学習内容を確認し、高度な内容に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	１年次の学習内容を確認し、高度な内容に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	１年次の学習内容を確認し、高度な内容に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
32回	複旋律聴音１１ キーボード１７	複旋律聴音（３段譜）の方法を学ぶ。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より高度な複旋律聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	複旋律聴音の方法を復習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
33回	和声聴音１１ 新曲視唱１６	１年次の学習を発展させ課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	１年次の学習を発展させ、新たな課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	１年次の学習を発展させ、新たな課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
34回	旋律聴音１２ キーボード１８	キーボードでは変奏方法などを学習する。 予習：課題を読む、歌う	より高度なリズムの旋律聴音を実践していく。 予習：課題を読む、歌う	記譜法を意識し、難易度の高い旋律聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う

		復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
35回	複旋律聴音１２ 新曲視唱１７	難易度の高い課題に取り組み能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	難易度を上げていき更に能力の向上を図る。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	高度な課題に取り組み、能力の向上を更に図る。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
36回	和声聴音１２ キーボード１９	開離課題聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	高度な和声聴音を実践し聞き分け能力を高める。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	複雑な和声聴音を実践し聞き分け能力を高める。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
37回	旋律聴音１３ 新曲視唱１８	より高度な課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	拍子やリズムの複雑な課題に取り組み能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	調や拍子の複雑な課題に取り組み能力向上を図る。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
38回	複旋律聴音１３ キーボード２０	非和声音を学習しキーボードに応用する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	難易度の高いキーボード課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より高度なキーボード課題に取り組み、能力向上を図る。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
39回	和声聴音１３ 新曲視唱１９	複雑な四声体の和声聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	新曲課題を通じ、初見能力の向上にも取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	初見能力の向上を目指しながら課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
40回	旋律聴音１４ キーボード２１	リズムや拍子の複雑な旋律聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	調号の多い旋律課題を学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	段階的に調号を増やし、より複雑な課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
41回	複旋律聴音１４ 新曲視唱２０	アルト譜表の応用としてスコアリーディングに取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	アルト譜表の視唱課題にも取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	様々な譜表になれるよう取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる

42回	和声聴音１４ キーボード２２	様々な和声課題に取り組み聞き取り能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	密集・開離混合配分課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	高度な和声課題に取り組み聞き取り能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
43回	旋律聴音１５ 新曲視唱２１	弾き歌い新曲課題にも積極的に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	新曲課題を通し、伴奏付けに応用する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より複雑な聴音や新曲課題に取り組み能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
44回	複旋律聴音１５ キーボード２３	複旋律における各声部の聞き分け能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より複雑な複旋律聴音課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	聴音で学んだことをキーボードに応用していく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
45回	和声聴音１５ キーボード２４	理論的知識と演奏を結びつける。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	和声の禁則事項を聴音に応用しながら学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	和声楽の知識を聴音にも応用し学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
46回	旋律聴音１６ 新曲視唱２２	既習の聴音や視唱から学習ポイントを確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	既習の学習ポイントを確認し後期の目標をたてる。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	既習の基本を再確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
47回	複旋律聴音１６ キーボード２５	キーボードソルフェージュの内容を確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	複旋律聴音などのポイントを確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	既習分野のポイントを再度確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
48回	和声聴音１６ 新曲視唱２３	難易度の高い和声聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	難易度の高い四声体聴音により聞き分け能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	和音の効き方を再度確認し高度な聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
49回	旋律聴音１７ キーボード２６	和音記号やコードネームを再確認し、発展させる。 予習：課題を読む、	より高度な旋律聴音を実践していく。 予習：課題を読む、歌う	記譜法を意識し、より高度な旋律聴音を実践する。 予習：課題を読む、

		歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
50回	複旋律聴音１７ 新曲視唱２４	視唱も段階的に難易度を上げていき能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	聴音視唱ともに難易度を上げて能力の向上を図る。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より高度な課題に取り組み、能力を向上させる。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
51回	和声聴音１７ キーボード２７	即興演奏の理論を学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より高度なキーボード課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	複雑なキーボード課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
52回	旋律聴音１８ 新曲視唱２５	前期より複雑な課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	拍子やリズムの更に複雑な課題に取り組んでいく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	調や拍子がより複雑な課題に取り組んでいく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
53回	複旋律聴音１８ キーボード２８	ハーモニー意識しながら聴音に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	ハーモニー感を養うよう、課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より複雑な課題に取り組み、さらに能力を養う。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
54回	和声聴音１８ 新曲視唱２６	音部譜表の混合課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より複雑な視唱の課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	高度な音程の視唱課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
55回	旋律聴音１９ キーボード２９	即興演奏を実践的に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	高度な聴音課題に取り組み能力の向上を図る。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	高度なキーボードの課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
56回	複旋律聴音１９ 新曲視唱２７	聴音や視唱を通して、より深く拍子感などを固めていく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より深く拍子感や音程感を聴音や視唱通し学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	拍子感や音程感覚が更に定着するよう学習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
57回	和声聴音１９ キーボード３０	理論に基づいた即興演奏に取り組む。 予習：課題を読む、	より正確な聞き分けができるよう和声課題に取り組む。	正確な聞き分けができるよう和声課題に取り組む。

		歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
58回	旋律聴音２０ 新曲視唱２８	より複雑な拍子やリズムに慣れるよう課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	複雑な拍子や音程、リズムの課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	より複雑な拍子に取り組み、能力の向上を図る。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
59回	複旋律聴音２０ キーボード３１	既習内容を確認し、より高度な課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	発展的にキーボード課題に取り組む。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	聴音で学んだことをキーボードに深く応用していく。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる
60回	和声聴音２０ キーボード３２	既習内容芸術表現の実践に応用できるようにする。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	既習内容芸術表現の実践に応用できるようにする。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる	既習内容芸術表現の実践に応用できるようにする。 予習：課題を読む、歌う 復習：誤答と正答をピアノで弾き比べる

準備学習（予習・復習について）

本科目は演習科目 4 単位ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。

1. 授業で取り上げた聴音課題は、間違った箇所をそのままにせず、書き直すなどして見直しすること。
2. 聴音やキーボードでの新出リズムなどを確実に覚えてくること。
3. 様々な音楽に耳を傾け、和音や伴奏型を分析して、キーボードソルフェージュに対応する。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
＊それぞれの課題にあったルーブリック評価を行なう 視唱 キーボード 聴音	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

＊それぞれの課題にあったルーブリック評価を行なう

評価方法
実技試験　視唱 20%、キーボード 20%
定期試験　聴音 60%

教科書

使用テキスト　書名：視唱の練習　著者名：金光威和雄　他　出版社：音楽之友社　1969 年　2,970 円
標準版　リズムの練習　著者名：木村和子　出版社：ケイ・エム・ピー 2018 年　1,100 円

参考テキスト　書名：ダンノーゼルのソルフェージュ　解説：城多又兵衛　出版社：音楽の友社　1963 年
コンコーネ 50 番　全音楽譜出版社

学習支援・履修上の注意

ソルフェージュの授業は、実習することが大切です。積極的に課題に取り組み、また、準備が必要な課題は、しっかり予習をしたうえで、授業に臨んでください。

オフィス・アワー

質問等があれば、講義終了後、または、オフィス・アワーを利用すること(事前予約　坪山 tsuboyama@ujc.ac.jp　新井 arai@ujc.ac.jp　鎌田 kamata@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する)。
具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SC026	合唱	1年・2年	2年通年	演習	4	早川愛 阿久澤政行

授業概要

合唱作品を通して、伸びやかで豊かな発声、明瞭な発音を追求する。合唱の技術、音楽の 3 大要素であるリズム、メロディー、ハーモニーの基本を理解するための専門教育科目として、課題曲を通じて強調性を持った美しい音色のアンサンブルを学ぶ。

到達目標(学習の成果)

1．全体の演奏の中で自分のパートの役割を理解し、歌うことができる(知識)。
2．合唱（多人数での演奏）を通して協調性、自立・自律した態度を身につける。(知識・態度)。
3．卒業後の音楽活動に役立つ合唱の技術を学び、舞台上での自己表現の向上を目標とする。(知識・技術・方法)

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 合唱の概念	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 合唱の定義を理解する。合唱の歴史を学び、演奏発表に向けた課題を知る。各パート分け及びリーダーを選出する。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習：課題曲を譜読みすること。
2回	創立 125 周年記念歌①	階名による歌唱（音程・リズムに注意する） 予習：記念歌を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：記念歌のチェック事項をまとめること。
3回	創立 125 周年記念歌②	母音による歌唱（音程・リズムに注意する） 予習：記念歌を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：記念歌のチェック事項をまとめること。
4回	創立 125 周年記念歌③	歌詞の朗読及び解釈・歌詞による歌唱①（リズム読み・発音に注意する） 予習：記念歌を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：記念歌のチェック事項をまとめること。
5回	創立 125 周年記念歌④	歌詞による歌唱②（アコーギク緩急法・表現記号に注意する） 予習：記念歌を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：記念歌のチェック事項をまとめること。
6回	創立 125 周年記念歌⑤	歌詞による歌唱③（発声・発音・各パートのバランスに注意する） 予習：仕上げとして課題曲をまとめる。発声練習を行うこと。 復習：記念歌のチェック事項をまとめること。
7回	第 92 回（2025 年度） NHK 全国学校音楽コンクール 課題曲	階名による歌唱（音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
8回	第 92 回（2025 年度） NHK 全国学校音楽コンクール 課題曲	母音による歌唱（音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
9回	第 92 回（2025 年度） NHK 全国学校音楽コンクール 課題曲	歌詞の朗読及び解釈・歌詞による歌唱①（リズム読み・発音に注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
10回	第 92 回（2025 年度） NHK 全国学校音楽コンクール 課題曲	歌詞による歌唱②（アコーギク緩急法・表現記号に注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
11回	第 92 回（2025 年度） NHK 全国学校音楽コンクール 課題曲	歌詞による歌唱③（発声・発音・各パートのバランスに注意する） 予習：仕上げとして課題曲をまとめる。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。

12 回	松下耕作曲 「この星の上で」より① 第 1 曲『はる』	曲の成り立ちや時代背景・作曲家について学ぶ。 第 1 曲『はる』階名による歌唱 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
13 回	松下耕作曲 「この星の上で」より② 第 1 曲『はる』	第 1 曲『はる』階名による歌唱（音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
14 回	松下耕作曲 「この星の上で」より③ 第 1 曲『はる』	第 1 曲『はる』階名による歌唱（発声法について） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
15 回	松下耕作曲 「この星の上で」より④ 第 1 曲『はる』	第 1 曲『はる』歌詞の朗読及び歌詞による歌唱 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
16 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑤ 第 1 曲『はる』	第 1 曲『はる』アコーギク緩急法・表現記号の確認と仕上げ 予習：仕上げとして課題曲をまとめる。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
17 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑥ 第 2 曲『地球の客』	第 2 曲『地球の客』階名による歌唱 （音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
18 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑦ 第 2 曲『地球の客』	第 2 曲『地球の客』階名による歌唱 （発声法について） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
19 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑧ 第 2 曲『地球の客』	第 2 曲『地球の客』アコーギク緩急法・表現記号の確認 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
20 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑨ 第 2 曲『地球の客』	第 2 曲『地球の客』各パートのバランスに注意する 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
21 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑩ 第 3、4 曲『おべんとうの歌』 『ほほえみ』	第 3、4 曲『おべんとうの歌』『ほほえみ』階名による歌唱 （音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
22 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑪ 第 3、4 曲『おべんとうの歌』 『ほほえみ』	第 3、4 曲『おべんとうの歌』『ほほえみ』階名による歌唱 （発声法について） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
23 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑫ 第 3、4 曲『おべんとうの歌』 『ほほえみ』	第 3、4 曲『おべんとうの歌』『ほほえみ』 アコーギク緩急法・表現記号の確認 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
24 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑬ 第 5 曲『今年』	第 5 曲『今年』階名による歌唱 （音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
25 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑭ 第 5 曲『今年』	第 5 曲『今年』階名による歌唱 （発声法について） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
26 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑮ 第 5 曲『今年』	第 5 曲『今年』アコーギク緩急法・表現記号の確認 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
27 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑯ 第 5 曲『今年』	第 5 曲『今年』各パートのバランスに注意する 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
28 回	少人数アンサンブルでの確認	『記念歌』『はる』『今年』を各パート（２人）に分かれグループごとにピアノ伴奏で発表する 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。

		復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
29 回	クリスマスコンサート （リハーサル）	当日衣装の確認、入退場の練習、立ち位置の確認 これまでの練習で注意された事をしっかり確認し演奏する。 予習：仕上げとして課題曲をまとめる。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
30 回	クリスマスコンサート （本番）	楽曲に愛情を持ち、仲間を信頼し本番に臨み演奏を完成させる。 予習：仕上げとして課題曲をまとめる。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
31 回	授業の進め方 合唱の概念	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 合唱の定義を理解する。合唱の歴史を学び、演奏発表に向けた課題を知る。各パート分け及びリーダーを選出する。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習：課題曲を譜読みすること。
32 回	創立 125 周年記念歌①	階名による歌唱（音程・リズムに注意する） 予習：記念歌を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：記念歌のチェック事項をまとめること。
33 回	創立 125 周年記念歌②	母音による歌唱（音程・リズムに注意する） 予習：記念歌を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：記念歌のチェック事項をまとめること。
34 回	創立 125 周年記念歌③	歌詞の朗読及び解釈・歌詞による歌唱①（リズム読み・発音に注意する） 予習：記念歌を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：記念歌のチェック事項をまとめること。
35 回	創立 125 周年記念歌④	歌詞による歌唱②（アコーギク緩急法・表現記号に注意する） 予習：記念歌を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：記念歌のチェック事項をまとめること。
36 回	創立 125 周年記念歌⑤	歌詞による歌唱③（発声・発音・各パートのバランスに注意する） 予習：仕上げとして課題曲をまとめる。発声練習を行うこと。 復習：記念歌のチェック事項をまとめること。
37 回	第 92 回（2025 年度） NHK 全国学校音楽コンクール 課題曲	階名による歌唱（音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
38 回	第 92 回（2025 年度） NHK 全国学校音楽コンクール 課題曲	母音による歌唱（音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
39 回	第 92 回（2025 年度） NHK 全国学校音楽コンクール 課題曲	歌詞の朗読及び解釈・歌詞による歌唱①（リズム読み・発音に注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
40 回	第 92 回（2025 年度） NHK 全国学校音楽コンクール 課題曲	歌詞による歌唱②（アコーギク緩急法・表現記号に注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
41 回	第 92 回（2025 年度） NHK 全国学校音楽コンクール 課題曲	歌詞による歌唱③（発声・発音・各パートのバランスに注意する） 予習：仕上げとして課題曲をまとめる。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
42 回	松下耕作曲 「この星の上で」より① 第 1 曲『はる』	曲の成り立ちや時代背景・作曲家について学ぶ。 第 1 曲『はる』階名による歌唱 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。

43回	松下耕作曲 「この星の上で」より② 第1曲『はる』	第1曲『はる』階名による歌唱（音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
44回	松下耕作曲 「この星の上で」より③ 第1曲『はる』	第1曲『はる』階名による歌唱（発声法について） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
45回	松下耕作曲 「この星の上で」より④ 第1曲『はる』	第1曲『はる』歌詞の朗読及び歌詞による歌唱 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
46回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑤ 第1曲『はる』	第1曲『はる』アコーギク緩急法・表現記号の確認と仕上げ 予習：仕上げとして課題曲をまとめる。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
47回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑥ 第2曲『地球の客』	第2曲『地球の客』階名による歌唱 （音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
48回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑦ 第2曲『地球の客』	第2曲『地球の客』階名による歌唱 （発声法について） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
49回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑧ 第2曲『地球の客』	第2曲『地球の客』アコーギク緩急法・表現記号の確認 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
50回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑨ 第2曲『地球の客』	第2曲『地球の客』各パートのバランスに注意する 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
51回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑩ 第3、4曲『おべんとうの歌』 『ほほえみ』	第3、4曲『おべんとうの歌』『ほほえみ』階名による歌唱 （音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
52回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑪ 第3、4曲『おべんとうの歌』 『ほほえみ』	第3、4曲『おべんとうの歌』『ほほえみ』階名による歌唱 （発声法について） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
53回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑫ 第3、4曲『おべんとうの歌』 『ほほえみ』	第3、4曲『おべんとうの歌』『ほほえみ』 アコーギク緩急法・表現記号の確認 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
54回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑬ 第5曲『今年』	第5曲『今年』階名による歌唱 （音程・リズムに注意する） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
55回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑭ 第5曲『今年』	第5曲『今年』階名による歌唱 （発声法について） 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
56回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑮ 第5曲『今年』	第5曲『今年』アコーギク緩急法・表現記号の確認 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。

57 回	松下耕作曲 「この星の上で」より⑯ 第 5 曲『今年』	第 5 曲『今年』各パートのバランスに注意する 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
58 回	少人数アンサンブルでの確認	『記念歌』『はる』『今年』を各パート（２人）に分かれグループごとにピアノ伴奏で発表する 予習：課題曲を譜読みすること。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
59 回	クリスマスコンサート （リハーサル）	当日衣装の確認、入退場の練習、立ち位置の確認 これまでの練習で注意された事をしっかり確認し演奏する。 予習：仕上げとして課題曲をまとめる。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。
60 回	クリスマスコンサート （本番）	楽曲に愛情を持ち、仲間を信頼し本番に臨み演奏を完成させる。 予習：仕上げとして課題曲をまとめる。発声練習を行うこと。 復習：課題曲のチェック事項をまとめること。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、2 年通年での演習科目(4 単位)ですので、授業時間以外に授業外学習(授業時間 60 時間と準備学習 180 時間×2)が必要になります。

・予習として、譜読み，歌詞の発音を練習しておくこと

・復習として、 授業での演奏の中で新たに指示されたことや学んだことを確認すること。

・授業で扱った用語、作曲家、作品について述べられるようにしておくこと。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
①読譜についての理解度 ②アンサンブルについての理解度 ③楽曲についての理解度、表現度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

・須賀学園クリスマスコンサート（実習課題)60%　定期試験(レポート)20%　授業内での少人数アンサンブル 20%

※課題に対しては、授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

混声合唱とピアノのための「この星の上で」

松下耕作曲　カワイ出版　2007 年出版　2,310 円

参考テキスト

菅野祐悟作曲　音楽科教員作詞　学園創立 125 周年学園歌

第 92 回（2025 年度）NHK 全国学校音楽コンクール課題曲中学校女声三部合唱

学習支援・履修上の注意

１．毎時間心身ともに健康で授業に参加できるよう、普段から健康的な生活を心がける。

２．学習内容の疑問・質問、また進め方に対する要望は常時受け付けるので、授業中に発言して差し支えない。

オフィス・アワー

授業内容についての質問や課題の問い合わせは、オフィスアワーを利用すること（事前予約(akuzawa@ujc.ac.jp)のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SC027	卒業演奏	２年	後期	実技	2	鎌田亮子

授業概要

2 年間の実技レッスンの集大成となる「卒業演奏」として，須賀友正記念ホールにおける学内演奏会に出演する。演奏はコンサート形式で公開される。コンサートホールにふさわしい演奏法を学ぶ。また，ステージマナーを身に付け，楽曲研究レポートや曲目解説の書き方を習得する。

到達目標(学習の成果)

レッスン室から移行して、コンサートホールで演奏することによって，公開の場で発表する力が身につく。卒業学年の各専攻学生が同じステージに立つことで，互いの楽器や演奏者の個性を生かした芸術表現を習得できる。

授業計画（２年後期）

回	表　題	学習内容

「卒業演奏」の単位取得には「学内演奏会」に出演し，審査合格が必須となる。
①日程の発表
2 年次の開講日に演奏日程を発表する（日程は例年 10 月第 2 週ごろ）

②「学内演奏会」の出演条件
・1 年次前期・後期，2 年次前期の実技単位を取得済みであること。
・日頃から質の高い演奏法を学ぶため，学内における各種演奏会，公開レッスン，特別講座等へ 2/3 以上の聴講をしていること（1 年次より聴講カードを配布し，出席回数を確認する）。

③選曲と演奏曲目の提出について
・選曲は実技担当教員と共に検討し，公開の舞台にふさわしいものとする。
・本学の公式な演奏会や実技試験で演奏していない曲に限る。
・演奏時間は 5〜8 分程度とする。
・演奏形態は独奏，連弾，二重奏から選択する。
・演奏曲は，後期開講日から 2 週間以内に，登録用紙を事務局へ提出する。

④演奏曲目に関するレポートとプログラム用曲目解説の提出
・演奏曲目に関して，楽曲分析や創作背景を調べた研究レポート（A4 で 2 枚）を，後期の初回レッスン時に実技担当教員へ提出し，登録用紙検閲欄に押印を頂き，統括教員に提出。
・併せてプログラム用曲目解説（200 字程度）も実技教員の指導と確認を得て，登録用紙提出日に，統括教員のアドレス（新井　arai@ujc.ac.jp）に送信すること。

⑤演奏会のステージマナーやホールでの演奏法を学ぶための「試演会」の実施
演奏会前に実技教員立ち会いの試演会を実施する。配布済みの「ステージマナーの手引き」を参考に，公開演奏にふさわしいステージの作法を身に付け，また広いホールでの音響を意識した演奏方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習について）

・実技教員と公開演奏にふさわしい選曲をする。
・アンサンブルを選択した者は，合わせに関する入念なリハーサルを行う。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

・学内における各種演奏会，公開レッスン，特別講座等へ 2/3 以上の聴講を「卒業演奏」の単位取得(学内演奏会の出演)の条件とする。
・定期実技試験　当日の演奏を 80%，研究レポートを 10%，曲目解説を 10%で評価する。

教科書

特になし

参考テキスト

本学発行の「ステージマナーの手引き」を参考にする（年度初めに配付する）。

履修上の注意・学習支援

・全出演者を対象とする試演会に必ず参加すること。
・試演会の日に，当日のステージ舞台配置図を提出する。

オフィス・アワー

「卒業試験」に関する質問等は，統括の鎌田（kamata@ujc.ac.jp）が受け付ける。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP028	音楽実技 （ピアノ演奏）	１年・２年	２年通年	実技	８	ピアノ指導教員 （主任　新井啓泰）

授業概要

〈１年前期〉
課題曲
①バロック期の作品
②古典期の作品
③ハノンのスケール３＃３♭調まで

個人実技レッスンに「音楽理論・ソルフェージュ」の授業内容を取り込みながら、課題曲①②の時代に関する知識や演奏技術を学ぶ。同時に演奏法のテーマをⅠ「良い演奏とは？」に置き、演奏会や図書館での鑑賞を含めて、ピアノに向かう基本態度を研究する。
合奏能力を高めるため、アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れます。

〈１年後期〉
課題曲
①練習曲
②ロマン期の作品
③ハノンのスケール４＃４♭調以降

レッスンに「重唱・ピアノ指導法」の授業内容を取り込み、課題曲①に向かう心がけと②の時代に関する知識や演奏技術を学ぶ。「練習曲はどんなふうに？」を演奏法のテーマⅡとして、目標がはっきり見えると、仕込み作業（練習）が楽しくなるプロセスを経験する。
合奏能力を高めるため、アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れます。

〈２年前期〉
課題曲
①バロック期の作品（１年次の課題曲と異なる作曲家およびスタイルの曲）
②近代・現代の作品
③ハノンのコード類３種３＃３♭調まで

「合唱・音楽史」の授業を取り込みながら、受講生の特性や個性を活かしてレッスンを進める。
バロック期の作品で鍵盤楽曲のルーツを再考察し、19 世紀末以降の楽曲では現代の感覚をいかして学ぶ。
今期はⅢ「豊かな表現の為のテクニック」を演奏法のテーマとする。
合奏能力を高めるため、アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れます。

〈２年後期〉
課題曲
①練習曲（１年次課題曲と作曲家が異なる曲）
②自由曲
③ハノンのコード類４＃４♭調以降

「ソルフェージュ・ポリフォニーの演奏法」の授業を取り込みながら、課題曲①で発表・伝達の手法をまとめ、②では各自の独創的な表現が活かせる選曲をする。演奏法のテーマⅣ「演奏の基本感覚」で音楽の基本要素にかえりながら、学内演奏会でお互いの感性を磨き、卒業試験へは最高の芸術表現を目標とする。

到達目標（学習の成果）

〈１年前期〉
バロック期と古典期の時代や作品への知識が深まり、その演奏法に興味が持てるようになる。「良い演奏」と「退屈な演奏」の違いが理解できて、優れた演奏に不可欠な基礎力が身につく。アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力を修得することができる。

〈1年後期〉
確実な技術の修得には時間がかかるが、それが身につくと困難な曲を自分なりの練習手段で克服できるようになる。心身共に健康的な行動規範が求められる練習曲と、豊かな感性と情緒が不可欠なロマン期の作品を並行して学ぶことで、円満な人格も育成される。アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力を修得することができる。

〈1年前期〉
隔たる時代の作品を同時に学び、試験場で続けて演奏することにより、作曲技法や奏法の違いが鮮明になる。課題②の修得で受講生の現代的感性が呼び覚まされて、自主的な練習に繋がる。アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力を修得することができる。

〈2年後期〉
音楽の基本を踏まえ情熱を注いで会得した演奏体験は自立・自律を高め、社会に通じる応用・活用力となる。個人レッスンで各々の特性を見極め伸張してきた2年間の学習で、卒業後の活動に大きな自信が付く。アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力を修得することができる。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方 前期のテーマⅠと学習計画	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 音楽歴と演奏をきいてから、2年間の学習内容を見て長期レッスン計画を立てる。演奏法テーマⅠの考察を始める。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	ピアノの歴史：1	バロック期の鍵盤楽器の変遷と、続く古典期のピアノの構造や音色の変化を辿り、当時の楽曲との関連をみていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	ハノンのスケール練習法	演奏上音階を美しく弾けることは必須である。基本の指使い・運指法・カデンツを把握し、レガート奏法を修得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	テーマⅠ「良い演奏とは？」	作品がよく読めて、テクニックが安定している。「良い演奏」にはこの他に何が求められるかを考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	バロック期の楽曲研究　1	17世紀初頭から18世紀中頃までの時代背景を見ながら、バロック期の代表的な作曲家と主要作品を調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	バロック期の楽曲研究　2	ポリフォニーの奏法とそれを聴く耳を養い、アーティキュレーションや装飾音、強弱法などを身につける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	古典期の楽曲について　1	18世紀中頃から19世紀初頭の作品群を鑑賞しながら、入学までの履修曲を顧みて、課題曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	古典期の楽曲について　2	ソナタ形式が完成するまでの経緯を調べ、ホモフォニー（機能和声に基いた旋律と伴奏）の美しい演奏法を研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

9	アンサンブルA「編曲作品」	様々なジャンルの名曲を、連弾・二台ピアノ版で取り組む。ピアノの音色や表現の多彩さを味わい、合わせる楽しみを覚える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	スケール課題のレッスン	目標としたレヴェルで、スケールの３＃３♭調までをマスターできたか、確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	課題曲を今期のテーマからみる１	「良い演奏」のポイント①曲に相応しいテンポであるか。②良いリズムで弾けているか。を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	課題曲を今期のテーマからみる２	「良い演奏」のポイント③適切なフレージングが出来ているか。④適切なペタリングか。を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	課題曲を今期のテーマからみる３	「良い演奏」のポイント⑤全体の構想がしっかり持てたか⑥曲のイメージが描けているか。を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	課題曲を今期のテーマからみる４	「良い演奏」の循環：曲全体のイメージを描く（頭）→音に出す（弾く）→聴いて確かめる（耳）を、再確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	実技試験への仕上げ	今期勉強したバロックと古典期の知識と、奏法の基本を振り返り、学習内容を前期実技試験にいかす。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	後期のテーマⅡと授業計画	前期の学習と実技試験を振り返り、後期のテーマを考察し、課題曲①②を中心に学習計画を立てる。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	ピアノの歴史２	19 世紀、ピアノは著しい改良と発展を遂げた。その推移を作曲家の要求とメーカーの技術研究の両面から観る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	ハノン全般の活用法	この教本は、一冊弾き通すと大きな意義がある。スケール課題に留まらず、全般を見て各自の活用法を考察する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	テーマⅡ「練習はどんなふうに？」	練習は単調で退屈だと言う人と、料理を作る作業の様で楽しいと思う人の違いは、何処にあるか考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	練習曲の教材研究	一般にツェルニーやショパンのエチュード等が取り上げられるが、将来の教材選びの為にも図書館で様々調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	ロマン期の楽曲について１	音楽会場が貴族のサロンから一般向けのホールへ移っていった時代の変化を、作品と奏法に関連付けてみていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	ロマン期の楽曲について２	19 世紀の新しい音楽の開花と演奏表現を、人々が内に秘めていた感情を表出するようになった時代風潮から導く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	ロマン期の楽曲について３	ロマン期の奏法はピアノの機能向上で打鍵法が一新し、トリルや装飾音の弾き方も根本的に変わった。その訳を知

		る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	アンサンブルＢ「声楽との合わせ」	童謡から名リート集まで声楽曲の伴奏は、フレーズ・呼吸・イントネーション・表情等が自然に学べる。合奏の原点に触れる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	スケール課題のレッスン	スケールの４＃４♭調以降が、２声の音楽として又２拍子の美しい演奏として弾けているか、確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	課題曲を今期のテーマからみる１	「練習」の第一歩は楽譜の版選びに始まる。原典版が望ましいが、予備知識を得る為に解釈版併用も考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	課題曲を今期のテーマからみる２	「練習」には楽譜を読む時間も入る。曲の全体を直感的に掴み、指揮者になったつもりで頭に音を鳴らしてみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	課題曲を今期のテーマからみる３	「練習」の実際では、身体の脱力・読みとったイメージの先行・魅力あるフレーズ感・適切な指使い・暗譜法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	課題曲を今期のテーマからみる４	「練習」の原点は作品を敬うこと。それをどう伝えたいか明確なヴィジョンを持ち、自分の音と一致しているかを確かめる。
30	後期実技試への仕上げ	前期実技試験の反省を生かすと共に、これまで修得したものをよく消化・吸収して後期実技試験に臨む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	前期のテーマⅢと授業計画	１年次の学習を振り返り、卒業までの１ヶ年計画を立てる。課題曲①②と、テーマⅢについての考察を開始する。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	ピアノの歴史３	ピアノはロマン期の終わりに、ほぼ現代の機能が整った。その後の特殊な機能を持つピアノの進化を見聞する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	ハノンのコード類練習法	分散和音（アルペッジョ）の課題はコード、ブロークンコード、アルペッジョの３種を一セットとして学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	テーマⅢ「豊かな表現の為のテクニック」	弾きたい曲（音楽）をイメージ通りに弾けるようになる。そのテクニックを身につける長期エクササイズを考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	バロック期研究の発展	ピアノの歴史１を振り返り、同期の（独）（仏）（伊）作曲家に視野を拡げ、対位法や舞踏ほか様々な形式に触れる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	近代の楽曲について	19 世紀末から 20 世紀、リストやワーグナー晩年の無調傾向にドビュッシーが拍車をかけた象徴派の作品を調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	現代の楽曲について	20 世紀初めには 12 音技法へと展開して、現代作品は限りなく自由な表現を求めている。リアルタイムの体験をする。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	学内演奏会 アンサンブルの楽曲の検討	バロック期以前からハウスムジークとして日常的に親しまれて来たアンサンブル。共演者を探すことから始める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	アンサンブルＣ「オリジナル作品」	発表会等で演奏機会が多い連弾・二台ピアノの楽曲を取り上げる。作曲家の新境地を知ることで、レパートリーが拡がる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	コード３種課題のレッスン	１種ハーモニーをよく聴き、２種手首のしなやかさ３種運指法と音域の素早い移動に留意して、美しい３拍子で弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	課題曲を今期のテーマからみる１	「表現テクニック」の様々な響き・表情を創る要素を、弾く側（身体）と作曲家側（記譜された楽語記号）から考察する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	課題曲を今期のテーマからみる２	「表現テクニック」のピアノ奏法の大別①指の奏法と②重量奏法（腕からの重み移動）を楽曲の創作年代からみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	課題曲を今期のテーマからみる３	「表現テクニック」で作品の要求（テンポ・発想記号・様々な記載楽語）に応えるタッチの変化や多様な手法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	課題曲を今期のテーマからみる４	「表現テクニック」に第３の手として重要な役割を担い、演奏者の耳・感覚の良さが問われるペダリングに注目する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	前期実技試験への仕上げ	試験および学内演奏会はコンサートホールで催される。フルコンの手応えやホールの音響を予測し、当日に備える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	後期のテーマⅣと学習計画	前期の学習と実技試験を振り返り、後期のテーマについて考察し、課題曲①②を中心に学習計画を立てる。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	卒業後の学習展望	社会に出ても、継続的学習は大切である。生涯学習に繋がる自主的学習をプランニングする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	学内演奏会 アンサンブル楽曲の仕上げ	パートナーと選択曲の解釈を深め、合わせの妙味と難しさを体感する。ステージマナーも修得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	テーマⅣ「演奏の基本感覚」	基本感覚（ハーモニー感・テンポ感・リズム感そして形式構造等の曲の形を掴まえる感覚他）を磨く方法を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	練習曲１（奏法の歴史）	ピアノ奏法の発展プロセスをクレメンティ・チェルニー・リスト・ショパン・ドビュッシーの流れで考察する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

51	練習曲２（３つのカテゴリー)	①指の反復練習：ハノンetc. ②シンプルな曲構成：チェルニーetc. ③高度な芸術的作品：ショパン etc. の②③から選ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	自由曲の選曲から演奏まで	学習上で選曲作業は非常に重要である。日頃から広範囲の鑑賞（演奏会・図書館・メディア）を心掛け自発的に行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	自由曲の選曲から演奏まで２	卒試には、コンサートホールでの演奏チャンスを活かし、自らの特性を発揮できる曲で、用意周到な計画を立てる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	アンサンブルD「器楽曲の伴奏」	異なる楽器との二重奏は、相手の楽器の特性がわかりピアノ協奏曲修得に必要である。卒試では、伴奏の担当も望ましい。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	基礎訓練のまとめ	演奏家の修練はスポーツマンと共通項が多い。競技に臨む明日リート達の精神性と考え抜かれた訓練法から学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	卒業課題曲のレッスン１	「演奏の基本感覚」ハーモニー感を養う。～ハーモニーは音の衣装～好みの伴奏を付けたり和音と遊ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	卒業課題曲のレッスン２	「演奏の基本感覚」テンポ感を磨く。適切なテンポの設定方法。揺れやアゴーギク。メトロノームの功罪にも触れる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	卒業課題曲のレッスン３	「演奏の基本感覚」リズム感を育てる。生彩を欠いた退屈な演奏の原因を、記譜上のリズムと実演の違いで考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	卒業課題曲のレッスン４	「演奏の基本感覚」曲全体を把握する。絵画や建築物を見る時の様に形式・構造・流れ（イントネーション）を掴む実習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	卒業実技試験への仕上げ	演奏は本番が総てである。体調管理も能力の一つと捉えて、２年間の集大成として卒試までの高め方を工夫する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・ハノン及びコード類のデイリーエクササイズ・ウォームアップ。
・エチュード類またはバロックの作品
・各学期の試験曲及び学習曲の練習
・課題曲の背景について、文献や資料のまとめ、音源視聴等

各学期の試験範囲と時代区分は以下のとおり。
〈１年前期〉
課題曲①②の予習対象となる作曲家について（参考）　①バロック期：フレスコバルディ（伊）・ジャンポニ

エール（仏）・キルデルマン（独）・フロベルガー（独）・リュリ（仏）・パッヘルベル（独）・コレッリ（伊）・パーセル（英）・クーナウ（独）・クープラン（仏）・テレマン（独）・ダンドリュー（仏）・ラモー（仏）・ヘンデル（独→英）・J.Sバッハ（独）・スカルラッティ（伊）・ダカン（仏）・C.P.E. バッハ（独）・W.F. バッハ（独） ②古典期：L. モーツアルト（墺）・キルンベルガー（独）・ソレール（西）・ハイドン（墺）・J.C バッハ（独）・チマローザ（伊）・テュルク（独）・クレメンティ（伊）・ホフマイスター（墺）・W.A. モーツアルト（墺）・デュセック（チェコ→仏）・ベートーヴェン（独）・トマーシェク（チェコ）・フンメル（墺）・ディアベリ（墺）・クーラウ（独→デンマーク）

ピアノ演奏コース前期のレッスンでは、「演奏表現のための高度なテクニックを知ること」を中心に取り組む。実技修得が主になるので、予め学習内容に目を通し図書館やインターネット等で予習してからレッスンに臨むこと。新しく身につけた奏法は、レッスン中と同じ集中力を維持した復習により、初めて自分のものになる。

〈１年後期〉
課題曲　①は、練習曲のジャンルから任意の１曲とする。予め下記の参考教本を調べてから、選曲に入ることが望ましい。②は、作曲年代はロマン期としているが作品のジャンルは問わない。（作曲家については下に記載がなくても同時代であれば認められる）
①練習曲の作曲家と書名：チェルニー・50 番／60 番練習曲、クラマー＝ビューロー・60 番練習曲、モシュコフスキー・15 の練習曲／16 の技術練習曲、モシュレス・24 の練習曲、ブラームス・51 の練習曲、リスト・12 の練習曲、スクリアビン・ピアノ曲集エチュード、ショパン・エチュード集、ドビュッシー・ピアノのための 12 の練習曲、他

②ロマン期の作曲家：フィールド（アイルランド）、ヴェーバー（独）、シューベルト（墺）、メンデルスゾーン（独）、ショパン（ポーランド）、シューマン（独）、リスト（ハンガリー）、ワーグナー（独）、アルカン（仏）、レイバッハ（仏）、フランク（ベルギー）、スメタナ（チェコ）、ブラームス（独）、サン＝サーンス（仏）、バラギレフ（露）、ムソルグスキー（露）、チャイコフスキー（露）、シャブリエ（仏）、ドヴォルジャーク（チェコ）、グリーグ（ノルウェー）、ファリャ（スペイン）、ドホナーニ（ハンガリー）、他

ピアノ演奏科後期のレッスンでは、「ステージで演奏するための必須テクニック」と「演奏家にふさわしいステージマナー」を身につけることを中心に学ぶ。

〈２年前期〉
課題曲①の対象作曲家は、１年次前期と同様である。②は、作曲年代は近･現代とするが作品のジャンルは問わない。予習としては両時代全般に目を通し（下記の作曲家を参考）、自主的に複数の選曲を試みた後に担当教員の意見を求めること。（記載のない作曲家でも同時代内であれば認められる。）

近現代の作曲家：フォーレ（仏）、レーガー（独）、ラフマニノフ（露）、ドビュッシー（仏）、ニールセン（デンマーク）、サティ（仏）、シェーンベルク（墺）、シベリウス（フィンランド）、アイヴス（米）、ラヴェル（仏）、メトネル（露）、バルトーク（ハンガリー）、シマノフスキ（ポーランド）、トゥリーナ（スペイン）、コダーイ（ハンガリー）、ストラヴィンスキー（露→米）、ヴェーベルン（墺）、カセッラ（伊）、グリフィス（米）、ベルク（墺）、デュカス（仏）、ヴィラ＝ロボス（ブラジル）、イベール（仏）、マルタン（スイス）、マルティヌー（チェコ）、プロコフィエフ（露）、オネゲル（スイス）、ミヨー（仏）、タイユフェール（仏）、モンポウ（スペイン）、ヒンデミット（独）、カウエル（米）、ガーシュウィン（米）、プーランク（仏）、チェレプニン（露系米）、チャベス（メキシコ）、オーリック（仏）、コープランド（米）、ヴォルペ（独系米）、ハチャトゥリアン（露）、ダラピッコラ（伊）、カバレフスキー（露）、ジョリベ（仏）、ショスタコーヴィッチ（露）、カーター（米）、バーバー（米）、ケージ（米）、フランセ（仏）、ブリテン（英）、デロ・ジョイオ（米）、メシアン（仏）、ヒナステラ（アルゼンチン）、デュティーユ（仏）、バビット（米）、ユン・イサン（韓国）、バーンスタイン（米）、クセナキス（ギリシャ系仏）、リゲティ（ハンガリー）、ブレーズ（仏）、ベリオ（伊）、フェルドマン（米）、ヘンツェ（独）、シュトックハウゼン（独）、クラム（米）、武満徹（日）、ギロック（米）、他。

〈２年後期〉
課題曲①は１年次後期の①と同様であるが、異なる作曲家から選び更にレヴェルアップした練習曲が望まれ

る。②は、作曲年代および作品ジャンルを問わない自由選択曲となる。

ピアノ演奏専攻の集大成として
１．これまで修得した曲に課題曲②の自由曲を組ませてデビューリサイタルプログラムを構想する。
２．卒業後の演奏活動に備えて、社会の様々なニーズに合わせたコンサートのプログラムを用意する。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験 100％

教科書

書名：「ハノン」　著者名：ハノン　出版社：全音楽譜出版　1,430 円（税込）
その他の練習曲や楽曲の楽譜は、受講生の進度や必要に応じて指導教員より指定する。

参考書籍（図書館で閲覧可）

書名：「ピアノの名器と名曲」　仲道郁代編　著　ナツメ社
：クラシックのあゆみ１「バッハからベートーヴェンまで」　岩井宏之　著　音楽之友社
：クラシックのあゆみ２「シューベルトからリストまで」　岩井宏之　著　音楽之友社
：　〃　３「ブラームスからショスタコーヴィッチまで」　岩井宏之　著　音楽之友社
：クラシックのあゆみ４「ヴァーグナーからバーンスタインまで」　岩井宏之　著　音楽之友社
：岩波文庫「音楽と音楽家」　シューマン著　吉田秀和 訳　岩波書店
：「ピアノ作曲家　作品辞典」改訂版　中村菊子　大竹紀子 編　ヤマハ出版
：ピアノのための「４期の本」　中村菊子 著　全音楽譜出版社
：「ピアノ・デュオ」作品事典　松永晴紀 著　春秋社
：ピアニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと
トーマス・マーク／ロバータ・ゲイリー／トム・マイルズ　著　小野ひとみ　監訳　春秋社
：「音楽小辞典」　金澤正剛　著　音楽之友社
：「クラシック音楽歳時記」　千蔵八郎　著　春秋社
：「ピアノとピアニスト」　青山いづみこ、石田正男、岡田敦子　他著　立風書房
：「ピアノ・デュオ　作品辞典」　松永晴紀　編著　春秋社
：「ピアノ作曲家作品辞典（改訂版）」　中村菊子　大竹紀子　著　ヤマハ出版
：「ピアノ・ノート」　チャールズ・ローゼン　著　朝倉和子　訳　みずず書房
：「コンサート・プログラムのつくりかた」　千蔵八郎　著　春秋社

：「大ピアニストがあなたに伝えたいこと」　千蔵八郎　著　春秋社
：「ピアノ・レパートリー辞典（増補改訂版）」　高橋淳　編著　春秋社

学習支援・履修上の注意

実技レッスンは、各学生の進度や状況によって課題の取り組みやペース配分が異なる。したがって各担当教員の考えで、２年間を通して前後期 15 回に分けられた学習内容には、入れ替えや変更が生じる。前項表の一週毎の括りに縛られずに、効率の良いカリキュラムで学習すること。
また、試験曲の重複はできない。
学習内容は２年間を通して広く音楽的教養が身につくように構成されているので、各項目に自ら関心を持って取り組むこと。

主な学習支援

①将来の活動を考えて、学内で積極的な演奏の場を設ける。
②希望者にはオーディションやコンクール等にチャレンジする準備を整える。

主な学習支援

①学外の演奏にも目を向けて演奏家の仕事を理解する。
②希望者にオーディションやコンクール等のチャレンジを支援する。

オフィスアワー

実技指導教員に、各自問い合わせの上で予約を取ること。
ピアノ科主任（新井）のオフィス・アワーは水曜日の 13:05～14:35 です。
研究室で相談を受け付けます。
授業内容などの質問メールはいつでも受け付けます。(arai@ujc.ac.jp まで)

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP029	音楽実技 （ピアノ）	１年・２年	２年通年	実技	８	ピアノ指導教員 （主任　新井啓泰）

授業概要

〈１年前期〉

課題曲 ①バロック期の作品
②古典期の作品
③ハノンのスケール３＃３♭調まで

個人実技レッスンに「音楽理論･音楽分析･ピアノ指導法」の授業内容を取り込みながら、課題曲①②の時代に関する知識や演奏技術を学ぶ。同時に演奏法のテーマをⅠ「良い演奏とは？」に置き、演奏会や図書館での鑑賞を含めて、ピアノに向かう基本的態度を研究する。合奏能力を高めるため、アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れる。

〈１年後期〉

課題曲 ①練習曲
②ロマン期の作品
③ハノンのスケール４＃４♭調以降

レッスンに「重唱・鍵盤演習」の授業内容を取り込み、課題曲①に向かう心がけと②の時代に関する知識や演奏技術を学ぶ。「練習曲はどんなふうに？」を演奏法のテーマⅡとして、目標がはっきり見えると、仕込み作業（練習）が楽しくなるプロセスを経験する。合奏能力を高めるため、アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れる。

〈２年前期〉

課題曲　①バロック期の作品（１年次の課題曲と異なる作曲家およびスタイルの曲）
②近代・現代の作品
③ハノンのコード類３種３＃３♭調まで

「合唱・音楽史・ポリフォニー」の授業を取り込みながら、受講生の特性や個性を活かしてレッスンを進める。バロック期の作品で鍵盤楽曲のルーツを再考察し、19 世紀末以降の楽曲では現代の感覚をいかして学ぶ。

今期はⅢ「豊かな表現の為のテクニック」を演奏法のテーマとする。合奏能力を高めるため、アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れる。

〈２年後期〉

課題曲 ①練習曲（１年次課題曲と作曲家が異なる曲）
②自由曲
③ハノンのコード類４＃４♭調以降

「ソルフェージュ・初見伴奏法」の授業を取り込みながら、課題曲①で発表・伝達の手法をまとめ、②では各自の独創的な表現が活かせる選曲をする。演奏法のテーマⅣ「演奏の基本感覚」で音楽の基本要素にかえりながら、学内演奏会でお互いの感性を磨き、卒業試験へは最高の芸術表現を目標とする。

合奏能力を高めるため、アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れる。

到達目標（学習の成果）

〈１年前期〉

バロック期と古典期の時代や作品への知識が深まり、その演奏法に興味が持てるようになる。「良い演奏」と「退屈な演奏」の違いが理解できて、優れた演奏に不可欠な基礎力が身につく。アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力を修得することができる。

〈１年後期〉

確実な技術の修得には時間がかかるが、それが身につくと困難な曲を自分なりの練習手段で克服できるようになる。心身共に健康的な行動規範が求められる練習曲と、豊かな感性と情緒が不可欠なロマン期の作品を並行して学ぶことで、円満な人格も育成される。アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力を修得することができる。

〈２年前期〉

隔たる時代の作品を同時に学び、試験場で続けて演奏することにより、作曲技法や奏法の違いが鮮明になる。課題②の修得で受講生の現代的感性が呼び覚まされて、自主的な練習に繋がる。アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力を修得することができる。

〈２年後期〉
音楽の基本を踏まえ情熱を注いで会得した演奏体験は自主・自立を高め、社会に通じる応用・活用力となる。個人レッスンで各々の特性を見極め伸張してきた２年間の学習で、卒業後の活動に大きな自信が付く。アンサンブル（連弾、または伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力を修得することができる。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方 前期のテーマⅠと学習計画	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 音楽歴と演奏をきいてから、２年間の学習内容を見て長期レッスン計画を立てる。演奏法テーマⅠの考察を始める。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	ピアノの歴史：１	バロック期の鍵盤学期の変遷と、続く古典期のピアノの構造や音楽の変化を辿り、当時の音楽との関連をみていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	ハノンのスケール練習法	演奏上音階を美しく弾けることは必須である。基本の指使い・運指法・カデンツを把握し、レガート奏法を修得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	テーマⅠ「良い演奏とは？」	作品がよく読めて、テクニックが安定している。「良い演奏」にはこの他に何が求められるかを考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	バロック期の音楽研究１	17 世紀初頭から 18 世紀中頃までの時代背景を見ながら、バロック期の代表的な作曲家と主要作品を調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	バロック期の音楽研究２	ポリフォニーの奏法とそれを聴く耳を養い、アーティキュレーションや装飾音、強弱法などを身につける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	古典期の音楽について１	18 世紀中頃から 19 世紀初頭の作品群を鑑賞しながら、入学までの履修曲を顧みて、課題曲を選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	古典期の音楽について２	ソナタ形式が完成するまでの経緯を調べ、ホモフォニー（機能和声に基づいた旋律と伴奏）の美しい演奏法を研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	アンサンブルA「編曲作品」	様々なジャンルの名曲、連弾・二台ピアノ版で取り組む。ピアノの音色や表現の多彩さを味わい、合わせる楽しみを覚える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	スケール課題のレッスン	目標としてレヴェルで、スケールの３♯３♭調までをマスターできたか、確認する。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	課題曲を今期のテーマからみる１	「良い演奏」のポイント①曲に相応しいテンポであるか。②良いリズムで弾けているか。を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	課題曲を今期のテーマからみる２	「良い演奏」のポイント③適切なフレージングが出来ているか。④適切なペダリングか。を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	課題曲を今期のテーマからみる３	「良い演奏」のポイント⑤全体の構想がしっかり持てたか。⑥曲のイメージが描けているか。を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	課題曲を今期のテーマからみる４	「良い演奏」の循環：曲全体のイメージを描く（頭）→音に出す（弾く）→聴いて確かめる（耳）を、再確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	実技試験に臨む	今期勉強したバロックと古典期の知識と、奏法の基本を振り返り、学習内容を前期実技試験にいかす。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	後期のテーマⅡと学習計画	前期の学習と実技試験を振り返り、後期のテーマを考察し、課題曲①②を中心に学習計画を立てる。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	ピアノの歴史２	19 世紀、ピアノは著しい改良と発展を遂げた。その推移を作曲家の要求とメーカーの技術研究の両面から観る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	ハノン全般の活用法	この教本は、一冊弾き通すと大きな意義がある。スケール課題に留まらず、全般を見て各自の活用法を考案する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	テーマⅡ「練習はどんなふうに？」	練習は単調で退屈だと言う人と、料理を作る作業の様で楽しいと思う人の違いは、何処にあるか考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	練習曲の教材研究	一般にツェルニーやショパンのエチュード等が取り上げられるが、将来の教材選びの為にも図書館で様々調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	ロマン期の楽曲について１	音楽会場が貴族のサロンから一般向けのホールへ移っていった時代の変化を、作品と奏法に関連付けてみていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	ロマン期の楽曲について２	19 世紀の新しい音楽の開化と演奏表現を、人々が内に秘めていた感情を表出すようになった時代風潮から導く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	ロマン期の楽曲について３	ロマン期の奏法はピアノの機能向上で打鍵法が一新し、トリルや装飾音の弾き方も根本的に変った。その訳を知る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	アンサンブルＢ「声楽との合わせ」	童謡から名リート集まで声楽曲の伴奏は、フレーズ・呼吸・イントネーション・表情等が自然に学べる。合奏の原点に触れる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

25	スケール課題のレッスン	スケールの４♯４♭調以降が、２声の音楽として又２拍子の美しい演奏として弾けているか、確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	課題曲を今期のテーマからみる１	「練習」の第一歩は楽譜の版選びに始まる。原典版が望ましいが、予備知識を得る為に解釈版併用も考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	課題曲を今期のテーマからみる２	「練習」には楽譜を読む時間も入る。曲の全体を直感的に掴み、指揮者になったつもりで頭に音を鳴らしてみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	課題曲を今期のテーマからみる３	「練習」の実際では、身体の脱力・読みとったイメージの先行・魅力あるフレーズ感・適切な指使い・暗譜法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	課題曲を今期のテーマからみる４	「練習」の原点は作品を敬うこと。それをどう伝えたいか明確なヴィジョンを持ち、自分の音と一致しているかを確かめる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	後期実技試験に臨む	前期実技試験の反省を生かすと共に、これまで修得したものをよく消化・吸収して後期実技試験に臨む。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	前期のテーマⅢと学習計画	１年次の学習を振り返り、卒業までの１ヶ年計画を立てる。課題曲①②と、テーマⅢについての考察を開始する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	ピアノの歴史３	ピアノはロマン期の終わりに、ほぼ現代の機能が整った。その後の特殊な機能を持つピアノの進化を見聞する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	ハノンのコード類練習法	分散和音（アルペッジョ）の課題はコード、ブロークンコード、アルペッジョの３種を一セットとして学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	テーマⅢ「豊かな表現の為のテクニック」	弾きたい曲（音楽）をイメージ通りに弾けるようになる。そのテクニックを身につける長期エクササイズを考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	バロック期研究の発展	ピアノの歴史１を振り返り、同期の（独）（仏）（伊）作曲家に視野を拡げ、対位法や舞踏ほか様々な形式に触れる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	近代の楽曲について	19 世紀末から 20 世紀、リストやワーグナー晩年の無調傾向にドビュッシーが拍車をかけた象徴派の作品を調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	現代の楽曲について	20 世紀初めには 12 音技法へと展開して、現代作品は限りなく自由な表現を求めている。リアルタイムの体験をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	学内演奏会 アンサンブル楽曲の検討	バロック期以前からハウスムジークとして日常的に親しまれて来たアンサンブル。共演者を探すことから始める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

39	アンサンブルＣ「オリジナル作品」	発表会等で演奏機会が多い連弾・二台ピアノの楽曲を取り上げる。作曲家の新境地を知ることで、レパートリーが拡がる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	コード３類課題のレッスン	１種ハーモニーをよく聴き、２種手首のしなやかさ３種運指法と音域の素早い移動に留意して、美しい３拍子で弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	課題曲を今期のテーマからみる １	「表現テクニック」の様々な響き・表情を創る要素を、弾く側（身体）と作曲家側（記譜された楽語記号）から考察する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	課題曲を今期のテーマからみる２	「表現テクニック」のピアノ奏法の大別①指の奏法と②重量奏法（腕からの重み移動）を楽曲の創作年代からみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	課題曲を今期のテーマからみる３	「表現テクニック」で作品の要求（テンポ・発想記号・様々な記載楽語）に応えるタッチの変化や多様な手法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	課題曲を今期のテーマからみる４	「表現テクニック」に第３の手として重要な役割を担い、演奏者の耳・感覚の良さが問われるペダリングに注目する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	前期実技試験に臨む	試験および学内演奏会はコンサートホールで催される。フルコンの手応えやホールの音響を予測し、当日に備える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	後期のテーマⅣと学習計画	前期の学習と実技試験を振り返り、後期のテーマについて考察し、課題曲①②を中心に学習計画を立てる。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	卒業後の学習展望	社会に出ても、継続的学習は大切である。生涯学習に繋がる自主的学習をプランニングする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	学内演奏会 アンサンブル楽曲の仕上げ	パートナーと選択曲の解釈を深め、合わせの妙味と難しさを体感する。ステージマナーも修得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	テーマⅣ「奏法の基本感覚」	基本感覚（ハーモニー感・テンポ感・リズム感そして形式構造等の曲の形を掴まえる感覚他）を磨く方法を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	練習曲１（奏法の歴史）	ピアノ奏法の発展プロセスをクレメンティ・チェルニー・リスト・ショパン・ドビュッシーの流れで考察する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	練習曲２（３つのカテゴリー）	①指の反復練習：ハノンetc. ②シンプルな曲構成：チェルニーetc. ③高度な芸術的作品：ショパン etc. の②③から選ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	自由曲の選曲から演奏まで	学習上で選曲作業は非常に重要である。日頃から広範囲の鑑賞（演奏会・図書館・メディア）を心掛け自発的に行な

		う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	自由曲の選曲から演奏まで２	卒試には、コンサートホールでの演奏チャンスを活かし、自らの特性を発揮できる曲で、用意周到な計画を立てる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	アンサンブルD「器楽曲の伴奏」	異なる楽器との二重奏は、相手の楽器の特性がわかりピアノ協奏曲修得に必要である。卒試では、伴奏の担当も望ましい。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	基礎訓練のまとめ	演奏家の修練はスポーツマンと共通項が多い。競技に臨むアスリート達の精神性と考え抜かれた訓練法から学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	卒業課題のレッスン１	「演奏の基本感覚」ハーモニー感を養う。～ハーモニーは音の衣裳～好みの伴奏を付けたり和音と遊ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	卒業課題のレッスン２	「演奏の基本感覚」テンポ感を磨く。適切なテンポの設定方法。揺れやアゴーギク。メトロノームの功罪にも触れる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	卒業課題のレッスン３	「演奏の基本感覚」リズム感を育てる。生彩を欠いた退屈な演奏の原因を、記譜上のリズムと実演の違いで考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	卒業課題のレッスン４	「演奏の基本感覚」曲全体を把握する。絵画や建築物を見る時の様に形式・構造・流れ（イントネーション）を掴む実習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	卒業実技試験への仕上げ	演奏は本番が総てである。体調管理も能力の一つと捉えて、２年間の集大成として卒試までの高め方を工夫する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・ハノン及びコード類のデイリーエクササイズ・ウォームアップ。
・エチュード類またはバロックの作品
・各学期の試験曲及び学習曲の練習
・課題の背景について、文献や資料のまとめ、録音視聴等

各学期の試験範囲と時代区分は以下のとおり。

〈１年前期〉

課題曲　①②の予習対象となる作曲家について（参考）

①バロック期：フレスコバルディ（伊）・シャンポニエール（仏）・キンデルマン（独）・フロベルガー（独）・リュリ（仏）・パッヘルベル（独）・コレッリ（伊）・パーセル（英）・クーナウ（独）・クープラン（仏)･テレマン（独）・ダンドリュー（仏）・ラモー（仏）・ヘンデル（独→英）・J.Sバッハ（独）・スカルラッティ（伊）・ダカン（仏）・C.P.E. バッハ（独）・W.F. バッハ（独）

②古典期：L. モーツァルト（墺）・キルンベルガー（独）・ソレール（西）・ハイドン（墺）・J.C. バッハ（独）・チマローザ（伊）・テュルク（独）・クレメンティ（伊）・ホフマイスター（墺）・W.A. モーツァルト（墺）・デュセック（チェコ→仏）・ベートーヴェン（独）・トマーシェク（チェコ）・フンメル（墺）・ディアベリ（墺）・クーラウ（独→デンマーク）

ピアノ科前期のレッスンでは、「ピアノの楽器・楽曲・奏法の基本を知ること」を中心に取り組む。実技修得が主になるので、予め学習内容に目を通し図書館やインターネット等で予習してレッスンに臨むこと。新しく身につけた奏法は、レッスン中と同じ集中力を維持した復習により、初めて自分のものになる。

〈１年後期〉
課題曲①は、練習曲のジャンルから任意の１曲とする。予め下記の参考教本を調べてから、選曲に入ることが望ましい。②は、作曲年代はロマン期であるが作品のジャンルは問わない。（作曲家については下に記載がなくても同時代であれば認められる。）

①練習曲の作曲家と書名：チェルニー40 番／50 番／60 番練習曲、クラマー＝ビューロー・60 番練習曲、モシュコフスキー・15 の練習曲／16 の技術練習曲、モシュレス・24 の練習曲、ブラームス・51 の練習曲、リスト・12 の練習曲、スクリアビン・ピアノ曲集エチュード、ショパン・エチュード集、ドビュッシー・ピアノのための 12 の練習曲、他

②ロマン期の作曲家：フィールド（アイルランド）、ヴェーバー（独）、シューベルト（墺）、メンデルスゾーン（独）、ショパン（ポーランド）、シューマン（独）、リスト（ハンガリー）、ワーグナー（独）、アルカン（仏）、レイバッハ（仏）、フランク（ベルギー）、スメタナ（チェコ）、ブラームス（独）、サン＝サーンス（仏）、バラギレフ（露）、ムソルグスキー（露）、チャイコフスキー（露）、シャブリエ（仏）、ドボルジャーク（チェコ）、グリーグ（ノルウェー）、ファリャ（スペイン）、ドホナーニ（ハンガリー）、他

ピアノ専攻後期のレッスンでは、「ピアノ奏法の基本を深く理解できる」「専門科にふさわしい練習態度を身につけ、実行する」ことを中心に学ぶ。

〈２年前期〉
課題曲①の対象作曲家は、１年次前期と同様である。②は、作曲年代は近・現代とするが作品のジャンルは問わない。予習としては両時代全般に目を通し（下記の作曲家を参考）、自主的に複数の選曲を試みた後に担当教員の意見を求めること。（記載のない作曲家でも同時代内であれば認められる.）

近現代の作曲家：
フォーレ（仏）、レーガー（独）、ラフマニノフ（露）、ドビュッシー（仏）、ニールセン（デンマーク）、ティ（仏）、シェーンベルク（墺）、シベリウス（フィンランド）アイヴス（米）、ラヴェル（仏）、メトネル（露）、バルトーク（ハンガリー）、シマノフスキ（ポーランド）、トゥリーナ（スペイン）、ゴーダイ（ハンガリー）、ストラヴィンスキー（露→米）、ヴェーベルン（墺）、カセッラ（伊）、グリフィス（米）、ベルク（墺）、デュカス（仏）、ヴィラ＝ロボス（ブラジル）、イベール（仏）、マルタン（スイス）、マルティヌー（チェコ）、プロコフィエフ（露）、オネゲル（スイス）、ミヨー（仏）、タイユフェール（仏）、モンポウ（スペイン）、ヒンデミット（独）、カウエル（米）、ガーシュウィン（米）、プーランク（仏）、チェレプニン（露系米）、チャベス（メキシコ）、オーリック（仏）、コープランド（米）、ヴォルペ（独系米）、ハチャトゥリアン（露）、ダラピッコラ（伊）、カバレフスキー（露）、ジョリベ（仏）、ショスタコーヴィッチ（露）、カーター（米）、バーバー（米）、ケージ（米）、フランセ（仏）、ブリテン（英）、デロ・ジョイオ（米）、メシアン（仏）、ヒナステラ（アルゼンチン）、デュティーユ（仏）、バビット（米）、ユン・イサン（韓）、バーンスタイン（米）、クセナキス（ギリシャ系仏）、リゲティ（ハンガリー）、ブレーズ（仏）、ベリオ（伊）、フェドルマン（米）、ヘンツェ（独）、シュトックハウゼン（独）、クラム（米）、武満徹（日）、ギロック（米）他。

〈２年後期〉
課題曲①は１年次後期の①と同様であるが、異なる作曲家から選び更にレヴェルアップした練習曲が望まれる。②は、作曲年代および作品ジャンルを問わない自由選択曲となる。

ピアノ科学習総括として、
１．自由曲選択のために、様々な曲種を予見・予習すること。
２．教育実習の経験や音楽教室また子どもの発表会見学等を通じて、実際に演奏する機会の多い曲に目を向けてレパートリーを増やす。これは、卒業後の講師演奏等にも役立つ。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験 100％で評価

教科書
使用テキスト
音階教本　：書名　ハノン　出版社：全音楽譜出版　1,430 円（税込）
エチュード：書名　ツェルニー30 番（0p849）全音楽譜出版　1,100 円（税込）
　　ツェルニー40 番（0p299）全音楽譜出版　1,430 円（税込）
楽　曲　　：その他の練習曲や楽曲の楽譜は、受講生の進度や必要に応じて指導教員より指定する。

参考書籍（図書館で閲覧可）
書名：「ピアノの名器と名曲」　仲道郁代編 著　ナツメ社
：クラシックのあゆみ１「バッハからベートーヴェンまで」　岩井宏之 著　音楽之友社
：クラシックのあゆみ２「シューベルトからリストまで」　岩井宏之 著　音楽之友社
：　〃　３「ブラームスからショスタコーヴィッチまで」　岩井宏之　著　音楽之友社
：クラシックのあゆみ４「ヴァーグナーからバーンスタインまで」　岩井宏之　著　音楽之友社
：岩波文庫「音楽と音楽家」　シューマン著　吉田秀和 訳　岩波書店
：「ピアノ作曲家　作品辞典」改訂版　中村菊子　大竹紀子 編　ヤマハ出版
：ピアノのための「４期の本」　中村菊子 著　全音楽譜出版社
：「ピアノ・デュオ」作品事典　松永晴紀 著　春秋社
：ピアニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと
　トーマス・マーク／ロバータ・ゲイリー／トム・マイルズ　著　小野ひとみ　監訳　春秋社
：「音楽小辞典」　金澤正剛　著　音楽之友社
：「クラシック音楽歳時記」　千蔵八郎　著　春秋社
：「ピアノとピアニスト」　青山いづみこ、石田正男、岡田敦子　他著　立風書房
：「ピアノ・デュオ　作品辞典」　松永晴紀　編著　春秋社
：「ピアノ作曲家作品辞典（改訂版）」　中村菊子　大竹紀子　著　ヤマハ出版
：「ピアノ・ノート」　チャールズ・ローゼン　著　朝倉和子　訳　みずず書房
：「コンサート・プログラムのつくりかた」　千蔵八郎　著　春秋社
：「大ピアニストがあなたに伝えたいこと」　千蔵八郎　著　春秋社
：「ピアノ・レパートリー辞典（増補改訂版）」　高橋淳　編著　春秋社

学習支援・履修上の注意

〈１年前期〉

実技レッスンは、各学年の進度や状況によって課題の取り組みやペース配分が異なる。したがって各担当教員の考えで、２年間を通して前後期 15 回に分けられた学習内容には、入れ替えや変更が生じる。前頁表の一週毎の括りに縛られずに、効率の良いカリキュラムで学習すること。また、試験曲の重複はできない。

〈１年後期〉

学習内容は２年間を通して広く音楽的教養が身につくように構成されているので、各項目に自ら関心を持って取り組むこと。また、試験曲の重複はできない。

〈２年前期〉

２年になると履修範囲が広くなるが、後期は学内演奏会ほか卒業に向けての課題が多くなるので、前期で地道な練習を積むこと。また、試験曲の重複はできない。

〈２年後期〉

２年間の締めくくりを意識して、在学中にやっておくべきことを見極める。また、試験曲の重複はできない。

主な学習支援

〈１年前期〉

①就職時に有用なグレード取得法のための準備。
②社会でピアノを活かすための個別学習計画の作成。

〈１年後期〉

①希望者に演奏グレード取得のチャレンジを支援する。
②音楽教室の講師や教職の仕事を説明して、現在の学習に結ぶ。

〈２年前期〉

①基本的な音楽理論と知識を実技に反映させる方法。
②ピアノで思う存分に自己表現が出来る為の確実なテクニックの修得。

〈２年後期〉

①弾き手と聴き手が共に楽しめる音楽会の準備。
②ピアノ実技の基礎的な指導法を支援する。

オフィスアワー

実技指導教員に、各自問い合わせの上で予約を取ること。
ピアノ科主任（新井）のオフィス・アワーは水曜日の 13:05～14:35 です。
研究室で相談を受け付けます。
授業内容などの質問メールはいつでも受け付けます。(arai@ujc.ac.jp まで)

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP030	音楽実技 ピアノ教養	１年・２年	２年通年	実技	８	新井啓泰

授業概要

〈１年前期〉
ピアノ演奏における基礎的な演奏技術を身につけるためには、地道な練習が必要である。演奏の基本ともいうべき音階練習などを確実に学習し、正しい運指で演奏できる習慣をつける。また、合奏能力を高めるための連弾などのアンサンブルを取り入れる。
実技試験課題曲：自由曲

〈１年後期〉
ピアノ演奏における基本的な技術・読譜力を高める。同時に古典派、ロマン派の楽曲へと幅を広げて学習する。楽曲の時代背景なども学習する。
実技試験課題曲：自由曲

〈２年前期〉
ピアノ演奏における基本的な技術を学習し、ロマン派の楽曲を中心に、近現代も取り入れる。学生が希望する楽曲も加味して、広い教養を身につけて、音楽表現の幅を広げる。また、合奏能力を高めるため、アンサンブル（連弾）を取り入れます。
実技試験課題曲：自由曲

〈２年後期〉
合奏能力を高めるため連弾を学習する。クラシック音楽のみならず幅広いジャンルの音楽に触れ、完成と情緒を磨き、豊かな人間性の成長を育み、アンサンブル（連弾など）学習を通して複数の人と交流することにより社会人としての自覚を持つ。
実技試験課題曲：自由曲

到達目標（学習の成果）

〈１年前期〉
日々の練習を積み重ね、基本的な演奏技術を学習し、正しい演奏フォーム・運指で演奏できるようになる。
アンサンブルを取り入れることにより合奏する能力を修得することができるようになる。

〈１年後期〉
日々の練習の成果の出る良い練習方法を身に付けて、基本的な演奏技術の上で表現力の幅を広げられるようになる。

〈２年前期〉
日々の練習の成果の出る良い練習方法を身に付けて、忍耐力を養い、達成した喜びを感じられるよう地道に努力することを学び、個々の音楽表現を活かした、広い職種に適合できるようになる。
アンサンブルを取り入れることにより、合奏する能力を修得することができるようになる。

〈２年後期〉
演奏することは自己表現の１つであり、地道な努力の結晶である。ひいては、自立した人間として自信を持ち、社会で幅広く活躍できる人間性を身につけることができるようになる。また、アンサンブル（連弾など）を取り入れることにより合奏する能力を修得することができるようになる。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。

	１年次前期修得計画	今までの学習歴を参考に、今後のレッスン計画を個々のレベルに合わせて考える。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	ハノン・音階練習	演奏するための正しい基本を学ぶ。基礎の学習は容易ではなく、地道な練習を必要とする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	音階練習を中心に基本を学ぶ	音階は、演奏において重要な位置を占めているので、正しい運指でなめらかに弾けるよう繰り返し練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	練習曲	練習曲を学習するにあたり、指使いと音を同時に読めるよう読譜の練習をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	バロック期の作品（１）	容易なバロックの曲から始めて、読譜力を高める。バロック期の小曲を沢山学習し、バロック音楽に親しむ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	バロック期の作品（２）	バロック期の特徴であるトリル（装飾音符）を学習する。トリルは多種であり非常に難しいので繰り返し勉強する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	バロック期の作品（３）	タッチに気を付け音色を聴き、ポリフォニーの奏法を聴き分ける耳を持つ。ＤＶＤも参考に鑑賞する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	楽曲の総合的な仕上げ 合奏を取り入れる①	バロック楽曲を理解し、仕上げるに当たり、自分の演奏がイメージしていたものと合致しているか確認する。 担当教員との連弾を行うことによりアンサンブルの楽しさを学習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	課題曲に向けて	担当教員と相談しながら、課題に向けて数曲選び練習を始める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	課題曲　Ⅰ	自分の個性にあった曲を選択し、読譜を始める。最初にミスなく読譜することが重要である。※指使い等特に注意する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	課題曲　Ⅱ	難しいリズム、弾きにくい箇所を重点的に練習する。※部分練習を徹底的にして克服する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	課題曲　Ⅲ	楽曲のイメージをつかみ、自分の演奏がそのイメージと合致しているかを確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	課題曲　Ⅳ	暗譜を完璧にする。※どこからでも弾き出せるくらいにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	課題曲　Ⅴ	イメージ通りの演奏が出来ているか確認する。その上で余裕を持った演奏が出来るように学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

15	課題曲　Ⅵ 合奏を取り入れる②	これまで修得してきた基礎の勉強を継続しつつ、直前までゆっくりの練習も毎日する。連弾などを行うことで合奏能力を修得することができる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	夏期休暇の成果	夏期休暇に自習した、前期の復習成果をレッスンで確認する。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	古典派の作品（１）	練習曲に加え、古典派の楽曲を学び、音楽表現法、前期に学びきれなかったテクニックなどを更に掘り下げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	古典派の作品（２）	ゆっくりしたテンポで読譜を始める。丁寧に正確な読譜の習慣を身につける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	古典派の作品（３）	楽曲に必要な演奏表現など、レッスンだけでなく何人かの演奏をＣＤで楽譜を見ながら聴いて参考にする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	古典派の作品（４）	演奏するために呼吸は重要である。表現するための呼吸を身につける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	ロマン派の作品（１）	自分の想いを豊かに表現できるよう、ロマン派の作品に触れる。丁寧に正確な読譜を心掛ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	ロマン派の作品（２）	古典派の楽曲とは異なる演奏表現を読み取る。古典と同様ＣＤを聴いて参考にする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	ロマン派の作品（３）	仕上げにあたり、心から表現できるよう、間違いを恐れず、心を解放させて演奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	課題曲に向けて（１）	課題の楽曲を担当教員と共に数曲選択し、読譜を始める。 ※各曲の特徴を感じ取る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	課題曲に向けて（２）	グレード取得を考えている場合は、教員とよく相談して慎重に検討する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	課題曲に向けて（３）	選曲は非常に重要であるため、個々に合った曲の選択法を学習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	課題曲に向けて（４）	読譜ができたら、レッスンを待たず、自ら演奏したい音楽を積極的に創る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	課題曲に向けて（５）	ＣＤなどを聴く時は、必ず楽譜を見つつ演奏者がどのように呼吸し、どのように表現しているかを感じ取る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	課題曲に向けて（６）	暗譜が完璧か確認する。また、自分のイメージする音楽が出来ているか自分の演奏を聴いて確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

30	課題曲に向けて（7）	本番の時をイメージしながら練習する。※緊張感、焦り等、非日常的な場面を想定して練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	広いジャンルの楽曲（1）	グレード取得受験を控えている場合は、グレードの時期、課題曲などを教員とよく相談する。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	広いジャンルの楽曲（2）	ロマン派を中心に、近現代からポピュラーまでの様々な楽曲を取り入れ、高度なテクニックと表現力を学習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	広いジャンルの楽曲（3）	演奏における幅広い表現力を学び、多様性を理解できる人間性を育てる。音楽を通して人間的な成長を促す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	学生が希望する曲（1）	学生が弾きたいと希望する楽曲を積極的に検討し合い、挑戦し、難曲に挑む事、そして達成した時の喜びを体感する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	学生が希望する曲（2）	演奏困難なテクニックなど、教員と一緒にレッスン学習し、練習方法などを習得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	学生が希望する曲（3）	学んだ練習方法を自宅で復習し、実践し、その成果をレッスンで確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	学生が希望する曲（4）	満足のいく音楽が創れたか、イメージ通りに豊かに歌えたかを、学生と共に確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	課題曲に向けて 合奏を取り入れる①	課題曲として、各学生の進度やレベルを加味して、教員が数曲選曲。学生自身も自分の得意とするものを認識し見極める。担当教員との連弾を行うことにより、アンサンブルの楽しさを学習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	課題曲に向けて（1）	課題の楽曲を教員と共によく検討し合い選曲し、読譜を始める。ゆっくり丁寧に、正確な読譜（音・リズム・運指等） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	課題曲に向けて（2）	読譜に時間をかけ、弾きにくい困難な箇所は、教員と共に練習し、早い段階で暗譜に結びつける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	課題曲に向けて（3）	難しい運指や難しいリズムの箇所を繰り返し練習することで、よどみない曲の流れを獲得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	課題曲に向けて（4）	適切なテンポを設定して、メロディと伴奏のバランスに気をつけ、また良いハーモニー感を養う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	課題曲に向けて（5）	ＣＤなどを聴く時は、必ず楽譜を見つつ演奏者がどのように呼吸し、どのように表現しているかを感じ取る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

44	課題曲に向けて（6）	暗譜が完璧か確認する。また、自分のイメージする音楽が出来ているか自分を演奏を聴いて確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	課題曲に向けて（7） 合奏を取り入れる②	本番の時をイメージしながら練習する。※緊張、焦り等、様々な場面を想定して練習する。連弾を行うことで、合奏能力を修得することができる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	学内演奏会に向けて	連弾のレッスンは、２人の担当教員が異なる場合は、個々に自分のパートのレッスンを受ける。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	学内演奏会に向けて（1）	パートナーが弾くパートを教員が弾き、構成、それぞれの響き、バランスなどを学習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	学内演奏会に向けて（2）	学生同士は楽曲を２人で入念に合わせ、お互いの担当教員のレッスンを受ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	学内演奏会に向けて（3）	連弾を通して２人で１つの音楽を創りあげる楽しさと難しさを学習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	２台ピアノデュオ（1）	学内演奏会で経験した連弾を発展させて、２台ピアノデュオも続けて学び、アンサンブルの楽しさを学習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	２台ピアノデュオ（2）	ミュージカルナンバーなどを連弾に編曲したものや、ポピュラー系の曲なども取り上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	２台ピアノデュオ（3）	２台用の楽譜は、お互いがソロのようになっているため難しいが、協力し合って創りあげることを学習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	課題曲に向けて（1）	課題曲について、教員と相談し数曲選定して試奏してみる。本人の希望する曲も担当とよく検討する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	課題曲に向けて（2）	学生の技量もあるが、最後の課題でもあるため、できるだけ本人の意欲を尊重して選曲し、読譜を始める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	課題曲に向けて（3）	課題の正確な読譜（音・リズム・運指等）また、同時に楽曲を分析する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	課題曲に向けて（4）	演奏の困難な箇所はじかんをかけて練習する。忍耐と努力の後の喜びが得られるように学習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	課題曲に向けて（5）	楽曲のイメージを膨らませられるように、具体的なイメージをレッスンで検討し合う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	課題曲に向けて（6）	イメージ通りに演奏できているかを常に確認して、タッチを替えたりして出したい音色を模索する。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	課題曲に向けて（7）	暗譜が完璧か確認する。また、常に基本の練習を怠らないこと。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	課題曲に向けて（8）	本番の時をイメージしながら練習する。※緊張感、焦り等、色々な場面を想定して練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・ハノン及びコード類のデイリーエクササイズ・ウォームアップ。
・エチュード類またはバロックの作品
・各学期の試験曲及び学習曲の練習
・課題曲の背景について、文献や資料のまとめ、音源視聴等（1時間×60回）

〈1年前・後期〉
1、レッスンで指示されたことは自宅で必ず繰り返し練習すること。
2、初めから終わりまで通して弾くばかりでは時間の無駄ですので、必ず重点的に練習する箇所を決めて練習すること。
3、自分が演奏する楽曲は、その作曲者や作曲年代、音楽形式等を、日頃から調べておくこと。

〈2年前期〉
1、レッスンでの指示を待つのではなく、自分で積極的に表現する。
2、表現することにより、心を解放し、想像力、完成を磨き、演奏する喜びを知る。
3、グレード取得を目指す場合は、受験日程、課題曲などをよく調べ担当教員と相談して、早めに具体的に計画を立てる。

〈2年後期〉
1、合奏（連弾・2台ピアノ等）は一人が間違うとパートナーに迷惑をかけるため、独奏とは異なる感覚を必要とする。
2、合奏は自分のパートだけを勉強していたのでは良い演奏にならない。他のパートも学び、お互いに意見を出し合い呼吸を合わせて演奏すること。
3、クラシック以外の楽曲も2台ピアノなどで取り上げ、合奏の楽しさ、難しさを学習する。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
（評価項目を入れる）	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

定期実技試験　100％で評価

教科書

音階教本：書名　ハノン　出版社：全音楽譜出版　1,430 円（税込）
エチュード：書名　ツェルニー30 番（0p849）全音楽譜出版　1,100 円（税込）
　　ツェルニー40 番（0p299）全音楽譜出版　1,430 円（税込）
楽　曲：エチュード、楽曲とも受講生のレベルにあったものを教員が指定。

参考書等

バロック作品：バロック名曲集・プレ・インヴェンション、ソナチネアルバム等
エチュード　：書名　ツェルニー30 番（0p849）・ツェルニー40 番（0p299）
楽曲　　：ロシアピアノアルバム１・２、ショパン、シューマン、等
エチュード、楽曲、連弾曲とも受講生のレベルにあったものを教員が指定。
連　弾：書名　ディアベリピアノ連弾 28 の旋律練習曲・ディアベリ６つのソナチネピアノ連弾など

履修上の注意・学習支援

自分で練習方法を工夫することが必要です。工夫をし、メリハリをつけて毎日コツコツと練習すること。
日頃からピアノ演奏に興味を持ち、必要な四期（バロック、古典、ロマン、近現代）の音楽のＣＤを聴いて（図書館を活用するのも一案）なれ親しむことも大切です。レッスンの中で疑問に思ったことは、遠慮なく担当に相談すること。
また、試験曲の重複はできない。

オフィスアワー

実技指導教員に、各自問い合わせの上で予約を取ること。
ピアノ専攻主任（新井）のオフィス・アワーは水曜日の 13:05～14:35 です。
研究室で相談を受け付けます。
授業内容などの質問メールはいつでも受け付けます。(arai@ujc.ac.jp まで)

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP031	音楽実技（ピアノ応用のピアノ）	１年・２年	２年通年	実技	８	新井　啓泰

授業概要

１年前期課題曲　［①自由曲　②ハノンのスケール３＃３♭調まで］
１年後期課題曲　［①自由曲　②ハノンのスケール４＃４♭調以降］
２年前期課題曲　［①自由曲　②ハノンコード類３＃３♭調まで］
２年後期課題曲　［①自由曲　②ハノンコード類４＃４♭調以降］

ピアノ演奏力の向上を中心に学びます。音楽応用力もピアノのレッスンを通して学ぶ事でピアノ演奏力は効果的に向上します。また、ソロ・アンサンブルを取り入れることで、音楽演奏力の幅を広げます。

到達目標（学習の成果）

1. 自然奏法によるピアノ演奏技術を学び、更にレッスンの中で音楽応用力を合わせて学ぶ事で、作品の意図を踏まえ、自身の感性による自由な演奏表現が出来るようになります。
2. 専門性のある音楽能力を持つ事で就職に役立つグレードの取得も目指します。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方 レッスン受講にあたって	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 初めて見る楽譜からでも音楽を読み取り自分の音楽表現が出来る事を目標とする事について。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	演奏の姿勢	椅子とピアノの距離、椅子の高さ、座る深さ、種々の演奏表現に対応出来る様、自分に合った姿勢を知る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	手指と鍵盤の位置	椅子の座り方との関わり、肘の高さ、肘関節の角度、手首の高さと位置、指関節の角度などについて。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	肩	腕を下に落とした状態で、肩は自然体で落ちている、背筋は伸ばすなどで緊張しない、楽な姿勢について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	腕	演奏の姿勢で、上腕と前腕に力が入った状態、また脱力した状態の違いを感じ取る事について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	手	手・指の脱力について、力が入った状態、また脱力した状態の違いを感じ取る事について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	指	１本ずつの指の長さ、大きさ、手のひらの何処に付いているか、特に親指の状態などその働きについて。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	指づかい	楽譜の指番号はなぜ書いてあるのか、指番号を守るとき、さほどでもない場合に、自分で決める事について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	打鍵	ピアノの鍵盤を弾くイメージは、通常「打鍵」で、「押す」は特殊、打鍵は指・手のひら・手首・前腕全体が関り

		ます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	練習方法Ⅰ　考え方	曲のイメージに浸り気味に乗って弾く練習は効果が上がらない事。下準備で譜読みの方法を学ぶ事について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	練習方法Ⅱ　譜読み	曲のイメージを持つ事は大切、譜面を読む、音の高さ・長さ・強さなど、指番号、ゆっくり弾くなど。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	練習方法Ⅲ　慣らし	音楽のイメージに合った音か、隣同士の音とのつり合い、フレーズ、曲の段落、ゆっくりとほぼ暗譜状態で慣らす。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	練習方法Ⅳ　仕上げ前	音楽全体の表現は出来たか、指・手首・腕は一体になり無理はないか、このまま時間をかければ弾ける状態か。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	１年前期まとめ	音楽的に、演奏技術的に半年で完成はしませんが、勉強の手順、自分からの表現などについて考えます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	演奏の仕上げ	１年前実技試験のまとめ。譜面の再確認、表現・テンポ・自分の演奏になったか、次の目標について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	１年後期レッスンにあたり	夏休み中に取り掛かった課題をレッスン。自主練習の成果の内容について話し合う。これからの課題について。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	ハノンⅠ　考え方	ハノン練習の目標について、必要な課題を選び譜面通りにゆっくり弾く、１～５の指の動きについて確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	ハノンⅡ　基本	どの指も音質をよく聴き揃える、左右別の練習、左右で２オクターブ離す、よいタッチ、指・手首のバランスなど。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	ハノンⅢ　慣らし	テンポを速く弾く、指・手首のバランス、腕全体は解放し指のタッチは明確に、更に高速で弾く事について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	ハノンⅣ　応用	黒鍵の混ざるよう移調奏、レガード、スタカート、組み合わせて、フォルテ・ピアノで、リズムを付けてなど。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	スケールⅠ　基本	♯♭なしで基本練習。１音ずつしっかり、ゆっくり、音を揃えて弾く。親指のくぐりが大切。左手下降の指番号確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	スケールⅡ　慣らし	♯♭３つ迄。速く、音を揃えて、腕全体は解放し指のタッチは明確に。スケール、和音は調を理解して弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

23	スケールⅢ　応用	♯♭４つ以上。全部の調でテンポを揃えても弾く。反進行で、フォルテ・ピアノで、レガート、スタートなどで。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	コード類	全調でコード奏・ブロークンコード奏・アルペジォ奏。基本的指づかいの確認。指・手首・前腕のバランス確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	バッハⅠ　２声	インベンションでポリフォニー音楽を表現する。横の流れ、声部とフレーズ表現、曲の構造などについて。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	バッハⅡ　３・４声	シンフォニア、平均律プレリュード・フーガ。３・４声の演奏、声部とフレーズ表現、指づかい、曲の構造など。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	バッハⅢ　組曲	フランス組曲、イギリス組曲など舞曲により構成されている音楽について。曲の特徴、構造などについて。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	指の独立	１本ずつ指が独立してしっかり弾ける事。合わせて１本の指を保持しても他の指が自由に動く練習。多声部で必要。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	まとめ	音楽的に、演奏技術的にこの半年で学んだ事の整理。勉強の手順、自分からの表現などについて考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	仕上げ	１年後期実技試験のまとめ。音符の再確認、表現・テンポ・自分の演奏になったか、次の目標について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	２年前期のレッスンにあたり	春休み中に取り掛かった課題をレッスン。期間の長いもので自主練習の成果の内容についてよく話し合う。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	エチュード　Ⅰ	入学以前のピアノ歴と音楽力などに合わせ、適宜使用テキストを選ぶ。エチュードを学ぶ目的と目標について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	エチュード　Ⅱ	読譜、指の動き、正確さ、表現などの練習方法を学ぶ。ゆっくり、丁寧に、の意味を考える。基本技術を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	エチュード　Ⅲ	指・手首・腕・体の全体を使う技術を学ぶ。テンポは出来るだけ速く弾く。暗譜が望ましい。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	エチュード　Ⅳ	数をこなすより質が大切。機械的に指を動かすのではなく、演奏表現を意識する事。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	ペダル　Ⅰ	ピアノのペダルの構造を調べる。ダンパー・ソフト・ソステヌートの各ペダルの意味について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

37	ペダル　Ⅱ	音の響きに色合い付ける、豊かに広がりを付けるなどの倍音効果を耳で聴き確かめてみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	ペダル　Ⅲ	響きを豊かに・つなげる・音量を上げる、の主な３種類のペダルの効果について、実際の曲例で聴いてみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	ペダル　Ⅳ	指づかいの関連、時代性、部屋の残響、ハーフ・ソフトペダルなど。使用法は自分で考えられる事を目標にする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	初見演奏　Ⅰ	なぜ初見力が必要なのか初見力の向上について考える。毎日新しい譜面を読んで弾く練習が効果的。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	初見演奏　Ⅱ	新しい譜面を見て音楽が分かるか。初見演奏で聴き手に音楽が伝えられるか。初見力は音楽力。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	伴奏付け　Ⅰ	メロディーに合ったコードを考え、伴奏を付けて演奏する。練習しているピアノ曲のコード進行を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	伴奏付け　Ⅱ	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴを付ける。Ⅱ・Ⅵも使えるように。借用和音なども使う。転調を感じる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	まとめ	音楽的に、技術的にどうか考える。今後の勉強について、自分からの音楽表現になったか。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	仕上げ	２年前期実技試験のまとめ。楽譜の再確認、表現、テンポ、自分の演奏になったか。次の目標について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	２年後期のレッスンにあたり	２年の夏休みに取り掛かった課題のレッスン。 学内演奏・就職試験など計画を話し合う。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	作曲者について	バロック・古典・ロマン・近現代などそれぞれの時代の音楽表現にふさわしい演奏を知る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	楽曲　Ⅰ	楽曲のⅠ～Ⅳは時代分類ではなく曲の形式などの区別。ソナタ形式または簡易なソナタ全楽章。ソナタの構造。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	楽曲　Ⅱ	ソナタ全楽章。各楽章の構成を調べ、全体を把握。ロマンの３部形式を選び分析もする。自分の表現を考えてみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	楽曲　Ⅲ	演奏表現と技術を考慮し、比較的規模の大きい楽曲を選ぶ。曲の構造なども調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

51	楽曲　Ⅳ	他のロマン、近代も含め自由に選曲し自分の解釈を入れて表現する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	弾きうたい　Ⅰ	メロディーのコードネーム付き１段譜から両手で伴奏を作り弾きうたいをする。うたがメインになる事。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	弾きうたい　Ⅱ	即成曲の弾きうたいをする。歌詞を明瞭に、伴奏と歌のバランスを考えて。時間をかけて練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	即興演奏　Ⅰ	応用音楽力と就職を意識して、即興的にテーマと２つの変奏曲を弾く。メロディーの１段譜からテーマの演奏。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	即興演奏　Ⅱ	テーマを基に性格の違う２種類の変奏曲を作る。作業ではなく、演奏として評価される内容にする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	即興演奏　Ⅲ	２小節のモチーフを基に音楽を発展させる。まず１部形式の形になれる。ピアノ曲として音域など広くする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	即興演奏　Ⅳ	モチーフを意識してふさわしい中間部を作り２部形式とする。借用和音、転調など曲に広がりをつける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	数値化	音楽表現を数値化し、自分の演奏や人の演奏を客観的にとらえる事も学び、演奏力向上につなげる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	まとめ	音楽的に、演奏技術的にこの２年間で学んだ事、またこれから学ぶ方向性などについて話し合う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	総仕上げ	試験に向けた仕上げ。２年間の集大成で自分の音楽の自由な発表の場と考えのびのびと演奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・ハノン及びコード類のデイリーエクササイズ・ウォームアップ。
・エチュード類またはバロックの作品
・各学期の試験曲及び学習曲の練習
・課題曲の背景について、文献や資料のまとめ、音源視聴等

楽曲や即興演奏のレッスン内容での指導や注意点は、それぞれ次回のレッスン時までに練習を重ね自己の成長につなげましょう。

２年生は学内演奏会等人前で演奏する機会が多いので、充分に準備を重ねて臨みましょう。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験　100%で評価

教科書
使用テキスト
音階教本：書名　ハノン　出版社：全音楽譜出版　1,430 円（税込）
エチュード：書名　ツェルニー30 番（0p849）全音楽譜出版　1,100 円（税込）
　　ツェルニー40 番（0p299）全音楽譜出版　1,430 円（税込）
楽　曲：エチュード、楽曲とも受講生のレベルにあったものを教員が指定。

参考テキスト　書名：ピアノ演奏グレード問題集　ヤマハ
　　指導グレード試験問題集　ヤマハ
　　ピアノ初見練習問題集　ヤマハ

履修上の注意・学習支援
　短大の２年間の勉強を３年間分にする意識を持って欲しいのですが、与えられた事を学ぶだけでは効果はありません。それを望むなら、自分から行動を取り、何を目標に学ぶかを考える事です。
　電子オルガンの勉強はクラシック・ポピュラー・コード進行法・創作編曲講座・応用音楽力と内容が豊かで、幅広い音楽性を育てます。ピアノ・電子オルガンの両方が専門の気持ちで努力してください。
　友達との勉強は色々な考え方を知る事が出来ます。

オフィス・アワー
実技指導教員に、各自問い合わせの上で予約を取ること。
ピアノ科主任（新井）のオフィス・アワーは水曜日の 13:05～14:35 です。
研究室で質問や相談を受け付けます。
質問メールはいつでも受け付けます。(arai@ujc.ac.jp まで)

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP032	音楽実技 （ピアノ応用の電子オルガン）	１年・２年	２年通年	実技レッスン	８	中島　望

授業概要

試験課題［①課題曲１曲　②自由曲３曲　③即興課題　④初見課題］※但しグレードを取得した学生は［①自由曲　②自編曲あるいは自作曲］等別課題とする。また、ピアノ応用専攻の電子オルガン２年後期試験課題は自作曲(ソロまたはアンサンブル)又は自編曲の演奏と楽譜提出を行う。

・電子オルガン専攻では、基本の音楽力を幅広く備えた専門家として、プレイヤー、指導者等、創造性豊かな人材が育つことを目的にしています。

・演奏法、初見演奏、創作編曲、即興演奏、アンサンブルなど多くの専門的内容を総合的に学びます。

到達目標（学習の成果）

勉強の基本姿勢として教員から与えられるのではなく学生自ら求め学ぶことが身に付きます。楽曲レッスン１～３、即興演奏１～３においては毎回のレッスンで繰り返し実施する事により、自身の専門性が高まります。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 基礎音楽力について	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 今までの音楽歴や学生一人ひとりの様子を見ながらレッスンしていく。基礎音楽力について常日頃の向上を望む。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
２回	楽曲レッスン１	楽曲の譜読みが自宅等の練習で性格に出来ているか。譜読みに注意し内容が丁寧に出来るよう指示を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
３回	楽曲レッスン２	それぞれの楽曲のジャンルを意識し、また作曲者の意図を読み取り演奏に表情をつけていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
４回	楽曲レッスン３	安定したタッチを身に付け曲作りの技術を身に付ける。リズム感や自己の表現を大切にした演奏を心がける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
５回	楽曲の仕上げ	自己の技術・表現を十分に発揮し、楽曲の仕上げとする。次回の課題を教官と話し合いステップアップにつなげる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
６回	コードネームの知識	左鍵盤とペダルによる伴奏について、基本形をベースとした転回形の配置を理解し、繰り返し弾く練習を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
７回	即興演奏１	それぞれの演奏グレードに準ずるレベルでレッスンを行う。コード付き１段譜を正確に読むことを基礎力とする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
８回	即興演奏２	メロディーフェイク、重音奏が流れよく行えているかを確認し、より良い即

		興演奏になるよう工夫し追求していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9回	即興演奏３	２小節程度の与えられたモチーフからの即興力を養う。枠組みを計画しフレーズや、音の使い方、伴奏形を作成する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10回	初見演奏	常日頃から新曲を読譜することが大切であることの認識。初見力のチェックと向上に向けてのアドバイスをする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11回	楽器操作や音色について	より専門的な電子オルガンの操作法や、音色の選び方、奏法等を学んでいく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12回	課題曲等のレッスン１	それぞれの課題についてこれからの練習箇所や問題点等を確認し、練習の際に役立てていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13回	課題曲等のレッスン２	技術的に向上すべき箇所を繰り返し行い、曲の仕上がりの正確さを追求していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14回	課題曲等のレッスン３	技術的に向上すべき箇所を繰り返し行い、曲の仕上がりの正確さを追求していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15回	課題曲の仕上げ	実技試験に向けての総まとめを行い、楽曲演奏等それぞれの過大内容を確認していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16回	楽曲レッスン１	楽曲の譜読みが自宅の練習で正確に出来ているか。譜読みのテンポに注意し内容が丁寧に出来るよう指示を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17回	楽曲レッスン２	それぞれの楽曲のジャンルを意識し、また作曲者の意図を読み取り演奏に表情をつけていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18回	楽曲レッスン３	安定したタッチを身に付け曲作りの技術を身に付ける。リズム感や自己の表現を大切にした演奏。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19回	楽曲仕上げ	自己の技術・表現を十分に発揮し楽曲の仕上げとする。次回の課題を教官と話し合いステップアップにつなげる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20回	即興演奏１	それぞれの演奏グレードに準ずるレベルでレッスンを行う。コード付き１段譜を正確に読むことを基礎力とする。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21 回	即興演奏２	メロディーフェイク、重音奏が流れよく行えているかを確認し、より良い即興演奏になるよう工夫し追求していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22 回	即興演奏３	２小節程度の与えられたモチーフからの即興力を養う。枠組みを計画しフレーズや、音の使い方、伴奏形を作成する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23 回	初見演奏	常日頃から新曲を読譜することが大切であることの認識。以前の初見力と比べ向上に向けてのアドバイスをする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24 回	自編曲レッスン１	クラシックの中から曲決めを行い、編曲を行う。原曲に忠実なアレンジとする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25 回	自編曲レッスン２	各楽器について右鍵盤、左鍵盤、ペダルのより良く演奏できるような配置を研究していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26 回	自編曲レッスン３	原曲に忠実になるよう、効果的な音色作り、和音の響き、演奏表現やテンポ等注意し各自仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27 回	課題曲等のレッスン１	それぞれ実技課題についてこれからの練習箇所や問題点等を確認し、練習の際に役立てていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28 回	課題曲等のレッスン２	技術的に向上すべき箇所を繰り返し行い、曲の仕上がりの正確さを追求していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29 回	課題曲等のレッスン３	電子オルガンを使いこなすと共に技術、表現面の成長を図りながら課題に向けて着実に練習を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30 回	課題曲の仕上げ	実技試験に向けての総まとめを行い、楽曲演奏等それぞれの課題内容を確認していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31 回	応用的な音楽力について	１年次に行ってきた知識を生かし、電子オルガンのより専門的な分野へ深く追求していく。自作曲等へ取り組む意欲を持つ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32 回	楽曲レッスン１	楽曲の譜読みの力を素早く行えるように練習時間等密度を上げ、効率よく行えるよう考えていく。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33 回	楽曲レッスン２	以前演奏を行ったジャンルとは違う物へ積極的に挑戦し、各自レパートリーの増加を図る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34 回	楽曲レッスン３	より安定したタッチや手首、腕、体の使い方をマスターしていく。表現力では、日々多くの音楽を聴き成長の肥やしとする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35 回	楽曲の仕上げ	１年次と比較し、より正確で音楽的な楽曲に仕上がるよう目指す。次からの課題を教官と話合いステップアップにつなげる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36 回	即興演奏１	即興演奏の更なるグレードアップを目指しながら学んでいく。メロディーに合うコード付けやベースラインを的確に付ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37 回	即興演奏２	より良いフェイク、重音奏に加え、メロディーの掛け合いやフィルイン等、各自行える即興ジャンルを増やしていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38 回	即興演奏３	モチーフ即興について、より音楽的に演奏ができるように、コード進行や行える即興テクニックの増加を図る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39 回	初見演奏	１年次よりも高度な譜面を初見で読めるよう目指す。日頃の初見力についての様子を把握しこれからの課題を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40 回	自作曲１	自分のイメージする曲を素直に音に表現していく。音楽ジャンルは問わず、創作を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41 回	自作曲２	音色使いをより深く構築していく。自分で求める音を追求し、エフェクトの操作等の研究を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42 回	自作曲３	自作曲のダイナミクスや、アーティキュレーション等どう表現するかを見直しながら、仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43 回	試験曲等のレッスン１	それぞれ試験課題についてこれからの練習箇所や問題点等を確認し、練習の際に役立てていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44 回	試験曲等のレッスン２	いつでもより良い演奏ができるよう、ポイントを絞り確実な練習を心がけながら仕上げていく。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45 回	試験曲の仕上げ	実技試験に向けての総まとめを行い、楽曲演奏等それぞれの試験内容を確認していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46 回	楽曲演奏１	楽曲の譜読みの力を素早く行えるように練習時間等密度を上げ、効率よく行えるよう考えていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47 回	楽曲演奏２	過去演奏を行ったジャンルとは違う物へ積極的に挑戦し、各自レパートリーの増加を以前図る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48 回	楽曲演奏３	より安定したタッチや手首、腕、体の使い方をマスターしていく。表現力では、日々多くの音楽を聴き成長の肥やしとする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49 回	楽曲の仕上げ	１年次と比較し、より正確で音楽的な楽曲に仕上がるよう目指す。次からの課題を教官と話合いステップアップにつなげる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50 回	楽器の特性	様々な音色がある中からその楽器らしい音を作成し、同時に奏法でもより楽器に近づけるよう考えていく。音域等に注意。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51 回	効果的なコード進行	即興演奏においてパターン化のコードとは別にポピュラーでも活用できるようなコード進行スタイルを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52 回	即興演奏１	即興演奏の更なるグレードアップを目指しながら学んでいく。メロディーに合うコード付けや、ベースラインを的確に付ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53 回	即興演奏２	以前演奏を行ったジャンルとは違う物へ積極的に挑戦し、各自レパートリーの増加を図る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54 回	即興演奏３	モチーフ即興について、より音楽的に演奏ができるように、コード進行や行える即興テクニックの増加を図る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55 回	試験準備１	試験レパートリーを用意する。自作品の創作や演奏形態については担当教員と詳細に打ち合わせをしながら行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56 回	試験準備２	一曲一曲を綿密に練習していく。過去行った曲に関しては以前よりも更なる努力を行い仕上げていく。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57 回	試験準備３	自作曲の譜面を書き上げ、教官のチェックをもらいしっかりとした譜面を提出できるよう完成させる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58 回	試験準備４	自分のプログラム曲を暗譜し、曲のダイナミクス、アーティキュレーションをしっかり表現できるように練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59 回	試験の準備５	曲の仕上がりと共に、初心に戻りテンポを落としながら正確に弾けているか、暗譜できているかをチェックする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60 回	試験仕上げ	リハーサルを行い、試験までの調整を行う。 短大２年間の総まとめ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

楽曲や即興演奏のレッスン内容での指導や注意点は、それぞれ次回のレッスン時までに練習を重ね自己の成長につなげましょう。

２年生は学内コンサート等人前で演奏する機会が多いので、充分に準備を重ねて臨みましょう。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期実技試験（100%）

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

書名：「新即興演奏課題集　vol.9」　　著者名：松田昌　出版社：ヤマハMM

書名：「松田昌の音楽トレーニングＣＤ付き」　著者名：松田昌　出版社：ヤマハMM科書

学習支援・履修上の注意

既成曲、アレンジ、自作曲、即興演奏等幅広い音楽に自らの準備や上昇志向を持って毎回のレッスンに臨みましょう。

オフィスアワー

レッスンの中でいつでも質問を受けます。他の時間帯でも声をかけてください。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP033	音楽実技 (電子オルガン)	１年・２年	２年通年	実技レッスン	８	中島　望

授業概要

半期ごとに実技試験を行う。　試験課題［①課題曲１曲　②自由曲３曲　③即興課題　④初見課題］

※但しグレードを取得した学生は［①自由曲　②自編曲あるいは自作曲］等別課題とする。

・電子オルガン専攻では、基本の音楽力を幅広く備えた専門家として、プレイヤー、指導者等、創造性豊かな人材が育つことを目的にしています。

・演奏法、初見演奏、創作編曲、即興演奏、アンサンブルなど多くの専門的内容を総合的に学びます。

到達目標（学習の成果）

勉強の基本姿勢として教員から与えられるのではなく学生自ら求め学ぶことが身に付きます。楽曲レッスン１～３、即興演奏１～３においては毎回のレッスンで繰り返し実施する事により、自身の専門性が高まります。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 基礎音楽力について	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 今までの音楽歴や学生一人ひとりの様子を見ながらレッスンしていく。基礎音楽力について常日頃の向上を望む。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
２回	楽曲レッスン１	楽曲の譜読みが自宅等の練習で性格に出来ているか。譜読みに注意し内容が丁寧に出来るよう指示を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
３回	楽曲レッスン２	それぞれの楽曲のジャンルを意識し、また作曲者の意図を読み取り演奏に表情をつけていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
４回	楽曲レッスン３	安定したタッチを身に付け曲作りの技術を身に付ける。リズム感や自己の表現を大切にした演奏を心がける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
５回	楽曲の仕上げ	自己の技術・表現を十分に発揮し、楽曲の仕上げとする。次回の課題を教官と話し合いステップアップにつなげる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
６回	コードネームの知識	左鍵盤とペダルによる伴奏について、基本形をベースとした転回形の配置を理解し、繰り返し弾く練習を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
７回	即興演奏１	それぞれの演奏グレードに準ずるレベルでレッスンを行う。コード付き１段譜を正確に読むことを基礎力とする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
８回	即興演奏２	メロディーフェイク、重音奏が流れよく行えているかを確認し、より良い即興演奏になるよう工夫し追求していく。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
9回	即興演奏３	２小節程度の与えられたモチーフからの即興力を養う。枠組みを計画しフレーズや、音の使い方、伴奏形を作成する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10回	初見演奏	常日頃から新曲を読譜することが大切であることの認識。初見力のチェックと向上に向けてのアドバイスをする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11回	楽器操作や音色について	より専門的な電子オルガンの操作法や、音色の選び方、奏法等を学んでいく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12回	課題曲等のレッスン１	それぞれの課題についてこれからの練習箇所や問題点等を確認し、練習の際に役立てていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13回	課題曲等のレッスン２	技術的に向上すべき箇所を繰り返し行い、曲の仕上がりの正確さを追求していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14回	課題曲等のレッスン３	技術的に向上すべき箇所を繰り返し行い、曲の仕上がりの正確さを追求していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15回	課題曲の仕上げ	実技試験に向けての総まとめを行い、楽曲演奏等それぞれの過大内容を確認していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16回	楽曲レッスン１	楽曲の譜読みが自宅の練習で正確に出来ているか。譜読みのテンポに注意し内容が丁寧に出来るよう指示を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17回	楽曲レッスン２	それぞれの楽曲のジャンルを意識し、また作曲者の意図を読み取り演奏に表情をつけていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18回	楽曲レッスン３	安定したタッチを身に付け曲作りの技術を身に付ける。リズム感や自己の表現を大切にした演奏。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19回	楽曲仕上げ	自己の技術・表現を十分に発揮し楽曲の仕上げとする。次回の課題を教官と話し合いステップアップにつなげる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20回	即興演奏１	それぞれの演奏グレードに準ずるレベルでレッスンを行う。コード付き１段譜を正確に読むことを基礎力とする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

21 回	即興演奏２	メロディーフェイク、重音奏が流れよく行えているかを確認し、より良い即興演奏になるよう工夫し追求していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22 回	即興演奏３	２小節程度の与えられたモチーフからの即興力を養う。枠組みを計画しフレーズや、音の使い方、伴奏形を作成する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23 回	初見演奏	常日頃から新曲を読譜することが大切であることの認識。以前の初見力と比べ向上に向けてのアドバイスをする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24 回	自編曲レッスン１	クラシックの中から曲決めを行い、編曲を行う。原曲に忠実なアレンジとする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25 回	自編曲レッスン２	各楽器について右鍵盤、左鍵盤、ペダルのより良く演奏できるような配置を研究していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26 回	自編曲レッスン３	原曲に忠実になるよう、効果的な音色作り、和音の響き、演奏表現やテンポ等注意し各自仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27 回	課題曲等のレッスン１	それぞれ実技課題についてこれからの練習箇所や問題点等を確認し、練習の際に役立てていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28 回	課題曲等のレッスン２	技術的に向上すべき箇所を繰り返し行い、曲の仕上がりの正確さを追求していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29 回	課題曲等のレッスン３	電子オルガンを使いこなすと共に技術、表現面の成長を図りながら課題に向けて着実に練習を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30 回	課題曲の仕上げ	実技試験に向けての総まとめを行い、楽曲演奏等それぞれの課題内容を確認していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31 回	応用的な音楽力について	１年次に行ってきた知識を生かし、電子オルガンのより専門的な分野へ深く追求していく。自作曲等へ取り組む意欲を持つ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32 回	楽曲レッスン１	楽曲の譜読みの力を素早く行えるように練習時間等密度を上げ、効率よく行えるよう考えていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

33 回	楽曲レッスン２	以前演奏を行ったジャンルとは違う物へ積極的に挑戦し、各自レパートリーの増加を図る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34 回	楽曲レッスン３	より安定したタッチや手首、腕、体の使い方をマスターしていく。表現力では、日々多くの音楽を聴き成長の肥やしとする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35 回	楽曲の仕上げ	１年次と比較し、より正確で音楽的な楽曲に仕上がるよう目指す。次からの課題を教官と話合いステップアップにつなげる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36 回	即興演奏１	即興演奏の更なるグレードアップを目指しながら学んでいく。メロディーに合うコード付けやベースラインを的確に付ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37 回	即興演奏２	より良いフェイク、重音奏に加え、メロディーの掛け合いやフィルイン等、各自行える即興ジャンルを増やしていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38 回	即興演奏３	モチーフ即興について、より音楽的に演奏ができるように、コード進行や行える即興テクニックの増加を図る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39 回	初見演奏	１年次よりも高度な譜面を初見で読めるよう目指す。日頃の初見力についての様子を把握しこれからの課題を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40 回	自作曲１	自分のイメージする曲を素直に音に表現していく。音楽ジャンルは問わず、創作を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41 回	自作曲２	音色使いをより深く構築していく。自分で求める音を追求し、エフェクトの操作等の研究を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42 回	自作曲３	自作曲のダイナミクスや、アーティキュレーション等どう表現するかを見直しながら、仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43 回	試験曲等のレッスン１	それぞれ試験課題についてこれからの練習箇所や問題点等を確認し、練習の際に役立てていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44 回	試験曲等のレッスン２	いつでもより良い演奏ができるよう、ポイントを絞り確実な練習を心がけながら仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

45 回	試験曲の仕上げ	実技試験に向けての総まとめを行い、楽曲演奏等それぞれの試験内容を確認していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46 回	楽曲演奏１	楽曲の譜読みの力を素早く行えるように練習時間等密度を上げ、効率よく行えるよう考えていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47 回	楽曲演奏２	過去演奏を行ったジャンルとは違う物へ積極的に挑戦し、各自レパートリーの増加を以前図る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48 回	楽曲演奏３	より安定したタッチや手首、腕、体の使い方をマスターしていく。表現力では、日々多くの音楽を聴き成長の肥やしとする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49 回	楽曲の仕上げ	１年次と比較し、より正確で音楽的な楽曲に仕上がるよう目指す。次からの課題を教官と話合いステップアップにつなげる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50 回	楽器の特性	様々な音色がある中からその楽器らしい音を作成し、同時に奏法でもより楽器に近づけるよう考えていく。音域等に注意。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51 回	効果的なコード進行	即興演奏においてパターン化のコードとは別にポピュラーでも活用できるようなコード進行スタイルを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52 回	即興演奏１	即興演奏の更なるグレードアップを目指しながら学んでいく。メロディーに合うコード付けや、ベースラインを的確に付ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53 回	即興演奏２	以前演奏を行ったジャンルとは違う物へ積極的に挑戦し、各自レパートリーの増加を図る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54 回	即興演奏３	モチーフ即興について、より音楽的に演奏ができるように、コード進行や行える即興テクニックの増加を図る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55 回	試験準備１	試験レパートリーを用意する。自作品の創作や演奏形態については担当教員と詳細に打ち合わせをしながら行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56 回	試験準備２	一曲一曲を綿密に練習していく。過去行った曲に関しては以前よりも更なる努力を行い仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

57 回	試験準備３	自作曲の譜面を書き上げ、教官のチェックをもらいしっかりとした譜面を提出できるよう完成させる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58 回	試験準備４	自分のプログラム曲を暗譜し、曲のダイナミクス、アーティキュレーションをしっかり表現できるように練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59 回	試験の準備５	曲の仕上がりと共に、初心に戻りテンポを落としながら正確に弾けているか、暗譜できているかをチェックする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60 回	試験仕上げ	リハーサルを行い、試験までの調整を行う。 短大２年間の総まとめ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

楽曲や即興演奏のレッスン内容での指導や注意点は、それぞれ次回のレッスン時までに練習を重ね自己の成長につなげましょう。

２年生は学内コンサート等人前で演奏する機会が多いので、充分に準備を重ねて臨みましょう。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期実技試験（100%）

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

書名：「新即興演奏課題集　vol.9」　　著者名：松田昌　出版社：ヤマハMM

書名：「松田昌の音楽トレーニングＣＤ付き」　著者名：松田昌　出版社：ヤマハMM科書

学習支援・履修上の注意

既成曲、アレンジ、自作曲、即興演奏等幅広い音楽に自らの準備や上昇志向を持って毎回のレッスンに臨みましょう。

オフィスアワー

レッスンの中でいつでも質問を受けます。他の時間帯でも声をかけてください。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP034	音楽実技 （音楽療法士のピアノ）	１年・２年	２年通年	実技	８	新井　啓泰

授業概要

1年前期課題曲[自由曲]

音楽療法で活用する音楽は、相手の治療目標である「発達の促進やコミュニケーションの形成」「社会性の育成」「心や体の健康維持」「ＱＯＬの向上」を達成するために、適切に選択され、活用される。相手のニーズを的確に理解し、瞬間瞬間のクライアントの表現を支え、引き出し、寄り添い、導くことが求められる。広い教養を身につけ、自立・自律した生活者としての行動規範を身につける。

1年後期課題曲[自由曲＊1年前期次の課題曲と異なる作曲家]

相手のニーズに合わせて音楽を提供するため、基本的なテクニックや読譜力、移調する力を身につけることや、相手が表現しているテンポやリズム、情緒を感じ取って、同質の音楽を返していくテクニックを学ぶ。個々の特性を活かした芸術表現と、音楽に関わる広い職種に適う知識・技術や態度を学ぶ。

2年前期課題曲[自由曲＊1年次の課題曲と異なる作曲家]

音楽療法での高齢者の方を対象としたセッションに活用する歌を中心に、取り入れる。大正、昭和初期、中期、後期の馴染みの曲を中心に、選択し、前奏、間奏、後奏やメロディーラインを明確に取り入れて、歌いやすい伴奏法を学習する。幅広い教養を身に付け、自立、自律した生活者としての行動規範を身につける。

2年後期課題曲[自由曲＊1年次および2年前期次と異なる作曲家]

音楽療法実習等があり、歌や楽器演奏の伴奏、手や身体運動、鑑賞曲に使用する教材のテクニックの向上や表現の拡大を目指し、学習する。施設のスタッフ等、関連領域の方々との交流を通して、音楽の共有感や達成感を得るなど、個々の音楽表現を活かした広い職種に適う知識・技術や態度を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

本レッスンの到達目標はそれぞれ以下の４点である。

1年前期
1）ピアノを弾きながら対象者の動きに合わせ、やりとりをする技術を身につける。
2）Ｃ、Ｇ、Ｆ、Ｂ調でスケールとカデンツ、簡単な童謡を弾くことができる。
3）高齢者の歌（実習やボランティアで実施）の伴奏を弾くことができる。
4）各学生の演奏技術に合わせた演奏曲が弾けるようになる。

1年後期
1）対象者の情緒に合わせたピアノを弾く技能を身につける。
2）各学生の演奏技術に合わせたスケールとカデンツを弾くことができる。
3）子供の歌（実習やボランティアで実施）の伴奏やポピュラーな名曲を弾くことができる。
4）各学生の演奏技術に合わせた演奏曲が弾けるようになる。

2年前期
1）高齢者の方が好む馴染みの歌の伴奏をピアノで弾く技能を身につける。
2）歌唱やポピュラーな日本歌曲の伴奏を弾く技能を身につける。
3）ジャズやラテン、シャンソン、日本民謡の中から選択し、弾く技能を身につける。
4）各学生の演奏技術に合わせた演奏曲が弾けるようになる。

2年後期
1）実習等で用いる音楽教材を弾くことができる。
2）対象者や施設、学校の要望に答えて、即応的に演奏ができる。
3）学内演奏会に向けて、個人の表現や演奏にあった演奏ができる。
4）卒業演奏に向けて、各学生が協力してアンサンブルや連弾ができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	レッスン計画立案 対象者のテンポに合わせる。	いままでの学習歴から今後のレッスン計画を立てる。 教師が示すテンポで曲を引き分ける。 予習：レッスンを受ける曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	対象者の呼吸に合わせる。 ハノン・スケール	歌や手拍子に合わせて弾くなど、相手に合わせる技術を学ぶ。 演奏するための姿勢や手の動きを学ぶ。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	対象者の手や体の動きに合わせる。 ハノン・スケール	Ｃ調、Ｇ調で、スケールとカデンツ、簡単な童謡を弾く。指使いやレガートで弾けるようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	対象者の高揚する気持ちを表現する。 ハノン・スケール	高まる気持ちを長調で、悲しい気持ちは短調で弾く。 Ｃ調Ｆ調で、スケールとカデンツ、簡単な童謡を弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	鎮静する気持ちをピアノで表現する。 ハノン・スケール	高まる気持ちを長調で、悲しい気持ちは短調で弾く。 Ｃ調とＤ調で、スケールとカデンツ、簡単な童謡を弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	アニメソング①　ハノン・スケール ピアノ曲①	Ｄ調とＧ調でスケールとカデンツ、「ドラえもん」「アンパンマン」を弾く。各個人の演奏技術にあったピアノ曲を弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	アニメソング②　ハノン・スケール ピアノ曲②	Ｆ調、Ｂ調でスケールとガデンツ、簡単な童謡を弾く。「トトロ」「勇気100%」を弾く。演奏技術にあったピアノ曲を弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	移調と器楽曲①　ハノン・スケール ピアノ曲③	Ｃ調とＡ調でスケール、カデンツ、簡単な童話を弾く。「カバサを鳴らそう」演奏技術にあったピアノ曲を弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	移調と器楽曲②　ハノン・スケール ピアノ曲④	Ｃ調とＥＳ調で、スケールとカデンツ、簡単な童謡を弾く。「くるみ割り人形」担当教員と課題曲を選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	移調とダンス曲 前期課題曲①	Ｃ調とＥ調でスケールとカデンツ、簡単な童謡を弾く。「レッツキッス」「マイムマイム」課題曲を読譜する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	移調とダンス曲 前期課題曲②	Ｃ調とＡＳ調で、スケールとカデンツ、簡単な童謡を弾く。「スケーターズワルツ」課題曲の指使いに注意して弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	移調と歌謡曲 前期課題曲③	ＣＧＦＤＢ調で簡単な童謡を弾く。馴染みの歌謡曲を弾く。課題曲の弾きにくい箇所を重点的に練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	移調と歌謡曲 前期課題曲④	ＣＧＦＤＢ調で簡単な童謡を弾く。馴染みの歌謡曲を弾く。課題曲のイメージを掴み、音色に注意して弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	移調と演歌曲 前期課題曲⑤	ＣＧＦＤＢ調で簡単な童謡を弾く。馴染みの演歌「川の流れのように」を弾く。課題曲が弾けるように暗譜する。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	移調と演歌曲 前期課題曲⑥	ＣＧＦＤＢ調で簡単な童謡を弾く。馴染みの演歌「北国の春」を弾く。課題曲の弾いている音を丁寧に聴きながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	行進曲　ハノン・スケール 春の子どもの歌	教師が示すテンポで曲を引き分ける。教員が支持する調でスケール・カデンツや春の子どもの歌（２つの調）を弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	手遊び歌　ハノン・スケール 夏の子どもの歌	手の動きに合わせて弾く。教員が支持する調でスケール・カデンツを弾く。夏の子どもの歌の伴奏形を変えて弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	パネルシアターの歌　ハノン・スケール　秋の子どもの歌	パネルの登場人物に合わせた弾き方をする。教員が支持するスケール・カデンツを弾く。子どもの歌を長調と短調で弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	呼びかけ歌　ハノン・スケール 冬の子どもの歌	「呼びかけ」と「答え」を弾き分ける。呼吸を合わせる。２つのスケールとカデンツを弾く。冬の歌を弾き歌いする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	動きに合わせたピアノ　ハノン・スケール　鑑賞曲	「歩く、止まる」「走る、止まる」「スキップ」「ジャンプ」２つのスケールとカデンツを弾く。「メヌエット」等を弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	ダンス曲のピアノ　ハノン・スケール　鑑賞曲	「ワルツ」「フォークダンス」を弾く。３つのスケールとカデンツを弾く。「シンコペイデッド　クロック」等を弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	楽器曲の伴奏①　童謡の原調と移調　鑑賞曲	行進曲（リズム打ち）で「Go and Stop」。「かえるのうた」等をＣＤＦＧ調で弾く。「エリーゼのために」等を弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	楽器曲の伴奏②　童謡の原調と移調　鑑賞曲	「オーラリー（トーンチャイム和音奏)」等を伴奏。「うみ」をＦ調とＧ調で弾く。「アヴェ・マリア」等を弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	後期課題曲①　ハノン・スケール	後期課題曲を選ぶ。演奏技術にあった曲の候補をあげ、教員と相談しながら選ぶ。２つのスケールとカデンツを弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	後期課題曲②　ハノン・スケール	読譜や指使いフレーズの確認をし、曲全体の構成を掴んで練習する。２つのスケールやカデンツを弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	後期課題曲③　ハノン・スケール	曲の山場を意識して練習する。難しい弾きにくい部分は付点音符にして練習するなど、指が滑らかなるよう工夫する。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	後期課題曲④　ハノン・スケール	曲の出だしの前拍や、曲の終りをフェイドアウトにより、象者が音に集中できる技術を学ぶ。自分らしい表現を創る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	後期課題曲⑤　ハノン・スケール	ＣＤなどを参考に聴き、演奏者の表現を感じ取り、音色やフレーズを捉え、間の取り方など、自分の演奏に生かす。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	後期課題曲⑥	暗譜を確実に行い、自分の音や演奏をしっかり聴きながら、自分らしい曲作りを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	後期課題曲⑦	自分から人へのメッセージとして、伝えたいものを、明確に持ち、試験に臨む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	レッスン計画立案	いままでの学習歴から今後のレッスン計画を立てる。 受講生が取り上げたい曲からも、選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	大正時代に歌われた曲	受講生の演奏テクニックにあった選曲をし、ミスなく円滑に弾けるようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	大正時代に歌われた曲	受講生が希望する曲を選び、編曲や工夫によって、自身の演奏テクニックで弾くことができるようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	大正時代に歌われた曲	前奏や間奏、後奏を原曲に近い形で表現できるよう、練習方法を学び、覚える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	昭和初期に歌われた曲 ポピュラーなクラシック①	時代背景や歌の内容を理解して演奏できるように、人間的成長も促しながら、学ぶ。演奏技術に合ったクラシックを弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	昭和初期に歌われた曲 ポピュラーなクラシック②	音域を考えた移調や、刻む和音を入れるなど、実態を考慮して弾く。演奏技術に合ったクラシックを弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	昭和中期に歌われた曲 ポピュラーなクラシック③	難しい表現は練習方法の工夫や自宅で復習を促し、テクニックを身に付ける。演奏技術に合ったクラシックを弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	昭和中期に歌われた曲 ポピュラーなクラシック④	数曲はリクエストで、即応するように、持ち歌として常に弾いて覚える。演奏技術に合ったクラシックを弾く。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	昭和後期に歌われた曲 ポピュラーなクラシック⑤	演奏技術に合い、馴染みのクラシックを弾く。歌い方に合わせて伴奏を変化させるテクニック身につける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	昭和後期に歌われた曲 前期課題曲①	リズム、メロディ、ハーモニーのどの要素を強調して弾くのか、治療目標に沿った伴奏を工夫する。得意分野を考慮し演奏技術にあった前期課題曲を選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	前期課題曲② 広いジャンルの曲①	前期課題曲の読譜を始める。指使いの確認をする。簡単なジャズを１曲弾く。曲によっては連弾する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	前期課題曲③ 広いジャンルの曲②	前期課題曲は教員と一緒に練習し、速い段階で、暗譜できるようにする。日本民謡の特徴を捉えて１曲弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	前期課題曲④	前期課題曲で難しく、弾きづらい箇所は、練習方法を学び、繰り返し練習し、達成する喜びを持つ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	前期課題曲⑤	曲のイメージを持って、練習し、仕上げの段階では、自分の演奏を客観的によく聞きながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	前期課題曲⑥	基本練習を最後まで怠らず、試験に臨むため、精神的に気持ちを安定させ、練習の成果を十分発揮できるようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	後期の経過について	前期の結果と、後期の実習等の実施に合わせて、内容を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	高齢者の歌の伴奏① 学内演奏に向けて①	実習で用いる歌の伴奏を声域に合わせて移調し、弾く。 教員と相談の上、選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	高齢者の歌の伴奏② 学内演奏会に向けて②	実習で用いる歌の伴奏をミスなく、メロディを引き立てて、演奏する。学内演奏曲の読譜や指使いを確認し、練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	高齢者の楽器の伴奏① 学内演奏会に向けて③	実習で用いる楽器を中心とした曲で、リズム同期する伴奏を学ぶ。学内演奏曲の曲想をとらえた演奏テクニックを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	高齢者の楽器の伴奏② 学内演奏会に向けて④	実習で用いる器楽曲で、楽器の機能を生かす伴奏法を学ぶ。 学内演奏曲で弾きづらい箇所の練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	高齢者の体の動きに合わせて①	実習で用いる体に働きかける曲で、動きを促進し、リラックスする弾き方を学ぶ。練習の成果を十分発揮する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	学内演奏会に向けて⑤	対象者の反応を見ながら演奏や伴奏を工夫し、対象者に寄り添う音楽を提供する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	実習実践①	対象者の治療目的に沿った音楽を冷静に判断し、友達とティームを組んで、効果的に提供する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	実習実践②	自分で弾きたい曲と演奏技術にあった曲の候補をあげ、教員と相談しながら、卒業課題曲を選ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	卒業課題に向けて①	学生の意志を尊重し、意欲的に取り組めるように、練習方法を分かりやすく指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	卒業課題に向けて②	作曲者の意図や作られた背景、音楽の構造など、曲に関する情報を知らせ、積極的に練習に取り組むようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	卒業課題に向けて③ クリスマスソングの伴奏①	連弾曲も視野に入れ、２人で一緒に演奏する楽しさを味わう。クリスマスソングをレパートリー加える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	卒業課題に向けて④ クリスマス鑑賞曲②	ミュージカルやジブリ、ポピュラー系のクラシックなど、イメージしやすい選曲も考え、挑戦する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	卒業課題に向けて⑤ クリスマス鑑賞曲③	暗譜を確実に行い、自分の音や相手の音をしっかり聴きながら、相手を受け入れつつ、自分らし曲作りを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	卒業課題に向けて	連弾曲でお互いが弾くパートを理解し、旋律や響きが重なる美しさを感じながら、演奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

１．各回ごと、曲目は相談の上、決定します。楽譜は準備してください。
２．技術を習得できるまで繰り返し練習し、楽しく、周囲の方に喜ばれるような演奏ができるよう、努力してください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験　100％で評価

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書

書名：「各個人の演奏技術にあった曲目」
書名：「簡易ピアノ伴奏によるこどもの歌名曲アルバム」　編著者名：松山祐士
出版社：ドレミ楽譜出版
書名：「プロフェッショナル・ユース歌謡曲のすべて」　編者名：浅野純　出版社：全音楽譜出版

履修上の注意・学習支援

図書館等で楽譜やＣＤ、ＤＶＤを借用し、事前の予習や学習に関連する内容を積極的に学習してください。

オフィス・アワー

疑問があれば，オフィス・アワーを利用すること（事前予約（tsuboyama@ujc.ac.jp）のうえ，時間を設定する)。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
24M1SP035	音楽実技（声楽）	１年・２年	２年通年	実技	8	鎌田亮子・篠﨑加奈子

授業概要

受講生それぞれの声質に合ったエチュード（コンコーネ 50 番、25 番など）を習得できるよう目指す。
楽曲は、イタリア歌曲、日本歌曲、ドイツ歌曲、オペラアリアなどを中心に取り組む。
また、アンサンブル能力を高めるため、伴奏合わせを取り入れる。

到達目標（学習の成果）

・正しい呼吸法と発声法について学び、美しくのびやかな豊かな声（ベルカント唱法）で楽曲を歌えるようになる。
・日本語、イタリア語、ドイツ語のディクションや意味を知り、芸術表現が深められるようになる。
・伴奏合わせ等でアンサンブルについて学び、よりよい表現、豊かな感性で楽曲を歌えるようになる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 エチュード、楽曲について（1）	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 今まで、受講生が学んできたエチュードや楽曲を、実際に歌わせ、それを継続するか新たに曲にするか判断する。 予習：レッスン曲を準備する。 復習： レッスンで学んだことを復習する。
2回	エチュード、楽曲について（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3回	エチュード、楽曲について（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4回	新たなエチュード、楽曲（1）	通常レッスンでは、3回をひとつのめどとするが、それぞれの進度に合わせ、エチュード、楽曲を進めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5回	新たなエチュード、楽曲（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6回	新たなエチュード、楽曲（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7回	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術・表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8回	新たなエチュード、楽曲（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
9回	新たなエチュード、楽曲（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10回	試験曲のレッスン（1）	試験曲のレッスンに入る。課題の楽曲について原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11回	試験曲のレッスン（2）	フレージングや音色、ディクションなどを確認し、ととのえていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12回	試験曲のレッスン（3）	前回のレッスンをふまえて、楽曲の内容を深く理解し、技術、表現などを高めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13回	試験曲の仕上げ（1）	伴奏者とのアンサンブルで、演奏表現を体験させ深めていく。実技試験に向け、暗譜で演奏し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14回	試験曲の仕上げ（2）	引き続き、前回のレッスン同様に、実技試験に向けて楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15回	試験曲の仕上げ（3）	実技試験に相応しい演奏内容に仕上がっているか確認し、さらに演奏表現を深めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16回	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術・表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17回	新たなエチュード、楽曲（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18回	新たなエチュード、楽曲（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19回	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術・表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20回	新たなエチュード、楽曲（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、原語のディクションを指導する。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21 回	新たなエチュード、楽曲（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22 回	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術・表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23 回	新たなエチュード、楽曲（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24 回	新たなエチュード、楽曲（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25 回	試験曲のレッスン（1）	試験曲のレッスンに入る。課題の楽曲について原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26 回	試験曲のレッスン（2）	フレージングや音色、ディクションなどを確認し、ととのえていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27 回	試験曲のレッスン（3）	前回のレッスンをふまえて、楽曲の内容を深く理解し、技術、表現などを高めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28 回	試験曲の仕上げ（1）	伴奏者とのアンサンブルで、演奏表現を体験させ深めていく。実技試験に向け、暗譜で演奏し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29 回	試験曲の仕上げ（2）	引き続き、前回のレッスン同様に、実技試験に向けて楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30 回	試験曲の仕上げ（3）	実技試験に相応しい演奏内容に仕上がっているか確認し、さらに演奏表現を深めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31 回	エチュード、楽曲について（1）	今まで、受講生が学んできたエチュードや楽曲を、実際に歌わせ、それを継続するか新たに曲にするか判断する。 予習：レッスン曲を準備する。 復習： レッスンで学んだことを復習する。
32 回	エチュード、楽曲について（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲に

		ついては、原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33 回	エチュード、楽曲について（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34 回	新たなエチュード、楽曲（1）	通常レッスンでは、3回をひとつのめどとするが、それぞれの進度に合わせ、エチュード、楽曲を進めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36 回	新たなエチュード、楽曲（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37 回	新たなエチュード、楽曲（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38 回	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術・表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39 回	新たなエチュード、楽曲（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40 回	新たなエチュード、楽曲（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41 回	試験曲のレッスン（1）	試験曲のレッスンに入る。課題の楽曲について原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42 回	試験曲のレッスン（2）	フレージングや音色、ディクションなどを確認し、ととのえていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43 回	試験曲のレッスン（3）	前回のレッスンをふまえて、楽曲の内容を深く理解し、技術、表現などを高めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44 回	試験曲の仕上げ（1）	伴奏者とのアンサンブルで、演奏表現を体験させ深めていく。実技試験に向け、 暗譜で演奏し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
45 回	試験曲の仕上げ（2）	引き続き、前回のレッスン同様に、実技試験に向けて楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46 回	試験曲の仕上げ（3）	実技試験に相応しい演奏内容に仕上がっているか確認し、さらに演奏表現を深めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47 回	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術・表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48 回	新たなエチュード、楽曲（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49 回	新たなエチュード、楽曲（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50 回	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術・表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51 回	新たなエチュード、楽曲（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52 回	新たなエチュード、楽曲（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53 回	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術・表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54 回	新たなエチュード、楽曲（2）	課題のエチュード、楽曲についてレッスンに入る。エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55 回	新たなエチュード、楽曲（3）	前回のレッスンを参考に、楽曲を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56 回	試験曲のレッスン（1）	試験曲のレッスンに入る。課題の楽曲について原語のディクションを指導する。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57 回	試験曲のレッスン（2）	フレージングや音色、ディクションなどを確認し、ととのえていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58 回	試験曲のレッスン（3）	前回のレッスンをふまえて、楽曲の内容を深く理解し、技術、表現などを高め ていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59 回	試験曲の仕上げ（1）	伴奏者とのアンサンブルで、演奏表現を体験させ深めていく。実技試験に向け 、 暗譜で演奏し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60 回	試験曲の仕上げ（2）	引き続き、前回のレッスン同様に、実技試験に向けて楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習(予習・復習について)

授業時間以外に授業外学習が必要となります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

エチュード、楽曲の譜読みを徹底してから、レッスンに臨むこと。レッスンで習得したことを、日々の練習で自分のものにしていくことが最も重要なことである。
外国語の楽曲では、単語ひとつひとつを辞書で調べ、対訳を読み（必要であれば書き写す)、意味の理解に努めること。作曲家、詩人、作曲された時代背景なども下調べをすること（細部にわたり丁寧で地道な勉強が重要である)。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得している ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

実技試験１００％

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考テキスト

エチュード

＊書名	＊著者名	＊出版社	＊価格
コンコーネ 50 番　練習曲	コンコーネ	全音楽譜出版社	￥ 1,210
コンコーネ 25 番　練習曲	コンコーネ	全音楽譜出版社	￥ 990
パノフカ　２４　ヴォカリーズ	パノフカ	全音楽譜出版社	￥ 1,320
ヴァッカイ	ヴァッカイ	全音楽譜出版社	￥ 1,210
サルヴァトーレ・マルケージ	S. マルケージ	全音楽譜出版社	￥ 1,100

など

楽曲

＊書名	＊出版社	＊価格
イタリア歌曲集 1	全音楽譜出版社	￥ 2,200
日本歌曲集 1	全音楽譜出版社	￥ 2,530
イタリアオペラ　アリア名曲集	ドレミ出版	￥ 1,980

など

学習支援・履修上の注意

身体が楽器であることを認識し、健康的な生活（睡眠、休養、栄養に配慮した）を送ること。

オフィスアワー

レッスン担当教員に事前予約のうえ、時間を設定する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP036	音楽実技 （ヴァイオリン）	１年・２年	２年通年	実技レッスン	８	小山啓久

授業概要

確実に楽曲を演奏するには、曲だけを練習していても技術を身につけることはできません。レッスンでは、音階やエチュード（練習曲）、そのほか技術修得のための技法を、受講者のレヴェルに合わせてレッスンを行ないます。また、合奏能力を高めるため、アンサンブル（伴奏合わせ）を取り入れます。

１年の後期に入って、レッスンも軌道に乗ったことと思いますが、レッスンでは、音階やエチュード（練習曲）、そのほか技術修得のための方法を、受講者のレヴェルをさらに向上させるため深めていきます。また、合奏能力を高めるため、アンサンブル（伴奏合わせ）を取り入れます。

２年生になって、レッスンは将来の目標を見据えて行ないます。進学するのであればそのレヴェルにふさわしい音階やエチュード、楽曲のレッスンを、就職を考えるのであれば、社会での活動に対する様々な助言とそれにふさわしいレッスンを行ないます。また、合奏能力を高めるため、アンサンブル（伴奏合わせ）を取り入れます。

２年生の後期では、将来の目標、学内演奏（卒業演奏）を見据えてレッスンを行います。２年間の集大成ですので、それにふさわしい表現の深さが求められます。また、合奏能力を高めるため、アンサンブル（伴奏合わせ）を取り入れます。

到達目標（学習の成果）

ヴァイオリンの演奏は、一般には難しいといわれますが、段階を踏んで練習を重ねれば、着実に進歩が可能です。また、アンサンブル（伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力を高めることができるようになります。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 音階、エチェードについて（1）	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 今まで受講生が学んできた音階やエチュードを、実際に弾かせ、それを継続するか新たに曲にするか判断する。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2回	音階、エチェードについて（2）	課題のエチュード等について練習内容を確認する。それによって、技術的にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3回	楽曲のレッスン（1）	エチュード等のほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4回	楽曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5回	楽曲の仕上げ	楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6回	新たな音階、エチュード（1）	前回までのレッスンを参考に、新たな音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7回	新たな音階、エチュード（2）	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、技術的にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

8回	新たな楽曲のレッスン（1）	エチュード等のほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9回	新たな楽曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10回	新たな楽曲の仕上げ	前回よりさらに表現等の内容を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11回	課題の音階、エチュード（1）	前回までのレッスンを参考に、後期の課題である音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12回	課題の音階、エチュード（2）	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、前期課題の楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13回	課題曲のレッスン（1）	エチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14回	課題曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、課題曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15回	課題曲の伴奏合わせ	前期の課題曲に相応しい演奏内容に仕上がったか確認し、伴奏を付けて、さらに演奏表現を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16回	音階、エチュードについて（1）	受講者が前期でレッスンしてきたことを踏まえ、新たに音階やエチュードの選定をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17回	音階、エチュードについて（2）	課題のエチュード等について練習内容を確認する。それによって、技術的にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18回	楽曲のレッスン（1）	エチュード等のほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19回	楽曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20回	楽曲の仕上げ	楽曲を仕上げる。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21 回	新たな音階、エチュード（1）	前回までのレッスンを参考に、新たな音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22 回	新たな音階、エチュード（2）	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、技術的にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23 回	新たな楽曲のレッスン（1）	エチュード等のほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24 回	新たな楽曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25 回	新たな楽曲の仕上げ	表現等の内容を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26 回	課題の音階、エチュード（1）	前回までのレッスンを参考に、後期の課題である音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27 回	課題の音階、エチュード（2）	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、後期課題の楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28 回	課題曲のレッスン（1）	エチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29 回	課題曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、課題曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30 回	課題曲の伴奏合わせ	後期の課題曲に相応しい演奏内容に仕上がったか確認し、伴奏を付けて、さらに演奏表現を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31 回	音階、エチュードについて（1）	受講生が１年生の時点でレッスンしてきたことを踏まえ、新たに音階やエチュードの選定をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32 回	音階、エチュードについて（2）	課題のエチュード等について練習内容を確認する。それによって、技術的にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
33回	楽曲のレッスン（1）	エチュード等のほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34回	楽曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35回	楽曲の仕上げ	楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36回	新たな音階、エチュード（1）	前回までのレッスンを参考に、新たな音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37回	新たな音階、エチュード（2）	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、技術的にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38回	新たな楽曲のレッスン（1）	エチュード等のほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39回	新たな楽曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40回	新たな楽曲の仕上げ	表現等の内容を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41回	課題の音階、エチュード（1）	前回までのレッスンを参考に、前期の課題である音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42回	課題の音階、エチュード（2）	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、前期課題の楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43回	課題曲のレッスン（1）	エチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44回	課題曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、課題曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

45回	課題曲の伴奏合わせ	前期の課題曲に相応しい演奏内容に仕上がったか確認し、伴奏を付けて、さらに演奏表現を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46回	音階、エチュードについて（1）	受講生がこれまでレッスンで学んできたことを踏まえ、新たに音階やエチュードの選定をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47回	音階、エチュードについて（2）	課題のエチュード等について練習内容を確認する。また、学内演奏会にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48回	楽曲のレッスン（1）	エチュード等のほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49回	楽曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50回	楽曲の仕上げ	学内演奏を優先して、さらに楽曲表現を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51回	新たな音階、エチュード（1）	前回までのレッスンを参考に、新たな音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52回	新たな音階、エチュード（2）	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、技術的にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53回	新たな楽曲のレッスン（1）	エチュード等のほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54回	新たな楽曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55回	新たな楽曲の仕上げ	表現等の内容を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56回	課題の音階、エチュード（1）	前回までのレッスンを参考に、前期の課題である音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57回	課題の音階、エチュード（2）	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、後期課題の楽曲を選定する。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58 回	課題曲のレッスン（1）	エチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。はじめはスローテンポでアーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59 回	課題曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、課題曲のテンポやダイナミクス、表情などを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60 回	課題曲の伴奏合わせ	後期の課題曲に相応しい演奏内容に仕上がったか確認し、伴奏を付けて、さらに演奏表現を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

楽曲の譜読みを徹底してから、レッスンにのぞむこと。レッスンで修得したことを、日々の練習で自分のものにしていくことが最も重要なことである。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験（100%）

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

音階教本：書名「ヴァイオリン音階教本」　著者名：小野アンナ　出版社：音楽之友社

エチュード：書名「カイザー1．2．3」「クロイツェル教本」「ローデ 24 カプリス」

「ドント練習曲&カプリス」その他　　出版社：音楽之友社等

楽曲：エチュード、楽曲とも受講生のレヴェルにあったものを教員が指定

書名：「ヴァイオリン奏法の知識」　著者名：菅原英洋　　出版社：レッスンの友社

学習支援・履修上の注意

演奏技術の向上は、促成栽培のようにはいかないので、常日頃からこつこつと練習することが必要です。また、個人で練習するだけでなく、オーケストラや室内楽等、多くの人と交わって演奏することも、アンサンブルを高めるために大切です。

オフィスアワー

技術的なことや演奏上での疑問点があったら、そのままにしないで、必ずレッスン時にレッスン教員に相談すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP037	音楽実技 (チェロ)	１年・２年	２年通年	実技	8	野村　奈美

授業概要

音楽における基本的な理論と演奏技術を学ぶ為、音階やエチュードを取り入れ、同時にソナタ等にも取り組み、アンサンブル能力の向上も目指す。
さらに豊かな音を奏でる為に和声の響きへの理解、合奏する能力を高める。

到達目標（学習の成果）

・基礎的な演奏技術、理論を身につける事により、感情豊かな演奏を出来るようになる。
・ピアノとの伴奏合わせ等を通じアンサンブル能力を習得する。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 スケール／無伴奏組曲	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 基礎のスケール　♯、♭４つまで　dur、moll 無伴奏チェロ組曲をエチュードとして導入。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	スケール／無伴奏組曲	無伴奏チェロ組曲の出来により、音楽的内容の確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	スケール／エチュード１	残りのスケール。ボーイングの為のエチュード導入。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	スケール／エチュード２	スケールにリズムを取り入れ、右手、左手の確認（バランス）。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	スケール／エチュード／無伴奏１	エチュードを音楽的に演奏する為の技術レッスン。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	スケール／エチュード／無伴奏２	前回までの確認と次回の課題検討。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	スケール／エチュード／新曲１	新曲の音程、リズム、アーティキュレーション確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	エチュード／新曲２	新曲の出来次第で練習方法の改善策。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	新曲の仕上げ	受講生の実力最大限の演奏が出来ているか確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	スケール／エチュード	全調スケール最終チェック。 エチュードの内容の理解度確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	右手、左手のバランス	演奏中の右手、左手のバランス等、フォームを再度チェック、修正。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	課題曲のレッスン（１） （ピアノ合わせ）	課題曲のスケール。 練習の成果を確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

13	課題曲のレッスン（2） （ピアノ合わせ）	伴奏者とのアンサンブルの仕方。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	課題曲の仕上げ1	楽曲への理解度、表現力等レッスン。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	課題曲の仕上げ2	実技試験に相応しい演奏内容かの確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	スケール／エチュード1	課題の出来を確認し、新たなエチュード等を導入。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	スケール／エチュード2	6度重音、エチュード練習内容確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	構え方	曲の難易度が高くなるにつれ、フォームが崩れやすくなるので再度修正。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	6度重音	音程の確認。テンポを上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	ボーイング	演奏中の右手のフォーム確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	スケール／エチュード1	エチュードを音楽的に演奏する為の技術レッスン。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	スケール／エチュード2	前回までの確認と次回の課題を検討。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	スケール／エチュード／新曲1	新曲の音程、リズム、アーティキュレーション等の確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	エチュード／新曲2	新曲の出来次第で練習方法の改善策。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	新曲の仕上げ	受講生の実力最大限の演奏が出来ているか確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	スケール／エチュード 課題曲について	スケール、エチュードのレベルを確認し、後期課題曲の選定。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	課題曲のレッスン（1） （ピアノ合わせ）	課題曲のスケール。 練習の成果を確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	課題曲のレッスン（2） （ピアノ合わせ）	伴奏者とのアンサンブルの仕方等。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	課題曲の仕上げ1	楽曲への理解度、表現力等レッスン。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	課題曲の仕上げ2	実技試験に相応しい演奏内容かの確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	スケール／エチュード1	スケール4オクターブ。 新しいエチュード。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

32	スケール／エチュード２	スケールの出来次第で次の課題へ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	無伴奏チェロ組曲１	練習内容の確認。 不足部分に対してのアドバイス。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	無伴奏チェロ組曲２	アーティキュレーション等確認し、曲の仕上げ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	新たな楽曲	受講生のレベルに合わせた曲の選定。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	スケール／エチュード１	エチュードを音楽的に演奏する為の技術レッスン。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	スケール／エチュード２	前回までの確認と次回の課題を検討。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	スケール／エチュード／新曲１	新曲の音程、リズム、アーティキュレーション等の確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	エチュード／新曲２	新曲の出来次第で練習方法の改善策。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	新曲の仕上げ	受講生の実力最大限の演奏が出来ているか確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	スケール／エチュード 課題曲について	スケール、エチュードのレベルを確認し、前期課題曲の選定。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	課題曲のレッスン（１） （ピアノ合わせ）	課題曲のスケール。 練習の成果を確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	課題曲のレッスン（２） （ピアノ合わせ）	伴奏者とのアンサンブルの仕方等。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	課題曲の仕上げ１	楽曲への理解度、表現力等レッスン。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	課題曲の仕上げ２	実技試験に相応しい演奏内容かの確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	スケール／エチュード１	アルページョ。 新たなエチュード。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	スケール／エチュード２	前回の課題のアーティキュレーション、音程の確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	楽曲のレッスン（１）	楽曲の調のスケール、アーティキュレーション確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	楽曲のレッスン（２）	楽曲のテンポ、強弱、表情等レッスン。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	楽曲のレッスン（３）	楽曲の仕上げ。今後の課題検討。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

51	スケール／エチュード１	エチュードを音楽的に演奏する為の技術レッスン。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	スケール／エチュード２	前回までの確認と次回の課題を検討。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	スケール／エチュード／新曲１	新曲の音程、リズム、アーティキュレーション等の確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	エチュード／新曲２	新曲の出来次第で練習方法の改善策。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	新曲の仕上げ	受講生の実力最大限の演奏が出来ているか確認。
56	スケール／エチュード	スケール、エチュードのレベルを確認し、後期課題曲の選定。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	課題曲について	課題曲のスケール。 練習の成果を確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	課題曲のレッスン（１） （ピアノ合わせ）	伴奏者とのアンサンブルの仕方等。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	課題曲のレッスン（２） （ピアノ合わせ）	楽曲への理解度、表現力等レッスン。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	課題曲の仕上げ	実技試験に相応しい演奏内容かの確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習(予習・復習について)

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

○スケール・エチュードの復習と予習。
○課題曲の復習と予習。
○レッスンまでには、楽譜上の音、リズム、楽語等は、学習してくる事。
　楽曲においては、作曲者、曲の作られた経緯を調べてくる事。
○レッスン後は、問題点を理解した上で、一音一音、意味のある音を出す練習をする事。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・基礎的な演奏技術、理論を身につける事により、感情豊かな演奏を出来るようになる。 ・ピアノとの伴奏合わせ等を通じアンサンブル能力を習得。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験（100%）

教科書
全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等
J.LOEB/Gammes et arpéges、dotzauer ETÜDEN für Violoncello
DUPORT/ETÜDEN
J.S.Bach/Sechs Suiten für Violoncello Solo

学習支援・履修上の注意
各自の練習時、ただ繰り返すのではなく、必ず何の為の練習か意図をはっきりさせ、自主練習を行う事。

オフィス・アワー
レッスン中での疑問があれば、その都度、遠慮なく担当教員に質問する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP038	音楽実技 （フルート）	1年･2年	2年通年	実技	8	大越　絵梨花

授業概要

受講者のレヴェルに合わせた、音階、発音技術、エチュード等の教材を使用しレッスンを行う。
その上で、実技試験や学内演奏会等で演奏する楽曲の練習に入る。また、合奏能力を高めるため、アンサンブル（または伴奏合わせ）を取り入れる。

到達目標（学習の成果）

練習している音階、発音技術、エチュードについて、技術的、音楽的にさらに詳しく説明できるようになる。
楽曲をより音楽的に演奏できるようになる。また、アンサンブル（または伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力をさらに高く修得することができるようになる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 音階、エチュード（1）	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 受講者が今まで学んできた音階やエチュードを演奏してもらい、導入する教材を決める。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	音階、エチュード（2）	課題の音階やエチュードを吹いてもらい、練習過程の確認をする。技術的に不足している部分の練習方法を説明する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	音階、エチュード（3）	エチュードの練習の中で、フレーズの組み立て、全体の構造に関わる楽譜の読み方の基本を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	音階、発音、エチュード（4）	発音技術の練習に特有な技術について、その意味の説明と確認を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	音階、エチュード（5）	エチュードは2週に1曲のペースで進み、各曲固有の問題を理解し、練習方法、演奏方法を示し結果を出す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	音階、エチュード（6）	音階の練習の仕方を確認し、自力でやれると判断されるものには以後の練習を任せる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	音階、エチュード（7） 楽曲の導入	前期試験のための楽曲を受講者のレヴェルに合わせ数曲選考し決定する。曲について理解する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	エチュード（8） 楽曲のレッスン（1）	仕上がっていないエチュードがあれば仕上げをし、楽曲のレッスンへ移行していく。楽曲のレッスンでは技術的に難しい部分の練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	楽曲のレッスン（2）	楽曲の前半部分を中心にレッスンを行う。 アーティキュレーション、ダイナミックス等正しく行われているかよく聴くことを求めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	楽曲のレッスン（3）	楽曲の後半部分を中心にレッスンを行う。 フレージング、アーティキュレーション等を磨いていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

11	楽曲のレッスン（4）	楽曲を１曲通す。技術的な問題があれば要点を説明し練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	楽曲のレッスン（5）	伴奏合わせに向けて、ソロでの仕上げ。フルートパートの全体像を把握しているか確認する。表情豊かな演奏を目指す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	伴奏合わせ（1）	ピアノ伴奏つきのレッスン。スコアの成り立ちをよく理解し全体の響きをよく聴く。ピアノパートをよく読んでおく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	伴奏合わせ（2）	ピアノ伴奏つきのレッスン。音量のバランス等、アンサンブルをやっているかよく聴く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	伴奏合わせ（3）	ピアノ伴奏つきのレッスン。ピアノ伴奏との仕上げを行う。 アンサンブルの緻密さを高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	音階、発音、エチュード（1）	前期試験の演奏から見えてきた課題、技術的に不足している部分などの練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	音階、エチュード（2）	引き続きエチュードのレッスン。２週間に１曲のペースが望ましい。音階は演奏を聴き、自力でできるようであれば任せる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	音階、エチュード（3）	エチュードの難易度が上がってくるので、対応の仕方、練習の仕方を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	音階、エチュード（4）	エチュードの練習の中で、フレーズの組み立て、全体の構造に関わる楽譜の読み方の基本を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	音階、エチュード（5）	エチュードの練習の中で、技術的に不足している部分などの練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	音階、エチュード（6）	エチュードのやる意味と効用をよく説明して、モチベーションを持続していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	音階、エチュード（7） 楽曲の導入	後期試験のための楽曲を受講者のレヴェルに合わせ、前期試験とは年代、スタイルの違う曲を数曲選考し決定する。 曲について理解する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	エチュード（8） 楽曲のレッスン（1）	仕上がっていないエチュードがあれば仕上げをし、楽曲のレッスンへ移ってゆく。楽曲のレッスンでは技術的に難しい部分の練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	楽曲のレッスン（2）	楽曲の前半部分を中心にレッスンを行う。 アーティキュレーション、ダイナミックス等正しく行われているかよく聴くことを求めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	楽曲のレッスン（3）	楽曲の後半部分を中心にレッスンを行う。 フレージング、アーティキュレーション等を磨いていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	楽曲のレッスン（4）	楽曲を１曲通す。技術的な問題があれば要点を説明し練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	楽曲のレッスン（5）	伴奏合わせに向けて、ソロでの仕上げ。フルートパートの全体像を把握しているか確認する。表情豊かな演奏を目指す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	伴奏合わせ（1）	ピアノ伴奏つきのレッスン。スコアの成り立ちをよく理解し全体の響きをよく聴く。ピアノパートをよく読んでおく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	伴奏合わせ（2）	ピアノ伴奏つきのレッスン。音量のバランス等、アンサンブルをやっているかよく聴く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	伴奏合わせ（3）	ピアノ伴奏つきのレッスン。ピアノ伴奏との仕上げを行う。 アンサンブルの緻密さを高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	音階、エチュード（1）	新しいエチュードに入るケースもある。エチュードの特徴や傾向を理解する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	音階、エチュード（2）	楽譜の見方を早く、深くする。その必要性を説明し、実践していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	音階、エチュード（3）	替え指を導入し、フルートの構造的な理解を深め、指の独立、スムーズな運指を高めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	音階、発音、エチュード（4）	曲の各部分に合った音色を作ることを考える。そのための技術的な練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	音階、発音、エチュード（5）	発音技術の練習の復習。毎日やることの必要性を理解する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	音階、エチュード（6）	曲のわかりにくい箇所の対処法を楽譜の見方と合わせて説明し、実践する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	エチュード（7） 楽曲の導入	前期試験のための楽曲を受講者のレヴェルに合わせ数曲選考し、決定する。試験、学内演奏会での曲がさまざまな時代、スタイルに亘るよう考えておく。曲について理解をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	エチュード（8） 楽曲のレッスン（1）	仕上がっていないエチュードがあれば仕上げをし、楽曲のレッスンへ移っていく。楽曲のレッスンでは技術的に難しい部分の練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	楽曲のレッスン（2）	楽曲の前半部分を中心にレッスンを行う。 アーティキュレーション、ダイナミックス等正しく行われているかよく聴くことを求めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	楽曲のレッスン（3）	楽曲の後半部分を中心にレッスンを行う。 フレージング、アーティキュレーション等を磨いていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	楽曲のレッスン（4）	楽曲を１曲通す。技術的な問題があれば要点を説明し練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

42	楽曲のレッスン（5）	伴奏合わせに向けて、ソロでの仕上げ。1 年次より技術の洗練を求めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	伴奏合わせ（1）	ピアノ伴奏つきのレッスン。スコアの成り立ちをよく理解し全体の響きをよく聴く。ピアノパートをよく読んでおく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	伴奏合わせ（2）	ピアノ伴奏つきのレッスン。音量のバランス等、アンサンブルをやっているかよく聴く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	伴奏合わせ（3）	ピアノ伴奏つきのレッスン。ピアノ伴奏との仕上げを行う。 アンサンブルの緻密さを高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	音階、エチュード（1）	引き続きエチュードのレッスン。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	音階、エチュード（2）	なるべく早い譜読みを目指してゆく。技術の運用の要領を高めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	音階、エチュード（3） 学内演奏会の楽曲の導入	学内演奏会の楽曲を決める。今までの曲と違うスタイルの曲を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	学内演奏会のレッスン（1）	フレージング、アーティキュレーション、ダイナミクス等、譜読みの確認をする。技術的に難しい部分の練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	学内演奏会のレッスン（2）	伴奏合わせに向けて、ソロでの仕上げ。フルートパートの全体像を把握しているか確認する。表情豊かな演奏を目指す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	学内演奏会のレッスン（3）	ピアノ伴奏を入れたレッスン。全体の響き、構造、音量バランス等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	学内演奏会のレッスン（4） 楽曲の導入	ピアノ伴奏を入れたレッスン。演奏会に対する心構え等を学び、理解する。 後期試験の楽曲を数曲選考し決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	楽曲のレッスン（1）	楽曲のレッスン。技術的に難しい部分の練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	楽曲のレッスン（2）	楽曲の前半部分を中心にレッスンを行う。 アーティキュレーション、ダイナミックス等正しく行われているかよく聴くことを求めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	楽曲のレッスン（3）	楽曲の後半部分を中心にレッスンを行う。 フレージング、アーティキュレーション等を磨いていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	楽曲のレッスン（4）	楽曲を 1 曲通す。技術的な問題があれば要点を説明し練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	楽曲のレッスン（5）	伴奏合わせに向けて、ソロでの仕上げ。フルートパートの全体像を把握しているか確認する。表情豊かな演奏を目指す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	伴奏合わせ（1）	ピアノ伴奏つきのレッスン。スコアの成り立ちをよく理解し全体の響きをよく聴く。ピアノパートをよく読んでおく。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	伴奏合わせ（２）	ピアノ伴奏つきのレッスン。音量のバランス等、アンサンブルをやっているかよく聴く。最後の試験に向け、より音楽的な完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	伴奏合わせ（３）	ピアノ伴奏つきのレッスン。ピアノ伴奏との仕上げを行う。 アンサンブルの緻密さを高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習(予習・復習について)

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。
レッスンで指示された内容は必ず練習し、身につけること。
１日１時間３０分は練習時間を確保し、音作りの練習(ソノリテ等)【２０分】、 音階練習(タファネル・ゴーベール等)【２０分】、エチュードや曲の予習と復習【５０分】を行う。
練習時間が確保できない場合は、曲の中で難しい部分や、間違えてしまう部分等の練習を集中して行う。
【トータル３６時間】
演奏する楽曲の作曲者や時代背景、音楽形式等を調べておくこと。
試験課題楽曲の予習と復習。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・練習している音階、発音技術、エチュードについて、技術的、音楽的にさらに詳しく説明できるようになる。 ・楽曲をより音楽的に演奏できるようになる。また、アンサンブル（または伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力をさらに高く修得することができるようになる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験（100%）

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

音階教本：書名「完全なフルート奏法第２巻」所収「１７の日課大練習」
著者名：タファネル・ゴーベール　出版社：シンフォニア
エチュード：書名「ケーラーop.33-2」
「アンデルセン op.21」出版社：shirmer 他
書名「ソノリテについて」　著者名：マルセル・モイーズ　出版社：ルデュック

学習支援・履修上の注意

上達するためには日々の練習がかかせません。何の為の練習なのかを考え、ひとつひとつ丁寧に向き合うこと。

オフィスアワー

技術的なことや演奏上での疑問点があったら、そのままにしないで、レッスン時に相談すること。
メールでも随時受付します。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP039	音楽実技 （オーボエ）	１年・２年	２年通年	実技レッスン	８	田渕哲也

授業概要

オーボエはギネスブックに載るほど難しい楽器と言われていますが、これほど歌に近く、奏者の想いをダイレクトに伝えてくれる楽器はありません。レッスンでは基本奏法、スケールなどの基礎技術の修得とともに各時代のソロ、アンサンブル、合奏の楽曲の様式、奏法を学び、ソロ、合奏能力を高めます。

到達目標(学習の成果)

オーボエの綺麗な音色、豊かな音楽を一つ一つ基礎から積み上げていくことにより、ソロの曲のみならず、アンサンブル・オーケストラ・吹奏楽などいろいろなジャンルの楽曲の演奏できる技術を身につける事ができるようになる。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方 基礎技術（１）	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 アンブッシュア・ブレスなどの基本奏法、ロングトーン、スケールなどの基礎技術を確認し、デイリートレーニングの形を考える。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	基礎技術（２）	受講者の練習程度、課題の基礎技術の確認をし、エチュードのグレードを考え課題を出す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	スケール・エチュード（１）	課題のスケール、エチュードの読譜力、練習方法、アーティキレーション等の確認をし、レッスンを進める。エチュードの課題は、２、３曲を１セットとしてレッスンを進める。スケール♯♭２つまで。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	スケール・エチュード（２）	課題のスケール、エチュードの調性、形式等を分析し、テンポ、ダイナミクス、フレーズなどをレッスンする。スケール♯♭４つまで。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	スケール・エチュード（３）	スケール・エチュードを通して、基本奏法、音楽的な表現が出来ているか確認し、仕上げていく。スケール♯♭６つまで。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	リード作り（１）	リード作り（ガウジング・シェイパー・仮止め・巻き方・削り方等） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	リード作り（２）	リードの調整方法（削り方のポイント・フィッシュスキン・ワイヤーでの調節方法など） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	楽曲（１）	スケール・エチュードの他に受講者に合った楽曲を選考し決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	楽曲（２）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。テンポを落とし替え指、アーティキレーション等の確認をする。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	楽曲（３）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。楽曲の調性、形式等を分析し、テンポ、ダイナミクス、フレージングなどレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	楽曲（４）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。楽曲の更なる奏法技術、演奏表現の向上を図り仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	課題曲（１）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲を選考し決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	課題曲（２）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲のレッスンをする。テンポを落とし替え指、アーティキレーション等の確認をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	課題曲（３）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲のレッスンをする。楽曲の調性、形式等を分析し、テンポ、ダイナミクス、フレージングなどをレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	課題曲（４）	実技試験の楽曲の更なる奏法技術、演奏表現の向上を図ると共に伴奏を取り入れたレッスンで仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	スケール・エチュード（１）	前期で学んできた事を踏まえ、新たなスケール、エチュードを選定する。エチュードの課題は２、３曲を１セットとしてレッスンを進める。スケール♯♭２つまで 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	スケール・エチュード（２）	課題のスケール、エチュードの調製、形式等を分析し、テンポ、ダイナミックス、フレーズなどをレッスンする。スケール♯♭４つまで 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	スケール・エチュード（３）	スケール・エチュードを通して、基本奏法、音楽的な表現が出来ているか確認し仕上げていく。スケール♯♭６つまで 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	リード作り	リードの調整方法（削り方のポイント、フィッシュスキン・ワイヤーでの調整方法など） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	スケール・エチュード（１）	課題のスケール、エチュードのアーティキレーション等の確認をし、レッスンを進める。スケール♯♭３つまで（ランダム） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

21	スケール・エチュード（2）	上記スケール・エチュード（2）に同じ。スケール♯♭6つまで（ランダム） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	スケール・エチュード（3）	上記スケール・エチュード（3）に同じ。スケール全調（ランダム） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	楽曲（1）	スケール・エチュードの他に受講者に合った楽曲を選考し決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	楽曲（2）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。テンポを落とし替え指、アーティキレーション等の確認をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	楽曲（3）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。楽曲の調性、形式等を分析し、テンポ、ダイナミクス、フレージングなどレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	楽曲（4）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。楽曲の更なる奏法技術、演奏表現の向上を図り仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	課題曲（1）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲を選考し決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	課題曲（2）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲のレッスンをする。テンポを落し替え指、アーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	課題曲（3）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲のレッスンをする。楽曲の調性、形式等を分析し、テンポ、ダイナミクス、フレージングなどをレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	課題曲（4）	実技試験の楽曲の更なら奏法技術、演奏表現の向上を図ると共に伴奏を取り入れたレッスンで仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	スケール・エチュード（1）	1年生で学んできた事を踏まえ、新たなスケール、エチュードを選定する。エチュードの課題は2、3曲を1セットとしてレッスンを進める。2年次からはスケールを暗譜する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	基礎技術（2）	受講者の練習程度、課題の基礎技術の確認をし、エチュードのグレードを考え課題を出す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

33	スケール・エチュード（1）	課題のスケール、エチュードの読譜力、練習方法、アーティキレーション等の確認をし、レッスンを進める。エチュードの課題は、2、3曲を1セットとしてレッスンを進める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	スケール・エチュード（2）	課題のスケール、エチュードの調性、形式等を分析し、テンポ、ダイナミクス、フレーズなどをレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	スケール・エチュード（3）	スケール・エチュードを通して、基本奏法、音楽的な表現が出来ているか確認し、仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	リード作り（1）	リード作り（ガウジング・シェイパー・仮止め・巻き方・削り方等） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	リード作り（2）	リードの調整方法（削り方のポイント・フィッシュスキン・ワイヤーでの調整方法など） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	楽曲（1）	スケール・エチュードの他に受講者に合った楽曲を選考し決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	楽曲（2）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。テンポを落とし替え指、アーティキレーション等の確認をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	楽曲（3）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。楽曲の調性、形式等を分析し、テンポ、ダイナミクス、フレージングなどレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	楽曲（4）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。楽曲の更なる奏法技術、演奏表現の向上を図り仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	課題曲（1）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲を選考し決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	課題曲（2）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲をレッスンする。テンポを落とし替え指、アーティキレーション等の確認をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	課題曲（3）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲のレッスンをする。楽曲の調性、形式等を分析し、テンポ、ダイナミクス、フレージングなどをレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

45	課題曲（４）	実技試験の楽曲を更なる奏法技術、演奏表現の向上を図ると共に伴奏を取り入れたレッスンで仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	スケール・エチュード（１）	前期で学んできた事を踏まえ、新たなスケール、エチュードを選定する。エチュードの課題は２、３曲を１セットとしてレッスンを進める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	スケール・エチュード（２）	課題のスケール、エチュードの調製、形式等を分析し、テンポ、ダイナミックス、フレーズなどをレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	スケール・エチュード（３）	スケール・エチュードを通して、基本奏法、音楽的な表現が出来ているか確認し仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	リード作り	リードの調整方法（削り方のポイント、フィッシュスキン・ワイヤーでの調整方法など） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	スケール・エチュード（１）	課題のスケール、エチュードのアーティキレーション等の確認をしレッスンを進める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	スケール・エチュード（２）	上記スケール・エチュード（２）に同じ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	スケール・エチュード（３）	上記スケール・エチュード（３）に同じ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	楽曲（１）	スケール・エチュードの他に受講者に合った楽曲を選考し決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	楽曲（２）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。テンポを落とし替え指、アーティキレーション等の確認をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	楽曲（３）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。楽曲の調性、形式等を分析し、テンポ、ダイナミクス、フレージングなどレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	楽曲（４）	スケール・エチュードの他に楽曲のレッスンをする。楽曲の更なる奏法技術、演奏表現の向上を図り仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

57	課題曲（1）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲を選考し決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	課題曲（2）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲のレッスンをする。テンポを落とし替え指、アーティキレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	課題曲（3）	スケール・エチュードの他に実技試験の楽曲のレッスンをする。楽曲の調性、形式等を分析し、テンポ、ダイナミクス、フレージングなどをレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	課題曲（4）	実技試験の楽曲の更なる奏法技術、演奏表現の向上を図ると共に伴奏を取り入れたレッスンで仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

1．毎日の基礎練習が大切です。毎日コンスタントにできる基礎練習方法の習慣を身につけ、オーボエ全体の技術の向上に結びつけるようにする。
2．スケールは楽器、音楽の基礎となるので、1年次は楽譜を見て正しい奏法、音楽的表現、2年次では暗譜して吹けるように計画的に毎日練習する。
3．自分が演奏する楽曲の調性、様式の分析をし、作曲家や時代背景を調べておくこと。
4．練習・レッスン等で録音を録り、練習・レッスン後に聴き直し次回のレッスンに活かすようにする。（復習）

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

定期実技試験100%で評価

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

エチュード：「HINKE」（ヒンケ）：Elementary METHOD　ペータース版等
：「WIEDEMNN」（ヴィーデマン）：45ETUDES　ブライトコプフ版等
：「FERLING」（フェルリング）：48ETUDES　版指定なし
楽曲：バロックから現代曲まで、受講者のレベルに合わせて選曲

学習支援・履修上の注意

上達するには毎日の練習が欠かせません。自分のモチベーションも含め継続してできる計画を立てて練習してください。

オフィス・アワー

技術的なことや演奏上での疑問点があったら、そのままにしないで、レッスン時に相談すること。
メールでも随時受付します。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP040	音楽実技 (クラリネット)	１年・２年	２年通年	実技	８	佐藤友香

授業概要

レッスンでは、ロングトーンを含めた様々なパターンのスケールとエチュードを柱にした練習方法を確立する。また、より豊かな音楽性を育むために様々な楽曲を通して作曲家・作品について学習する。

到達目標（学習の成果）

・様々な基礎練習を習得し、演奏技術の向上に向けて自ら練習方法を工夫する事ができるようになる。
・スケールやエチュード等で培った技術・演奏法を楽曲演奏時に活かす事ができるようになる。
・楽曲のレッスンを通して作曲家・作品についての知識を修得し、演奏する事ができるようになる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 音階・エチュード（1）	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 入学以前に受講生が学習してきた音階・エチュードを演奏させ、前期の授業計画や導入するエチュードを決定する。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2回	音階・エチュード（2）	第１回のレッスンで提示した課題を使い、音階面・技術面で不足が無いか判断する。タンギングやスラーなど基礎的奏法を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3回	楽曲（1）	導入した楽曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4回	楽曲（2）	前回のレッスンよりもさらに深く楽曲を学び、音楽面・技術面での不足が無いかを判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5回	楽曲の仕上げ（1）	第３回のレッスンで提示した楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6回	音階・エチュード（3）	前回までのレッスンで不足している音階をレッスンする。 エチュードも並行して進める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7回	音階・エチュード（4）	音階・エチュードを使い、音楽面・技術面での不足が無いか判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8回	楽曲（3）	導入した楽曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9回	楽曲（4）	前回のレッスンよりもさらに深く楽曲を学び、音楽面・技術面での不足が無いかを判断する。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10 回	楽曲の仕上げ（2）	提示した楽曲を仕上げ、今後の課題を明らかにさせる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11 回	楽曲導入	スケール・エチュードを使い受講生のレベルを確認し、前期試験の曲を選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12 回	課題曲（1）	課題曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13 回	課題曲（2）	リズムや運指、アーティキュレーションの確認をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14 回	課題曲（3）	ピアノ伴奏をつけてのレッスン。伴奏との合わせ方や、歌い方などをレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15 回	課題曲の仕上げ	伴奏をつけて、実技試験に相応しい演奏に仕上がったか確認し、完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16 回	音階・エチュード（1）	前期に学習した音階・エチュードを演奏させ、後期の授業計画や導入するエチュードを決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17 回	音階・エチュード（2）	第１回のレッスンで提示した課題を使い、音楽面・技術面で不足が無いか判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18 回	楽曲（1）	導入した楽曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19 回	楽曲（2）	前回のレッスンよりもさらに深く楽曲を学び、音楽面・技術面での不足が無いかを判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20 回	楽曲の仕上げ（1）	伴奏付きのものは伴奏をつけて演奏する。第 3 回のレッスンで提示した楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21 回	音階・エチュード（3）	前回までのレッスンと仕上げた楽曲で足りない所を音階・エチュードを使いレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

22回	音階・エチュード（4）	音階・エチュードを使い、音楽面・技術面での不足が無いか判断する。新たな楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23回	楽曲（3）	導入した楽曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24回	楽曲（4）	前回のレッスンよりもさらに深く楽曲を学び、音楽面・技術面での不足が無いかを判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25回	楽曲の仕上げ（2）	提示した楽曲を仕上げ、今後の課題を明らかにさせる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26回	楽曲導入	スケール・エチュードを使い受講生のレベルを確認し、後期試験の曲を選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27回	課題曲（1）	課題曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28回	課題曲（2）	リズムや運指、アーティキュレーションの確認をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29回	課題曲（3）	ピアノ伴奏をつけてのレッスン。伴奏との合わせ方や、歌い方などをレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30回	課題曲の仕上げ	伴奏をつけて、実技試験に相応しい演奏に仕上がったか確認し、完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31回	音階・エチュード（1）	受講生が１年生で習った音階・エチュードを演奏させ、前期の授業計画や導入するエチュードを決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32回	音階・エチュード（2）	第１回のレッスンで提示した課題を使い、音階面・技術面で不足が無いか判断する。タンギングやスラーなど基礎的奏法を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33回	楽曲（1）	導入した楽曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34回	楽曲（2）	前回のレッスンよりもさらに深く楽曲を学び、音楽面・技術面での不足が無いかを判断する。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35 回	楽曲の仕上げ（1）	第３回のレッスンで提示した楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36 回	音階・エチュード（3）	前回までのレッスンで不足している音階をレッスンする。 エチュードも並行して進める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37 回	音階・エチュード（4）	音階・エチュードを使い、音楽面・技術面での不足が無いか判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38 回	楽曲（3）	導入した楽曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39 回	楽曲（4）	前回のレッスンよりもさらに深く楽曲を学び、音楽面・技術面での不足が無いかを判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40 回	楽曲の仕上げ（2）	提示した楽曲を仕上げ、今後の課題を明らかにさせる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41 回	楽曲導入	スケール・エチュードを使い受講生のレベルを確認し、前期試験の曲を選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42 回	課題曲（1）	課題曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43 回	課題曲（2）	リズムや運指、アーティキュレーションの確認をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44 回	課題曲（3）	ピアノ伴奏をつけてのレッスン。伴奏との合わせ方や、歌い方などをレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45 回	課題曲の仕上げ	伴奏をつけて、実技試験に相応しい演奏に仕上がったか確認し、完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46 回	音階・エチュード（1）	前期に学習した音階・エチュードを演奏させ、後期の授業計画や導入するエチュードを決定する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47 回	音階・エチュード（2）	第１回のレッスンで提示した課題を使い、音楽面・技術面で不足が

		無いか判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48 回	楽曲（1）	導入した楽曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49 回	楽曲（2）	前回のレッスンよりもさらに深く楽曲を学び、音楽面・技術面での不足が無いかを判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50 回	楽曲の仕上げ（1）	伴奏付きのものは伴奏をつけて演奏する。第 3 回のレッスンで提示した楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51 回	音階・エチュード（3）	前回までのレッスンと仕上げた楽曲で足りない所を音階・エチュードを使いレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52 回	音階・エチュード（4）	音階・エチュードを使い、音楽面・技術面での不足が無いか判断する。新たな楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53 回	楽曲（3）	導入した楽曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54 回	楽曲（4）	前回のレッスンよりもさらに深く楽曲を学び、音楽面・技術面での不足が無いかを判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55 回	楽曲の仕上げ（2）	提示した楽曲を仕上げ、今後の課題を明らかにさせる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56 回	楽曲導入	スケール・エチュードを使い受講生のレベルを確認し、後期試験の曲を選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57 回	課題曲（1）	課題曲のレッスンを行う。作曲家や作品について知識を修得し、曲の練習方法を提示する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58 回	課題曲（2）	リズムや運指、アーティキュレーションの確認をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59 回	課題曲（3）	ピアノ伴奏をつけてのレッスン。伴奏との合わせ方や、歌い方などをレッスンする。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
60回	課題曲の仕上げ	伴奏をつけて、実技試験に相応しい演奏に仕上がったか確認し、完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習(予習・復習について)

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・１日最低１時間３０分は練習時間をとり、ロングトーン（３０分)・スケール（３０分)・エチュードの予習と復習（３０分）を行う。時間がとれない時には時間を短くしつつ、まんべんなく練習できるようにする。（トータル３６時間)

・自身が演奏する楽曲、またその作曲家について十分に調べること。
・試験課題楽曲の予習と復習。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・様々な基礎練習を習得し、演奏技術の向上に向けて自ら練習方法を工夫する事ができるようになる。 ・スケールやエチュード等で培った技術・演奏法を楽曲演奏時に活かす事ができるようになる。 ・楽曲のレッスンを通して作曲家・作品についての知識を修得し、演奏する事ができるようになる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

定期実技試験（100%）

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

音階教本：著者名：Rolf Eichler 書名：「Scales for Clarinet」 発行：国立音楽大学
出版年：2002年
エチュード：作曲者：ROSE Cyrille 書名：「32 Etudes d’apres Ferling/Lefebvre
出版社：Alphonse Leduc

学習支援・履修上の注意

・演奏技術を上げるためにはレッスンだけではなく日頃の自主練習が必要不可欠です。練習の際は必ず目的を考え、何のための練習なのかを意識しながら日々積み重ねて下さい。また、他者との合奏を行う事により、音楽性・演奏技術が向上しますので、オーケストラなどの大編成はもちろんの事、小編成のアンサンブルを積極的に行って下さい。

オフィスアワー

技術的なことや演奏上で疑問があったら、そのままにせずにレッスン時やレッスン前後に相談すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP041	音楽実技 （ファゴット）	１年・２年	２年通年	実技レッスン	８	吉澤　真一

授業概要

音楽科、音楽指導者として生涯に渡って研鑽しえる基礎を、ファゴットを通し作る。

到達目標（学習の成果）

演奏することは技術的、精神的に奥行きがあり、謙虚に前向きに学ぶ大切さを知るようになる（技術・精神性・態度）。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 音楽の存在意義	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 何故人類は音楽を創造したのか？―安易な考えは不要だが原点を考える礎石を作る。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
２回	音楽と自然	音楽は自然から生まれ、学び、深まった。過去の作品を通し音楽と自然の結びつきを考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
３回	姿勢	重力に従った立ち方を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
４回	ロングトーン	出している音を徹底して深く聴く習慣をつける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
５回	音階－音の波形	上行下行の波形を身につける。すなわち上行はふくらみ、下行は落ち着く。音形の中に曲線を感じる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
６回	音階－音の形	指の形状を美しく保つことの難しい楽器である。それ由に神経を使わなくてはいけない。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
７回	音階－指の脱力	指に力が入り易い楽器でもある。指の力を弛めて演奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
８回	練習曲－易しいもの	音階で学んだことを生かし、易しい練習曲を行う。 細部まで聴く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
９回	練習曲－難しいもの	静かな集中力を保ち非常にゆっくり行っていく。 慣れない内は指に神経が行くが聴くことを忘れない。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

10回	練習曲－難所	難しい個所はさらにゆっくり分断して行う。ここでも心の静寂を保ち深く聴く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11回	課題曲－譜読み	バロック、古典より選曲する。譜読みの段階ではかなり弛んだ状態が良い。一音一音並べるように暗譜する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12回	課題曲－フレーズ	横のつながりが心地良くなる様、音をよく聴く。強弱はまだしっかりつける必要はない。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13回	課題曲－曲想	フレーズを壊さない様、作品にふさわしい曲想を少しずつ付けて行く。テンポも少しずつ上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14回	課題曲－合奏	ピアニストと互いの音を聴き合い、価値観を共有させる。必要があればテンポを落とす。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15回	課題曲－総集	試験とはいえ、人に聴いて頂くことの心のあり方、作法を学習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16回	立ち方	ようやく歩き始めた子供に学ぶ。筋力のない子供は自然に中心をとらえ、足裏に体重を流している。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17回	立ち方－楽器を持つ	足裏に体重を感じロングトーン、易しい音階を行う。 同時に自分の音を聴く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18回	立ち方－曲を吹く	曲想、ダイナミック等の変化により身体の支点を崩さない様にする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19回	立ち方－名演家に学ぶ	いろいろの形の演奏家がいるが、良い演奏家は必ず良い中心を維持している。映像を通し観察する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20回	スケールとコード－練習法	ミルデを使う。16 分音符の連続であるこの曲はストレスのない様ゆっくり行う。難所は分断して行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21回	スケールとコード－指	指の形と弛緩がうまく行っている事を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22回	スケールとコード－重力	音に慣れながら、先の立ち方や身体の弛緩が生かされているか確認する。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
23 回	近代曲－練習方	ボザのカプリッチョを使う。通常の音、リズムの並びでない。しなやかな身体で対応する為、身体を弛め行う。良く聴く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24 回	近代曲－指	指の良い形状と弛める事は、仏近代以降の作品において特に要求される。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25 回	近代曲－重力	リズム、音形、強弱に気を取られると重心が上り易い。肩、首を楽にさせ体重を下に流し演奏する。深く聴く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26 回	課題曲	バロックからロマン派までの中の曲を選ぶ。作曲者の時代、生涯を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27 回	課題曲－練習法	フレーズを読み取る。フレーズの中の音のつながりをゆっくりから、よく聴き、確認する。一音一音並べる様に暗譜する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28 回	課題曲－合奏	ピアニストと価値観が共有できる様、ゆっくりと聴き合い練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29 回	課題曲－曲想	互いに聴き合い表情をつけていく。聴き合うことでバランスなど自然に解決する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30 回	課題曲－総集	音楽の確認。作法の確認。静かな集中、失敗を恐れない心で試験にのぞむ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31 回	鼻呼吸－ゆっくり	花の香りを楽しむ様にゆっくり鼻で吸う。→ゆっくり時間をかけてはく。これを繰り返し、深く静かな呼吸に慣れる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32 回	鼻呼吸－早く	曲の中では早い呼吸が要求される。素早い弛緩と同時に鼻で吸う訓練をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33 回	呼吸－肺	特別 *ff* や *pp* において横隔膜を緊張させ肺の空気を急激に減らさない。その訓練を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34 回	呼吸	特に女性の場合、胸の上部だけしか使われない場合がある。肩首を弛めることを思い出す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

35 回	楽器の整備	楽器の不備は身体にダメージを与え、演奏上コントロールが難しくなる。整備法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36 回	リードの調整	リードの不備は身体にダメージを与え、演奏上コントロールが難しくなる。調整法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37 回	練習曲－フレーズ	ミデル協奏的練習曲を使う。フレーズを考える。静かにゆっくり横の流れを整えていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38 回	練習曲－確認	今までに学んだこと（重心、指の形状、身体の弛緩、呼吸、流れなど）をゆっくりしたテンポでうまく行われているか確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39 回	練習曲－曲想	協奏的練習曲は技術と感性が要求される。呼吸と重力を考え音楽的に吹いてみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40 回	課題曲	自分にとって難曲と思えるものを選ぶと良い。作曲家の時代、生涯を学ぶ。フレーズを考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41 回	課題曲－学習法	過去に学んだ事がスムーズに行えているかゆっくりから行う。暗譜する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42 回	課題曲－難所	特に難しい場所は分断し、さらにゆっくりストレスなく吹く。静かな気持ちで行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43 回	課題曲－曲想（1）	以下を参考にする。クレッシェンド→音程を聴きながら身体を弛ませる。*pp*、デミネンド→横隔膜を緊張させる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44 回	課題曲－曲想（2）	アクセント→強い息と瞬間的な身体の弛緩。*ff*→多めの息と持続的な弛緩。タンギング→少なめの息と身体の弛み。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45 回	課題曲－合奏	ピアニストと互いに聴き合い、価値の共有共感が行われているか確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46 回	ロングトーン	自らが安定していなくては合奏に入れない。 自らの音を聴き安定させる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

47回	合奏－２重奏（1）	講師と生徒で易しいものを行う。できるだけ言葉を使わず音楽を作る。響きの融け合うことを体感させる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48回	合奏－２重奏（2）	旋律、伴奏により質やダイナミックを考えさせる。響きの融合することを何度でも体感させる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49回	合奏－２重奏（3）	テンポの早いものを行う。やはりゆっくりから多くのこと（フレーズ、強弱等々）を考え聴き合い行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50回	合奏－２重奏（4）	前回の曲のテンポを上げ表情をつけ行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51回	合奏－２重奏（5）	他の楽器と行う。楽器によっては始め合いにくい事もあるが共通の響きを見つけ合わせる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52回	合奏－３重奏以上（1）	必ずスコアで自分の役割を学習しておく。実際合奏し相手の動きを捉え方針を探る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53回	合奏－３重奏以上（2）	ファゴットの役割は下で支える場合が多い。音量的に出過ぎる事は好ましくないが、土台として安定させる方法を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54回	合奏－３重奏以上（3）	身体の動きは必要だが余計な合図はさける。互いの波形を感じ合う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55回	オーケストラ	スコアの読み方を学ぶ。自分と同じ音形、土台となる音形、対施律などを頭に入れる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56回	課題曲	最後の試験であり内容濃い作品を選ばせる。作曲家の時代、生涯を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57回	課題曲－練習法	過去の学習から自ら考えさせる。暗譜は必須である。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58回	課題曲－難所	克服する為の方法を５パターン以上考えさせる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59回	課題曲－解釈	幾つかのスタイルで演奏し、曲にふさわしいものを考え選ばせる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60回	課題曲－合奏	強い心と集中と前向きな気持ちで望ませる。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

事前学習-日常生活の中でも（立った時、座った時、動いた時、物を持った時々等）「重力を感じ取る習慣をつけて欲しい。心身の健康にも役立つはずだ。

静かな心で深く音を追う練習は怠らないで欲しい。

事後学習–無意識に重心が下がり、良い脱力が身に付くように日々努めて欲しい。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験（100%）

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

練習曲　ワイセンボーン　3,000 円
協奏的練習曲　ミルデ　1,600 円
スケールとコード　ミルデ　1,600 円
１２のカプリッチョ ボザ　2,400 円
大作曲家に学ぶ１８の練習曲　吉澤　真一0 円

学習支援・履修上の注意

練習あって成長するが、間違った練習は悪習を招くだけである。
静かな気持ちで練習を積み重ねてほしい。

オフィスアワー

悩んだ時、困った時いつでも相談に応じ、共に考えたい。
レッスン前後随時受付ける。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP042	音楽実技 (ホルン)	１年・２年	２年通年	実技レッスン	８	小林郁子

授業概要

確実に楽曲を演奏するには、曲だけを練習していても技術を身につけることはできない。レッスンでは音階やエチュード(練習曲)、そのほかの技術習得のための技法を、受講者のレベルに合わせてレッスンを行う。その上で、実技試験や学内演奏等で演奏する楽曲の練習に入る。また、合奏能力を高めるため、アンサンブル(または伴奏合わせ)を取り入れる。

到達目標（学習の成果）

ホルンの演奏は、段階を踏んで練習を重ねれば着実に進歩が可能である。教員の指示に従って、正しい奏法を音階練習やエチュード(練習曲)を通して学べば、自分の技量にあった楽曲(ホルン・ソナタやコンチェルト)を演奏する技術を身につけることができる。また、アンサンブル(または伴奏合わせ)を取り入れることにより、合奏する能力を習得することができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 音階、エチュードについて(１)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 受講者が学んできた音階やエチュードを吹いてもらい、技術的に足りない部分がないか確認する。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
２回	音階、エチュードについて(２)	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、継続か新たな課題にするかを判断する。楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
３回	楽曲のレッスン(１)	音階やエチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。指使いやリズム、アーティキュレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
４回	楽曲のレッスン(２)	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポ設定や音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
５回	楽曲の仕上げ	通常レッスンでは５回をひとつのめどとして、区切りの意味で楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
６回	新たな音階、エチュード(１)	前回までのレッスンを参考に、新たな音階、エチュード等を導入する。 予習： 課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
７回	新たな音階、エチュード(２)	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、継続か新たな課題にするかを判断する。楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
８回	楽曲のレッスン(１)	音階やエチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。指使いやリズム、アーティキュレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

9回	楽曲のレッスン(2)	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポ設定や音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10回	楽曲の仕上げ	前回の楽曲の仕上げより、さらに楽曲の表現等を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11回	新たな音階、エチュード(1)	前回までのレッスンを参考に、新たな音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12回	新たな音階、エチュード(2)	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、実技試験の楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13回	課題曲のレッスン(1)	音階やエチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。指使いやリズム、アーティキュレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14回	課題曲のレッスン(2)	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポ設定や音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15回	課題曲の仕上げ	実技試験に相応しい演奏内容になったか確認し、さらに楽曲の表現や完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16回	新たな音階、エチュード(1)	前期実技試験の演奏内容を参考に、新たな音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17回	新たな音階、エチュード(2)	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、継続か新たな課題にするかを判断する。楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18回	楽曲のレッスン(1)	音階やエチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。指使いやリズム、アーティキュレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19回	楽曲のレッスン(2)	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポ設定や音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20回	楽曲の仕上げ	前回の楽曲の仕上げより、さらに楽曲の表現等を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21回	新たな音階、エチュード(1)	前回までのレッスンを参考に、新たな音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22回	新たな音階、エチュード(2)	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、継続か新たな課題にす

		るかを判断する。楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23 回	楽曲のレッスン（1）	音階やエチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。指使いやリズム、アーティキュレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24 回	楽曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポ設定や音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25 回	楽曲の仕上げ	前回の楽曲の仕上げより、さらに楽曲の表現等を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26 回	新たな音階、エチュード（1）	前回までのレッスンを参考に、新たな音階、エチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27 回	新たな音階、エチュード（2）	課題の音階、エチュードについて練習程度を確認し、継続か新たな課題にするかを判断する。楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28 回	課題曲のレッスン（1）	音階やエチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。指使いやリズム、アーティキュレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29 回	課題曲のレッスン（2）	音階やエチュードのほか、楽曲のテンポ設定や音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30 回	課題曲の仕上げ	実技試験に相応しい演奏内容になったか確認し、さらに楽曲の表現や完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31 回	エチュードのレッスン（1）	学んできたエチュードを吹き、技術的に不足する部分がないか確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32 回	エチュードのレッスン（2）	課題のエチュードについて練習程度を確認し、継続か新たな課題にするかを判断する。楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33 回	楽曲のレッスン（1）	エチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。音程やリズム、アーティキュレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34 回	楽曲のレッスン（2）	エチュードのほか、楽曲のテンポ設定や息づかい、音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

35 回	楽曲の仕上げ	楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36 回	エチュードのレッスン（1）	前回までのレッスンを参考に、新たなエチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37 回	エチュードのレッスン（2）	課題のエチュードについて練習程度を確認し、継続か新たな課題にするかを判断する。楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38 回	楽曲のレッスン（1）	エチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。音程やリズム、アーティキュレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39 回	楽曲のレッスン（2）	エチュードのほか、楽曲のテンポ設定や息づかい、音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40 回	楽曲の仕上げ	前回の楽曲の仕上げより、さらに楽曲の表現等を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41 回	エチュードのレッスン（1）	前回までのレッスンを参考に、新たなエチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42 回	エチュードのレッスン（2）	課題のエチュードについて練習程度を確認し、実技試験の楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43 回	課題曲のレッスン（1）	エチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。音程やリズム、アーティキュレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44 回	課題曲のレッスン（2）	エチュードのほか、楽曲のテンポ設定や音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45 回	課題曲の仕上げ	実技試験に相応しい演奏内容になったか確認し、さらに楽曲の表現や完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46 回	エチュードのレッスン（1）	前期実技試験の演奏内容を参考に、新たなエチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47 回	エチュードのレッスン（2）	課題のエチュードについて練習程度を確認し、継続か新たな課題にするかを判断する。楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48 回	楽曲のレッスン（1）	エチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。音程やリズム、アーティキュレーション等を確認する。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49 回	楽曲のレッスン（2）	エチュードのほか、楽曲のテンポ設定や息づかい、音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50 回	楽曲の仕上げ	楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51 回	エチュードのレッスン（1）	前回までのレッスンを参考に、新たなエチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52 回	エチュードのレッスン（2）	課題のエチュードについて練習程度を確認し、継続か新たな課題にするかを判断する。楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53 回	楽曲のレッスン（1）	エチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。音程やリズム、アーティキュレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54 回	楽曲のレッスン（2）	エチュードのほか、楽曲のテンポ設定や息づかい、音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55 回	楽曲の仕上げ	前回の楽曲の仕上げより、さらに楽曲の表現等を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56 回	エチュードのレッスン（1）	前回までのレッスンを参考に、新たなエチュード等を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57 回	エチュードのレッスン（2）	課題のエチュードについて練習程度を確認し、実技試験の楽曲の導入を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58 回	課題曲のレッスン（1）	エチュードのほか、導入した楽曲のレッスン。音程やリズム、アーティキュレーション等を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59 回	課題曲のレッスン（2）	エチュードのほか、楽曲のテンポ設定や音楽表現についてレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60 回	課題曲の仕上げ	実技試験に相応しい演奏内容になったか確認し、さらに楽曲の表現や完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

1．レッスンで指示されたレッスン内容は、確実に自宅等で練習すること。毎日一定時間の練習を積み重ねていくことが、技量の上達に結び付く。
2．日々の練習は、計画的に進め、密度の濃いものにすること。
3．レッスンや試験等で演奏する楽曲は、音楽様式・形式・作曲者の特色や作曲年代について調べ、理解を深めておくこと。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

実技試験 100％

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で提示する。

参考書等

エチュード：書名「ホルンのための新しい 200 の練習曲集」「ホルンのための 60 の練習曲集」その他
出版社：ルデュック社等
楽曲：エチュード、楽曲とも受講生のレベルにあったものを教員が指定。
書名：「フレンチホルン演奏技法」　著者名：フィリップ・ファーカス　出版社：全音楽譜出版社

学習支援・履修上の注意

演奏技術を向上させるには、日々練習を積み重ねることが大切である。また、独奏曲だけでなく、室内楽や管弦楽に意欲的に取り組むことも、アンサンブル力を高める上で不可欠である。

オフィスアワー

技術的なことや演奏上で疑問点があったら、そのままにしないでレッスン後に必ず教員に相談すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP043	音楽実技 （トランペット）	1年・2年	通年	実技	8	林美智子

授業概要

トランペット奏者を常に悩ませる高音と唇周辺の疲労を克服、軽減させるには、効率の良い音の出し方を学ぶことが必要不可欠です。すなわち、力強さと繊細さを兼ね備えた、幅の広い表現力を持った美しい音色を修得することにつながります。

レッスンでは、これまでのウォーミングアップと日々の練習法を見直し、更に良い音が出せるよう音の出し方を学びます。また、楽曲を確実に演奏できるようにするため、様々なエチュードを使用して基礎の強化、音楽性の追求をします。

合奏能力を高めるため、アンサンブル（または伴奏合わせ）を取り入れます。

到達目標（学習の成果）

良い音色を習得するための適切なアンブシュアを知り、説明できるようになる（知識）。

様々なアーティキュレーションについて学び、楽曲に沿った表現ができるようになる（技術・方法）。

アンサンブル（または伴奏合わせ）を取り入れることにより、合奏する能力を修得することができるようにする（技術・方法）。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 基礎技術(1)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 入学以前に学習してきた音階・エチュードを演奏してもらい、アンブシュア、ブレスなどの基本奏法を確認し、以前のウォーミングアップ法と基礎練習を見直す。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	ウォーミングアップ(1)	ロングトーンとタンギングを中心としたウォーミングアップ法を提示する。 「朝練」P8~14 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
3	ウォーミングアップ(2)	低音とリップスラーを含むスラーを中心としたウォーミングアップ法を提示する。 「朝練」P15、P21~27 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
4	ウォーミングアップ(3)	第2回、第3回で行ったウォーミングアップ法のまとめを行う。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
5	基本練習(1)	ロングトーンとタンギングのレッスン。 「アーバン金管教則本」P17~19 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
6	基本練習(2)	スラーでの半音階のレッスン。 「テクニカル・スタディーズ」No.1~25 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
7	基本練習(3)	リップスラーのレッスン。 「朝練」P28~30 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
8	楽曲の選定	1年前期の実技試験で演奏する、受講者の技術的にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。

		復習レッスンで学んだことを復習する。
9	スケールとエチュード(1)	楽曲と同じ調のスケールを「アーバン金管教則本」P65～81から、楽曲の内容に沿ったエチュードを「コプラッシュ 60のエチュード」から提示する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
10	スケールとエチュード(2)	前回のレッスンで提示した課題の練習程度を確認し、特にコプラッシュの音楽表現を充分にする。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
11	スケールとエチュード(3)	前回のレッスンをふまえ、トータルに完成を目指す。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
12	課題曲(1)	ゆっくりなテンポで、強弱、リズム、アーティキュレーションを正確に表現する。指定のテンポに近づける。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
13	課題曲(2)	ピアノ伴奏付きのレッスン。スコアを見ながら、互いの役割について考える。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
14	課題曲(3)	ピアノ伴奏付きのレッスン。自分の演奏を客観的に聴きながら、ブレスやフレージングを考える。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
15	課題曲(4)	ピアノ伴奏付きのレッスン。実技試験に相応しい演奏内容になっているか、表現が他者に伝わっているか確認しながら課題曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
16	基礎技術(2)	前期で学んだウォーミングアップ法と基礎練習を見直す。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
17	ウォーミングアップ(4)	第4回で行ったウォーミングアップ法に過不足がないか判断する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
18	基本練習(4)	スケールを用いたタンギングのレッスン。 「アーバン金管教則本」P20~22 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
19	基本練習(5)	シンコペーションを用いたタンギングのレッスン。 「アーバン金管教則本」P29~31 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
20	基本練習(6)	スラーでの半音階のレッスン。 「アーバン金管教則本」P82~85 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
21	基本練習(7)	リップスラーのレッスン。 「朝練」P31~32 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。

22	課題曲の選定	1年後期の実技試験で演奏する、受講者の技術的にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
23	スケールとエチュード(4)	楽曲と同じ調のスケールを「アーバン金管教則本」P65～81から、楽曲の内容に沿ったエチュードを「コプラッシュ 60のエチュード」から提示する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
24	スケールとエチュード(5)	前回のレッスンで提示した課題の練習程度を確認し、特にコプラッシュの音楽表現を充分にする。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
25	スケールとエチュード(6)	楽曲の調の関係調のスケールを「アーバン金管教則本」P65～81 から、楽曲の内容に沿った新たなエチュードを「コプラッシュ 60 のエチュード」から提示する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
26	スケールとエチュード(7)	3回分のレッスンをふまえ、トータルに完成を目指す。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
27	課題曲(5)	ゆっくりなテンポで、強弱、リズム、アーティキュレーションを正確に表現する。指定のテンポに近づける。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
28	課題曲(6)	ピアノ伴奏付きのレッスン。スコアを見ながら、互いの役割について考える。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
29	課題曲(7)	ピアノ伴奏付きのレッスン。自分の演奏を客観的に聴きながら、ブレスやフレージングを考える。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
30	課題曲(8)	ピアノ伴奏付きのレッスン。実技試験に相応しい演奏内容になっているか、表現が他者に伝わっているか確認しながら課題曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
31	基礎技術(3)	1年間で学んだウォーミングアップ法と基礎練習を見直す。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
32	ウォーミングアップ(5)	第 17 回で行ったウォーミングアップ法に過不足がないか判断する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
33	基本練習(8)	跳躍を用いたタンギングのレッスン。 「アーバン金管教則本」P23~28 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
34	基本練習(9)	ダブルタンギングとスラーのレッスン。 「アーバン金管教則本」P191~192 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
35	基本練習(10)	フィンガリングのレッスン。 「テクニカル・スタディーズ」No.27~44 予習：課題を練習する。

		復習レッスンで学んだことを復習する。
36	基本練習(11)	リップスラーのレッスン。 「アーバン金管教則本」P50 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
37	課題曲の選定	2 年前期の実技試験と学内演奏会で演奏する、受講者の技術的にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
38	スケールとエチュード(4)	楽曲と同じ調のスケールを「アーバン金管教則本」P65～81 から、楽曲の内容に沿ったエチュードを「コプラッシュ 60 のエチュード」から提示する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
39	スケールとエチュード(5)	前回のレッスンで提示した課題の練習程度を確認し、特にコプラッシュの音楽表現を充分にする。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
40	スケールとエチュード(6)	楽曲の調の関係調のスケールを「アーバン金管教則本」P65～81 から、楽曲の内容に沿った新たなエチュードを「コプラッシュ 60 のエチュード」から提示する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
41	スケールとエチュード(7)	3 回分のレッスンをふまえ、トータルに完成を目指す。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
42	課題曲(9)	ゆっくりなテンポで、強弱、リズム、アーティキュレーションを正確に表現する。指定のテンポに近づける。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
43	課題曲(10)	ピアノ伴奏付きのレッスン。スコアを見ながら、互いの役割について考える。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
44	課題曲(11)	ピアノ伴奏付きのレッスン。自分の演奏を客観的に聴きながら、ブレスやフレージングを考える。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
45	課題曲(12)	ピアノ伴奏付きのレッスン。実技試験に相応しい演奏内容になっているか、表現が他者に伝わっているか確認しながら課題曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
46	基礎技術(4)	前期で学んだウォーミングアップ法と基礎練習を見直す。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
47	課題曲(13)	ゆっくりなテンポで、強弱、リズム、アーティキュレーションを正確に表現する。指定のテンポに近づける。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
48	課題曲(14)	ピアノ伴奏付きのレッスン。スコアを見ながら、互いの役割について考える。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。

49	課題曲(15)	ピアノ伴奏付きのレッスン。自分の演奏を客観的に聴きながら、ブレスやフレージングを考える。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
50	課題曲(16)	ピアノ伴奏付きのレッスン。学内演奏会に相応しい演奏内容になっているか、表現が他者に伝わっているか確認しながら課題曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
51	ウォーミングアップ(6)	ウォーミングアップ法のまとめを行う。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
52	課題曲の選定	卒業試験で演奏する、受講者の技術的にふさわしい楽曲を選定する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
53	スケールとエチュード(8)	楽曲と同じ調のスケールを「アーバン金管教則本」P65～81から、楽曲の内容に沿ったエチュードを「コプラッシュ 60のエチュード」から提示する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
54	スケールとエチュード(9)	前回のレッスンで提示した課題の練習程度を確認し、特にコプラッシュの音楽表現を充分にする。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
55	スケールとエチュード(10)	楽曲の調の関係調のスケールを「アーバン金管教則本」P65～81 から、楽曲の内容に沿った新たなエチュードを「コプラッシュ 60 のエチュード」から提示する。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
56	スケールとエチュード(11)	3 回分のレッスンをふまえ、トータルに完成を目指す。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
57	課題曲(17)	ゆっくりなテンポで、強弱、リズム、アーティキュレーションを正確に表現する。指定のテンポに近づける。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
58	課題曲(18)	ピアノ伴奏付きのレッスン。スコアを見ながら、互いの役割について考える。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
59	課題曲(19)	ピアノ伴奏付きのレッスン。自分の演奏を客観的に聴きながら、ブレスやフレージングを考える。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。
60	課題曲(20)	ピアノ伴奏付きのレッスン。卒業試験に相応しい演奏内容になっているか、表現が他者に伝わっているか確認しながら課題曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）
授業時間以外に授業外学習が必要になります。
授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。
・デイリーエクササイズ・ウォームアップ。
・エチュードの復習と予習。
・試験課題楽曲について、参考文献を参照しまとめること。
・試験課題楽曲の復習と予習。

・テキストの指定範囲を事前に読み、予習したことをノートにまとめてくること。
・参考文献や授業で紹介した文献を読み、その内容をノートにまとめること。
・授業で指示した事柄について、参考文献で調べまとめてくること。
・授業後は振り返りを行い、課題を確認し、レポートを作成すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
1.美しい音色の習得度 2.幅広い表現力の習得度 3.合奏能力の習得度	完全にない 33 しほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験 100%で評価

教科書
全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等
書名：「朝練」 著者名：藤井完 出版社：全音楽譜出版社 出版年：1995 年 価格：1200 円
書名：「テクニカル・スタディーズ」 著者名：H.L.クラーク 出版社：CARL FISCHER
出版年：不明 価格：3690 円
書名：「アーバン金管教則本」著者名：J.B.アーバン 校訂：曽我部清典 出版社：全音楽譜出版社
出版年：2009 年 価格：2800 円
書名：「コプラッシュ 60 のエチュード(トランペット)」 著者名：G.コプラッシュ
出版社：全音楽譜出版社 出版年：2004 年 価格：1600 円
書名：「リップ・フレキシビリティの為の上級教則本」 著者名：C.コリン 出版社：Charles Colin
出版年：不明 価格：4400 円

履修上の注意・学習支援
トランペット技術の修得のためには、焦らず、日々、忍耐強く練習する。

オフィスアワー
質問等あれば、オフィス・アワーを利用すること（事前予約 m.hayashi@ujc.ac.jc のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP044	音楽実技 (サクソフォーン)	1年・2年	2年通年	実技	8	古澤悠子

授業概要

毎回レッスン時に音階1ページ、3曲のエチュードと楽曲を用意しレッスンを受講する。
基礎能力や、表現、テクニックと共に、精神面、体力面でも受講生自身が向上し自身をコントロールする力を身につける。適宜アンサンブルも取り入れることにより合奏能力を取得する。

到達目標（学習の成果）

サクソフォーンの様々な作品に触れ、小品から協奏曲まで2年間で自身のレパートリーを増やす。
アルトだけではなく特殊管の演奏技術も取得、基礎能力を高める。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 楽曲	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 今までに取り組んできたものを発表する。楽曲は任意。今後の方針を決め、課題を決める。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2回	音階と練習曲(1)	音階、エチュード。初回ゆっくりのテンポのエチュードを用いる。 姿勢、ブレスの位置、アンブシュアの確認をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3回	音階と練習曲(2)	音階、エチュード。エチュードでは前回の復習と、楽譜に書かれていることの重要性を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4回	音階と練習曲(3)	音階、エチュード。ヴィブラートのかけ方、音程の取り方の確認をする。 音程のエクササイズ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5回	楽曲のレッスン 1	音階、エチュードのほか、一年間でこなす楽曲一覧より小品を一曲。 平行して音階、エチュードを学ぶ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6回	楽曲のレッスン 2	音階、エチュードのほか、楽曲の譜読み完了。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7回	楽曲の仕上げ	音階、エチュード、楽曲のレッスン。人前で演奏できるレベルに仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8回	楽曲のレッスン 1	音階、エチュードのほか、2曲目の楽曲に取り掛かる。 譜読みが完了した状態でレッスンを受講する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9回	楽曲のレッスン 2	音階、エチュードのほか、楽曲のレッスン。 曲の分析、内容を深く掘り下げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

10 回	楽曲の仕上げ	音階、エチュードのほか、楽曲のレッスン。 人前で演奏できるレベルに仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11 回	試験曲のレッスン 1	音階、エチュードのほか、前期実技試験の楽曲の導入。 譜読みを確実に。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12 回	試験曲のレッスン 2	音階、エチュードのほか、前期実技試験の楽曲。 指が馴染むまで吹き込む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13 回	試験曲のレッスン 3	音階、エチュードのほか、前期実技試験の楽曲。 伴奏が無い状態でも音楽的にしっかり通す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14 回	試験曲のレッスン 4	可能なら伴奏者同伴のこと。 伴奏者とのアンサンブルを学ぶ。 予習：試験曲を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15 回	試験曲の仕上げ	伴奏者同伴。 前期実技試験本番を想定したリハーサル。 予習：リハーサルを想定して準備をする。 復習：リハーサルで学んだことを復習する。
16 回	音階のテスト	エチュードのほか、長音階全調のテストをします。 前期実技試験の反省。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17 回	音階と練習曲(1)	音階、エチュード。音程の取り方、アンブシュア、息の入れ方の確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18 回	音階と練習曲(2)	音階、エチュード。音程の取り方、テンポのゆっくりな曲を使用してタンギング奏法の確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19 回	音階と練習曲(3)	音階、エチュード。音程の取り方、テンポの速い曲を使用してタンギング奏法の確認。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20 回	楽曲のレッスン 1	音階、エチュードのほか、楽曲一覧より一曲。 前期よりも難易度の高い作品に取り組む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21 回	楽曲のレッスン 2	音階、エチュードのほか楽曲譜読みの完了。 自身でどのくらいの期間で譜読みが完了できるかを認識する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

22 回	楽曲の仕上げ	音階、エチュードのほか、人前で演奏できるレベルに楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23 回	楽曲のレッスン 1	音階、エチュードのほか、楽曲一覧より一曲。 難易度の高い作品に取り組む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24 回	楽曲のレッスン 2	音階、エチュードのほか楽曲譜読みの完了。 楽曲のアナリーゼを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25 回	楽曲の仕上げ	音階、エチュードのほか、人前で演奏できるレベルに楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26 回	試験曲のレッスン 1	音階、エチュードのほか、後期実技試験の楽曲の導入。 譜読みを確実に。作曲家の歴史を調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27 回	試験曲のレッスン 2	音階、エチュードのほか、後期実技試験の楽曲。 指が馴染むまで吹き込む。楽曲アナリーゼ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28 回	試験曲のレッスン 3	音階、エチュードのほか、後期実技試験の楽曲。 伴奏が無い状態でも音楽的にしっかり通す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29 回	試験曲のレッスン 4	可能なら伴奏者同伴のこと。 後期実技試験本番を想定したリハーサル① 予習：後期実技試験曲を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30 回	試験曲の仕上げ	伴奏者同伴。 後期実技試験本番を想定したリハーサル② 暗譜の完了。 予習：リハーサルを想定して準備をする。 復習：リハーサルで学んだことを復習する。
31 回	授業の進め方 楽曲	春休み中の課題を発表する。 前期実技試験、学内演奏会、卒業演奏会の楽曲話し合い。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32 回	様々なジャンルの楽曲 1	音階、エチュードのほか、楽曲。 特殊奏法の勉強。難しいエチュードの導入。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33 回	様々なジャンルの楽曲 2	音階、エチュードのほか楽曲。 先週に引き続き特殊奏法の勉強。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

34 回	様々なジャンルの楽曲 3	音階、エチュード。 特殊奏法の勉強のほか、楽曲の仕上げ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35 回	楽曲のレッスン 1	音階、エチュードのほか、楽曲一覧より小品を一曲。 譜読みの完了。音程の取り方を掘り下げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36 回	楽曲のレッスン 2	音階、エチュードのほか、楽曲のレッスン。 音程の取り方を掘り下げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37 回	楽曲の仕上げ	音階、エチュードのほか、楽曲のレッスン。 人前で演奏できるレベルに仕上げる。暗譜。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38 回	楽曲のレッスン 1	音階、エチュードのほか、2 曲目の楽曲に取り掛かる。 譜読みが完了した状態でレッスンを受講する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39 回	楽曲のレッスン 2	音階、エチュードのほか、楽曲のレッスン。 曲の分析、作曲家について内容を深く掘り下げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40 回	楽曲の仕上げ	音階、エチュードのほか、楽曲のレッスン。 人前で演奏できるレベルに仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41 回	試験曲のレッスン 1	音階、エチュードのほか、前期実技試験の楽曲の導入。 譜読みをまずはゆっくりから確実に。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42 回	試験曲のレッスン 2	音階、エチュードのほか、前期実技試験の楽曲。 譜読み完了。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43 回	試験曲のレッスン 3	音階、エチュードのほか、前期実技試験の楽曲。 伴奏が無い状態でも音楽的にしっかり通す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44 回	試験曲のレッスン 4	可能なら伴奏者同伴のこと。 どのように伴奏者をリードしていくかを学ぶ。 予習：前期実技試験曲を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。試験曲の仕上げ
45 回	試験曲の仕上げ	伴奏者同伴。 前期実技試験本番を想定したリハーサル。 予習：リハーサルを想定して準備をする。 復習：リハーサルで学んだことを復習する。

46 回	音階のテスト 楽曲のレッスン 1	音階全調のテスト。 エチュードのほか、学内演奏会の楽曲のレッスン。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47 回	楽曲のレッスン 2	エチュードのほか、学内演奏会の楽曲のレッスン。 可能であれば伴奏者同伴。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48 回	楽曲の仕上げ	学内演奏会の楽曲のレッスン。 リハーサル、仕上げ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49 回	楽曲のレッスン 1	音階、エチュードのほか、3 曲目の楽曲に取り掛かる。 譜読みが完了した状態でレッスンを受講する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50 回	楽曲のレッスン 2	音階、エチュードのほか、楽曲のレッスン。 曲の分析、作曲家について内容を深く掘り下げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51 回	楽曲の仕上げ	音階、エチュードのほか、楽曲のレッスン。 人前で演奏できるレベルに仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52 回	試験曲の導入	音階、エチュードのほか、卒業実技試験の楽曲の導入。 譜読みを確実にゆっくりから。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53 回	試験曲のレッスン 1	音階、エチュードのほか、卒業実技試験の楽曲。 譜読みが完了した状態でレッスンを受講する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54 回	試験曲のレッスン 2	音階、エチュードのほか、卒業実技試験の楽曲。 曲の分析、内容を深く掘り下げる。譜読みを完了。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55 回	試験曲のレッスン 3	卒業実技試験の楽曲。 曲の分析、内容を深く掘り下げ演奏を自分のものにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56 回	試験曲のレッスン 4	卒業実技試験の楽曲。 仕上げ、リード選び。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57 回	試験曲のレッスン 5	卒業実技試験の楽曲。 人前で演奏できるレベルに仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

58 回	試験曲のレッスン 6	卒業実技試験の楽曲。 可能なら伴奏者同伴のこと。初回合わせ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59 回	試験曲の仕上げ	可能なら伴奏者同伴のこと。 伴奏がある状態で楽曲の仕上げ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60 回	試験曲の仕上げ	伴奏者同伴。前期実技試験本番を想定してホールや広い部屋でリハーサル。 本番用リード選び。 予習：リハーサルを想定して準備をする。 復習：リハーサルで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。
授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

1. 受講前に焦ることの無いよう、課題準備はしっかり計画的に行ってください。
レッスンで得た課題を次のレッスン時までに、受講生自身が練習して克服することが重要になります。
2. 毎回きちんとメモを取ること。
3. 録音・録画を使い自分自身でも演奏を客観的に聞く作業を行うこと。
4. レッスン内で自分が演奏する楽曲は、作曲者、作曲年代や音楽形式を調べておくこと。
・デイリーエクササイズ・ウォームアップ。（1時間×毎日）
・エチュードの復習と予習。（1 時間×47 回）
・試験課題楽曲について、参考文献を参照しまとめること。（2 時間×7 回）
・試験課題楽曲の復習と予習。（2 時間×23 回）

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期実技試験（100%）

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

音階教本 ：
「サクソフォーンのためのトレーニングブック」須川展也著 / 音楽の友社

エチュード ：
「サクソフォーンのための 50 の易しく斬新的な練習曲」/ G. ラクール
「クローゼ: サクソフォンのための日課練習曲」/ミュール編
「20 のエチュード」ブレマン
「18 のエチュード」ベルビギエ
「サクソフォンのための 48 の練習曲」フェルリング/ミュール　他

「うまくなろうサクソフォーン」須川展也著 / 音楽の友社

学習支援・履修上の注意

レッスンのルーティーンに慣れるまでは大変ですが、課題をこなすことによって確実に実力が身につきます。日々の練習を大切にしてください。
オフィスアワー 技術的なことや、演奏上での疑問点はそのままにせずレッスン時やメール、電話等にて教員にご相談ください。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP045	音楽実技 （トロンボーン）	１年・２年	２年通年	実技レッスン	8	中沢誠二・田村和久

授業概要

今まで自分では気づかなかった、奏法の癖や習慣を改善する。マウスピースと楽器の相性やメンテナンス方法に間違いや矛盾がないかもう一度検証し、演奏するにあたって楽器も自分も最高の状態を保ち、本番においては最高のパフォーマンスを発揮できるよう研究、学習する。常に「美しい音」を出すことを心掛ける。トロンボーン特有のスライドの効果的な使い方を習得すると同時に、ピストン楽器との関連性にも理解を深める。ソロ演奏のみならず、合奏時のトロンボーンの役割を理解し、よりレベルの高いアンサンブルを目指す。ソロ、アンサンブル共に、楽曲や作曲者、作品の背景を研究、学習する。

到達目標（学習の成果）

① トロンボーン演奏家として、また金管楽器の指導者としての技量と人格を身に着ける。
② ソロリサイタルや、演奏会の出演、企画・運営ができるよう目指す。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方 基本練習・奏法確認	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 楽器の持ち方やブレス、アンブシュア、姿勢、発音、スライドの使い方、リップスラーなど、基本的な奏法の確認を行い、今後の課題や練習方法について確認、立案 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	基本練習・エチュード	エチュードの練習方法を学ぶ。自分に合ったウォーミングアップや日々の練習方法を確認する。今までに意識的、または無意識に避けていた練習方法についてもう一度検証する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	基本練習・エチュード・スケール１	演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。正しい音程やリズムを身に着けると共に、フレーズや全体の構成についても研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	基本練習・エチュード・スケール２	演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する・スライディングやレガート奏法、替えポジションについて、トロンボーンの構造も確認しながら学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	基本練習・エチュード・スケール２	今までのレッスン内容に沿って新しいエチュードを演奏する。そのエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。長い間の演奏上の悪い癖や習慣がないか、また音楽的に不自然な部分はないかもう一度検証する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	基本練習・楽曲研究	自分の技量に合った楽曲を検討する。その楽曲を演奏するにはどのような練習が必要か、注意点は何かなど研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

7	楽曲の導入・学内試験、演奏会の楽曲選定	どんな楽曲があるのか、自分の技量に沿った効果的な楽曲はどんなものがあるのか、音を出す以前に調べる。これまでの学習では演奏していない調のスケールを確認、練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	楽曲のレッスン 1	ウォーミングアップとして、楽曲に含まれるすべての調のスケールを練習する。曲全体を見て、各所の練習方法を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	楽曲のレッスン 2	基礎奏法やエチュード練習と楽曲を演奏する事に矛盾がないか検証する。難しい部分については練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	楽曲のレッスン 3	曲全体の構成や調性、フレーズについて研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	楽曲のレッスン 4	伴奏譜とソロパートとの構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	楽曲のレッスン 5	伴奏とソロのフレーズやアーティキュレーションに矛盾や間違いがないか調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	伴奏を付けての練習 1	伴奏者との位置関係、立ち位置、向きなどを研究する。チューニング、ピアノ蓋の開閉具合についても確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	伴奏を付けての練習 2	伴奏との音量バランス、スピード感や役割、など、全体としての構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	伴奏を付けての練習 3	本番に向けて楽曲が自分の作品となるよう、より一層の磨きをかける。(暗譜を推奨する) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	基本練習・エチュード・スケール 1	前期に引き続きエチュードの練習。演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。技術練習も強化する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	基本練習・エチュード・スケール 2	エチュードの練習。演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。技術練習も強化する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	アンサンブル 1	少編成のアンサンブル楽曲の演奏。すべてのパートを練習 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

19	アンサンブル 2	周りの音を聴き取って、自分の役割やバランスを保つ訓練をする。正しい音程やリズムを身に着けると共に、フレーズや全体の構成についても研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	アンサンブル 3	すべてのパートを交代で演奏し、それぞれの役割を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	学内(外)の試験、コンクール、イベント、演奏会用の楽曲練習	目的と自分の技量に合った楽曲の検討。どのような練習が必要か研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	楽曲の導入	自分の技量に沿った楽曲の選定。楽曲の内容について調べ、必要なスケールや技術練習を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	楽曲のレッスン 1	ウォーミングアップとして、楽曲に含まれるすべての調のスケールを練習する。曲全体を見て、各所の練習方法を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	楽曲のレッスン 2	基礎奏法やエチュード練習と楽曲を演奏する事に矛盾がないか検証する。難しい部分については練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	楽曲のレッスン 3	曲全体の構成や調性、フレーズについて研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	楽曲のレッスン 4	伴奏譜とソロパートとの構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	楽曲のレッスン 5	伴奏とソロのフレーズやアーティキュレーションに矛盾や間違いがないか調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	伴奏を付けての練習 1	伴奏者との位置関係、立ち位置、向きなどを研究する。チューニング、ピアノ蓋の開閉具合についても確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	伴奏を付けての練習 2	伴奏との音量バランス、スピード感や役割、など、全体としての構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	伴奏を付けての練習 3	本番に向けて楽曲が自分の作品となるよう、より一層の磨きをかける。(暗譜を推奨する) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	基本練習・奏法確認	楽器の持ち方やブレス、アンブシュア、姿勢、発音、スライドの使い方、リップスラーなど、基本的な奏法の確認を行い、今後の課題や練習方法について確認、立案 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

32	基本練習・エチュード	エチュードの練習方法を学ぶ。自分に合ったウォーミングアップや日々の練習方法を確認する。今までに意識的、または無意識に避けていた練習方法についてもう一度検証する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	基本練習・エチュード・スケール 1	演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。正しい音程やリズムを身に着けると共に、フレーズや全体の構成についても研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	基本練習・エチュード・スケール 2	演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する・スライディングやレガート奏法、替えポジションについて、トロンボーンの構造も確認しながら学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	基本練習・エチュード・スケール 2	今までのレッスン内容に沿って新しいエチュードを演奏する。そのエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。長い間の演奏上の悪い癖や習慣がないか、また音楽的に不自然な部分はないかもう一度検証する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	基本練習・楽曲研究	自分の技量に合った楽曲を検討する。その楽曲を演奏するにはどのような練習が必要か、注意点は何かなど研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	楽曲の導入・学内試験、演奏会の楽曲選定	どんな楽曲があるのか、自分の技量に沿った効果的な楽曲はどんなものがあるのか、音を出す以前に調べる。これまでの学習では演奏していない調のスケールを確認、練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	楽曲のレッスン 1	ウォーミングアップとして、楽曲に含まれるすべての調のスケールを練習する。曲全体を見て、各所の練習方法を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	楽曲のレッスン 2	基礎奏法やエチュード練習と楽曲を演奏する事に矛盾がないか検証する。難しい部分については練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	楽曲のレッスン 3	曲全体の構成や調性、フレーズについて研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	楽曲のレッスン 4	伴奏譜とソロパートとの構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	楽曲のレッスン 5	伴奏とソロのフレーズやアーティキュレーションに矛盾や間違いがないか調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	伴奏を付けての練習 1	伴奏者との位置関係、立ち位置、向きなどを研究する。チューニング、ピアノ蓋の開閉具合についても確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

44	伴奏を付けての練習 2	伴奏との音量バランス、スピード感や役割、など、全体としての構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	伴奏を付けての練習 3	本番に向けて楽曲が自分の作品となるよう、より一層の磨きをかける。(暗譜を推奨する) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	基本練習・エチュード・スケール 1	前期に引き続きエチュードの練習。演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。技術練習も強化する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	基本練習・エチュード・スケール 2	エチュードの練習。演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。技術練習も強化する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	アンサンブル 1	少編成のアンサンブル楽曲の演奏。すべてのパートを練習 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	アンサンブル 2	周りの音を聴き取って、自分の役割やバランスを保つ訓練をする。正しい音程やリズムを身に着けると共に、フレーズや全体の構成についても研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	アンサンブル 3	すべてのパートを交代で演奏し、それぞれの役割を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	学内(外)の試験、コンクール、イベント、演奏会用の楽曲練習	目的と自分の技量に合った楽曲の検討。どのような練習が必要か研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	楽曲の導入	自分の技量に沿った楽曲の選定。楽曲の内容について調べ、必要なスケールや技術練習を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	楽曲のレッスン 1	ウォーミングアップとして、楽曲に含まれるすべての調のスケールを練習する。曲全体を見て、各所の練習方法を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	楽曲のレッスン 2	基礎奏法やエチュード練習と楽曲を演奏する事に矛盾がないか検証する。難しい部分については練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	楽曲のレッスン 3	曲全体の構成や調性、フレーズについて研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	楽曲のレッスン 4	伴奏譜とソロパートとの構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

57	楽曲のレッスン 5	伴奏とソロのフレーズやアーティキュレーションに矛盾や間違いがないか調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	伴奏を付けての練習 1	伴奏者との位置関係、立ち位置、向きなどを研究する。チューニング、ピアノ蓋の開閉具合についても確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	伴奏を付けての練習 2	伴奏との音量バランス、スピード感や役割、など、全体としての構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	伴奏を付けての練習 3	本番に向けて楽曲が自分の作品となるよう、より一層の磨きをかける。(暗譜を推奨する) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

曲の調、テンポや強弱、発想記号については事前に調べ、分かるようにしておく。

曲の内容や作曲者についても事前に調べておく。

レッスンで指摘されたことや習得したことは自分のものになり、納得するまで練習する。

常にトロンボーン楽曲を聴き、研究する。

自分の演奏を録画、録音し、客観的に研究する。

演奏会やコンクールなどには積極的に参加し、練習の進度を確認する。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
実技試験での演奏	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験（100%）

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考テキスト

書名：Warm-up Exercises 著者名：Emory Remington 出版社：Accura Music

書名：Melodious Etudes for Trombone Book 1 著者名：Joannes Rochut 出版社：CARL FISCHER
書名：Sixty selected studies for trombone Book 1 著者名：Kopprasch
出版社：CARL FISCHER／全音楽譜出版社
書名：Scale-exercise for trombone 著者名：中沢誠二 出版社：最初のレッスン時に配布する。 書名：Studienwerke fur Posaune 著者名：Alfed Jacobs 絶版に付き必要に応じてコピーを配布する。

履修上の注意・学習支援

どんな音を出したい、こんな演奏がしたいという理想を持つ。
現状に満足せず、向上心を持つ。

オフィスアワー

技術的なことや演奏上での疑問点があったら、そのままにしないで、レッスン時に相談すること。
メールでも随時受付します。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP046	音楽実技 (ユーフォニアムチューバ)	１年・２年	２年通年	実技レッスン	8	中沢誠二・田村和久

授業概要

今まで自分では気づかなかった、奏法の癖や習慣を改善する。マウスピースと楽器の相性やメンテナンス方法に間違いや矛盾がないかもう一度検証し、演奏するにあたって楽器も自分も最高の状態を保ち、本番においては最高のパフォーマンスを発揮できるよう研究、学習する。常に「美しい音」を出すことを心掛ける。ピストンやロータリーの特性と奏法の関連性を学ぶ。ソロ演奏のみならず、合奏時の役割を理解し、よりレベルの高いアンサンブルを目指す。ソロ、アンサンブル共に、楽曲や作曲者、作品の背景を研究、学習する。

到達目標（学習の成果）

① 演奏家として、また金管楽器の指導者としての技量と人格を身に着ける。
② ソロリサイタルや、演奏会の出演、企画・運営ができるよう目指す。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 基本練習・奏法確認	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 楽器の持ち方やブレス、アンブシュア、姿勢、発音、リップスラーなど、基本的な奏法の確認を行い、今後の課題や練習方法について確認、立案 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	基本練習・エチュード	エチュードの練習方法を学ぶ。自分に合ったウォーミングアップや日々の練習方法を確認する。今までに意識的、または無意識に避けていた練習方法についてもう一度検証する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	基本練習・エチュード・スケール１	演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。正しい音程やリズムを身に着けると共に、フレーズや全体の構成についても研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	基本練習・エチュード・スケール２	演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する・フィンガリングやレガート奏法、替え指について、楽器の構造も確認しながら学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	基本練習・エチュード・スケール２	今までのレッスン内容に沿って新しいエチュードを演奏する。そのエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。長い間の演奏上の悪い癖や習慣がないか、また音楽的に不自然な部分はないかもう一度検証する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	基本練習・楽曲研究	自分の技量に合った楽曲を検討する。その楽曲を演奏するにはどのような練習が必要か、注意点は何かなど研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

7	楽曲の導入・学内試験、演奏会の楽曲選定	どんな楽曲があるのか、自分の技量に沿った効果的な楽曲はどんなものがあるのか、音を出す以前に調べる。これまでの学習では演奏していない調のスケールを確認、練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	楽曲のレッスン 1	ウォーミングアップとして、楽曲に含まれるすべての調のスケールを練習する。曲全体を見て、各所の練習方法を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	楽曲のレッスン 2	基礎奏法やエチュード練習と楽曲を演奏する事に矛盾がないか検証する。難しい部分については練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	楽曲のレッスン 3	曲全体の構成や調性、フレーズについて研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	楽曲のレッスン 4	伴奏譜とソロパートとの構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	楽曲のレッスン 5	伴奏とソロのフレーズやアーティキュレーションに矛盾や間違いがないか調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	伴奏を付けての練習 1	伴奏者との位置関係、立ち位置や座る位置、向きなどを研究する。チューニング、ピアノ蓋の開閉具合についても確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	伴奏を付けての練習 2	伴奏との音量バランス、スピード感や役割、など、全体としての構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	伴奏を付けての練習 3	本番に向けて楽曲が自分の作品となるよう、より一層の磨きをかける。(暗譜を推奨する) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	基本練習・エチュード・スケール 1	前期に引き続きエチュードの練習。演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。技術練習も強化する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	基本練習・エチュード・スケール 2	エチュードの練習。演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。技術練習も強化する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	アンサンブル 1	少編成のアンサンブル楽曲の演奏。すべてのパートを練習 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

19	アンサンブル 2	周りの音を聴き取って、自分の役割やバランスを保つ訓練をする。正しい音程やリズムを身に着けると共に、フレーズや全体の構成についても研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	アンサンブル 3	すべてのパートを交代で演奏し、それぞれの役割を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	学内(外)の試験、コンクール、イベント、演奏会用の楽曲練習	目的と自分の技量に合った楽曲の検討。どのような練習が必要か研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	楽曲の導入	自分の技量に沿った楽曲の選定。楽曲の内容について調べ、必要なスケールや技術練習を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	楽曲のレッスン 1	ウォーミングアップとして、楽曲に含まれるすべての調のスケールを練習する。曲全体を見て、各所の練習方法を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	楽曲のレッスン 2	基礎奏法やエチュード練習と楽曲を演奏する事に矛盾がないか検証する。難しい部分については練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	楽曲のレッスン 3	曲全体の構成や調性、フレーズについて研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	楽曲のレッスン 4	伴奏譜とソロパートとの構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	楽曲のレッスン 5	伴奏とソロのフレーズやアーティキュレーションに矛盾や間違いがないか調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	伴奏を付けての練習 1	伴奏者との位置関係、立ち位置や座る位置、向きなどを研究する。チューニング、ピアノ蓋の開閉具合についても確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	伴奏を付けての練習 2	伴奏との音量バランス、スピード感や役割、など、全体としての構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	伴奏を付けての練習 3	本番に向けて楽曲が自分の作品となるよう、より一層の磨きをかける。(暗譜を推奨する) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	基本練習・奏法確認	楽器の持ち方やブレス、アンブシュア、姿勢、発音、リップスラーなど、基本的な奏法の確認を行い、今後の課題や練習方法について確認、立案 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	基本練習・エチュード	エチュードの練習方法を学ぶ。自分に合ったウォーミングアップや日々の練習方法を確認する。今までに意識的、または無意識に避けていた練習方法についてもう一度検証する。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	基本練習・エチュード・スケール 1	演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。正しい音程やリズムを身に着けると共に、フレーズや全体の構成についても研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	基本練習・エチュード・スケール 2	演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する・フィンガリングやレガート奏法、替え指について、楽器の構造も確認しながら学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	基本練習・エチュード・スケール 2	今までのレッスン内容に沿って新しいエチュードを演奏する。そのエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。長い間の演奏上の悪い癖や習慣がないか、また音楽的に不自然な部分はないかもう一度検証する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	基本練習・楽曲研究	自分の技量に合った楽曲を検討する。その楽曲を演奏するにはどのような練習が必要か、注意点は何かなど研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	楽曲の導入・学内試験、演奏会の楽曲選定	どんな楽曲があるのか、自分の技量に沿った効果的な楽曲はどんなものがあるのか、音を出す以前に調べる。これまでの学習では演奏していない調のスケールを確認、練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	楽曲のレッスン 1	ウォーミングアップとして、楽曲に含まれるすべての調のスケールを練習する。曲全体を見て、各所の練習方法を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	楽曲のレッスン 2	基礎奏法やエチュード練習と楽曲を演奏する事に矛盾がないか検証する。難しい部分については練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	楽曲のレッスン 3	曲全体の構成や調性、フレーズについて研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	楽曲のレッスン 4	伴奏譜とソロパートとの構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	楽曲のレッスン 5	伴奏とソロのフレーズやアーティキュレーションに矛盾や間違いがないか調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	伴奏を付けての練習 1	伴奏者との位置関係、立ち位置や座る位置、向きなどを研究する。チューニング、ピアノ蓋の開閉具合についても確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

44	伴奏を付けての練習 2	伴奏との音量バランス、スピード感や役割、など、全体としての構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	伴奏を付けての練習 3	本番に向けて楽曲が自分の作品となるよう、より一層の磨きをかける。(暗譜を推奨する) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	基本練習・エチュード・スケール 1	前期に引き続きエチュードの練習。演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。技術練習も強化する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	基本練習・エチュード・スケール 2	エチュードの練習。演奏するエチュードと同じ調と並行調のスケールを練習する。技術練習も強化する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	アンサンブル 1	少編成のアンサンブル楽曲の演奏。すべてのパートを練習 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	アンサンブル 2	周りの音を聴き取って、自分の役割やバランスを保つ訓練をする。正しい音程やリズムを身に着けると共に、フレーズや全体の構成についても研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	アンサンブル 3	すべてのパートを交代で演奏し、それぞれの役割を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	学内(外)の試験、コンクール、イベント、演奏会用の楽曲練習	目的と自分の技量に合った楽曲の検討。どのような練習が必要か研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	楽曲の導入	自分の技量に沿った楽曲の選定。楽曲の内容について調べ、必要なスケールや技術練習を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	楽曲のレッスン 1	ウォーミングアップとして、楽曲に含まれるすべての調のスケールを練習する。曲全体を見て、各所の練習方法を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	楽曲のレッスン 2	基礎奏法やエチュード練習と楽曲を演奏する事に矛盾がないか検証する。難しい部分については練習方法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	楽曲のレッスン 3	曲全体の構成や調性、フレーズについて研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	楽曲のレッスン 4	伴奏譜とソロパートとの構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

57	楽曲のレッスン 5	伴奏とソロのフレーズやアーティキュレーションに矛盾や間違いがないか調べる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	伴奏を付けての練習 1	伴奏者との位置関係、立ち位置や座る位置、向きなどを研究する。チューニング、ピアノ蓋の開閉具合についても確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	伴奏を付けての練習 2	伴奏との音量バランス、スピード感や役割、など、全体としての構成を確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	伴奏を付けての練習 3	本番に向けて楽曲が自分の作品となるよう、より一層の磨きをかける。(暗譜を推奨する) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

曲の調、テンポや強弱、発想記号については事前に調べ、分かるようにしておく。

曲の内容や作曲者についても事前に調べておく。

レッスンで指摘されたことや習得したことは自分のものになり、納得するまで練習する。

常に担当楽器の楽曲を聴き、研究する。

自分の演奏を録画、録音し、客観的に研究する。

演奏会やコンクールなどには積極的に参加し、練習の進度を確認する。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
実技試験での演奏	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験（100%）

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

書名：Warm-up Exercises 著者名：Emory Remington 出版社：Accura Music

書名：Melodious Etudes for Trombone Book 1 著者名：Joannes Rochut 出版社：CARL FISCHER

書名：Sixty selected studies for trombone Book 1 著者名：Kopprasch 出版社：CARL FISCHER／全音楽譜出版社

書名：Technical Studies(ヘ音版)　著者名：H.L.Clarke　出版社：CARL FISCHER

書名：Scale-exercise for trombone 著者名：中沢誠二 出版社：最初のレッスン時に配布する。 書名：Studienwerke fur Posaune 著者名：Alfed Jacobs 絶版に付き必要に応じてコピーを配布する。

学習支援・履修上の注意 どんな音を出したい、こんな演奏がしたいという理想を持つ。 現状に満足せず、向上心を持つ。
オフィスアワー 技術的なことや演奏上での疑問点があったら、そのままにしないで、レッスン時に相談すること。 メールでも随時受付します。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP047	音楽実技 (打楽器)	１年・２年	２年通年	実技	８	大塚　裕一

授業概要

小太鼓の技術は、あらゆる打楽器に共通する基礎技術である
さまざまな楽曲をより質の高い内容で表現するための本質的な技術・理論を学ぶ

到達目標（学習の成果）

身につけた技術を活かし、さまざまな楽曲を演奏できるようになる。（技術・方法・態度）
多様な打楽器・奏法について学び、音作りや構造の理解をできるようになる（知識・技術・方法）

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 技術の見極め	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 今まで受講者が学んできた基本技法等を確認する 技量に応じ教材や楽曲を判断 予習：レッスンを受ける曲を準備する 復習：レッスンで学んだことを復習する
2回	基本技法 一つ打ち（1）	楽器のセッティング方法と立ち位置のとり方を学ぶ 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
3回	基本技法 一つ打ち（2）	グリップと打点の捉え方を学ぶ 発音イメージを構築する 片手・両手で同間隔に均等な音色を叩けるようにする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
4回	基本技法 一つ打ち（3）	一つ打ちの速度を徐々に上げられるようにする 骨格の理解　肩・ひじ・手首・指先等の身体の使い方を学び それに伴うストロークラインの研究をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
5回	基本技法 一つ打ち（4）	更に速度を上げ一つ打ちを行えるようにする 速く叩けるようにするための練習方法を学ぶ 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
6回	楽器の構造とチューニング（調整方法）（1）	小太鼓の構造を理解する 自分で表現したい音色をつくる為の調整技術を身につける（ヘッドの交換方法） 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
7回	楽器の構造とチューニング（2）	小太鼓による音のつくり方を学ぶ 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
8回	エチュード（1） +スケール	一つ打ちの練習と合わせて簡単なエチュードを始める 始めは２拍子系の４分音符・８分音符のみのエチュードから実施する 鍵盤楽器によるスケール（C・a）練習をする

		予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
9回	エチュード（2） +スケール	一つ打ちの練習をする エチュードは、音色や音符・休符の音価を正確に感じられるように練習する 鍵盤楽器によるスケール（F・d）練習をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
10回	エチュード（3） +スケール	前回までの音価に加え１６分音符を用いたエチュードの導入 鍵盤楽器によるスケール（G・e）練習をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
11回	エチュード（4） +スケール	打楽器は特に、さまざまな楽曲に対応できる技術を身につける必要があるためエチュードのレベルを上げて練習を続ける 鍵盤楽器によるスケール（B・g）練習をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
12回	エチュード（5） +スケール	ここまでのエチュードの不正確な部分の確認と、修正する方法を学ぶ 鍵盤楽器によるスケール（D・h）練習をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
13回	アクセント（1）	エチュードの確認をする アクセント奏法を学ぶ 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
14回	アクセント（2）	アクセントの練習方法を学ぶ アクセントをテーマにしたエチュードを練習する 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
15回	アクセント（3）	アクセント技術の定着確認をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
16回	基本技法 二つ打ち（1）	今まで受講者が学んできた基本技法に加えて、二つ打ちの練習を導入する 二つ打ちはロールの基本技法につながるので興味を持って練習できるようにする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
17回	基本技法 二つ打ち（2）	１ストロークで二つの音を出すため身体の使い方を研究する。 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
18回	基本技法 二つ打ち（3）	二つ打ちの速度を徐々に上げられるようにする 手を早く動かせるようにするための練習方法を学ぶ 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
19回	基本技法 二つ打ち（4）	（オープン）ロールとして叩ける程度まで速度を上げられるようにする ここまでで、演奏できる楽曲が大きく広がるので次のエチュードを選定する 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
20回	基本技法	フラによる装飾のつけ方と練習方法を学ぶ

	装飾音符（1）	装飾とは別にエチュードは４拍子や３拍子の入り混じったものを導入する 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
21 回	基本技法 装飾音符（2）	フラによるエチュードを学ぶ 拍子の入り混じったエチュードを演奏する 拍子の違いを表現できるようにする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
22 回	基本奏法 装飾音符（3）	ラフによる装飾のつけ方と練習方法を学ぶ ラフまで使用したエチュードを学ぶ 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
23 回	基本奏法 装飾音符（4）	装飾音符３つ以上の場合のつけ方と練習方法を学ぶ 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
24 回	基本技法 ロール（1） +スケール	基本奏法（クローズ）ロールを学ぶ 鍵盤楽器によるスケール（Ｅｓ・ｃ）練習をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
25 回	基本技法 ロール（2） ＋スケール	基本奏法（クローズ）ロールがより滑らかになるように調整する 鍵盤楽器によるスケール（Ａ・ｆｉｓ）練習をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
26 回	基本技法 ロール（3） ＋スケール	ロールを題材にしたエチュードを学ぶ 鍵盤楽器によるスケール（Ａｓ・ｆ）練習をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
27 回	基本技法 ロール（4） ＋スケール	ロールを題材にしたエチュードの確認をする 鍵盤楽器によるスケール（Ｅ・ｃｉｓ）練習をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
28 回	鍵盤エチュード（1）	マリンバでの楽曲演習をする ゆっくりとしたテンポで楽曲に向き合う 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
29 回	鍵盤エチュード（2）	マリンバでの楽曲演習をする 楽曲の構造を理解し手順確認をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
30 回	鍵盤エチュード（3）	マリンバでの楽曲演習をする 指定のテンポで楽曲を演奏できるようにする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
31 回	基本技法 五つ打ち（1）	五つ打ちの奏法を学ぶ 左右が同間隔で均等な音色で叩けるようにする。 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
32 回	基本技法 五つ打ち（2）	徐々に速度を上げられるようにする 手を早く動かせるようにするための練習方法を学ぶ 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
33 回	基本技法 五つ打ち（3）	（オープン）ロールとして叩ける程度まで速度を上げられるようにする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する

34回	基本技法 七つ打ち（1）	七つ打ちの奏法を学ぶ 左右が同間隔で均等な音色で叩けるようにする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
35回	基本技法 七つ打ち（2）	徐々に速度を上げて練習をする 手を早く動かせるようにするための練習方法 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
36回	楽曲のレッスン（第一楽章）（1）	マルチパーカッション　ウィリアム・クラフト作曲の「フランス組曲」の第一楽章から練習する 演奏方法などを確認する 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
37回	楽曲のレッスン（第一楽章）（2）	譜面を見ながらでも一通り演奏し、技術の追いついていない個所などをチェック、修正する 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
38回	楽曲のレッスン（第一楽章）（3）	この楽曲は暗譜で演奏することを前提として練習を行う 卒業までに全曲を暗譜で演奏できるようにする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
39回	楽曲のレッスン（第一楽章）（4）	第一楽章の仕上げとして、音楽的な間のとり方、テンポ設定など修正する この曲は個人で継続的に練習を重ねる 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
40回	楽曲のレッスン（第二楽章）（1）	「フランス組曲」の第二楽章の練習をする 演奏方法などを確認する 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
41回	楽曲のレッスン（第二楽章）（2）	譜面を見ながらでも一通り演奏し、技術の追いついていない個所などをチェック、修正する 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
42回	楽曲のレッスン（第二楽章）（3）	暗譜で演奏することを前提として練習を行う 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
43回	楽曲のレッスン（第二楽章）（4）	第二楽章の仕上げとして、音楽的な間のとり方、テンポ設定など修正する この曲は個人で継続的に練習を重ねる。 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
44回	楽曲のまとめ	第一楽章を復習しながら細かい個所の確認をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
45回	楽曲のまとめ	楽章間のつなぎ方や、パフォーマーとしての説得力など、音楽を際立たせるための研究を行う 本番を想定した上で演奏を試みる 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
46回	基本技法 ＋スケール	今まで受講者が学んできた基本技法の復習と基本技法を音楽作品として聴かせるための研究をする 鍵盤楽器によるスケール（Ａｓ・ｆ）練習をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
47回	基本技法 ＋スケール	基本技法の締めくくりとして、一つ打ちからロールまでを一つの音楽作品として演奏する

		鍵盤楽器によるスケール（Ａｓ・ｆ）練習をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
48回	Ｔｉｍｐａｎｉ（1）	チューニング方法を学ぶ マレットの選定をする 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
49回	Ｔｉｍｐａｎｉ（2）	ロール奏法を学ぶ エチュード 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
50回	Ｔｉｍｐａｎｉ（3）	エチュードを学ぶ 音の配置の仕方 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
51回	Ｔｉｍｐａｎｉ（4）	楽曲のまとめを行う 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
52回	楽曲のレッスン（第三楽章）（1）	「フランス組曲」の第三楽章の練習をする 演奏方法などを確認する 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
53回	楽曲のレッスン（第三楽章）（2）	この曲はシンバルの演奏方法が細かく指定されているので、叩く場所や撥の使い方によりさまざまな音色が表現できることを学ぶ 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
54回	楽曲のレッスン（第三楽章）（3）	四本マレットの奏法の確認を行う。 技術の追いついていない個所をチェック、修正する 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
55回	楽曲のレッスン（第三楽章）（4）	第三楽章の仕上げとして、音楽的な間のとり方、テンポ設定など修正する 引き続きこの曲は個人で継続的に練習を重ねる 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
56回	楽曲のレッスン（第四楽章）（1）	第四楽章は最も技術的に難しい楽章なので慎重に譜読みを行う ボンゴなどのチューニング技術を学ぶ 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
57回	楽曲のレッスン（第四楽章）（2）	ゆっくりしたテンポから始め、確実な音色が出せるように身体の運び方を研究する 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
58回	楽曲のレッスン（第四楽章）（3）	全体のテーマや展開部など明確に表現できるよう練習する 楽曲のシャープな印象をつくり上げる 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
59回	楽曲のレッスン（第四楽章）（4）	確実に暗譜できているか確認する 全体を音楽的に修正する 予習：課題を練習する 復習：レッスンで学んだことを復習する
60回	楽曲のまとめ	楽章間のつなぎ方や、パフォーマーとしての説得力など、音楽を際立たせるための研究を行う 本番を想定した上で演奏を試みる 予習：課題を練習する

		復習：レッスンで学んだことを復習する

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

具体例として日々継続的に１時間を目安に実技に向き合えるようにしましょう。

その内容は、基礎練習（音色・奏法の研究）・楽曲の予習復習を軸とし必要に応じた学習の組み立てをするよう工夫してください。

日々の準備学習の内容をノートにまとめ目的を持った取り組みと改善に取り組むようにしましょう。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
・身につけた技術を活かし、様々な楽曲を演奏できるようになる。 ・多様な打楽器・奏法について学び、音作りや構造を理解し、表現できるようになる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期実技試験（100%）

教科書

各学生のレベルに応じて選定した教材を授業内で指示する。

参考書等

打楽器教則本　今村征男/塚田靖

小太鼓１００曲集　網代景介/岡田知之

MODERN SCHOOL for SNARE DRUM　Morris Goldenberg

MODERN SCHOOL for XYLOPHONE,MARIMBA,VIBRAPHONE　Morris Goldenberg

PORTRAITS IN RHYTHM　Anthony J.Cirone

ALL AMERICAN DRUMMER　Charley Wilcoxon

学習支援・履修上の注意

打楽器の練習は鍵盤楽器等を別としてリズムしかないので変化に乏しくなる

そのため、学生は進んで他の学生とアンサンブルやオーケストラなどで合奏能力を高める必要がある

打楽器は種類が多いのでさまざまな楽器の習得も進んで行うようにする

オフィスアワー

質問等があれば、オフィス・アワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分間程度、１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP048	音楽実技 (マリンバ)	１年・２年	２年通年	実技レッスン	８	髙島聡美

授業概要

ひとり一人に合わせた基礎練習、エチュードを用いた技術の向上でマリンバ演奏の基本技術を養いながら、演奏力を高めるためのレッスンをおこないます。
日本のオリジナル作品を大切に、モダン、クラシック、世界のオリジナル作品と幅広い視野で音楽をみつめ実技試験や学内演奏会などで演奏する楽曲に取り組みます。

到達目標（学習の成果）

・マリンバやヴィブラフォンなど鍵盤打楽器を演奏する上での基本的な技術と楽曲の演奏技術を習得する。
・ピアノなどほかの楽器とのアンサンブルを通して合奏力と表現力を養う。
・演奏会やワークショップの経験を通して地域や社会に貢献できる力を身に付ける。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	基礎技法の確認	基本技法の確認。 予習：マリンバについて調べる。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	基礎・エチュード（1）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン （正確な楽譜の読み取りとマレットの使い方） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	基礎・エチュード（2）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン （音の確認と演奏のポイント） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	基礎・エチュード（3）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン （エチュードの定着、テンポ指定） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	基礎・エチュード（4）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン （エチュードの仕上げ、以後エチュードは毎回継続） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	前期試験曲の導入	基礎レッスン 楽曲の正確な楽譜の読み取り 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	楽曲のレッスン（1）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント （作品の背景と共に） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	楽曲のレッスン（2）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント （楽曲前半1、正確な楽譜の読み取り） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	楽曲のレッスン（3）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント （楽曲前半2、演奏のポイント） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

10	楽曲のレッスン（4）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント （楽曲後半1、正確な楽譜の読み取り） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	楽曲のレッスン（5）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント （楽曲後半2、演奏のポイント） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	伴奏合わせ（1）	ピアノとのアンサンブル 1（楽譜の確認） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	伴奏合わせ（2）	ピアノとのアンサンブル 2（楽曲の定着） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	伴奏合わせ（3）	ピアノとのアンサンブル 3（表現の工夫） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	楽曲の仕上げ	仕上げの演奏 作品への理解を深め、演奏をより確実にするための確認 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	前期復習	前期に受講者が学んできた基本技法や楽曲を演奏してもらい適切なエチュード資料を配布しレッスン計画を行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	基礎・エチュード（1）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン (正確な楽譜の読み取りとマレットの使い方) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	基礎・エチュード（2）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン (音の確認と演奏のポイント) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	基礎・エチュード（3）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン (エチュードの定着、テンポ指定) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	基礎・エチュード（4）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン (エチュードの仕上げ、以後エチュードは毎回継続) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	後期試験曲の導入	基礎レッスン 楽曲の正確な楽譜の読み取り 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	楽曲のレッスン（1）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント (作品の背景と共に) 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	楽曲のレッスン（2）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント （楽曲前半 1、正確な楽譜の読み取り） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	楽曲のレッスン（3）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント （楽曲前半 2、演奏のポイント） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	楽曲のレッスン（4）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント （楽曲後半 1、正確な楽譜の読み取り） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	楽曲のレッスン（5）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント （楽曲後半 2、演奏のポイント） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	伴奏合わせ（1）	ピアノとのアンサンブル 1（楽譜の確認） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	伴奏合わせ（2）	ピアノとのアンサンブル 2（楽曲の定着） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	伴奏合わせ（3）	ピアノとのアンサンブル 3（表現の工夫） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	楽曲の仕上げ	仕上げの演奏 作品への理解を深め、演奏をより確実にするための確認、1 年間のおさらい 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	1 年復習	1 年生のうちに受講者が学んできた基本技法や楽曲を演奏してもらい適切なエチュード資料を配布しレッスン計画を行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	基礎・エチュード（1）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン （正確な楽譜の読み取りとマレットの使い方） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	基礎・エチュード（2）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン （音の確認と演奏のポイント） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

34	基礎・エチュード（3）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン (エチュードの定着、テンポ指定) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	基礎・エチュード（4）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン (エチュードの仕上げ、以後エチュードは毎回継続) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	前期試験曲の導入と 学内演奏会に向けたレッスン計画	基礎レッスン 楽曲の正確な楽譜の読み取り 学内演奏会の計画 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	楽曲のレッスン（1）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント (作品の背景と共に) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	楽曲のレッスン（2）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント (楽曲前半 1、正確な楽譜の読み取り) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	楽曲のレッスン（3）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント (楽曲前半 2、演奏のポイント) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	楽曲のレッスン（4）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント (楽曲後半 1、正確な楽譜の読み取り) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	楽曲のレッスン（5）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント (楽曲後半 2、演奏のポイント) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	伴奏合わせ（1）	ピアノとのアンサンブル 1（楽譜の確認） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	伴奏合わせ（2）	ピアノとのアンサンブル 2（楽曲の定着） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	伴奏合わせ（3）	ピアノとのアンサンブル 3（表現の工夫） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	楽曲の仕上げ	仕上げの演奏 作品への理解を深め、演奏をより確実にするための確認 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

46	前期復習	前期に受講者が学んできた基本技法や楽曲を演奏してもらい適切なエチュード資料を配布しレッスン計画を行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	基礎・エチュード（1）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン (正確な楽譜の読み取りとマレットの使い方) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	基礎・エチュード（2	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン (音の確認と演奏のポイント) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	基礎・エチュード（3）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン (エチュードの定着、テンポ指定) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	基礎・エチュード（4）	２本マレット、４本マレットの基礎レッスン (エチュードの仕上げ、以後エチュードは毎回継続) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	卒業試験曲の導入	基礎レッスン 楽曲の正確な楽譜の読み取り 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	楽曲のレッスン（1）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント (作品の背景と共に) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	楽曲のレッスン（2）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント (楽曲前半 1、正確な楽譜の読み取り) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	楽曲のレッスン（3）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント (楽曲前半 2、演奏のポイント) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	楽曲のレッスン（4）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント (楽曲後半 1、正確な楽譜の読み取り) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	楽曲のレッスン（5）	基礎レッスン 楽曲の音の確認と演奏のポイント (楽曲後半 2、演奏のポイント) 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	伴奏合わせ（1）	ピアノとのアンサンブル 1（楽譜の確認） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	伴奏合わせ（2）	ピアノとのアンサンブル 2（楽曲の定着） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	伴奏合わせ（3）	ピアノとのアンサンブル 3（表現の工夫） 無伴奏曲受講者はリズムビートで行う 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	楽曲の仕上げ	仕上げの演奏 作品への理解を深め、演奏をより確実にするための確認、2 年間のおさらい 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（事前・事後学習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。

授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

① 基礎スケールアルペジオ ② 配布されたエチュード・テクニック集 ③ 楽曲

・レッスン内容を復習した上で①～③を毎日練習しましょう。
次のレッスンに臨む際は事前準備をしておくことで、技術の定着と上達、楽曲の理解につながります。

・打楽器の練習は打音のため耳と神経が非常に疲れるので長時間やればやるほど能率が落ちてきます。
そのため短い時間で神経を集中させた練習が重要です。

・楽曲を演奏する場合はその曲の作曲家に関する知識や作曲された背景など勉強しておくとより幅の広い演奏ができるようになります。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験　100%

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考資料等

・Developing Four Mallet Technique/Marj Holmgren
・Stevens, Leigh Howard - Method of Movement for Marimba with 590 Exercises

・Etude-Paul Smadbeck
・Etude-Davide Zeta
(レッスン内容に応じて選択したものを学期初めのレッスンで教員より配布)

試験曲：受講生と相談の上、選曲

履修上の注意・学習支援

・レッスンで必要な配慮のある場合は、事前にご相談ください。
・上達するには毎日の練習が欠かせません。１回に集中的に練習するよりも毎日一定時間の練習を積み重ねていくことが技術の上達に結びつきます。

オフィスアワー

・質問はレッスン前後、またはメール s.takashima@ujc.ac.jp にてご相談ください。
・技術的なことや演奏上での疑問は、レッスン中も遠慮なくご相談ください。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP049	音楽実技 (邦楽)	１年・２年	２年通年	実技	８	和久　文子

授業概要

箏曲の基礎である古典曲から現代邦楽まで幅広い内容の箏の個人レッスンを実施する。
高度な技術修得に発展させるための基本的な演奏法を身に付ける。

到達目標（学習の成果）

基礎となる古典曲を学び、展開・応用のきく技術を身に付けることができる。古典に加え、宮城道雄作品・現代邦楽作品の中で古典的な奏法が生かされていることが分かる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 古典・八橋検校の代表作品に触れる	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 箏曲の基礎である「六段の調」を通して古典的奏法を学ぶ。 予習：レッスン曲を準備する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2回	古典曲・歌物	古典「八千代獅子」 地歌の基礎を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3回	古典曲の合奏形態	古典特有の呼吸や序破急を身に付ける。また、地歌の発声を意識し、修得する。三曲形態(箏・三絃・尺八)による合奏を学ぶ。 予習:課題を練習する。 復習:レッスンで学んだことを復習する。
4回	古典奏法を現代に	古典奏法が現代曲に生かされていることを意識しながら、現代曲のタッチと表現力を身に付ける。現代曲「鷹」「水面」等 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5回	古典曲を現代に	古典曲「千鳥の曲」をベースとした箏と十七絃による二重奏を通して、古典から現代への融合を学ぶ。 古典・現代曲「千鳥幻想」 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6回	関連箏曲―（1） 〈三絃〉	三絃の基礎を学ぶ。 三絃の基本的奏法。 箏との関連性を知る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7回	関連箏曲―（2） 〈尺八〉	箏曲と関連性を理解するため尺八の基礎を学ぶ。 尺八の実践。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8回	新日本音楽―（1）	宮城道雄の代表曲である「春の海」を修得する。 宮城曲「春の海」 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

9回	新日本音楽―（2）	「春の海」の楽曲を箏と尺八のアンサンブルにより理解する。 尺八の呼吸を感じ取りながら演奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10回	関連箏曲―（3） 〈十七絃〉	十七絃の基礎を学ぶ。 箏と十七絃の特色と音色の違いについて学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11回	現代曲―（1）	古典曲と現代曲の奏法・リズムの違いを学ぶ。 現代曲に関するテクニックを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12回	現代曲―（2）	基本的な奏法や押手の音程・フレーズを確認し、演奏に活かす。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13回	課題曲の練習―（1）	音色と細かい演奏技術力を修得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14回	課題曲の練習―（2）	楽曲の完成度を高める。前期総復習。 演奏マナーの実践。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15回	課題曲を仕上げる	前期修得のガイダンス 箏曲の基礎である「六段の調」を通して古典的奏法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16回	近世の作品―（1） 〈江戸初期〉	八橋検校の代表曲の一つである「みだれ」を通し、古典のもつ「間」と序破急を学ぶ。古典「みだれ」 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17回	近世の作品―（2）	奏法や音程、更に曲フレーズを意識し、曲の面白さを引き出す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18回	近世の作品―（3）	曲の特色を生かした緩急で曲を仕上げる。 また、本手と替手との合奏に取り組む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19回	関連箏曲―（1） 〈三絃〉	前期の基礎学習を活かした、三絃の実践。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20回	近代の作品―（1） 〈明治・大正〉	正確に譜読みをし、「砧地」と呼ばれる古典的な音型を意識しながら取り組む。宮城曲「砧」 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21回	近代の作品―（2）	押し手の音程を正確にできるようにし、旋律と伴奏のバランスを考えながら演奏する。高低のパートに分かれ、合奏に取り組み仕上げる。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
22 回	関連箏曲―（2） 〈十七絃〉	前期の基礎学習を活かした、十七絃の実践。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23 回	現代の作品―（1） 〈昭和・平成〉	十七絃の入った合奏曲に取り組む。曲のもつテンポの変化を意識して演奏する。現代曲「天翔るきらめき」 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24 回	現代の作品―（2）	幻想的な章と躍動感のある章の表現の区別を付けて演奏。 曲に合った音色を出せるように心がける。合奏して仕上げ。曲のもつ意味とイメージを膨らませ、それを音に表現する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25 回	関連箏曲―（3） 〈尺八〉	前期の基礎学習を活かした、尺八の実践。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26 回	多くの作曲家の作品に触れる―（1）	流派を越えた作品の実践と鑑賞。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27 回	多くの作曲家の作品に触れる―（2）	洋楽の作曲家による作品の実践と鑑賞。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28 回	課題曲の練習―（1）	現代曲のリズムの変化を感じ取りながら、テクニックを修得する。 現代曲「神仙調舞曲」（独奏曲） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29 回	課題曲の練習―（2）	楽章の曲調の変化を学ぶと共に、現代曲のテクニックを修得する。 （曲間の転調や押し手の音程等） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30 回	課題曲を仕上げる	楽曲の完成度を高める。後期総復習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31 回	２年次前期修得計画 古典曲・歌物―（1）	「千鳥の曲」を通して地歌を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32 回	古典曲・歌物―（2）	古今和歌集から成る歌詞の意味を理解し、楽曲に活かす。 「アタリ」の修得。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33 回	古典曲の合奏形態	本手と替手を修得し、合奏を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34 回	古典奏法を現代に―（1）	古典奏法が現代曲に生かされていることを意識しながら、現代曲のタッチと表現力を身に付ける。現代曲「三つのパラフレーズ」等 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

35 回	古典奏法を現代に―（2）	楽章ごとの曲作り 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36 回	関連箏曲―（1） 〈三絃〉	三絃の実践 三絃の応用を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37 回	関連箏曲―（2） 〈十七絃〉	十七絃の実践。 十七絃の応用を学ぶ。音色の追及。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38 回	新日本音楽―（1）	宮城道雄の代表曲である「瀬音」を修得する。 宮城曲「瀬音」 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39 回	新日本音楽―（2）	箏と十七絃の二重奏に取り組む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40 回	関連箏曲―（3） 〈尺八〉	尺八の実践　尺八の応用を学び、曲作りに活かす。 箏と尺八の二重奏に取り組む。現代曲「壱越」 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41 回	現代曲―（1）	箏・十七絃・尺八の三重奏の取り組み。 現代曲「道化師」 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42 回	現代曲―（2）	楽器の特徴を理解し、楽曲の表現力を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43 回	課題曲の練習―（1）	高度な技術をマスターし、演奏に活かす。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44 回	課題曲の練習―（2）	高度な演奏技術力を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45 回	課題曲を仕上げる	合奏を中心とした楽曲の完成度を高める。 前期総復習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46 回	近世の作品―（1） 〈江戸後期〉	光崎検校の代表曲の一つである「五段砧」を通して、古典曲の面白さを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47 回	近世の作品―（2）	奏法や音程、更に曲フレーズを意識し、曲の面白さを引き出す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48 回	近世の作品―（3）	曲の特色を生かした緩急で曲を仕上げる。 また、本手と替手との合奏に取り組む。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49回	関連箏曲―（1） 〈三絃〉	前期の基礎学習を活かした、三絃の実践と合奏。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50回	近代の作品―（1） 〈明治・大正〉	正確に譜読みをし、「砧地」と呼ばれる古典的な音型を意識しながら取り組む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51回	近代の作品―（2）	押し手の音程を正確にできるようにし、旋律と伴奏のバランスを考えながら演奏する。高低のパートに分かれ、合奏に取り組み仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52回	関連箏曲―（2） 〈十七絃〉	前期の基礎学習を活かした、十七絃の実践と合奏。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53回	現代の作品―（1） 〈昭和・平成〉	十七絃の入った合奏曲に取り組む。曲のもつテンポの変化を意識して演奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54回	現代の作品―（2）	箏のもつ響を意識し、繊細且つ緊張感のある音楽づくりに取り組む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55回	関連箏曲―（3） 〈尺八〉	前期の基礎学習を活かした、尺八の実践。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56回	多くの作曲家の作品に触れる―（1）	流派を越えた作品の実践と鑑賞。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57回	多くの作曲家の作品に触れる―（2）	洋楽の作曲家による作品の実践と鑑賞。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58回	課題曲の練習―（1）	二年間で修得した技術を活かし、楽曲に取り組む。 現代曲「若葉に」「鳥のように」（独奏曲） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59回	課題曲の練習―（2）	豊かな表現力を楽曲に活かし、完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60回	課題曲を仕上げる	二年間の総復習と今後に向けての更なるモチベーションを高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・親指・中指・人差し指それぞれに合わせた指の練習。メトロノームに合わせたスケールの練習。

・課題曲の復習と予習。

・試験課題曲について、参考文献を参照しまとめること。歌のある楽曲については歌詞の意味を調べ、理解を深める。
・試験課題曲の復習と予習。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・楽曲についての理解 ・基礎技術の習得度 ・楽曲に応じた技術の習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験（100%）

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

大日本家庭音楽会発行公刊楽譜
正派公刊楽譜
邦楽社発行公刊楽譜
ミュージックエス公刊楽譜

学習支援・履修上の注意

レッスン前に演奏の準備を整える。

オフィスアワー

疑問があれば、wakuwaku.koto@gmail.com にメールをください。終日受け取り可。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP050	副科実技 （ピアノ）	１年・２年	２年通年	実技	4	新井啓泰

授業概要

良い演奏をするには曲だけを練習しても技術を完全に習得することはできない。レッスンでは音階・練習曲等を通して技術を学ぶ。
音楽における基礎的な演奏技術を学ぶと共に音楽学習者にとって必要な四期（バロック、古典、ロマン、近現代）の音楽に触れ、各時代の様式を幅広く学習する。

〈１年〉
１年前期実技試験課題曲　［①４期の中より任意の曲　②ハノン　No.1～５まで。（視奏可）］
１年後期実技試験課題曲　［①４期の中より任意の曲　②スケール　C-dur,a-moll］

〈２年〉
２年前期実技試験課題曲　［①４期の中より任意の曲　②スケール　１♯１♭まで］
２年後期実技試験課題曲　［①４期の中より任意の曲　②スケール　２♯２♭まで］

到達目標(学習の成果)

〈１年〉
日々の練習を地道に行い基本的な音楽的教養が身につき、またバロック期・古典期の音楽を用いて様式、時代背景を学習し理解できるようになる。

〈２年〉
日々の練習を地道に行い、基礎的な演奏技術を学ぶと共に基本的な音楽的教養を身につける。また、ロマン期・近現代期の楽曲を用いて演奏様式、時代背景を学習し理解できるようになる。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方 曲の選定	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 今までの学習歴を参考に、今後のレッスン計画を個々のレベルに合わせて考える。 予習：ピアノの仕組みについて調べる。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	ハノンについて	各学生の進度、レベルに合わせて、課題（No.１～５）でもあるハノンを用いて指の基礎的学習を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	練習曲について	各学生の進度に合わせて、練習曲を取り入れる。選曲は担当に委ねる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	楽曲について	２年間で修得すべき四期（バロック・古典・ロマン・近現代）についての理解、認識を深め既習曲がどのジャンルに属するかを確認し、今後学ぶべき楽曲を検討する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	バロック期の作品について	参考作曲家：バッハ・ヘンデル・スカルラッティ・ラモー・クープラン等の時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	古典期の作品について	参考作曲家：ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェン・クーラウ・クレメンティ等の時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	ロマン期の作品について	参考作曲家：シューベルト・シューマン・ショパン・ブラームス等の時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	近現代期の作品について	参考作曲家：ドビュッシュー・ラヴェル・バルトーク・カバレフスキー等、時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	課題曲Ⅰ＋ハノン（No.１～５）	課題として取り上げるバロック期（四期の中より１つを選択）より各学生の進度に合わせて選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	課題曲Ⅱ＋ハノン（No.１～５）	課題曲の正確な読譜（音・リズム・運指等）また、同時に楽曲分析をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	課題曲Ⅲ＋ハノン（No.１～５）	難しい運指や難しいリズムの箇所を繰り返し練習することで、よどみない曲の流れを獲得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	課題曲Ⅳ＋ハノン（No.１～５）	適切なテンポを設定して、メロディと伴奏のバランスに気をつけ、また良いハーモニー感を養う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	課題曲Ⅴ＋ハノン（No.１～５）	曲の中に内在している物を考察し、イメージを膨らませて表現力を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	課題曲Ⅵ＋ハノン（No.１～５）	暗譜出来ているかを確認し、その上でゆとりを持った演奏が出来るように学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	総合学習	これまで修得してきた事をはぐくみ、更なる発展へとつないで行く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	１年次後期修得計画	前期の学習と実技試験を振り返り、後期レッスンプランを立てる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	ハノンについて	基礎的技術を得るため練習を続ける。５本の指がみな均等に動くための訓練をする。音階練習（スケール）も進める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	練習曲について	ツェルニー等、前期からの流れを組んで更にレベルアップを図る。その為のレッスン計画を立てる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	楽曲について	前期を経て、未修得のジャンルがあるかどうかを確認し、今後学ぶべき楽曲を検討。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	課題曲について（古典）	古典の作曲家を学ぶ：クーラウ・クレメンティ・フンメル等、時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	課題曲について（古典）	古典の作曲家を学ぶ：ハイドン・デュセック等、人物・作品・時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	課題曲について	古典の作曲家を学ぶ：モーツァルト・ベートーヴェン等、人物・作品・時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	課題曲について	古典の作曲家を学ぶ：モーツァルト・ベートーヴェン等、人物・作品・時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	課題曲Ⅰ＋音階（C-dur. a-moll）	課題として取り上げる古典期（四期の中より１つを選択）より各学生の進度、レベルに合わせて選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	課題曲Ⅱ＋音階（C-dur. a-moll）	課題の正確な読譜（音・リズム・運指等）また、同時に楽曲を分析をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	課題曲Ⅲ＋音階（C-dur. a-moll）	難しい運指や難しいリズムの箇所を繰り返し練習することで、よどみない曲の流れを獲得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	課題曲Ⅳ＋音階（C-dur. a-moll）	適切なテンポを設定して、メロディと伴奏のバランスに気をつけ、また良いハーモニー感を養う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	課題曲Ⅴ＋音階（C-dur. a-moll）	曲の中に内在している物を考察し、イメージを膨らませて表現力を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	課題曲Ⅵ＋音階（C-dur. a-moll）	暗譜ができているかを確認し、その上でゆとりを持った演奏が出来るように学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	総合学習	これまで修得してきた事をはぐくみ、更なる発展へとつないで行く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	２年次前期修得計画	各学生のこれまでの既習楽曲、練習曲などを確認し、学ぶべき事柄を把握した上でレッスンプランを立てる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	ハノンについて	各学生の進度に合わせて、指の基礎的学習の確認をする。また、同時に音階練習にも取り組む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

33	練習曲について	１年生からの流れを組み各学生の進度に合わせて、練習曲を取り入れる。選曲は担当に委ねる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	楽曲について	１年間の学習を経て修得すべき四期（バロック・古典・ロマン・近現代）についての理解、認識を深め、今後学ぶべき楽曲を検討する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	課題曲について	ロマン期の作曲家を学ぶ：グルリット・ヘラー等、時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	課題曲について	ロマン期の作曲家を学ぶ：ブルグミュラー・チャイコフスキー等、時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	課題曲について	ロマン期の作曲家を学ぶ：シューベルト・メンデルスゾーン等、時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	課題曲について	ロマン期の作曲家を学ぶ：ショパン・シューマン等、時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	課題曲Ⅰ＋音階（♯. ｂ１つの調）	課題曲として取り上げるロマン期（四期の中より１期選択）より各学生の進度とレベルに合わせて選曲する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	課題曲Ⅱ＋音階（♯. ｂ１つの調）	課題曲の正確な読譜（音・リズム・運指等）また、同時に楽曲を分析する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	課題曲Ⅲ＋音階（♯. ｂ１つの調）	難しい運指や難しいリズムの個所を繰り返し練習することで、よどみない曲の流れを獲得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	課題曲Ⅳ＋音階（♯. ｂ１つの調）	適切なテンポを設定して、メロディと伴奏のバランスに気をつけ、また良いハーモニー感を養う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	課題曲Ⅴ＋音階（♯. ｂ１つの調）	曲の中に内在している物を考察し、イメージを膨らませて表現力を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	課題曲Ⅵ＋音階（♯. ｂ１つの調）	暗譜出来ているかを確認し、その上でゆとりを持った演奏が出来るように学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	総合学習	これまで修得してきた事をはぐくみ、更なる発展へとつないで行く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	２年次後期修得計画	前期に学習したことを振り返り、後期のレッスンプランを立てる。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	ハノンについて	５本の指がみな均等に動くための練習を続ける。また、音階（スケール）も除除に調を増やしながら進めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	練習曲について	ツェルニー等、前期から流れを組んで更にレベルアップを図るため、念入りにレッスン計画を立てる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	楽曲について	前期を経て、未修得のジャンルがあるかどうかを確認し、今後学ぶべき楽曲を検討する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	課題曲について（近現代）	近現代の作曲家を学ぶ：ガバレフスキー・ハチャトゥリアン等、人物・時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	課題曲について（近現代）	近現代の作曲家を学ぶ：バルトーク・プトコフィエフ・レーガー等、人物・時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	課題曲について（近現代）	近現代の作曲家を学ぶ：ドビュッシー・ストラヴィンスキー・ヒンデミット等、人物・時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	課題曲について（近現代）	近現代の作曲家を学ぶ：中田喜直・湯山昭等、人物・時代背景と共に演奏上の特徴を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	課題曲Ⅰ＋音階（♯．ｂ２つの調）	課題曲として取り上げる近現代（四期の中より１期を選択）より各学生の進度に合わせて選曲。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	課題曲Ⅱ＋音階（♯．ｂ２つの調）	課題曲の正確な読譜（音・リズム・運指等）また、同時に楽曲分析。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	課題曲Ⅲ＋音階（♯．ｂ２つの調）	難しい運指や難しいリズムの個所を繰り返し練習することで、よどみない曲の流れを獲得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	課題曲Ⅳ＋音階（♯．ｂ２つの調）	適切なテンポを設定して、メロディと伴奏のバランスに気をつけ、また良いハーモニー感 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。を養う。
58	課題曲Ⅴ＋音階（♯．ｂ２つの調）	曲の中に内在している物を考察し、イメージを膨らませて表現力を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	課題曲Ⅵ＋音階（♯．ｂ２つの調）	暗譜出来ているかを確認し、その上でゆとりを持った演奏が出来るように学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

60	総合学習	これまで学習してきた事をはぐくみ学生最後の実技試験に臨む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・ハノン等のデイリーエクササイズ・ウォームアップ。（

・各学期の試験曲及び学習曲の練習

1、レッスンで学習した内容については、その都度復習して確認すること。
2、常日頃からハノンをさらい、指のスムーズな運びを心がけること。
3、練習は一日 30 分～1 時間を費やして学ぶこと。
4、未知な作曲家が出てきたら、事前に図書館などを活用して予習すること。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験 100％

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

音階教本：書名　ハノン
エチュード：書名　ツェルニー30 番 0p. 849・ツェルニー40 番 0p. 299　等
楽　曲：ソナチネアルバム、ソナタアルバム等
エチュード、楽曲とも受講生のレベルにあったものを教員が指定。

履修上の注意・学習支援

日頃からピアノ演奏に興味を持ち、必要な四期（バロック、古典、ロマン、近現代）の音楽のＣＤを聴いて（図書館を活用するのも一案）なれ親しむことも大切です。
レッスンの中で疑問に思ったことは、遠慮なく担当に相談すること。

オフィス・アワー

実技指導教員に、各自問い合わせの上で予約を取ること。
授業内容などの質問メールはいつでも受け付けます。(arai@ujc.ac.jp まで)

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP051	副科実技 (声楽)	1年	通年	実技	2	吉川治子

授業概要

受講生それぞれの声質を伸ばし、表情豊かな歌唱表現ができるよう、身体を十分に使ってのヴォカリーズ（母音唱法）と様々な唱法で声域と声量の拡大を目指す。楽曲は、日本歌曲・イタリア歌曲・ドイツ歌曲等に取り組み読み方と正しい発音ができるようになる。また、アンサンブル能力を高めるため、伴奏合わせを取り入れる。そして、弾き語り（弾きながら歌えること）を取り入れる。

到達目標（学習の成果）

・正しい呼吸法と発声法について学び、美しくのびやかな豊かな声（ベルカント唱法）で楽曲を歌えるようになる。
・日本語、イタリア語、ドイツ語のディクションや意味を知り、よりよい表現で楽曲を歌えるようになる。
・弾き語り（弾きながら歌えること）が出来るようにする。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 発声	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 身体が楽器であることを認識するために、呼吸法と発声法を指導する。 予習：発声について調べる。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	エチュード1	サルバトーレ・マルケージの 1 番のエチュードを用いてイタリア語の歌い方の基礎を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	エチュード2	サルバトーレ・マルケージの 1 番のエチュードを用いてイタリア語の歌い方を深める。2 番のエチュードにも取り掛かる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	エチュード3	サルバトーレ・マルケージの 2 番のエチュードを用いてイタリア語の歌い方を更に深め表現する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	イタリア歌曲　Nina1	第 4 回までに習得したものをさらにイタリア歌曲の演奏につなげる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	イタリア歌曲 Nina2	意味をしっかり理解し、前回の内容を深めて発表する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	イタリア歌曲　Caro mio ben1	正しく発音して朗々と歌う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	イタリア歌曲 Caro mio ben2	きちんと強弱をつけて、意味に相応しい感情をこめて発表する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	カンツォーネ　サンタ・ルチア	イタリア語を美しく表現して歌う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

10	カンツォーネ　帰れソレントへ	イタリア語の表現とダイナミクスに留意して歌う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	日本歌曲　浜辺の歌 1	日本語の歌唱法を学ぶ。日本語の発音法の説明をし、少しずつ慣れて習得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	日本歌曲　浜辺の歌 2	前回の内容を深め発表する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	日本歌曲　赤とんぼ 1	詩の朗読も含めて内容を理解して歌う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	日本歌曲　赤とんぼ 2	前回の内容を深め発表する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	総復習	前期で歌った楽曲を全曲復習し歌唱。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	発声の基本練習とドイツ語の読み方について	発声の基本を再度確認。ドイツ語の読み方を学習し発音する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	ドイツ歌曲　 野ばら 1	シューベルトの野ばらを歌ってみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	ドイツ歌曲　野ばら 2	ドイツ語の発音に留意しながら意味を考え表現する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	ドイツ歌曲　楽に寄す 1	新しいドイツ歌曲を学習する。しっかり発音して歌うように。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	ドイツ歌曲　楽に寄す 2	子音の発音と母音のレガートに気をつけて意味も考えて歌う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	アリア　 Ombra mai fu1	イタリア語のオペラアリアに挑戦してみる。ドイツ語との違いも感じて歌う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	アリア　 Ombra mai fu2	レチタティーヴォとアリアの歌い分けをし、感情を歌に乗せるように歌う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	日本歌曲　さびしいカシの木 1	外国語から日本歌曲に立ち返り、美しい発語で歌えるようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	日本歌曲　さびしいカシの木 2	日本語の美しい表現を音楽の流れの中で表現できるように歌う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	日本歌曲　荒城の月 1	詩の意味をしっかり理解し歌う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

26	日本歌曲　荒城の月 2	内容を考え、正しい発声で、強弱とレガート感を表現出来るように工夫する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	試験曲を選曲	今までの曲を全曲歌い、試験曲を選び、伴奏者を決める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	試験曲の歌いこみ	暗譜をし、しっかり曲を表現できるように歌いこむ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	試験曲の伴奏合わせ	アンサンブルと自分の歌のことを考えながら伴奏合わせ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	試験曲の仕上げ	正しい発声で、曲を理解しながら表現できているか確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（事前学習・事後学習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

毎日発声をすること。腹筋を鍛えることも大切である。エチュード、楽曲の譜読みを徹底してから、授業に望むこと。授業で習得したことを、日々の練習で自分のものにしていくとともに、弾き語りも重要なことである。日頃の練習が必要である。外国語楽曲では、単語一つ一つを辞書で調べ、対訳を読み（必要であれば書き写す）、意味の理解に努めること（地道な勉強が重要である）。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
1. 発声についての理解、習得度 2. 楽曲についての理解、習得度 3. 言語についての理解、習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験 60%、毎授業時の歌唱発表 40%

教科書

「中学生の音楽１」　　出版社　教育芸術社　277 円
「中学生の音楽２・３上」　出版社　教育芸術社　278 円
「中学生の音楽２・３下」　出版社　教育芸術社　270 円

参考書等

その他、使用する楽譜等は曲の初回授業時にコピーを配付する。きちんとファイルし毎回持参すること。

履修上の注意・学習支援

歌い方等個人的に質問がある場合は事前にオフィス・アワーを利用して相談すること。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分間程度、１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP052	副科実技（音楽療法士の声楽）	１年・２年	２年通年	実技	2	鎌田亮子・篠崎加奈子

授業概要

幅広いジャンルの音楽に対応できる知識と技術と表現を学習する。音楽療法・療育の現場において、対象者の前で、表情豊かな歌唱表現をするため、ヴォカリーズ(母音唱法)などで声域を拡大する。楽曲においては、日本唱歌･童謡･日本歌曲･イタリア歌曲を中心に取り組む。また、合奏能力を高めるため、伴奏合わせを取り入れる。

到達目標(学習の成果)

・音楽療法・療育の現場で、対象者の実態に合わせて選曲して歌えるようになるために、日本唱歌や童謡、日本歌曲、イタリア歌曲などを中心に幅広く楽曲を学び、レパートリーを増やすことができる。
・伴奏合わせをしてアンサンブルを体験し、合奏をするための基礎的な技術を得る。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方 発声	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 身体が楽器であるということを認識させるために、呼吸法と発声法を指導する。 予習：発声について調べる。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	エチュードについて	エチュードを導入し、音程、リズムなどの基礎的な技術をレッスンしていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	エチュード、楽曲について（1）	エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、童謡を中心に進める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	エチュード、楽曲について（2）	エチュードは、前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、日本語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	新たなエチュード、楽曲（1）	通常レッスンでは、２回をひとつのめどとし、エチュード１曲、楽曲２曲程度を目安に、新たな課題を導入し、進めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは、前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、日本語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術、表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは、前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、日本語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

9	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術、表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは、前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、日本語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	試験曲のレッスン（1）	試験曲のレッスンに入る。課題の楽曲について、詩の意味とディクションを更に深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	試験曲のレッスン（2）	前回のレッスンと同様に、更に、フレージングや音色、デクションを確認し、整えていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	試験曲のレッスン（3）	前回のレッスンをふまえて、技術、表現等の内容を深めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	試験曲の仕上げ（1）	伴奏者とのアンサンブルで演奏表現を体験させ深めていく。実技試験に向けて暗譜で演奏し、楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	試験曲の仕上げ（2）	グループ内で互いの演奏を聴き合い、意見交換をするなどしてさらに演奏表現を深めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	新たなエチュード、楽曲（1）	前回のレッスンをふまえて、技術、表現などを、さらに深めていく。楽曲については日本唱歌、日本歌曲を中心に日本歌曲は、それぞれのレヴェルや主旨に合った楽曲を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	新たなエチュード、楽曲（2）	通常レッスンでは、２回をひとつのめどとし、エチュードは、前期（春）同様に、継続する（１曲）。楽曲２曲程度を目安に、新たな課題を導入し、進めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などをととのえる。楽曲については、詩を朗読するなどして、発音や意味など、日本語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、日本語、原語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術、表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	新たなエチュード、楽曲（2）	前回のレッスンを参考に、楽曲の内容を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術、表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、日本語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術、表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、日本語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	試験曲のレッスン（1）	試験曲のレッスンに入る。課題の楽曲について日本語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	試験曲のレッスン（2）	フレージングや音色、ディクションなどを確認し、ととのえていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	試験曲のレッスン（3）	前回のレッスンをふまえ、更に、技術、表現等の内容を深めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	試験曲の仕上げ（1）	伴奏者とのアンサンブルで演奏表現を体験させ深めていく。実技試験に向けて、暗譜で演奏し、楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	試験曲の仕上げ（2）	グループ内で演奏を聴き合い、意見交換などして、さらに演奏表現を深めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	発声	身体が楽器であるということを、1年次で認識したかを、再確認の意味で、呼吸法と発声法をレッスンする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	エチュードについて	一年次に習得した、音程、リズムなどの基礎的な技術を更に発展させ、深めるためのレッスンをする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	エチュード、楽曲について（1）	エチュードについては、フレージングや音色などを更に、整えるために、階名唱法、母音唱法を一年次にひき続き指導する。楽曲については、イタリア語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	エチュード、楽曲について（2）	エチュードは、前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、イタリア語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	新たなエチュード、楽曲（1）	通常、レッスンでは、2回をひとつのめどとし、エチュード1曲、楽曲2曲程度を目安に、新たな課題を導入し、進めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

36	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは、前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、イタリア語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術、表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは、前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、イタリア語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術、表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは、前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、イタリア語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	試験曲のレッスン（1）	試験曲のレッスンに入る。課題の楽曲について、イタリア語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	試験曲のレッスン（2）	前回のレッスンと同様に継続し、フレージングや音色、デクションを確認し、整えていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	試験曲のレッスン（3）	前回のレッスンをふまえて、更に、技術、表現等の内容を深めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	試験曲の仕上げ（1）	伴奏者とのアンサンブルで演奏表現を体験させ深めていく。実技試験に向けて暗譜で演奏し、楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	試験曲の仕上げ（2）	グループ内で互いの演奏を聴き合い、意見交換をするなどして、さらに演奏表現を深めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	新たなエチュード、楽曲（1）	前回のレッスンをふまえて、技術、表現などを、さらに深めていく。楽曲についてはそれぞれのレヴェルや主旨に合った楽曲を導入する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	新たなエチュード、楽曲（2）	通常レッスンでは、２回をひとつのめどとし、エチュードは継続する（１曲）。楽曲２曲程度を目安に、新たな課題を導入し、進めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などを整える。楽曲については、詩を朗読するなどして、発音や意味など、原語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

49	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、原語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術、表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	新たなエチュード、楽曲（2）	前回のレッスンを参考に、楽曲の内容を深めていく。エチュードは前回同様に継続する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術、表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、原語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュード、楽曲ともに、技術、表現等の内容をさらに深めていくために、新たな課題に入る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは前回同様に継続する。楽曲では、詩を朗読するなどして、発音や意味など、原語への理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	試験曲のレッスン（1）	試験曲のレッスンに入る。課題の楽曲について原語のディクションを指導する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	試験曲のレッスン（2）	前回のレッスン同様に継続し、フレージングや音色、ディクションなどを確認し、整えていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	試験曲のレッスン（3）	前回のレッスンをふまえ、更に、技術、表現等の内容を深めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	試験曲の仕上げ（1）	伴奏者とのアンサンブルで演奏表現を体験させ深めていく。実技試験に向けて、暗譜で演奏し、楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	試験曲の仕上げ（2）	グループ内で互いの演奏を聴き合い、意見交換などして、さらに演奏表現を深めていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

音楽療法士として、広い年代の対象者に接するため、年代別に好まれる歌を、時系列的に把握し、認識する地道な努力が必要である。そのためには、レッスンで学習する楽曲に関して、必ずレッスン前に調べ、予習しておくこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験　100%で評価

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

エチュード：書名「コンコーネ 50 番練習曲」著者名　コンコーネ　出版者　全音楽譜出版社
楽　　曲：書名「子どもと歌おう」童謡集　編著者　カワイ音楽教室　出版者　カワイ出版
「日本歌曲集」　出版社　全音楽譜出版社
「イタリア歌曲集」編　畑中良輔　出版社　全音楽譜出版社

履修上の注意・学習支援

身体が楽器であることを認識し、健康的な生活（睡眠、休養、栄養に配慮した）を送ること。楽曲の譜読みを徹底してから、レッスンにのぞむこと。

オフィス・アワー

技術的なことや、演奏上での疑問点があったら、レッスン教員に相談し、問題点を解決していく。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP053	副科実技（ヴァイオリン）	１年・２年	２年通年	実技レッスン	4	小山　啓久

授業概要

１年生の前期（教本の第１巻を使用）は、初学者がほとんどですので、導入としてヴァイオリンを持つ姿勢やボーイング（運弓法）、フィンガリング（左手）など、初歩の奏法から入ります。その上で、平易な楽曲から徐々に難易度の高い曲の練習に移行していきます。

１年生の後期（教本の第１巻を使用）に入り、レッスンでは音階や練習曲、そのほか技術修得のための技法をだんだんと深め、その成果として楽曲を練習します。最後に、実技試験で演奏する楽曲のレッスンと、ピアノを伴う伴奏合わせを行います。

２年生の前期（教本の第２巻を使用）では、クレッシェンドやスタッカートなど、曲に表情を付ける奏法を学んでいきます。代表的な奏法はデタッシェやマルトレ等が挙げられます。これらは主に、音階や分散和音で練習します。また音階も、比較的難しいｂ系の調に挑戦していきます。

２年生の後期（教本の第２巻を使用）では、クレッシェンドやスタッカートなど、曲に表情を付ける奏法を学んでいきます。代表的な奏法はデタッシェやマルトレ等が挙げられます。これらは主に、音階や分散和音で練習します。また音階も、比較的難しいｂ系の調に挑戦していきます。

到達目標（学習の成果）

ヴァイオリンの演奏は、一般には難しいといわれますが、段階を踏んで練習を重ねれば、着実に進歩が可能です。音階や練習曲を教員の指示に従って日々、こつこつと練習を積めば、自分の技量にあった楽曲の演奏する技術を身につけることができます。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方 ヴァイオリンの構造について	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 副科のヴァイオリンは初学者がほとんどですので、まずヴァイオリンの構造について学びます。 予習：ヴァイオリンについて調べる。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	ヴァイオリンの姿勢について	足の構えや上半身の姿勢、ヴァイオリンを持った姿勢、正しい弓の持ち方などを学びます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	ボーイング（運弓法）①	ボーイングについては、まず中弓の構え方、元弓の構え方、先弓の構え方等について学びます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	ボーイング（運弓法）②	ここで開放弦（D 線）を弾く練習に入ります。中弓の弾き方、元弓の弾き方、先弓の弾き方等を練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	ボーイング（運弓法）③	前回のレッスンで学習したボーイングを復習した後、全弓の弾き方、半弓と全弓の混合練習を行います。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	フィンガリング（左手）①	ここで左手の正しい構えと形を確認します。また肘の位置や親指、手首の正しい形を学びます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

7	フィンガリング（左手）②	前回の復習の後、指の正しい押さえ方に入ります。音階はニ長調を使用します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	フィンガリング（左手）③	ボーイングがまだ充分にできていないため、ピッチカート（指で弦をはじく）で実際に音を出します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	教本（第１巻）の 24 番	フランス民謡の「アマリリス」をピッチカートで練習します。指はしっかり押さえることを心がけましょう。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	教本の 25～26 番	今回から左手とボーイングの両方を結合した練習に入ります。「メリーさんの羊」を D 線と A 線で練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	教本の 27～28 番	ここで移弦の練習をします。 D 線と A 線では腕の高さが変わるから注意が必要です。「日の丸」で練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	教本の 29～30 番	ニ長調の音階を使って、リズムとボーイングの練習をします。主に、全弓と半弓の交互練習です。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	教本の 31～33 番	前回に引き続き、音階をそれぞれ２種類のボーイングで練習します。最後にドイツ民謡の「かえる」も演奏します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	教本の 37～38 番	ここで４の指（小指）の練習に入ります。この指は押さえることが大変難しいですから、根気よく練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	教本の 39 番	ドイツ民謡の「ちょうちょう」を使って、４の指の練習をします。音程が正しいかは、E 線の開放弦と比べます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	教本（第１巻）の 41～44 番	前期に引き続き、４の指の練習と８分音符の練習に入ります。曲は「むすんでひらいて」等です。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	教本の 45～46 番	ここでスラーの練習に入ります。奏法としてスラー記号のあるところは、弓を返さないで一弓で弾きます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	教本の 47～48 番	引き続きスラーを練習しますが、音と音とが途切れぬよう、滑らかに弾きましょう。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	教本の 49～53 番	ここから E 線（第１弦）を使ったイ長調の音階に入ります。スラーや分散和音、３拍子等を学びます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	教本の 54～55 番	楽曲「白ばらの匂うゆうべは」や、チェコ民謡「雨だれ」を使って、スラーや E 線の練習をします。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	教本の 56～57 番	引き続き、イギリス民謡「子供と子ぶた」等を使って、スラーや E 線、３拍子の練習をします。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	教本の 58～61 番	ここで G 線（第４弦）を導入します。４つの練習曲でト長調でのリズムとボーイングの練習をします。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	教本の 58～61 番	G 線を使った楽曲の練習をします。G 線を弾くときは、肘を高くし、弓が弦に直角になるように注意します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	教本の 65～70 番	ここで付点音符の練習をします。早い弓と遅い弓の使い分けでは、アクセントが付かぬよう注意します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	教本の 71 番	フォスターの名曲「主人は冷たい土の中に」を使って、スラーと付点音符の練習をします。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	教本の 72 番	ドヴォルザークの「ラルゴ」で G 線から E 線までの４つの弦の練習をします。音が途切れないように注意します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	教本の 73 番	第１巻の仕上げの曲として、初めはゆっくりでも、最後には本来の速いテンポで弾けるように練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	アンサンブルの練習	デュエット曲を用いて、アンサンブルの練習をします。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	課題曲のレッスン	１年間の総仕上げとして、１巻で学んだ曲の中から１曲選び、試験の課題曲とします。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	課題曲の仕上げ	試験の課題曲に相応しい演奏内容に仕上がったか確認し、ピアノ伴奏を伴って練習してから、試験に臨みます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	教本（第２巻）の１～４番	ト長調の音階２つと、楽曲２曲を練習します。P の奏法は中弓で幅を小さくし、f は全弓を使います。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	教本の５番	ト長調（２オクターブ）の音階を使って、４種類のボーイング奏法（デタッシェやマルトレ等）を練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	教本の６～８番	ト長調（２オクターブ）の分散和音を学んだ後、モーツァルトの「五月のうた」を練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

34	教本の 9 ～10 番	ト長調の総仕上げとして、楽曲 2 曲を練習します。表情を付ける練習も合わせて行います。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	教本の 11～15 番	ハ長調の音階と分散和音、それに楽曲 2 曲を練習します。和音の奏法は 3 弦が同時に響くように弾きます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	教本の 16～18 番	初めに、E 線上のヘ音の練習をした後、16 分音符を使った練習曲に入ります。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	教本の 19～20 番	3 連符の練習曲の後、ハイドンの「セレナード」を練習します。スラーが滑らかになるように注意します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	教本の 21～23 番	ハ長調の音階練習（2 オクターブ）の後、「アンダンテ」を練習します。和音は、弦の上に弓をおいてから弾きます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	教本の 26～33 番	ここからヘ長調（2 オクターブ）の練習に入ります。楽曲は「ポルカ」や「きよしこの夜」です。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	教本の 34～36 番	ヘ長調の楽曲 2 曲の後、ニ短調のハンガリー民謡「マジャールの踊り」に挑戦します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	教本の 37～41 番	教本の 3 7 番から変ロ長調の音階と練習曲を弾いた後、ウェーバーの「アレグレット」を練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	教本の 42～43 番	変ロ長調の続きとして、ドイツ民謡「別れ」とスペイン民謡の「ワニタ」を練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	教本の 44～45 番	44 番は移弦の練習曲です。45 番は移弦の奏法の入った楽曲です。滑らかに演奏できるよう注意します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	教本の 46～52 番	46 番から変ホ長調の音階と練習曲を弾いた後、ドイツ民謡の「カノン」を練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	教本の 53～54 番	変ホ長調の続きとして、シューベルトの「菩提樹」とメンデルスゾーンの「ノクターン」を練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	教本の 55 番	55 番には、長調と短調の音階が 10 種類掲載されています。各楽曲の調は、この音階で練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

47	教本の 56 番	ヴァイオリン曲として有名なコレルリの「ガボット」に挑戦します。はつらつと弾くことが必要です。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	教本の 57 番	ベートーヴェンの「メヌエット」を練習します。三部形式ですので、前半と中間部のコントラストに注意します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	教本の 58 番	58 番は、有名なリュリの「ガボット」です。試験曲としてもふさわしい曲です。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	教本の 59 番	59 番リーディングの「ロマンス」は、ヴァイオリンらしい楽曲で、よく発表会でも取り上げられる曲です。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	アンサンブルの練習	デュエット曲を用いて、より難易度の高いアンサンブルの練習をします。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	教本の 60 番	60 番の曲は、中間部に重音がありますので、２音間のバランスに注意して演奏します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	教本の 61 番（１）	この曲もヴァイオリン曲らしく、よく発表会で演奏します。曲は長いので、２回に分けて練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	教本の 61 番（２）	曲は滑らかな部分と、元気のよい部分がありますので、コントラストを付けて演奏します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	教本の 62 番（１）	このバッハの「ガボット」も長い曲ですので、２回に分けて練習します。舞曲のようにはつらつと演奏します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	教本の 62 番（２）	前回に引き続き、「ガボット」を練習します。２拍子ですので、練習が進んだら速いテンポで演奏します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	教本の 63 番（１）	第２巻の最後にふさわしい、ザイツの「学生コンチェルト」です。３楽章形式の中の第１か第３楽章を練習します。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	教本の 63 番（２）	２年間の集大成として、２回に分けて挑戦します。難易度は高いですから、根気よく練習することが必要です。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	課題曲のレッスン	２年間の総仕上げとして、第２巻で学んだ曲の中から１曲選び、試験の課題曲とします。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

60	課題曲の仕上げ	試験の課題曲に相応しい演奏内容に仕上がったか確認し、ピアノ伴奏を伴って練習してから、試験に臨みます。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験　100%

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考テキスト

「新しいバイオリン教本」　１～３　鷲見三郎他著　音楽之友社
「ヴァイオリン音階教本」 小野アンナ著　音楽之友社
バイオリン練習曲「カイザー１．２．３」　全音楽譜出版社

学習支援・履修上の注意

演奏技術の向上は、促成栽培のようにはいかないので、常日頃からこつこつと練習することが必要です。また、個人で練習するだけでなく、オーケストラや室内楽等、多くの人と交わって演奏することも、アンサンブルを高めるために大切です。

オフィス・アワー

技術的なことや演奏上での疑問点があったら、そのままにしないで、必ずレッスン時にレッスン教員に相談すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP054	副科実技 (フルート)	１年・２年	２年通年	実技	2	栗田　智水

授業概要

フルートの構造、取り扱い、及び奏法を修得し、低音域、中音域の基礎的な練習をする。又、受講者のレベルに合わせた教材の進行をし、実技試験ではそれぞれのレベルに合った楽曲を選び、高い目標を持って楽曲に取り組む。随時そのレベルに合ったアンサンブルを取り入れ、合奏の楽しさを味わい、合奏能力を高める。

到達目標(学習の成果)

管楽器を修得することにより、自ら美しい音を作る豊かな感性を養い、演奏の喜びを見出す。又、呼吸法を体感し、フルートを通じて管楽器の特性や幅広い知識を学ぶ。又、アンサンブルをすることで、合奏能力を高める。主科と異なる楽器を学ぶことにより、主科に対しても幅広いアプローチが出来る。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 楽器の構造、手入れの仕方、音出し。	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 楽器の構造について学ぶ。 頭部管を使っての音出しをしてみる。フルートの手入れの仕方を学ぶ。 予習：フルートについて調べる。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	頭部管での音出しとタンキング	頭部管での音出し。唇の形（息口）を確認し、正しい息の出し方を学ぶ。ダンギングをつけて音を出してみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	頭部管での音出し。楽器組み立て、持ち方の練習。手入れ。	頭部管でダンギングをつけて音を出す練習。 楽器の組み立てを学び、持ち方を練習する。音を出してみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	頭部管での音出し。中音域の練習。	テキストに沿って練習を始める。 中音域の練習、Ｅ～Ｈの運指を覚える。テキスト１－２～３ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	頭部管でのダンキングをつけて音出し。中音域の練習。	中音域の拡大。Ｈ～Ｃ、Ｄ～Ｃの運指を学ぶ。 持ち方とのバランスを練習する。テキスト１－２、３、４ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	中音域をテキストに沿って練習	テキスト１－５（テーマ）、var.１、２、中音域の練習 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	中音域をテキストに沿って練習	テキスト２－１、２、３（テーマ）var.１、２、跳躍が出てくるので息の使い方を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	中音域をテキストに沿って練習	テキスト２－var.３、４ ３－１、２、３（テーマ）、var.１～３ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	中音域をテキストに沿って練習	テキスト３－var.４、５ ４－１、２、３、４（テーマ） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

10	中音域をテキストに沿って練習	テキスト４－var.１、２、３細かくなってきたタンギングと長くなってきた曲のブレスについて学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	低音域の練習、アンサンブルの導入	テキスト５－var.１、２、５難しい運指について特に練習し、確実なものにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	低音域の練習をテキストに沿って練習、アンサンブルの練習	それぞれのレヴェルに合った楽曲を選び、練習を開始する。アーティキュレーション、跳躍などが正しく行われているか確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	試験曲の導入	それぞれの苦手とするところを把握し、練習方法などを示していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	試験曲の練習	伴奏を付けてみる。フレーズによるブレスの仕方を考え、ピアノとのバランスをよく聴いてアンサンブルをする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	試験曲の練習	楽曲を仕上げ、演奏や舞台上でのマナーについても学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	低音域の復習。	低音域を復習し、特に難しい運指が出来ているか確認する。５－var.２、６、７、８ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	低音から中音へのオクターブの練習。	低音～中音、中音～低音への音の動きを、平均した音で吹く練習。オクターブを正確に出すための唇の動き、息の使い方を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	低音から中音へのオクターブの練習。	低音と中音のオクターブがスムーズになっているか再度練習し、正しく行われているか確認する。６－１～５ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	中音から低音の練習	６－８拍子が正確に吹けているか、中音域微妙な息の使い方などを確認していく。６－６ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	アーティキュレーションについて	スラーのつけ方、スタッカートについて説明し、様々なアーティキュレーションを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	アーティキュレーションをつけて吹く	正確にアーティキュレーションをつけて吹く練習。 音と同じ位重要なことを認識する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	スラーをつけたオクターブの練習	スラーをつけたオクターブの練習をする。その際の息の使い方など練習方法を示す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	スラーをつけた練習曲	正しくアーティキュレーションをつけて練習する。又、リズムや発音などについても正しくできているか確認する。テキスト６－９

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	難しい運指のスラーの練習	Ｃ～Ｄの運指のなめらかなスラーについて練習する。問題の起きやすい指の動きなどを示し、練習する。７－１、２、３、４ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	細かい動きのスラーの練習	細かな指の動きとダンキング、又息の使い方などをテキストに沿って練習する。７－５ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	三連符の練習とブレス	休符のない曲の中でのブレスの仕方を示し、テキストに沿って練習する。７－６、７、８、９ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	試験曲の導入	それぞれのレベルに合った楽曲を選び、練習を開始する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	試験曲の練習	発音、アーティキュレーション、リズム等、正しく行われているが、又、フレージングやブレスについても確認する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	試験曲の練習	ピアノ伴奏をつけて練習。ピアノパートについても良く理解し、曲全体のバランスを良く聴く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	試験曲の練習	ピアノ伴奏についても、曲のフレージングを良く理解し、フルートとのアンサンブルを心がけるようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	低音域から中音域の復習と高音域へのアプローチ	一年次に行った低音から中音を確認し、新たに高音について練習を始める。８－１～５ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	Ｃdur の練習	Ｃ～Ｄ、Ｄ～Ｅについて運指の練習と高音の息の使い方の練習。８－６～９ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	Ｃdur の練習曲	テキストに示されている以外のブレスをフレージングに沿って考える。アーティキュレーションを正確に吹く練習。８－10 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	Ｃdur の練習曲	Ｃdur の練習。細かなアーティキュレーションに注意し、音質にも気を配り練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	高音域の練習	Ｄ～Ｅの復習と Fis、Ｇ、Ａの運指を覚え、音を出す。９－１、２ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	高音域の練習	となり同士の音の連結を覚える。ハーモニクスの説明と実践。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

37	高音域の練習	前週の復習。指使いを確実なものとし、高音の息の使い方を学ぶ。（ハーモニクスも含む） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	Gdurの練習と練習曲	Gdurのスケールとアルペジオの練習。スタッカートを使った曲の練習。９－10 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	アンサンブルの練習	アンサンブル曲を導入し、それぞれのパートの練習をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	アンサンブルの練習	アンサンブルをすることにより、他のパートを聴きながら合わせる練習をする。音程についても学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	Ddurの練習	低音、中音、高音のCisの運指を覚える。 Ddurのスケールとアルペジオを練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	Ddurの練習、試験曲の導入	Ddur のスケール、アルペジオの復習と練習曲。10－10試験曲をそれぞれのレベルに合わせて選曲し練習を始める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	試験曲の練習	それぞれ試験曲を練習する。アーティキュレーション、リズムを正確に吹く。又ブレスについてもフレージングに沿って考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	試験曲の練習	ピアノ伴奏をつけて練習。ピアノパートについても良く理解し、曲全体のバランスを良く聴く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	試験曲の練習	ピアノ伴奏についても、フルートパートを良く理解し、フルートとのアンサンブルを心がけるようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	前期の復習とＢの運指	前期で習った高音の運指と音について復習する。Ｂの３つの運指について説明し、それぞれ使ってみる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	Ｂの３種類の運指	11－１～４については、ブリチアルディキィと普通の指づかいを練習。５～７については Ais レバーの使い方、混合の使い方を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	Ｂの３種類の運指	11－７の Ais レバーとの混合を練習。11 についてはアーティキュレーションの正確さ、フレーズに沿ったブレスを練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	ブリチアルディキィの練習	前週に引き続き 11－11 を正確なアーティキュレーションと適確なブレスにより練習する。Ｅｓの運指の説明。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	Ｂdurの練習	低音、中音、高音のＥｓの運指を覚える。高音Ｂの運指を覚える。Ｂdurのスケールとアルペジオの練習。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	Ｂdur の練習	Ｂdur のスケールとアルペジオの復習とＢdur の練習曲。12－８をアーティキュレーションを正確に練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	Gis の運指	低音、中音、高音の Gis を覚え、スケールとアルペジオの練習をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	Ａdur の練習	Ａdur のスケール、アルペジオの練習。練習曲については曲のイメージを持って練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	Ａdur の練習	アーティキュレーションとオクターブの跳躍がスムーズに出来るようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	各音域３種のＥｓと高音Ｂの運指	Ｅｓdur の練習。高音Ｂ、Ｅｓの運指を確認しスケール、アルペジオを練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	Ｅｓdur の練習	Ｅｓdur の復習と練習曲。14－８カンツォネッタ１、２をアーティキュレーション、リズムを正確に吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	試験曲の導入	各自のレベルに合った曲を選び、試験曲の練習に、取りかかる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	試験曲の練習	それぞれの練習曲を練習する。アーティキュレーション、リズムを正確に吹く。又、ブレスについてもフレーズに沿って考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	試験曲の練習	ピアノ伴奏をつけて練習。ピアノパートについても良く理解し曲全体のバランスを良く聴く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	試験曲の練習	ピアノ伴奏についても。フルートパートを良く理解し、フルートとのアンサンブルを心がけるようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

以下、準備学習として行うこと。
・デイリーエクササイズ
・エチュードの復習と予習
・試験課題楽曲の練習
・試験課題楽曲のピアノ伴奏練習

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・ステージマナーや舞台上での作法を習得しているか ・演奏楽曲の様式や形式を理解しているか ・楽曲に対する演奏技術はどうか ・積極的に演奏表現に取り組んでいるか	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験　100%

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考テキスト

教本：書名　アルテスフルート教則本　第１巻　出版社：日本フルートクラブ
楽曲：エチュード、楽曲とも受講生のレベルにあったものを教員が指定。
書名：アンサンブル等は随時配布（コピーを配付）

学習支援・履修上の注意

高音域については、１年次に増して復習が大事である。指が合っていても、息が適切でないと、なかなか音にならないものなので、その助けとなるハーモニクスなど、（授業中説明）を加えた練習の必要がある。高音は指も複雑なものもあり、めげそうになるかもしれないが、１音１音クリアしていくようにしたい。

オフィス・アワー

技術的なことや、演奏上での疑問点があったら、レッスン教員に相談し、問題点を解決していく。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP055	副科実技（電子オルガン）	１年・２年	２年通年	実技	2	木滑　友子 中島　望

授業概要

電子オルガンの奏法を習得し、コードネームによる自由な伴奏法や様々なジャンルの音楽を学び、音楽表現の可能性を広げることを目的とします。三段楽譜による知識や演奏法を習得します。

到達目標（学習の成果）

自らが電子オルガンに興味を持ち、その可能性を追求した音楽に取り組む事が出来るようになります。
必要に応じてアンサンブルを取り入れ合奏能力も身に付けます。

授業計画

回	表題	授業内容
1	授業の進め方 電子オルガンについて	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 正しい座り方・右手、左手、ペダルの役割・演奏される楽曲のジャンル等電子オルガンの基本的理解をする。 予習：電子オルガンの基本を調べる。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	操作方法・各名称	ボタン操作の行い方と実践方法、電子オルガンの世界でポピュラーに使われる用語を知る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	コードネームの種類	一般に使われるコードネームの種類についての導入、また左手とベースによるコードネームの押さえ方。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	Ｃdur の主要三和音	Ｃdur の簡易な曲を使用し、３鍵盤で演奏する。また、４拍子に使われる伴奏形の種類についての理解と、実践を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	Ｆdur の主要三和音	Ｆdur の簡易な曲を使用し、３鍵盤で演奏する。また、４拍子に使われる伴奏形の種類についての理解と、実践を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	Ｇdur の主要三和音	Ｇbur の簡易な曲を使用し、３鍵盤で演奏する。オートリズムを使用し、リズムに合わせ正確に演奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	分数コード	コード付き一段譜に見られる分数コードの読み方と、自然なベースラインの進行について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	Ⅱ、Ⅵ等の和音	主要三和音以外のコードネームを用いて響きの広がりを感じる。和音記号とコードネームの関連性を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

9	右、左手のトレーニング	電子オルガンのアフタータッチ、イニシャルタッチについて学びながら右手、左手のトレーニングを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	ベーストレーニング	単音で鳴るベースを滑らかに演奏すること、リズムを支えることを目的としたベーストレーニングを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	楽曲演奏１	テキストの楽集から自分のレベルに合った１曲を演奏する。適切な音色作りを行い、電子オルガンの操作等に慣れる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	楽曲演奏２	右手、左手、ペダル、またそれぞれを組み合わせて練習していく。弾けないうちは必ずスローテンポで行い丁寧に弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	楽曲演奏３	リズムがある程度取れるようになったら、強弱を表現するためのタッチやＥＸＰに意識を向け調整し表現を付けていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	楽曲演奏４	一人ひとりへ曲に対して課題を設け、最終仕上げを行う。クラス内での発表を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	課題曲の仕上げ	課題曲３曲の中から任意の曲を１曲選び伴奏を付けて演奏。コードネームの配置確認や終止形のベース音等のチェック。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	前期内容の復習	前期で行ったコードネームの配置や、伴奏形を復習し、後期の内容へ移る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	ａmo11の主要三和音	ａmo11の楽曲を使用しmo11のコードネームの種類について理解する。アルペジオ型の伴奏を使用し滑らかに演奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	ｄom11の主要三和音	ｄmo11の楽曲を使用し、３鍵盤で演奏する。木管系の音を活用し、編成やバランスの調整を知る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	ｅmo11の主要三和音	ｅmo11の楽曲を使用し、３鍵盤で演奏する。フットスイッチを活用し、複数の音色を使用できるように練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	様々なコード付き一段譜	今までのコードネームの知識を応用し総合的にコードネームを理解、演奏できるように様々な譜面に触れる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	音色について	オーケストラの楽器群を一例とし、効果的な音色作りの方法を学ぶ。フィート、パン、エフェクト等の導入。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	ポピュラー音楽の譜面	電子オルガンの音楽ジャンルに欠かせないポピュラー音楽の基となる譜面の特徴について学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	楽曲演奏Ⅰ	テキストの曲集から自分のレベルに合った１曲を演奏する。テキストの音色を参考に自分で求める音色作りを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	楽曲演奏Ⅱ	右手、左手、ペダル、またそれぞれを組み合わせて練習していく。弾けないうちは必ずスローテンポで行い丁寧に弾く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	楽曲演奏Ⅲ	強弱を表現するためのタッチやＥＸＰに意識を向け、調整し表情を付けることを行う。フットスイッチのタイミングの研究。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	楽曲演奏Ⅳ	一人ひとりへ曲に対して課題を設け、最終仕上げを行う。クラス内での発表を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	アンサンブルⅠ	グループの人数と役割、またアンサンブルを行うにあたっての心がけ注意点について学んでいく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	アンサンブルⅡ	パートごとに奏法について学びを実践する。スローテンポでアンサンブルしながら、曲をまとめていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	アンサンブルⅢ	複数でのタイミングを合わせながら曲の流れをつかみ、仕上げていく。他のパートのラインをよく聞きながら合わせる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	課題曲の仕上げ	課題曲３曲の中から任意の曲を１曲選び伴奏を付けて演奏。コードネームの配置確認や終止形のベース音等のチェック。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	１年次の復習	コードネーム、和音記号、３鍵盤で演奏する感覚を復習しながら２年次の内容へ移る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	音楽のジャンルについて	様々な音楽ジャンルについて知り、知識を身に付ける。クラシック、ポピュラーの様式や、楽器編成について理解する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	即興演奏について	１年次よりも更にレベルアップしたコードネームを読み、またメロディー変奏（フェイク）を行い即興的な力を養う。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	８Beat について	８Beat リズムを聞き、特徴的なリズム形、使用楽器、よく使われる伴奏形等について学んでいく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	16Beat について	16Beat リズムを聞き、特徴的なリズム形、使用楽器、よく使われる伴奏形等について学んでいく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	２Beat について	２Beat リズムを聞き、特徴的なリズム形、使用楽器、よく使われる伴奏形等について学んでいく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	ワルツについて	ワルツのリズムを聞き、特徴的なリズム形、使用楽器、よく使われる伴奏形等について学んでいく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	各ジャンルの演奏法	今までジャンルの知識を生かして、効果的な奏法やノリを意識して演奏していく。音色パターンを知る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	変奏（フェイクの）まとめ	今まで行ったメロディー変奏の復習と、応用的なテクニックを学んでいく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	伴奏形と音色について	即興演奏に合わせた様々な伴奏形や伴奏にふさわしい音色について学び実践を行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	楽曲演奏１	テキスト又はそれぞれのレベルに応じた楽曲１曲演奏する。音色の細やかな設定と電子オルガンを使いこなす事を目指す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	楽曲演奏２	右手、左手、ペダル、またそれぞれを組み合わせてより良い練習法を目指し、同時に楽器らしさを追求していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	楽曲演奏３	イニシャルタッチ、アフタータッチ、ＥＸＰ、手首や腕、体の動き等を一体として、電子オルガンならではの演奏を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	楽曲演奏４	曲の仕上げを行う。技術のみにとらわれずに音楽を感じながら演奏できているかを判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	課題の仕上げ	コードネーム付き１段譜からテーマ→変奏（フェイク）の練習をいくつかの曲を通して行っていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	前期内容の復習	前期に行った内容の復習。とくに即興演奏についてのテクニックをもう一度考え、簡易な曲を使用し実践する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

47	ラテンについて	ラテンのそれぞれのリズムを聞き、伴奏形の種類について弾く。また、ラテン音楽のいくつかのスタイルを知る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	イントロ、エンディングの創作	テーマに合ったイントロ、エンディングの作り方と効果的な音色やふさわしい伴奏形を学んでいく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	重音奏について	メロディーの重音奏の効果とは？より良い重音奏をするための配置や奏法について研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	即興演奏１	今まで行ったテクニックや知識を活かした即興演奏を行う。流れを止めずに弾き切ることにポイントを置く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	即興演奏２	前回の授業内容からさらに発展させ、内容を深めていくにはどうしたらいいかを考えていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	音色について（弦楽器）	弦楽器のボイスメニューを参考に生楽器に近い音色作りと、場面に応じた奏法を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	音色について（木管楽器）	木管楽器のボイスメニューを参考に生楽器に近い音色作りと、場面に応じた奏法を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	音色について（金管楽器）	金管楽器のボイスメニューを参考に生楽器に近い音色作りと、場面に応じた奏法を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	アンサンブル	伴奏付の様々な生楽器の譜面を使用し、楽器らしさを追求した奏法を行い、表現力を身に付ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	楽曲演奏１	テキスト又はそれぞれのレベルに応じた楽曲１曲演奏する。音色の細かな設定と電子オルガンを使いこなす。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	楽曲演奏２	右手、左手、ペダル、またそれぞれを組み合わせてより良い練習法を目指し、同時に楽器らしさを追求していく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	楽曲演奏３	イニシャルタッチ、アフタータッチ、ＥＸＰ、手首や腕、体の動き等を一体として、電子オルガンならではの演奏を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	楽曲演奏４	曲の仕上げを行う。技術のみにとらわれずに音楽を感じながら演奏できているかを判断する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	課題の仕上げ	後期に行った楽曲の中から１曲を選択し通して流れよくまとめる。機能と自分の表現をフルに使い演奏する。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

楽曲演奏では様々なジャンルに挑戦していくため、授業に向けて事前に譜面を読みよく練習しましょう。

１年生の最初の内は両手と足の奏法やコードネームに慣れる時間が必要です。レッスンで行ったことを、空き時間等教室等で積極的に練習し、復習してください。

２年生は、コードネームの理解に加え即興演奏を行っていくため、自らの即興のスタイルを確立できるよう事前の準備を積極的に行いましょう。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
1. 楽曲に対する演奏技術についての評価 2. 演奏表現の積極性についての評価	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試験 70%　複数回の授業内小テスト 30%

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

新エレクトーン・レパートリー８級　著者名：稲垣千章　他　出版社：ヤマハMM　出版年：2015 年

エレクトーン即興演奏法　基礎編　著者名：増沢徹/岩間稔　出版社：ヤマハ音楽振興会
出版年：1986 年

履修上の注意・学習支援

授業中に、それぞれ練習し楽器に慣らしていく時間を取るので、その時間に十分に右手、左手、ペダルをそれぞれ組み合わせて弾くように心がけましょう。

オフィス・アワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分程度、１号館１階「講師教員センター」を利用すること。）

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP056	副科実技 (箏曲)	１年・２年	２年通年	実技	2	前川　智世

授業概要

日本の伝統的な音楽の理解を深めるため、箏の実践を通し、基礎知識と演奏技術を修得する。また、教職課程に向けた学校教材における演習を行う。

到達目標(学習の成果)

箏曲の基礎知識と演奏技術を修得することができる。また、日本の伝統的な音楽を理解することで、視野を広げる。
箏曲の代表曲「六段の調」「春の海」「さくら」を通して 400 年前から伝わる奏法を修得することができる。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方 楽器演奏準備	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 油単（カバー）から楽器を出し、箏柱をかけ、演奏できる状態にする。また、楽器の構造と名称等の基礎知識を学ぶ。 予習：箏について調べる。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	調絃法 基本的奏法Ⅰ	調絃(チューニング)の取り方の手順を把握。平調子についての説明。指の基礎練習をし、箏本来の美しさや、豊かな音を奏でる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	基本的奏法Ⅱ	箏の特徴を生かしたスケールの練習。左手の「押し手」の方法を学び、正確な音程を作ることを修得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	八橋検校の作品から （古典的奏法Ⅰ）	八橋検校の楽曲《六段の調》を通して、江戸初期から 400 年伝わる様々な古典的奏法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	八橋検校の作品から （古典的奏法Ⅱ）	箏の残響を生かした奏法や、古典的奏法の更なる技術の修得。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	八橋検校の作品から （古典的奏法Ⅲ） 唱歌を学ぶ	合奏形態による古典奏法を学ぶ。 リズムと奏法を同時に修得できる唱歌を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	三曲形態による古典曲の鑑賞	江戸の時代背景と併せ、他楽器との調和や音色の変化を学ぶ。邦楽合奏における呼吸法を修得。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	宮城道雄の作品から （新日本音楽による新たな奏法Ⅰ）	洋楽の影響を受けて新たに考案された奏法を修得。奏法による擬音の表現を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	宮城道雄の作品から （新日本音楽による新たな奏法Ⅱ）	大正時代に宮城道雄により考案された十七絃箏に触れ、箏との対比を図る。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	沢井忠夫の作品から （古典的奏法からの発展Ⅰ）	沢井忠夫作品に見られる古典的奏法から現代的奏法、及びリズムの展開を知る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	沢井忠夫の作品から （古典的奏法からの発展Ⅱ） 前期修得のまとめ	宮城道雄・沢井忠夫の作品を鑑賞し、修得した奏法 前期に修得した内容を復習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	前期課題曲の練習	様々な奏法を生かし、組み合わせたバリエーションの創意工夫。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	前期課題曲の練習	考案したバリエーションの発展・展開。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	前期課題曲の練習	音色・楽曲の表現力をさらに追及し、楽曲の理解を深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	試演会	実技試験に備え、人前での経験を積む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	前期修得の復習 十七絃について	前期の復習として基礎を再確認。十七絃の構造（各部名称）と特徴について学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	邦楽の合奏	Ⅰ箏・Ⅱ箏・十七絃パートに分かれ、邦楽の合奏。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	邦楽の合奏と呼吸法	指揮者を持たない邦楽合奏に不可欠な呼吸法を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	邦楽の合奏（楽譜を読む力を養う）	楽譜からリズムと奏法を瞬時に識別する力を身に付ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	邦楽の合奏（聴き合う力を養う）	パート同士、互いに聴き合う力を身に付ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	邦楽の合奏（表現力を養う）	フレーズを考えながら強弱等の抑揚を付け、表現力を身に付ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	邦楽の合奏（弾き込み・仕上げ）	楽曲を弾き込むことで体に覚え込ませ、自分のものにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	邦楽の合奏	互いに聴き合い客観的に聴き意見を述べ、その意見を 活かし、より良い音楽に仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	邦楽の合奏と鑑賞	箏・十七絃・三絃を使用した合奏を鑑賞 呼吸感や邦楽独特の間合いなどを感じ取る。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	邦楽の合奏	他のパートに挑戦。他のパートがどのように動いているのかを研究。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	後期修得のまとめ	前期・後期での奏法をマスターし、楽曲に活かす。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	後期課題曲の練習	後期課題曲のレッスンを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	後期課題曲の練習	後期課題曲のレッスンを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	後期課題曲の練習	後期課題曲のレッスンを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	試演会	後期実技試験に備え、人前での経験を積む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	調絃法	１年次の学習内容を踏まえ、正確な調絃ができるようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	古典的奏法―（１）	古典曲を通して、古典的奏法を修得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	古典的奏法―（２）	古典曲を通して、古典的奏法を修得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	現代的奏法―（１）	現代的奏法を通して、現代的奏法を修得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	現代的奏法―（２）	現代的奏法を通して、現代的奏法を修得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	楽譜の種類（記譜法）	流派とジャンルを越えた楽譜の記譜法の違いを修得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	鑑賞―（１） 古典曲・宮城曲	映像資料を通して、解説を交え、本物の演奏を鑑賞する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	鑑賞―（２） 現代邦楽	映像資料を通して、解説を交え、本物の演奏を鑑賞する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	様々な奏法を使用した創作―（１）	古典的奏法から現代的奏法を活用しての創作。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	様々な奏法を使用した創作―（２）	古典的奏法から現代的奏法を活用しての創作。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	様々な奏法を使用した創作―（３） 発表	創作した作品の発表。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	課題曲のレッスン―（１）	修得した技術を活かし楽曲に取り組む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	課題曲のレッスン―（２）	音色の追及をし、豊かな表現力を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	課題曲のレッスン―（３）	音程に注意し、さらに楽曲の完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	課題曲を仕上げる	演奏マナーの実践。前期復習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	邦楽の合奏―（１） 三絃の実践―（１）	二重奏の楽曲の演奏。 三絃の基本の構えを実践。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	邦楽の合奏―（２） 三絃の実践―（２）	三絃の基本的な調絃（本調子）について。また、その取り方。撥のあて方について。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	邦楽の合奏―（３） 三絃の実践―（３）	三重奏の楽曲の演奏。 基本的な弾き方の練習・ツボの押さえ方。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	邦楽の合奏―（４） 三絃の実践―（４）	唱歌を歌いながら基本的なツボの音程をとる練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	邦楽の合奏―（５） 三絃の実践―（５）	四重奏の楽曲の演奏。 初級レベルの楽曲（１）に取り組む。（本調子） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	邦楽の合奏―（６） 三絃の実践―（６）	楽曲（１）の練習と合奏。（本調子） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	邦楽の合奏―（７） 三絃の実践―（７）	十七絃を主とした楽曲の演奏。 楽曲（２）応用編の練習。（二上り） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	邦楽の合奏―（８） 三絃の実践―（８）	楽曲（２）の練習。基礎を固める。（二上り） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	邦楽の合奏―（９） 三絃の実践―（９）	三絃を使用した楽曲の演奏。 楽曲（３）応用編の練習。（三下り） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	邦楽の合奏―（10） 三絃の実践―（10）	構え・調絃・演奏の仕方の総復習 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	邦楽の合奏―（11）	尺八を使用した楽曲の演奏。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

57	課題曲のレッスン―（１）	修得した技術を活かし楽曲に取り組む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	課題曲のレッスン―（２）	音色の追及をし、豊かな表現力を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	課題曲のレッスン―（３）	音程に注意し、さらに楽曲の完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	課題曲を仕上げる	演奏マナーの実践。後期復習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・チューナーを見ながら正確な音程で調絃行う練習。親指・中指・人差し指それぞれに合わせた指の練習
・練習曲と応用曲の復習と予習。
・試験課題楽曲の弾き込み。試験課題曲について、参考文献を参照しまとめること。
・試験課題曲の復習と予習。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
1. 等曲の基本的な知識の理解度 2. 基礎技術の習得度 3. 古典的奏法の習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試 100%

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

大日本家庭音楽会発行公刊楽譜
正派公刊楽譜
邦楽社発行公刊楽譜
ミュージックエス公刊楽譜

学習支援・履修上の注意

レッスン前に演奏の準備を整える。

オフィス・アワー

疑問があれば、y.maekawa@ujc.ac.jp にメールをください。終日受け取り可。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP057	副科実技 (三絃)	１年・２年	２年通年	実技	2	前川　智世

授業概要

日本の伝統的な音楽の理解を深めるため、邦楽のマナーや箏の実践を通し、基礎知識と演奏技術を修得する。
また、流派を越えた邦楽全般の作品に触れ、様々なアンサンブルの組み合わせによる音の重なりの違いや面白さを知る。

到達目標(学習の成果)

三絃の基礎知識と演奏技術を修得することができる。また、日本の伝統的な音楽を理解することで、視野を広げ、幅広い邦楽のジャンルの楽譜の読み方・演奏法・記譜法を学ぶことができる。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方 楽器演奏準備	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 長袋（カバー）から楽器を出し、駒をかけ、演奏できる状態にする。また、楽器の構造と名称等の基礎知識を学ぶ。 予習：三絃について調べる。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	基礎① 楽器の扱い方	三味線の扱い方について知る。 糸のかけ方・糸の巻き方。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	基礎② 調絃について	調絃（チューニング）の取り方の手順を把握。三絃の調絃の種類を知る。（本調子・二上り・三下り） 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	基礎③ 三絃の構え方	三絃の構え方と撥の持ち方。 右手の構え方。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	基礎④ 基本的奏法	それぞれの絃にあった撥の正しいあて方。注意すべきポイントをおさえる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	唱歌の利用 練習曲①～⑤	唱歌を歌いながら基本的なつぼの音程をとる練習。 三絃楽譜の読み方。開放絃の練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	練習曲⑥～⑦ ＜福寿草＞	仁・二・２・伍・五・５の練習 楽曲を通した基本的奏法の仕上げ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	＜福寿草＞仕上げ	歌付きでの演奏の練習。 楽曲の仕上げ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	＜かぞえうた＞ ＜さくら＞	撥の運び方、左手の運び方のポイントをおさえる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	練習曲⑧～⑨	左手の跳躍の練習。 半音の取り方、四のつぼの習得。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
11	＜吉野山＞	半音を含む楽曲の取り組み。 正確な音程を意識する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	練習曲⑩～⑫	すり上げ・すり下げの方法を知る。 正確な音程を意識する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	練習曲⑬～⑮	高つぼの習得。 はじき・すくい撥の手法を知る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	前期課題曲の練習	前期課題曲の仕上げ。これまでの注意点を復習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	試演会	実技試験に備え、人前での経験を積む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	＜春の園＞	はじきとすりを使用した楽曲の練習 弾き歌いの練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	練習⑯～⑰	すくい撥の音色の探求。撥の動きの工夫。すくい撥とはじきを合わせた奏法。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	＜君のめぐみ＞	すくい撥・すり・はじきを使用した楽曲の練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	練習⑱	合わせ撥と薬指を使用した奏法の練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	＜春霞＞	合わせ撥と薬指のはじきを使用した楽曲の練習。より正確な音程を目指す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	練習⑲	すりと打ちの練習。 チテン・ツトンの間の取り方の習得。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	＜大井川＞	手と歌が異なる旋律を習得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	＜花よりあくる＞	付点音符の間の取り方の練習。 歌の音程を正確に取る練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	練習⑳	基本的な奏法のまとめ 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
25	練習㉑	本調子の総復習。 練習⑳の段合わせ。

		予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	１年次の修得のまとめ	これまでの奏法をマスターし、楽曲に活かす。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	課題曲の練習	課題曲のレッスンを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	課題曲の練習	課題曲のレッスンを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	課題曲の練習	課題曲のレッスンを行う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	試演会	実技試験に備え、人前での経験を積む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	＜五木の子守唄＞ ＜荒城の月＞	馴染みのある曲の練習。 仕上げに合奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	＜いはまとじし＞（１）	すくい撥・はじき・すりが融合された奏法の練習。 楽曲の譜読み。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	＜いはまとじし＞（２）	音程と奏法に注意をしながら、仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	＜うぐいすの＞（１）	高いつぼの練習。 細かなリズムを的確に奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	＜うぐいすの＞（２）	手と歌がずれている楽曲の練習。 フレーズを考えながら仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	練習㉒（１）	二上りについて知る。 本手の譜読み。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	練習㉒（２）	本手の仕上げ。 替手と合奏し、絡みを理解する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	練習㉒（３）	替手の譜読み。 奏法の使い分けを習得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
39	練習㉒（４）	替手の仕上げ。 本手と合奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	＜笛の音＞（１）	二上りを利用した楽曲に取り組む。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	＜笛の音＞（２）	歌と手を別々に練習し、より正確な音程を習得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	課題曲のレッスン―（１）	修得した技術を活かし楽曲に取り組む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	課題曲のレッスン―（２）	音色の追及をし、豊かな表現力を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	課題曲のレッスン―（３）	音程に注意し、さらに楽曲の完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	課題曲を仕上げる	演奏マナーの実践。後期復習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	＜天竜川＞（１）	大合奏の曲に取り組む。 正確なテンポをキープする練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	＜天竜川＞（２）	強弱とフレーズについて意識する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	＜天竜川＞（３）	ソロ部分の練習。正確な音程を意識する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	＜天竜川＞（４）	箏と合奏し、絡みを理解する。 呼吸を合わせ。大合奏の中の役割を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	＜三段の調＞（１）	細やかなリズムに取り組む。 楽曲の譜読み。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	＜三段の調＞（２）	より高度な技術を習得する。 正確なリズムと音程をとる耳を養う。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	＜三段の調＞（３）	箏本手、箏替手、尺八との合奏に取り組み、呼吸の合わせ方を学ぶ。仕上げ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
53	＜六段の調＞（１）	初段・二段・三段の譜読み。 ゆっくりした段の手の運び方を習得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	＜六段の調＞（２）	四段・五段・六段の譜読み。 テンポが速くなった段の手の運び方を習得する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	＜六段の調＞（３）	＜六段の調＞の弾き込み。 序破急を意識して取り組む。 予習：課題を練習する。

		復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	＜六段の調＞（４）	序破急を理解し、曲の運びに活かし仕上げる。 箏・尺八と三曲形態で合奏する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	課題曲のレッスン―（１）	修得した技術を活かし楽曲に取り組む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	課題曲のレッスン―（２）	音色の追及をし、豊かな表現力を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	課題曲のレッスン―（３）	音程に注意し、さらに楽曲の完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	課題曲を仕上げる	演奏マナーの実践。２年間の総復習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・三絃の構えを鏡の前で整え、正しい位置で撥を当てる基礎練習を行う。左手の運指の感覚を養う練習。チューナーを見ながら正確な音程を習得する練習。
・練習曲と応用曲の復習と予習。
・試験課題楽曲の弾き込み。歌が付きの楽曲の場合、参考文献を参照し歌詞の意味を調べまとめること。
・試験課題曲の復習と予習。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
1. 三絃の基本的な知識の理解度 2. 基礎技術の習得度 3. 楽曲の完成度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

・定期実技試験 100％

教科書

全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等

大日本家庭音楽会発行公刊楽譜　「宮城道雄小曲集　第一集」「三味線はじめ」
邦楽社発行公刊楽譜

履修上の注意・学習支援
レッスン前に演奏の準備を整える。

オフィス・アワー
問い合わせは t.maekawa@ujc.ac.jp まで。終日受け取り可。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP058	副科実技 (尺八)	１年・２年	２年通年	実技	2	福田　智久山

授業概要

尺八の基本特性や楽器の仕組みを通して、邦楽器のアンサンブルや舞台での心構えを学び、それぞれの専門分野での向上を図る事を目的とする。

到達目標(学習の成果)

尺八の基礎知識と演奏技術を習得し、日本の伝統的な音楽を理解する事で、日本人の演奏家であると自覚し、そこから視野を広げていく。

授業計画

回	表題	学習内容
1	授業の進め方 演奏方法、各部名称	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 基本的な尺八の持ち方、指孔の名称、姿勢等の演奏に関する知識を学ぶ。 予習：尺八について調べる。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
2	基本的奏法～壱～	歌口への息の当て方、音程の維持方法、音の効率的な出し方を研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
3	基本的奏法～弐～	開放音で乙のヒから順にハ、チの三音を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
4	基本的奏法～参～	前回の授業を踏まえて、その次の音である乙の、レ、ツ、ロを学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
5	音程作りと簡単な曲～壱～	きちんとした音程の維持及び、短い曲を吹く練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
6	音程作りと簡単な曲～弐～	メリやカリ等の尺八独特の音の作り方を学び、短い曲を吹く練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
7	音程作りと簡単な曲～参～	もみ手や当り、ムラ息等の特殊技法を学び、曲の中で実践をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
8	Chain を吹く～壱～	尺八の重奏を経験すると共に、楽譜に慣れる練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
9	Chain を吹く～弐～	甲のロ、ツ、レの出し方を研究し、曲中で滑らかに吹けるようにする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
10	Chain を吹く～参～	差音を感じながらハーモニーを作る練習と、一連の流れを通す事で曲の理解をより深める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

11	講師による模範演奏	講師の演奏を聴き、今の自分と照らし合わせ、更なる技術の向上を図る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
12	前期課題曲の練習～壱～	Chain のＣＤを聴き、もう一度楽譜を読み直すと共に、曲の全体像を知る。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
13	前期課題曲の練習～弐～	尺八同士の音程だけでなく、箏や十七絃の音にも耳を傾けて、調和を図りながらの演奏を心掛ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
14	前期課題曲の練習～参～	曲のダイナミクスやそれに合った音色で吹く練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
15	前期課題曲を仕上げる	楽曲の完成度を高める。前期総復習。 人前で経験を積む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
16	１年次後期修得計画 前期習得技術の復讐	前期の復習として、基礎を再確認。また音の出し方等、もう一度詳しく学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
17	尺八演奏論～壱～	講師の実体験や演奏に対する姿勢を学び、各自の専門分野に繋げていく。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
18	尺八演奏論～弐～	舞台上のマナーや、人と対峙する時の約束事等、邦楽の世界独特の文化を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
19	尺八演奏論～参～	生徒がここまでに疑問に感じた物事を精査し、尺八や邦楽への深い知識を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
20	尺八の合奏～壱～	これまでの授業を踏まえ、様々な曲と共に尺八の特性を研究する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
21	尺八の合奏～弐～	出し難い音を理解し、出やすい音との違いを見極め、曲の完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
22	尺八の合奏～参～	全ての音を出せるように心掛け、そこに音色を考えたり、ダイナミクスを付けられるよう練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
23	三段の調～壱～	尺八の譜面に慣れると共に、リズム、音階などに注意をし、初段二行目までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
24	三段の調～弐～	引き続き前回の授業と同様の事に気を付けながら、初段五行目までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

25	三段の調～参～	甲乙の音程をはっきりと吹き分けながら、初段最後までの演奏を目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
26	三段の調～四～	初段と二段の曲想の違いを理解し、二段三行目までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
27	三段の調～伍～	ロングトーンを吹いている時の音程維持や休符後の音の立ち上がりに注意をし、二段最後までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
28	三段の調～六～	二段と三段の違いや初段との関係性を理解し、三段三行目までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
29	三段の調～七～	三段の残りを吹き、曲全体を通して豊かな音量と音色で吹けるよう研究をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
30	後期課題曲を仕上げる	楽曲の完成度を高める。後期総復習。 人前で三曲合奏をし、経験を積む。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
31	２年次前期修得計画 １年次の復習	前期修得のガイダンス、もう一度基本的な尺八の持ち方、指孔の名称、姿勢等の演奏に関する知識を見直す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
32	尺八の楽譜に慣れる	音符や休符、尺八独特の譜面を読む練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
33	簡単な曲を吹く～壱～	楽譜に慣れる為と、色々な曲を吹き更に尺八の見物を広める。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
34	簡単な曲を吹く～弐～	甲乙の吹き分けに注意をし、なるべく綺麗な音を心掛ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
35	簡単な曲を吹く～参～	響きを感じ、曲のダイナミクスを思い通りに吹けるよう練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
36	三段の調を吹く～壱～	尺八の譜面に慣れると共に、リズム、音階などに注意をし、初段二行目までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
37	三段の調を吹く～弐～	引き続き前回の授業と同様の事に気を付けながら、初段五行目までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
38	三段の調を吹く～参～	甲乙の音程をはっきりと吹き分けながら、初段最後までの演奏を目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

39	三段の調を吹く～四～	初段と二段の曲想の違いを理解し、二段三行目までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
40	三段の調を吹く～伍～	ロングトーンを吹いている時の音程維持や休符後の音の立ち上がりに注意をし、二段最後までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
41	三段の調を吹く～六～	二段と三段の違いや初段との関係性を理解し、三段三行目までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
42	三段の調を吹く～七～	三段の残りを吹き、曲全体を通して豊かな音量と音色で吹けるよう研究をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
43	箏、三絃と合奏	合奏をする事で、アンサンブルの真髄を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
44	前期課題曲の練習	前回の合奏時に学んだ事を生かしながら、曲をミスなく正確な演奏が出来る様、心掛ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
45	前期課題曲を仕上げる	楽曲の完成度を高める。前期総復習。 人前で経験を積む。後期に繋がるよう色々と細かい点を考える。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
46	２年次後期修得計画 前期の復習	後期修得のガイダンス、三段の調を吹奏し、後期に補う面を認識する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
47	二重奏の勉強～壱～	一人で吹くだけではなく、不安定な楽器だからこそ重奏になった時の合わせ方を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
48	二重奏の勉強～弐～	純正律と平均律の違いを理解し、その場に相応しい音の選び方を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
49	二重奏の勉強～参～	差音を感じ、曲全体を明確に理解し、音を感じて演奏をする練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
50	天竜川を吹く～壱～	ソロを抜かし、２パートの旋律を最初から２ページまで練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
51	天竜川を吹く～弐～	引き続き２ページ最後から、途中のソロを抜いて最後までの練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
52	天竜川を吹く～参～	ソロに含まれる尺八独特の特殊技法を学び、曲全体を練習。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

53	合奏と課題	箏や三絃のリズム、音程等に注意をし、アンサンブルとしてズレの無い様気を付けながら合奏をする。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
54	六段の調を吹く～壱～	古典独特の奏法を学び、演奏の幅を広げ、初段始めから１行目の５小節までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
55	六段の調を吹く～弐～	引き続き、古典の流れを知り、２行目４小節までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
56	六段の調を吹く～参～	明確な運指であったり、細かい古典の決まり事に注意をし、３行目５小節までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
57	六段の調を吹く～四～	拍子外の音の流れ、また付点の付いた音との違いを理解し、初段最後までを目標として吹く。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
58	六段の調を吹く～伍～	平調子と尺八の音域を理解し、初段を淀みなく演奏出来る様練習する。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
59	三曲合奏	三絃から古典音楽の流れを学び、出来れば箏と三絃が引き立つ様な演奏を心掛ける。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。
60	後期課題曲を仕上げる	楽曲の完成度を高める。二年間の授業を通し、尺八を学んだ事で、自分の専門楽器にどう生かせるのかを考え、今後の更なる目標を見出す。 予習：課題を練習する。 復習：レッスンで学んだことを復習する。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・デイリーウォームアップ。
・練習曲と応用曲の復習と予習。
・音の出し方を研究し、チューナーを見ながら正確な音程で調絃行う練習。
・試験課題曲の復習と予習。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
1. 箏曲の基本的な知識の理解度 2. 基礎技術の習得度 3. 古典的奏法の習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない

100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期実技試 100%

教科書
全員共通の教科書は特にないが、各学生のレベルに応じて選択した教材を授業内で指示する。

参考書等
都山流尺八　音譜解説
三段の調、六段の調、天竜川　都山流公刊譜

履修上の注意・学習支援
レッスン前に演奏の準備を整える。

オフィス・アワー
疑問があれば、chikuzan.f@gmail.com にメールをください。終日受け取り可。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP059	合奏	１年・２年	２年通年	演習	4	田村和久

授業概要

オーケストラの起源は弦楽合奏と言われています。
器楽の進歩によりバロック時代モンテヴェルディ作曲「オルフェオ」の画期的なオーケストレーションのオペラ、バッハ、ヘンデルによるオラトリオ、カンタータの合唱曲、そして管弦楽組曲のなどの管弦楽の原型、ハイドン、モーツァルトの古典派の時代には交響曲、協奏曲が大活躍する事となります。このような歴史とともに作曲家の時代様式、作風や楽曲の形式、構成を分析、考察し自分の主専攻の楽器でアンサンブル・合奏の修得を目指すとともに日本の和楽器の理論を学び実習を通して、伝統的楽器の理解・修得を学ぶ事ができる。

到達目標(学習の成果)

各時代の楽曲を用いて様式、形式を分析し合奏で必要なアーティキレーション、イントネーション、フレージング、リズム、ピッチ、ハーモニーなど基礎技術を修得することにより合奏の能力を高める事ができるようになる。

また、日本の和楽器についての理論を学び、実習を通して、伝統的楽器への理解を深めることができるようになる。

授業計画

回	表題	学習内容
１回	授業の進め方 基礎合奏	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 個人の能力を確認し、合奏で必要な基礎技術の修得を目指す。 予習：合奏の基礎技術を考える。 復習：学んだ課題を復習する。
２回	楽曲の譜読み（バロック）	バロック時代の楽曲を選曲し各パートのアーティキレーション等（替え指・弓順など）の確認をしながら譜読みを進める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
３回	楽曲練習（１）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
４回	楽曲練習（２）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
５回	楽曲の仕上げ	選曲した楽曲を指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
６回	新たな楽曲の譜読み（古典派）	古典派の楽曲を選曲し各パートのアーティキレーション等（替え指・弓順など）の確認をしながら譜読みを進める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
７回	新たな楽曲練習（１）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
８回	新たな楽曲練習（２）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、作曲家の意図を汲み形式・音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。

9回	新たな楽曲の仕上げ	選曲した楽曲の指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
10回	新たな楽曲の譜読み（ロマン派）	ロマン派の楽曲を選曲し各パートのアーティキレーション等（替え指・弓順など）の確認をしながら譜読みを進める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
11回	新たな楽曲練習（1）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
12回	新たな楽曲練習（2）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、作曲家の意図を汲み形式・音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
13回	新たな楽曲の仕上げ	選曲した楽曲の指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
14回	総仕上げ（1）	前期で学習した楽曲をもう一度復習して最後の発表に備える。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
15回	総仕上げ（2）	前期で学習した楽曲をもう一度復習して最後に発表する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
16回	基礎合奏・楽曲選曲	個人の能力を確認し、合奏で必要な基礎技術の修得を目指す。前期で学んだ事を踏まえ、演奏会を想定した新たな楽曲の選定をする。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
17回	楽曲の譜読み（オープニング）	オープニングの楽曲を選曲し各パートのアーティキレーション等（替え指・弓順など）の確認をしながら譜読みを進める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
18回	楽曲練習（1）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
19回	楽曲練習（2）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
20回	楽曲の仕上げ	選曲した楽曲を指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
21回	新たな楽曲の譜読み（サブ）	サブプログラムの楽曲を選曲し各パートのアーティキレーション等（替え指・弓順など）の確認をしながら譜読みを進める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。

22回	新たな楽曲練習（1）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
23回	新たな楽曲練習（2）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、作曲家の意図を汲み形式・音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
24回	新たな楽曲の仕上げ	選曲した楽曲の指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
25回	新たな楽曲の譜読み（メイン）	メインプログラムの楽曲を選曲し各パートのアーティキレーション等（替え指・弓順など）の確認をしながら譜読みを進める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
26回	新たな楽曲練習（1）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
27回	新たな楽曲練習（2）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、作曲家の意図を汲み形式・音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
28回	新たな楽曲の仕上げ	選曲した楽曲の指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
29回	日本の和楽器（理論編）	和楽器には尺八や箏、三味線、笙、ひちりき等様々なものが存在するが、代表的な楽器の理論について解説する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
30回	日本の和楽器（実習編）	代表的な和楽器についての奏法を学習するとともに、実際に楽器に触れて演奏を体験する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
31回	基礎合奏	個人の能力を確認し、合奏で必要な基礎技術の修得を目指す。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
32回	楽曲の譜読み（バロック）	バロック時代の楽曲を選曲し各パートのアーティキレーション等（替え指・弓順など）の確認をしながら譜読みを進める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
33回	楽曲練習（1）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
34回	楽曲練習（2）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。

35回	楽曲の仕上げ	選曲した楽曲を指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
36回	新たな楽曲の譜読み（古典派）	古典派の楽曲を選曲し各パートのアーティキレーション等（替え指・弓順など）の確認をしながら譜読みを進める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
37回	新たな楽曲練習（1）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
38回	新たな楽曲練習（2）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、作曲家の意図を汲み形式・音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
39回	新たな楽曲の仕上げ	選曲した楽曲の指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
40回	新たな楽曲の譜読み（ロマン派）	ロマン派の楽曲を選曲し各パートのアーティキレーション等（替え指・弓順など）の確認をしながら譜読みを進める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
41回	新たな楽曲練習（1）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
42回	新たな楽曲練習（2）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、作曲家の意図を汲み形式・音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
43回	新たな楽曲の仕上げ	選曲した楽曲の指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
44回	総仕上げ（1）	前期で学習した楽曲をもう一度復習して最後の発表に備える。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
45回	総仕上げ（2）	前期で学習した楽曲をもう一度復習して最後に発表する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
46回	基礎合奏	個人の能力を確認し、合奏で必要な基礎技術の修得を目指す。前期で学んだ事を踏まえ、新たな楽曲の選定をする。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
47回	基礎合奏・楽曲選曲	個人の能力を確認し、合奏で必要な基礎技術の修得を目指す。前期で学んだ事を踏まえ、演奏会を想定した新たな楽曲の選定をする。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。

48回	楽曲の譜読み（オープニング）	オープニングの楽曲を選曲し各パートのアーティキレーション等（替え指・弓順など）の確認をしながら譜読みを進める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
49回	楽曲練習（1）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
50回	楽曲練習（2）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
51回	楽曲の仕上げ	選曲した楽曲を指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
52回	新たな楽曲の譜読み（サブ）	サブプログラムの楽曲を選曲し各パートのアーティキレーション等（替え指・弓順など）の確認をしながら譜読みを進める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
53回	新たな楽曲練習（1）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
54回	新たな楽曲練習（2）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、作曲家の意図を汲み形式・音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
55回	新たな楽曲の仕上げ	選曲した楽曲の指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
56回	新たな楽曲練習（1）	選曲した楽曲のテンポをゆっくりからリズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
57回	新たな楽曲練習（2）	選曲した楽曲のハーモニー、バランスを考え形式、作曲家の意図を汲み形式・音楽の流れを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
58回	新たな楽曲の仕上げ	選曲した楽曲の指定テンポに近いテンポに設定し楽曲を仕上げていく。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
59回	日本の和楽器（理論編）	和楽器には尺八や箏、三味線、笙、ひちりき等様々なものが存在するが、代表的な楽器の理論について解説する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
60回	日本の和楽器（実習編）	代表的な和楽器についての奏法を学習するとともに、実際に楽器に触れて演奏を体験する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。

準備学習（事前学習・事後学習について）

この講義は、演習科目 4 単位なので 90 分の授業時間以外に 120 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して
内容の理解を深めてください。

１．毎日の基礎練習が大切です。毎日コンスタントにできる基礎練習方法の習慣を身につけ、技術の向上に結びつけるようにする。
２．自分が演奏する楽曲の調性、様式の分析をし、作曲家や時代背景を調べておくこと。
３．合奏の授業では事前に配られた楽曲の譜読み及び個人練習をしておくこと。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
＃楽曲の様式の理解、技術の習得度 ＃楽曲の事前練習	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
定期試験　レポート　40%　　授業内　演奏　60%

教科書
楽譜や資料等を配付する。

参考書等
W.ブレイド作曲：5 つの宮廷舞曲
櫛田てつ之扶作曲：東北地方の民謡によるコラージュ
ヘンデル作曲：組曲「水上の音楽」
バルトーク作曲：ルーマニア民族舞曲
他

履修上の注意・学習支援
上達するには毎日の練習が欠かせません。自分のモチベーションも含め継続してできる計画を立てて練習してください。

オフィス・アワー
質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分間程度、
１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP060	指揮法	1年	後期	演習	2	阿久澤政行

授業概要

指揮法の基礎技術を習得し、音楽の意義を理解し、専門的知識・技術や態度を身につける。指揮棒を使用した実践的な内容。器楽曲の指揮法を身につけ、また、オーケストラのスコア読解を学び幅広い専門的な知識をつける。

到達目標(学習の成果)

1．指揮者としての知識を身につけ、様々な楽曲の指揮法を学び、各自の演奏に反映されることを目標とする。(知識・技術・方法)

2．教員免許を取得するための教職に関する音楽専門科目として教育現場や社会的集団の場で活用できる知識・技術を身につける。(知識・態度)

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 指揮法の概念	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 指揮法の定義を理解する。指揮のテクニックの重要性を学び、拍子とリズムの指示と点の予測について知る。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめること。
2回	スコアの読譜	オーケストラで使用される楽譜を学び、様々な記譜法を知ると同時に読譜力の向上につなげる。 予習：オーケストラ譜について調べる。 復習：講義内でのノート、資料をまとめること。
3回	指揮棒の使用及び位置解説	指揮棒の持ち方を学び、様々な演奏形態での指揮の役割を理解する。 予習：指揮の役割について、資料を確認しておくこと。 復習：講義内で習得した指揮の基礎練習をすること。
4回	指揮図形の基本1	叩きによる各拍子の練習を行う。(しゃくいによる各拍子の練習) 予習：指揮の形状について、しゃくいを確認しておくこと。 復習：講義内で習得した指揮の基礎練習をすること。
5回	指揮図形の基本2	平均運動/瞬間運動による基本練習を行う。 予習：指揮の形状について、平均運動/主運管運動を確認しておくこと。 復習：講義内で習得した指揮の基礎練習をすること。
6回	指揮図形の基本3	先入法/撥ね上げによる基本練習を行う。 予習：指揮の形状について、先入法/撥ね上げを確認しておくこと。 復習：講義内で習得した指揮の基礎練習をすること。
7回	拍子の打法と練習1	器楽曲による単純拍子(2拍子)の振り方を習得する。 予習：指揮の形状について、2拍子を確認しておくこと。 復習：講義内での指揮の基礎練習をすること。
8回	拍子の打法と練習2	器楽曲による単純拍子(3拍子/4拍子)の振り方を習得する。 予習：指揮の形状について、3拍子/4拍子を確認しておくこと。 復習：講義内での指揮の基礎練習をすること。
9回	拍子の打法と練習3	器楽曲による複合拍子(6拍子/変拍子)の振り方を習得する。 予習：指揮の形状について、6拍子/変拍子を確認しておくこと。 復習：講義内での指揮の基礎練習をすること。
10回	楽曲練習1	歌曲をテーマとした振り方を学ぶ。 予習：指揮の形状について、課題曲を確認しておくこと。 復習：講義内での課題曲を練習すること。
11回	楽曲練習2	オーケストラをテーマとした振り方を学ぶ。 予習：指揮の形状について、課題曲を確認しておくこと。 復習：講義内での課題曲を練習すること。

12 回	楽曲練習 3	ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」の楽曲構成を学ぶ。 予習：指揮の形状について、課題曲を確認しておくこと。 復習：講義内での課題曲を練習すること。
13 回	楽曲練習 4	「展覧会の絵」より、プロムナードの指揮法を学ぶ。 予習：指揮の形状について、課題曲を確認しておくこと。 復習：講義内での課題曲を練習すること。
14 回	楽曲練習 4	「展覧会の絵」プロムナードの表現を学ぶ。 予習：指揮の形状について、課題曲を確認しておくこと。 復習：講義内での課題曲を練習すること。
15 回	楽曲練習 5	「展覧会の絵」プロムナードの総合演習としてまとめる。 予習：指揮の形状について、課題曲を確認しておくこと。 復習：講義内での課題曲を練習すること。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、演習科目 2 単位ですので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。
・授業内では常に指揮棒を使った演習を行いますので、繰り返し振って練習に励むこと。
・毎回、学習内容によく目を通し、前週に出された課題や持参資料を確認して授業に臨むこと。
・各回に配布物やレポートまたは演習の課題がある。毎週内容が変わるので、演習後は自分のものになるまで反復が必要である。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
①指揮の図形と基本姿勢 (課題の理解、習得度) ②各課題曲についての理解 (課題の表現習得度) ③試験課題曲の発表 (自発的な表現力と曲の理解度)	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
・定期試験(実技試験)100％で評価
※課題に対しては、授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

「中学生の音楽１」　出版社　教育芸術社　277 円
「中学生の音楽２・３上」　出版社　教育芸術社　278 円
「中学生の音楽２・３下」　出版社　教育芸術社　270 円

参考テキスト　書名：【改訂新版】指揮法教程　著者名：斉藤秀雄　出版社：音楽之友社
＊各自、指揮棒を必要とします。

学習支援・履修上の注意

１．卒業後は音楽専門家として多様な対応が求められる。学習内容には興味の濃淡があると思われるが、受け身の学びではなく、仕事現場を想定して積極的に演習に臨むこと。
２．学習内容の疑問・質問、また進め方に対する要望は常時受け付けるので、授業中に発言して差し支えない。

オフィス・アワー

授業内容についての質問や課題の問い合わせは、オフィスアワーを利用すること（事前予約(akuzawa@ujc.ac.jp)のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP061	重唱	１年	通年	演習	2	吉川治子

授業概要

エチュード(コンコーネ 50 番)や、日本歌曲による二重唱で、共鳴する響のある音色の作り方を学び、旋律線、リズム、音の強弱等に留意し、表情豊かな歌唱表現や、美しいハーモニーを作ることを学ぶ。

到達目標（学習の成果）

・正しい呼吸法と発声法について学び、美しくのびやかな豊かな声（ベルカント唱法）で、楽曲が歌えるようになる。
・日本語、イタリア語、ドイツ語のディクションや意味について学び、重唱することにより、楽曲のハーモニーの美しさを、よりよい表現で歌えるようになる。

授業計画

回	表題	学習内容
１回	授業の進め方 発声	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 身体が楽器であるということを認識させるために、呼吸法と発声法を学ぶ。 予習：発声法について調べる 復習：呼吸法と発声法を認識して実践する
２回	エチュード（１）	エチュード（コンコーネ50番）No.１を導入し、音程、リズムなどの基礎的な技術を学ぶ。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
３回	エチュード（２）	No.１を各パート全体で、階名唱法、ヴォカリーズ（母音唱法）を行い、フレージングや音色をととのえ、その後、全体を半分にし、交互に各パートを練習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
４回	エチュード（１）	前回で習得したことを参考に、２人ずつ組んでレッスンをする。No.２を導入。全体で各パートを階名唱法、ヴォカリーズを行う。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
５回	エチュード（２）	No.２を前回同様、全体で各パートを階名唱法、ヴォカリーズを行い、フレージングや音色をととのえ、その後、全体を半分にし、交互に各パートを練習。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
６回	エチュード（１）	No.２を前回で習得したことをふまえ、フレージングや音色に留意し、２人ずつ組んでレッスンする。No.３を導入。全体で各パートを階名唱法する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
７回	エチュード（２）	No.３を前回同様、全体で各パートを階名唱法、ヴォカリーズで歌い、フレージングや音色をととのえ、その後、全体を半分にし、各パートを交互に練習。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
８回	エチュード（１）	No.３を前回で習得したことを参考に、ハーモニー、フレージング、音色に留意し、２人ずつ組んで、「ア」で仕上げる。No.４、No.５を導入する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
９回	エチュード（２）	No.４、No.５を全体で各パートを階名唱法、母音唱法で歌い、ハーモニー、フレージング、音色をととのえ、その後、全体を半分にし、各パートを交互に練習。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する

10 回	エチュード（1）	No. 4 、No. 5 を前回で習得したことを参考に、ハーモニー、フレージング、音色に留意し、2 人ずつ組んで「ア」で仕上げる。No. 6 、No. 7 を導入する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
11 回	エチュード（2）	No. 6 、No. 7 を前回同様、全体で各パートを階名唱法、母音唱法で歌い、ハーモニー、フレージング、音色をととのえ、その後、全体を半分にし、各パートを交互に練習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
12 回	エチュード（3）	No. 6 、No. 7 を前回で習得したことを参考に、ハーモニー、フレージング、音色に留意し、2 人ずつ組んで「ア」で仕上げる。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
13 回	試験曲の確認	No. 1 から No. 7 の中から 1 曲選び、各自、声質の合うパートナーと 2 人 1 組になり、今まで習得したことをふまえ、「ア」で練習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
14 回	試験曲の仕上げ（1）	伴奏者とのアンサンブルで、3 人で演奏表現を体験し、深めていく。実技試験に向けて暗譜で演奏し、互のハーモニーなどを確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
15 回	試験曲の仕上げ（2）	実技試験に相応しい演奏内容に仕上がっているか、互に確認し、さらに演奏表現を深めていく。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
16 回	新たなエチュード、楽曲	前期の授業をふまえて、技術、表現などを、さらに深めていく。エチュードは後期も継続する（1 曲）。楽曲は日本歌曲を導入する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
17 回	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュードについては、階名唱法、母音唱法を行い、フレージング、音色、ハーモニーなどをととのえる。楽曲は、2 曲程度を目安に、新たな課題を導入し進めていく。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
18 回	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは前回同様に継続する。楽曲については、詩を朗読するなどして、発音や意味など、日本語への理解を深める。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
19 回	新たなエチュード、楽曲（3）	楽曲は、前回の授業を参考に、各パートを全体で練習し、半分に別れ、各パートを交互に練習。エチュードは技術、表現等の内容をさらに深める。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
20 回	新たなエチュード、楽曲（1）	エチュードは新たな課題に入る。楽曲は、フレージング、音色、ハーモニーに留意し、2 人ずつ組んで練習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
21 回	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは前回同様、階名唱法、母音唱法を行い、フレージングや音色などととのえる。楽曲は、技術、表現等の内容を深めるためイタリア語を導入。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
22 回	新たなエチュード、楽曲（3）	エチュードは互のハーモニー、音色などに留意し「ア」で練習。楽曲については、詩を朗読するなどして、発音や意味など、イタリア語への理解を深める。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する

23 回	新たなエチュード、楽曲（1）	楽曲は、原語のディクションを指導する。各パートを全体で練習し、２人ずつ組んで練習する。エチュードは、技術、表現等の内容を深めるため新たな課題に入る。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
24 回	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは前回同様に継続する。楽曲では、前回同様にさらに内容を深めていく。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
25 回	新たなエチュード、楽曲（3）	エチュードは互のハーモニー、音色、フレージングに留意し「ア」で練習。楽曲については、技術、表現等の内容を深めるためドイツ語を導入する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
26 回	新たなエチュード、楽曲（1）	楽曲は、原語のディクションを指導し、詩を朗読するなどして、発音や意味など、ドイツ語への理解を深める。エチュードは、階名唱法などで、全体で各パートを練習。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
27 回	新たなエチュード、楽曲（2）	エチュードは互のハーモニー、音色、フレージングに留意し「ア」で練習。楽曲については、各パートを全体で練習し、２人ずつ組んで内容を理解し、練習する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
28 回	試験曲の確認	授業内で習得した曲を１曲選び、各自、声質の合うパートナーと組み、詩を朗読し、発音や意味など、理解を深める。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
29 回	試験曲の仕上げ（1）	伴奏者とのアンサンブルで、互の演奏表現を体験し、深めていく。実技試験に向けて暗譜で演奏し、お互いのハーモニーなどを確認する。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する
30 回	試験曲の仕上げ（2）	実技試験に相応しい演奏内容に仕上がっているか、互に確認し、さらに演奏表現を深めていく。 予習：課題を読む、歌う 復習：学んだことをピアノで音を取りながら復習する

準備学習（予習・復習について）

エチュード、楽曲の譜読みや、対訳や単語の意味など調べて、授業にのぞむこと。授業内で習得したことを、各自パートナーとパートを決め、それぞれソロで歌うのではなく、ハーモニーの響などに留意し、日々の練習で自分のものにしていくことが最も重要なことである。
日常生活の中の音の響のハーモニーなどにも耳をかたむけ、ＣＤや演奏会などで聴くこと（ソルフェージュ力）も大切なことである。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 発声についての理解、習得度 2. 楽曲についての理解、習得度 3. 言語についての理解、習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期実技試験 60%、毎授業時の歌唱発表 40%

教科書

「コンコーネによる二重唱曲集」　編曲　飯田隆　出版社　カワイ出版　40 版　平成 28 年 11 月 1 日
1,980 円
「中学生の音楽１」　出版社　教育芸術社　277 円
「中学生の音楽２・３上」　出版社　教育芸術社　278 円
「中学生の音楽２・３下」　出版社　教育芸術社　270 円

参考書等

必要な参考資料については授業時にコピーを配布する。

学習支援・履修上の注意

歌い方等個人的に質問がある場合は事前にオフィス・アワーを利用して相談すること。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分間程度、
１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SP62	創作研究	２年	前期	講義	1	菊地由記子

授業概要

最終的には歌曲の創作をおこなう。そのために、はじめに詩の選定をし、創作に必要な音楽的要素について深く考えていく。実際の歌曲作品を分析し、自身の創作に反映させていく。

到達目標（学習の成果）

多くの歌曲作品を知り、言葉と音の関係について深く考えることができる。
創作に必要な音楽的要素を取り入れながら、詩作品を音楽作品に発展させることができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 音楽理論の復習(1)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 創作の前に、既習の音楽理論の復習をしていきます。(第1回：おもに音程・リズム・拍子について復習します) 予習：本科目のシラバスの記載内容について読みましょう。 復習：学んだ内容を実際にピアノで音を出して確認しましょう。
2回	音楽理論の復習(2)	創作の前に、既習の音楽理論の復習をしていきます。(第2回：おもに和声進行・非和声音について復習します) 予習：該当箇所についてプリントを読んでおきましょう。 復習：学んだ内容を実際にピアノで音を出して確認しましょう。
3回	詩の選定に向けて	実際の歌曲作品を参考にしながら詩の選定をおこないます。 言葉と音の関係について考えます。 予習：詩の選定に向け事前にさまざまな詩作品を読みましょう。 復習：選定した詩を音読・黙読しましょう。
4回	歌曲作品の分析(1)	童謡や唱歌の作品を読み、言葉と音の関係、声域、調性、和声、リズム、拍子等についても分析します。 予習：配布プリント(楽譜)を読み、音を出して確認しましょう。 復習：学んだ内容を実際にピアノで音を出して確認しましょう。
5回	歌曲作品の分析(2)	童謡や唱歌の作品を読み、歌曲作品の編成について分析します。(無伴奏、+ピアノ、+他楽器等) 予習：さまざまな編成の歌曲作品を読み、聴きましょう。 復習：選定した詩をよく読み、編成を考えましょう。
6回	歌曲作品の創作(1)	選定した詩を熟読します。歌曲作品の分析で得たことを活かし、言葉と音の関係を考えながら音をつけていきます。 予習：選定した詩を何度も音読・黙読しましょう。 復習：書いた音の確認を、実際に音を出しながら行いましょう。
7回	歌曲作品の創作(2)	選定した詩を熟読します。歌曲作品の分析で得たことを活かし、声域、調性、和声について考えながら音をつけていきます。 予習：選定した詩を何度も音読・黙読しましょう。 復習：書いた音の確認を、実際に音を出しながら行いましょう。
8回	歌曲作品の創作(3)	選定した詩を熟読します。歌曲作品の分析で得たことを活かし、リズム、拍子について考えながら音をつけていきます。 予習：選定した詩を何度も音読・黙読しましょう。 復習：書いた音の確認を、実際に音を出しながら行いましょう。
9回	歌曲作品の実演(1)	創作途中ですが、実際に音を出して確認し、次回からの楽譜の推敲へつなげます。 予習：選定した詩を何度も音読・黙読しましょう。 復習：必要な修正を行いましょう。
10回	歌曲作品の推敲(1)	前回確認したことをもとに、改善すべき点などを検討し、楽譜の推敲をおこないます。 予習：選定した詩を何度も音読・黙読しましょう。

		復習：必要な修正を行いましょう。
11 回	歌曲作品の実演(2)	前回の修正点がどのように反映されているか、実際に音を出して確認します。必要があれば再度修正します。 予習：選定した詩を何度も音読・黙読しましょう。 復習：音を出して確認・修正を繰り返しましょう。
12 回	歌曲作品の推敲(2)	作品の完成へ向けて、細かく楽譜の推敲をしていきます。作曲者の意志が伝わる楽譜になっているか確認していきます。 予習：選定した詩を何度も音読・黙読しましょう。 復習：音を出して確認・修正を繰り返しましょう。
13 回	歌曲作品の推敲(3)	前回に引き続き、楽譜のチェックを入念におこないます。 予習：選定した詩を何度も音読・黙読しましょう。 復習：音を出して何度も確認・修正を繰り返しましょう。
14 回	歌曲作品の実演(完成)	完成した歌曲作品を実演し、お互いの作品について意見交換をします。 予習：選定した詩を何度も音読・黙読しましょう。 復習：いただいた意見をもとに、修正箇所があるかを検討しましょう。
15 回	歌曲作品の分析や創作をとおしてのまとめ	歌曲作品の分析や実際に創作をとおして、学んだことや新たに発見したことなどをまとめます。 予習：歌曲創作をとおして、詩と音楽の捉え方がどのように変化したか考えましょう。 復習：学んだことをもとに、今後の課題について考えましょう。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 1 単位なので授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。
歌曲作品の創作では、詩の熟読が大切です。詩の音読・黙読を繰り返し行いましょう。
また、いろいろな歌曲作品に興味をもって読んでみましょう。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
歌曲作品について、さまざまな視点から分析し、自身の歌曲創作へとつなげることができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
・定期試験(レポート) 100%

教科書

初回に取り上げる楽曲の楽譜を配布します。また、必要に応じて参考楽譜を追加配布していきます。

参考書等

書名：和声Ⅰ　著者名：池内友次郎 他　出版社：音楽之友社

学習支援・履修上の注意

詩作品も参考楽譜も、熟読が大切です。自分だけの一曲を創作するため、日々楽しみながら取り組んでください。

オフィスアワー

授業開始前後に受け付ける(1 号館 1 階：講師教員センター)

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP063	楽曲分析	１年	前期	講義	1	益子　徹

授業概要

私達が楽曲を演奏する場合、最も大切な要素の一つは楽曲の構成、すなわち音楽形式を理解していることで、楽曲を解釈する上では欠くことができません。この授業では、形式として幾つか存在する「音楽形式」の型を学び、実際の楽曲で確認します。

到達目標(学習の成果)

①和声と旋律の関係を理解することができる。
②学んだ音楽形式を実際の楽曲で確認することができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 和声分析の方法について	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を確認します。 和声学で学ぶ基本的な和声進行を復習し、実際の楽曲で分析します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
２回	旋律と和声の関係について	音楽の旋律は和声の構成の上に成り立っていることを、幾つかの楽曲で確認します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
３回	非和声音の種類について	旋律の中で、和音構成音からはずれているいわゆる非和声音（７種類）をよく知られている楽曲で確認します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
４回	カデンツの型について	西洋音楽の代表するカデンツ（和声進行の型）３種類を、実際の楽曲で確認します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
５回	２部形式について	形式の中で最も単純な２部形式の概要を、実際の楽曲から学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
６回	３部形式について	形式の中では２部形式に次いでシンプルな３部形式の概要を、実際の楽曲から学びます。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
７回	２部形式と３部形式の比較	２部形式と３部形式は似て非なるものですが、その違いを楽曲の分析によって確認します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
８回	転調について	少し長い曲になると、必ず転調（曲の途中で調を変える）が行われますが、平易な曲からその規則を分析します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
９回	複合３部形式（１）	古典時代には、メヌエットやガボット等舞曲を用いた曲が作られましたが、その際に使われたのがこの形式です。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。

10 回	複合３部形式（２）	内容は単純２部形式、あるいは単純３部形式を中心に組み合わせたもの、またはその両者を用いたものがあります。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
11 回	ロンド形式（１）	ロンドとは回転を意味しますが、その名のとおり２つの主題が何回もくり返されます。その法則を分析します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
12 回	ロンド形式（２）	４～５回繰り返されるロンド形式の第１主題は、ほとんど同じスタイルですが、第２主題は多用に変化します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
13 回	変奏曲	変奏曲形式は、先に学んだ非和声音を中心に組み立てられますが、一般の楽曲を用いてその仕組みを分析します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
14 回	ソナタ形式	古今東西の音楽形式の中で、最も重要で大規模なソナタ形式を、平易なソナチネを用いて分析します。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
15 回	ソナタ形式分析の要領	ソナタ形式の分析は複雑で難しいように思えますが、その要領さえ身につければ、誰にでも分析が可能です。 予習：教科書の学習範囲を読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 1 単位なので、90 分の授業時間以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・授業で取り上げる楽曲をあらかじめ練習しておくこと。

・新しく取り上げる内容を確認しておくこと。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
①和声と旋律の関係を理解している。 ②学んだ音楽形式を確認することができている。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期試験 100％で評価

教科書

使用テキスト　書名：「和声と楽式のアナリーゼ」　著者名：島岡譲　出版社名：音楽之友社

ISBN　978-4276102132　2,200 円

参考テキスト　書名：「新版　楽式論」　著者名：石桁真礼生　出版社名：音楽之友社

書名：「音楽形式の基礎」　著者名：属啓成　出版社名：音楽之友社

学習支援・履修上の注意

常日頃から、各自の演奏する楽曲の構成（音楽形式）について考えるようにすること。楽曲の構成に伴う音楽表現や暗譜する際に大いに役立ちます。

オフィス・アワー

何か疑問に思うことがあったら、そのままにしないで、必ず授業担当に相談すること。

（mashiko@ujc.ac.jp）

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP064	音楽科教育法	1年	後期	講義	2	鎌田　亮子

授業概要

中学校音楽科教育の目標、内容、指導計画等について理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を学び、学習指導案の作成や模擬授業等をとおして、実践的な指導方法を身に付ける。

到達目標

① 中学校音楽科の目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、その背景となる音楽領域と関連させて理解を深めることができる。
② 様々な音楽の学習理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 音楽科教育の在り方について	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 教職を目指すにあたり、音楽科教育の在り方について考える。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
2回	学習指導要領（1）	音楽活動・音楽表現・音楽鑑賞の目標や内容を学習する 予習：教科書の本時の学習内容項目について読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
3回	学習指導要領（2）	A 表現：①歌唱活動②器楽活動③創作活動④表現教材 B 鑑賞①鑑賞活動②鑑賞教材の内容を学習する。 予習：教科書の本時の学習内容項目について読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
4回	学習指導要領（3）	作成にあたっての配慮，および内容の指導についての配慮から授業設計を考察する。 予習：教科書の本時の学習内容項目について読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
5回	中学校学習指導　音楽 A 表現（1）	歌唱共通教材から自由選曲し、歌唱指導内容に基づき演習する。 予習：選択曲の練習をしておく。 復習：学習内容を整理しておく。
6回	A 表現（2）―1	弦管打楽器・鍵盤、電子楽器や民族楽器を用いることを想定し、各自の専攻楽器等を用いて器楽指導内容に基づき演習する。 予習：指導内容を考えておく。 復習：学習内容を整理しておく。
7回	A 表現（2）―2	初心者への指導の基礎を学び、伝統音楽のよさを味わえるようにする。 予習：指導内容を考えておく。 復習：学習内容を整理しておく。
8回	A 表現（3）	創作の意義と留意点を学び、表現したいイメージを描いて、反復・変化・対照等の構成を工夫し、小品を創作する。 予習：創作に必要な素材を準備しておく。 復習：学習内容を整理しておく。
9回	B 鑑賞	各自で鑑賞教材曲を選び，指導案の範例に基づき演習する。その際に図書館と情報機器の活用も習得する。 予習：教科書の本時の学習内容項目について読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。

10 回	学習評価―1	4 つの観点とその趣旨について，其々の評価規準に盛り込むべき内容を調べて、学習評価の考え方を理解する。 予習：教科書の本時の学習内容項目について読んでおく。 復習：学習内容を整理しておく。
11 回	学習評価―2	表現・歌唱の領域から弾き歌いを通して，観点基準に照らし合わせて、学習評価の模擬体験をする。 予習：授業内容の準備をしておく。 復習：学習内容を整理しておく。
12 回	授業設計－1	歌唱・器楽・創作・鑑賞の何れかを選択し，指導案範例から構成を理解し、具体的な授業を想定する。 予習：指導案作成に必要な内容を整理しておく。 復習：学習内容を整理しておく。
13 回	授業設計－2	選択した領域への理解を深め，中学生の認識・試行・学力等の実態を視野に入れた指導案を作成する。 予習：指導案作成に必要な内容を整理しておく。 復習：学習内容を整理しておく。
14 回	模擬授業の実施と考察 1	①歌唱 ②器楽の指導案の作成に基づき模擬授業を実施し，振り返りと改善点を話し合う。 予習：模擬授業に必要な内容を準備しておく。 復習：学習内容を整理しておく。
15 回	模擬授業の実施と考察 2	③創作 ④鑑賞で指導案の作成に基づき模擬授業を実施し，振り返りと改善点を話し合う。 予習：模擬授業に必要な内容を準備しておく。 復習：学習内容を整理しておく。

準備学修（予習・復習について）

本科目は、講義科目なので、授業時間以外に授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

そのほかには，教科書の範囲を読み込むこと，他科目で学んだことと照合しながら復習をしていくこと，現在受けているレッスンや様々な講義における教育方法に関心を持ち，教育に関する意識を高めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
１．中学校音楽科の目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、理解している ２．具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けている	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

授業内での模擬授業 50%、定期テスト 50%

教科書

書名・　中学校・高等学校教員養成課程用 改訂版 最新 中等科音楽教育法
中等科音楽教育研究会 編
出版社：音楽之友社　2020 年
ISBN　978-4276820197　3,300 円

書名・「中学校学習指導要領解説・音楽編」文部科学省　250 円
平成 29 年第 4 版発行
ISBN　978-4877888114

参考書等

書名・「音楽史を学ぶ」古代ギリシャから現代まで（鑑賞用副教材）
久保田慶一著　出版社：教育芸術社　平成 27 年改編版

学習支援・履修上の注意

履修者は学習内容によく目を通し、次回取り上げることを予習してから授業に臨むこと。
欠席した場合は出席者と連携し、当日の配布物を入手したうえで、次回の課題を確認すること。

オフィス・アワー

予約制で質問・疑問・相談を受付けます。
事前に kamata@ujc.ac.jp へ連絡してください。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP065	コード進行法基礎（グレード）	１年	後期	講義	1	木滑　友子

授業概要

就職試験に有利なグレード試験の受験を目指します。グレード試験に通用する勉強の授業内容です。即興的な音楽応用力を身に付けるため、和音記号とコードネームを併せて学びます。

到達目標（学習の成果）

コードネーム、コード進行について学び、グレード試験の課題に取り組むことができます。
ソルフェージュ、ひきうたい、伴奏づけ、移調奏を経験し、グレード試験の実技課題に取り組むことができます。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 コードネームとは	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 コードネームの基礎的内容を身に付ける。読み方・種類・使い方などを知る。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習：授業で学んだコードネームの基礎知識の振り返りを行うこと。
２回	和音記号と機能	コードネームと和音記号の関わりを理解する。各機能を知り、原理を学ぶ。 予習：和音記号について、配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：音を出しながらコードをおさえてくること。
３回	コード進行について	様々なコード進行のパターンを学ぶ。コード・和音記号・機能を一緒に理解する。 予習：コード進行のパターンについて、配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：音を出しながら、コード進行のパターンを復習すること。
４回	ベースライン	コード進行に対してベースラインを的確に付けられるようにする。転回形を理解する。 予習：ベースラインについて、配布プリントをよく読んでおくこと。 復種：授業で学んだベースラインの振り返りを行うこと。
５回	カウンターライン	カウンターラインについて解説する。メロディーに対して適切なカウンターラインを選択できるようにする。 予習：コードネームの構成音を確認しておくこと。 復習：カウンターラインの問題を解いておくこと。
６回	楽典	音程・音階・楽語・調判定・コードネーム等、過去問題集を使用し傾向やポイントをつかむ。 予習：各自が持っている楽典の本を用意し、苦手な箇所を確認してくること。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
７回	コード進行Ａ	メロディーに対して適切なコードネーム・ベースラインを付けられるようにする。 予習：音を出しながらコードづけを行っておくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
８回	コード進行Ｂ	過去問題集を使用し、カウンターラインを中心に解説する。ポイントを理解する。 予習：コードネームの構成音を確認しておくこと。

		復習：配布プリントの問題を解いてくること。
9回	聴音	メロディーに加え、和音・ベースの聞き取りに慣れる。譜面の書き方を学ぶ。 予習：３段楽譜の書き方を確認しておくこと。 復習：授業行った聴音問題を自分で音を出しながらよく聴いてくること。
10回	筆記のポイント	筆記問題の中で各自必要な点、勉強の仕方について考える。各科目についてポイントを整理する。 予習：第６~９回の授業内容を振り返っておくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
11回	メロディー視唱	読譜・リズム・音程などを正しく理解し、音楽表現を持って歌えるよう練習する。 予習：配布プリントの課題を歌っておくこと。 復習：授業で学んだポイントをおさえながら歌ってくること。
12回	ひきうたい	コードネーム付きメロディー譜に適切なピアノ伴奏を付けて歌えるよう練習する。 予習：配布プリントの課題を行っておくこと。 復習：授業で学んだポイントをおさえながら弾き歌いをしてくること。
13回	伴奏付け	８小節のメロディーに和音を付けて演奏する。メロディーを聞いて和音を考えるためのポイントを知る。 予習：配布プリントの課題を行っておくこと。 復習：授業で学んだポイントをおさえながら伴奏づけをしてくること。
14回	移調奏	移調奏に必要な考え方を知る。譜面から読み取れる内容をスムーズに指定された調に移調できるようにする。 予習：配布プリントの課題を行っておくこと。 復習：授業で学んだポイントをおさえながら移調奏をしてくること。
15回	実技のポイント	実技問題の中で各自必要な点、勉強の仕方について考える。各科目についてポイントを整理する。 予習：第１１~１４回の授業内容を振り返っておくこと。 復習：配布プリントの課題を行ってくること。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。
実技、筆記の内容共に予習・復習の時間を必ず取りましょう。毎回課題を出すので、しっかり取り組んでください。授業で行ったことを復習し、グレード試験に向けて準備をしましょう。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 筆記問題についての理解、習得度 2. 実技問題についての理解、習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

評価方法

定期試験（筆記試験）100％

教科書

授業時に毎回プリント配付。

参考書等　書名：指導グレード５～３級　実技・筆記試験問題一覧　同解答実施例　著者名：ヤマハ音楽振興会　出版社：ヤマハ音楽振興会　出版年：2017 年

書名：新総合音楽講座５　コード進行法　著者名：岩間　稔　出版社：ヤマハ音楽振興会　出版年：1990 年

履修上の注意・学習支援

この授業はグレード試験の受験を前提としています。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分程度、１号館１階「講師教員センター」を利用すること。）

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP066	コード進行法Ⅰ	１年	通年	講義	1	木滑　友子

授業概要

コード進行法を知ることは音楽を広く総合的かつ豊かにとらえる事に有効な方法である事を学びます。音楽応用力に関わる内容が多いので、習った事を知識・技術として覚えるだけでなく、繰り返し反復して音として体で覚える事で、自分の音楽を創造出来るようになれる実感を得てください。

到達目標（学習の成果）

コードネームと和音記号を併用し、コード進行を学びます。コードネームの利便性を活かしたキーボード実習を行い、鍵盤上で演奏出来るようになります。メロディーのコード付け、伴奏付けを行い、コード進行を理解することができます。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 コード進行法概論	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 コードネームはどこで使われているかを知る。コード進行法とは何か、コード進行法を学ぶ目的・目標を知る。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習：コード進行法を自分にとってなぜ学ぶのか、目標をまとめてくること。
2回	コードネームの基礎知識	コード進行法の学び方を知る。ピアノや電子オルガンとの関わり、自己の音楽表現との関りを学ぶ。 予習：コードネームがどのような場面で使われているのかまとめておくこと。 復習：自己の音楽表現に生かせるように授業内容をまとめてくること。
3回	コードの構成	コードはどの様な考え方に基づき構成されるか。コードネームの種類・表記・読み方について学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
4回	メジャーコードとマイナーコード	メジャーコードとマイナーコードの構成音を学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
5回	メロディーとコード	メロディーとコードは一体でメロディー音もコードの構成音であることを学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントに記載されているコードネーム付きメロディー譜を音出ししてくること。
6回	コードの転回形	コードの転回形を学び、実際の演奏で使われるコードの押さえ方を実践する。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントに記載されているコードネーム付きメロディー譜を音出ししてくること。
7回	ドミナントセブン	ドミナントセブン（属７）のコードについて学ぶ。構成音や役割を知る。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントに記載されているコードを音出ししてくること。
8回	主要三和音	機能（トニック・ドミナント・サブドミナント）について学ぶ。合わせて、進行のルールを知る。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。

9回	長調のカデンツ	長調のⅠ―Ⅳ―Ⅴ7―Ⅰのコードを筆記と実技で理解する。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントに記載されているコードを音出ししてくること。
10回	主要三和音のコード	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ7 を理解し、コードネーム付きメロディー譜を演奏する。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントに記載されているコードネーム付きメロディー譜を音出ししてくること。
11回	短調のカデンツ	短調のⅠ―Ⅳ―Ⅴ7―Ⅰのコードを筆記と実技で理解する。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントに記載されているコードを音出ししてくること。
12回	コード譜の演奏①	コードネーム付きメロディー譜を使い、コードを基本形・転回形で演奏する。 予習：コードネーム付きメロディー譜のコードをおさえられるようにしておくこと。 復習：授業で学んだコードのおさえ方を、音を出しながら確認してくること。
13回	コード譜の演奏②	コードをどのポジションでとるのか学ぶ。 予習：コードネーム付きメロディー譜のコードをおさえられるようにしてくること。 復習：授業で学んだコードのおさえ方を、音を出しながら確認してくること。
14回	前期の復習①	コードの基礎（読み方、構成音など）を復習する。 予習：第3~7回の授業内容を復習しておくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
15回	前期の復習②	主要三和音、機能について復習する。 予習：第8回の授業内容を復習しておくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
16回	機能と進行ルール	前期で学んだ主要三和音のコードを復習し、進行のルールを再確認する。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
17回	基本の進行パターン	主要三和音のコードを中心とした、基本的な進行パターンを学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントに記載されているコードを音出ししてくること。
18回	コードづけ①	進行パターンを理解しつつ、コードづけをする。 予習：メロディーにコードづけをしておくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
19回	低音について	コードと低音の関係について学ぶ。低音の取り方を学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
20回	副三和音	副三和音を学び、各調の副三和音のコードを理解する。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
21回	コードづけ②	副三和音を加えたコードづけを行う。 予習：メロディーにコードづけをしておくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
22回	コード譜の演奏①	副三和音を加えたコード譜を演奏する。 予習：コードネーム付きメロディー譜のコードをおさえられるようにしておくこと。 復習：授業で学んだコードのおさえ方を、音を出しながら

		確認してくること。
23 回	副属七①	副属七のコードについて学ぶ。構成音や役割を知る。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
24 回	副属七②	副属七を使ったコードづけを行う。 予習：メロディーにコードづけをしておくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
25 回	リハモナイズ	コードづけは様々な解答が考えられることを理解する。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
26 回	様々なコードネーム	マイナーセブン、メジャーセブン、sus4、aug、dim など様々なコードを学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
27 回	コード譜の演奏②	様々な種類のコードが使われる曲を演奏する。効果的なコードの使われ方を学ぶ。 予習：コードネーム付きメロディー譜のコードをおさえられるようにしておくこと。 復習：授業で学んだコードのおさえ方を、音を出しながら確認してくること。
28 回	後期の復習①	副三和音のコードについて復習をする。 予習：第 20~22 回の授業内容を復習しておくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
29 回	後期の復習②	副属七のコードについて復習をする。 予習：第 23~24 回の授業内容を復習しておくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
30 回	コード譜の演奏③	後期に学んだコードを使用する曲の演奏とアナリーゼをする。 予習：コードネーム付きメロディー譜のコードをおさえられるようにしておくこと。 復習：授業で学んだコードのおさえ方を、音を出しながら確認してくること。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。
授業ではプリントを使いますので学習した事は音を出して復習してください。
コード進行では理論と並行した感性の成長が大切です。そのために、楽器で音を出し音楽が耳に残るまで繰り返しましょう。目と手の動きが耳と一体となると効果を上げます。
参考テキストがありますので必要な所を抜出して音を出しながら勉強しましょう。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. コードネーム、コード進行法についての理解、または習得度 2. キーボード実習についての評価	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
定期試験（筆記試験）100％

教科書

授業時に毎回プリント配付。

参考書等

書名：松田昌の音楽トレーニング　著者名：松田昌　出版社：ヤマハ MM 出版年：2018 年
書名：新総合音楽講座５　コード進行法　著者名：岩間稔　出版社：ヤマハ音楽振興会
出版年：1990 年

学習支援・履修上の注意・

ピアノ応用専攻と電子オルガン専攻では必修です。自分の専門分野の勉強ですから気を入れて勉強しましょう。

オフィス・アワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分程度、１号館１階「講師教員センター」を利用すること。）

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
252SP067	コード進行法Ⅱ	２年	通年	講義	1	木滑　友子

授業概要

コード進行法Ｉを理解した前提の内容です。レベルが高くなります。

コード進行法を知ることは音楽を広く総合的かつ豊かにとらえる事に有効な方法である事を学びます。音楽応用力に関る内容が多いので、習った事を知識・技術として覚えるだけでなく、繰り返し反復して音として体で覚える事で、自分の音楽を創造出来るようになれる実感を得てください。

到達目標（学習の成果）

コードネームと和音記号を併用し、更に高度の専門的な知識・技術を念頭に置き学びます。
コードネームの利便性を活かした高度なキーボード実習を行い、鍵盤上で演奏出来るようにします。
転調を含むメロディーのコード付け、伴奏付け、またコードネーム・和音記号に十分に慣れます。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 様々なコードネーム	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 １年次に学んだコードの復習をする。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
2回	経過和音	経過和音の使われ方を学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
3回	上行変質と下行変質	半音階進行による変化和音について学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
4回	ドミナントの前のディミニッシュ	ディミニッシュの使われ方を学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントに記載されているコードネーム付きメロディー譜を音出ししてくること。
5回	カデンツの中の経過和音	経過和音をカデンツで整理し、コード進行を理解する。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
6回	循環コードとその変化	循環コードの基本進行と、発展した進行を学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントに記載されているコードを音出ししてくること。
7回	逆循環	逆循環のコード進行を学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントに記載されているコードを音出ししてくること。
8回	コードづけ	経過和音を理解し、コードづけをする。 予習：メロディーにコードづけをしておくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
9回	リハモナイズ	リハモナイズをし、経過和音・ハーモニーの理解を深める。 予習：メロディーにコードづけをしてくる。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。

10 回	ベースランニング①	低音の特徴ある動きを学ぶ。オルタネーティングベースの動き方を知る。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
11 回	ベースランニング②	転回形、経過音などを用いた低音の動きを知る。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
12 回	カウンターライン①	カウンターラインについて学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
13 回	カウンターライン②	指導グレードの課題を使用し、カウンターラインを考える。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
14 回	ベースランニングとカウンターライン	正しいベースランニングとカウンターラインについて課題を通して考える。 予習：配布プリントの問題を解いておくこと。 復習：授業で扱った譜面を、音出しして確認してくること。
15 回	経過和音、循環コード、逆循環などの復習	前期前半で学んだ内容を復習する。 予習：第２~８回の授業内容を復習してくること。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
16 回	ドミナント・モーション	Ⅴ7 からⅠへ進む基本的な進行を理解する。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
17 回	副属七	１年次に学んだ副属七を再確認し、コードづけに生かせるように理解を深める。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
18 回	トゥー・ファイブ	トゥー・ファイブの進行を学び、音出しをする。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
19 回	トゥー・ファイブとドミナント・モーション	２つの進行を理解し、筆記と実技で習得する。 予習：配布プリントの問題を解いておくこと。 復習：授業で扱った譜面を、音出しして確認してくること。
20 回	コードづけ①	トゥー・ファイブとドミナント・モーションを意識しながら、コードづけをする。 予習：メロディーにコードづけをしておくこと。 復習：授業で扱った譜面を、音出しして確認してくること。
21 回	コードづけ②	コードづけの経験を重ね、コード進行の原則を理解する。 予習：メロディーにコードづけをしておくこと。 復習：授業で扱った譜面を、音出しして確認してくること。
22 回	サブドミナントとサブドミナント・マイナー	ⅣとⅣm の役割、使い方を学ぶ。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
23 回	コードプログレッション	これまでに学んだ進行を表にまとめ理解する。 予習：配布プリントの問題を解いておくこと。 復習：授業で扱った表を、音出しして確認してくること。
24 回	代理コード①	代理コードの効果を知る。様々な代理コードの種類を知る。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。

25回	代理コード②	代理コードが使われている曲をアナリーゼする。 予習：コード付きメロディー譜を弾いておくこと。 復習：授業で扱った譜面を、音出しして確認してくること。
26回	テンションコード①	テンションコードとは何か、知識、音としての理解をする。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：配布プリントの問題を解いてくること。
27回	テンションコード②	テンションコードが使われている曲をアナリーゼする。 予習：コード付きメロディー譜を弾いておくこと。 復習：授業で扱った譜面を、音出しして確認してくること。
28回	コード進行の定型	２年間で学んだコード進行の、基本的な進行、発展的な進行のまとめをする。 予習：配布プリントの問題を解いておくこと。 復習：授業で扱った譜面を、音出しして確認してくること。
29回	後期の復習①	進行を理解しながらコードづけを行う。 予習：メロディーにコードづけをしておくこと。 復習：授業で扱った譜面を、音出しして確認してくること。
30回	後期の復習②	代理コード、テンションコードについて復習する。 予習：配布プリントの問題を解いておくこと。 復習：授業で扱った譜面を、音出しして確認してくること。

準備学習（事前学習・事後学習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。

１．授業ではプリントを使いますので学習した事は音を出して復習してください。

２．コード進行では理論と並行した感性の成長が大切です。そのために、楽器で音を出し音楽が耳に残るまで繰り返しましょう。目と手の動きが耳と一体となると効果を上げます。

３．参考テキストがありますので必要な所を抜出して音を出しながら勉強しましょう。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1.コード進行法についての理解、または習得度 2.キーボード実習についての評価	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

評価方法

定期試験（筆記試験）100％

教科書

毎回、資料をコピーして配布する。

参考書等　書名：松田昌の音楽トレーニング　著者名：松田昌　出版社：ヤマハMM 出版年：2018年　価格：3,300円

書名：新総合音楽講座５　コード進行法　著者名：岩間稔　出版社：ヤマハ音楽振興会　出版年：1990年　価格：1,100円

学習支援・履修上の注意

ピアノ応用専攻と電子オルガン専攻では必修です。自分の専門分野の勉強ですから気を入れて勉強しましょう。

オフィス・アワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分程度、１号館１階「講師教員センター」を利用すること。）

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
251SP068	電子オルガン 創作編曲Ⅰ	１年	通年	講義	1	木滑　友子

授業概要

電子オルガンの音楽力を高めるために、それぞれの音色を通して生楽器について学びます。また、編曲を行うに向けて正確なスコアリーディングが出来るように専門的な知識をつけていきます。

到達目標（学習の成果）

電子オルガン演習の内容が中心のため、授業に向けての準備をしっかり行うことで音楽の幅が広げられます。オーケストラの各楽器の特徴、譜面の読み方を学び、グループ内で編曲が出来るようになります。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 譜面の書き方	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 正確かつ相手に音楽が十分に伝わるような譜面作り。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習：譜面作りの課題を行ってくること。
２回	楽器について（弦楽器）	オーケストラに使用される楽器について学ぶ。弦楽器の特徴や音域について知る。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：弦楽器の音色を CD や動画等で聴いてくること。
３回	楽器について（木管楽器）	オーケストラに使用される楽器について学ぶ。木管楽器の特徴や音域について知る。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：木管楽器の音色を CD や動画等で聴いてくること。
４回	楽器について（金管楽器他）	オーケストラに使用される楽器について学ぶ。金管楽器、打楽器等の特徴や音域について知る。 予習：配布プリントをよく読んでおくこと。 復習：金管楽器や打楽器の音色を CD や動画等で聴いてくること。
５回	様々な編成のアンサンブル	テキストを使用し、アルト記号や移調楽器の譜面を読みパート分けをし、アンサンブルを行う。 予習：スコアの譜読みをしてくること。 復習：自分のパートを練習してくること。
６回	スコアリーディング	オーケストラスコアを見て、複数のパートを分担してアンサンブルを行う。 予習：自分のパートを練習してくること。 復習：授業で学んだポイントをおさえながら弾いてくること。
７回	アンサンブルのまとめ	クラス内で１曲を通して音楽的に表現をまとめて演奏する。夏休み課題を出題する。 予習：自分のパートを練習してくること。 復習：CD,動画等で指定の楽曲を聴いてくること。
８回	曲決め（編曲）	これから編曲する曲を決める。譜面を見ながらＣＤを聞き、演奏可能かどうか、また音楽的に編曲出来るか判断する。 予習：CD,動画等で指定の楽曲を聴いてくること。

		復習：自分のパートを楽譜に書き起こしてくること。
9回	音色作り	生の楽器の音色、もしくはＣＤを参考にソロの響きや複数の楽器が合わさった響きを理解する。 予習：CD,動画等で指定の楽曲を聴いてくること。 復習：自分のパートを楽譜に書き起こし弾いてくること。
10回	アンサンブルについて	アンサンブルをする時の注意点やフレーズの歌い方、呼吸法などについて学ぶ。 予習：CD,動画等で指定の楽曲を聴いてくること。 復習：自分のパートを楽譜に書き起こし弾いてくること。
11回	編曲指導１	アンサンブルの楽譜の書き方について確認を行う。アーティキュレーション等の書き方。 予習：自分のパートを練習しておくこと。 復習：楽譜の書き方を見直してくること。
12回	編曲指導２	各楽器の役割や曲の構造について理解する。また重要なパートと省略音の判断をする。 予習：CD,動画等で指定の楽曲を聴いてくること。 復習：楽譜の書き方を見直し、弾いてくること。
13回	編曲指導３	各楽器の音色や、全体の音量のバランスを客観的に感じられるようにクラス内で聞き合う。 予習：自分のパートを練習しておくこと。 復習：音色づくり、音量を意識しながら弾いてくること。
14回	アンサンブル編曲のまとめ	仕上がってきたそれぞれの楽曲のテンポを落としながらもう一度確認していく。 予習：自分のパートを練習しておくこと。 復習：自分のパートを練習してくること。
15回	アンサンブル編曲の発表	クラス内で今まで行ってきたアンサンブル編曲の発表会を行う。日頃の練習の成果を披露すること。 予習：自分のパートを練習しておくこと。 復習：CD、動画を見直すこと。

準備学習（事前学習・事後学習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。
授業内では常に電子オルガンの演奏を行いますので、次回の授業時までに練習を重ねましょう。
後期からは楽譜の読み書き、パート練習、音色作り等各自に課題となる内容が多いのでスムーズに授業に取り組めるよう予習復習を欠かさないでください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1.編曲作業の積極性についての評価 2.演奏技術についての評価 3.演奏表現についての評価	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

評価方法
定期試験（レポート試験）100％

教科書

授業時に毎回プリント配付。

参考書等

書名：「管弦楽器法概論」／著者名：河江一仁　出版社：ヤマハ音楽振興会　出版年：1991 年
価格：1,859 円

書名：「はじめてのオーケストラ・スコア」／者名：野本由紀夫　出版社：音楽之友社
出版年：2003 年　価格：1,980 円

学習支援・履修上の注意

毎回の授業で行う実技的内容や音楽知識等を大切に、また予習復習を積極的に行ってください。準備をしっかり行うことで幅広く学習が出来ます。

オフィス・アワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分程度、１号館１階「講師教員センター」を利用すること。）

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
252SP069	電子オルガン 創作編曲Ⅱ	２年	通年	講義	1	木滑　友子

授業概要

２年生では、主に創作の授業を行います。その他クラシックやポピュラー等たくさんの音楽ジャンルに触れ幅広い音楽を表現できるように知識をつけていきます。

到達目標（学習の成果）

創作を中心に扱い、１曲以上の自作曲が作れるようになります。電子オルガン演習の内容が中心のため、授業に向けての準備をしっかり行いながら計画的に取り組みましょう。

授業計画

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 モチーフ分析	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 曲の中には様々なモチーフが生かされている。どんな作りになっているのかフレーズや和音等分析していく。 予習：授業で様々なモチーフが見られるように楽譜を持ち寄る準備をすること。 復習：自身が現在演奏している曲のモチーフを分析してくること。
2回	楽節について	楽節について理解する。曲の段階や、構成に目を向け、曲作りに向けての材料とする。 予習：自身が現在演奏している曲の、構成を見てくること。 復習：授業内容を振り返りながらアナリーゼしてくること。
3回	モチーフからの発展	いくつかのモチーフから効果的に発展させるやり方を学ぶ。 予習：様々な楽曲のモチーフの続きがどうなっているのかを見てくること。 復習：課題のモチーフの続きを作ってくること。
4回	曲のイメージ作り	曲作りにあたり、イメージを持つことは非常に大切である。題名や物語性を考えて曲作りの発展性を図る。 予習：既製曲の題名と音楽の作りの関連性を探してくること。 復習：イメージを持って短い曲作りを行ってくること。
5回	創作指導１	自分の曲に対するイメージ、使用楽器、テンポの設定など曲作りの初期段階の確認を行う。 予習：自分がどのような曲を作りたいか考えておくこと。 復習：授業で確認したことを踏まえ曲を作ってくること。
6回	創作指導２	イントロ、エンディング、間奏等自分の曲に適するものを加えて曲らしさを追求する。 予習：作曲したところまで弾けるようにしておくこと。 復習：曲の構成を考えてまとめてくること。
7回	創作指導３	豊富な和音の使い方を学ぶ。右、左、ベースのパートを考え、それぞれのパートらしさを出す。 予習：どのような音色で演奏するのか考えておくこと。 復習：それぞれのパートの動きを考えてくること。
8回	自作曲のまとめ	自作曲のまとめとクラス内発表会を行う。学生間で聞き合い互いに勉強し合う。 予習：自作曲を発表できるように準備しておくこと。 復習：完成した曲の楽譜をまとめてくること。

9回	創作	アンサンブルで小品を創作する。（以下の授業項目と並行して行う） 予習：自分がどのような曲を作りたいか考えておくこと。 復習：全体の構成、モチーフなどを考えてくること。
10回	演奏形式について	クラシックやポピュラーの色々な様式やジャンルの音楽に触れ、理解する。 予習：作曲したところまで弾けるようにしておくこと。 復習：作曲の続きを行うこと。手本となるような曲を、CDや動画で聴いてくること。
11回	ピアノ曲の分析	ピアノ曲を使用して、数曲を分析していく。創作の参考にする。 予習：作曲したところまで弾けるようにしておくこと。 復習：作曲の続きを行うこと。
12回	創作指導４	初心に戻り、譜面の書き方をチェックする。相手に正確に伝わる譜面作りを目指す。 予習：作曲したところまで弾けるようにしておくこと。 復習：楽譜の書き方を見直してくること。
13回	創作指導５	メロディー、伴奏、オブリガード、低音の各パートを意識して創作する。 予習：どのような音色で弾くのか、レジストをまとめておくこと。 復習：それぞれのパートの動きを考えてくること。
14回	創作指導６	アンサンブルの響きや音域、それぞれの音色や、表現方法等総合的に見ていく。 予習：自作曲、他学生の作った曲を演奏できるようにしておくこと。 復習：アンサンブルをするメンバーで練習してくること。
15回	アンサンブル小品のまとめ	創作のまとめとクラス内発表を行う。学生間で聞き合い互いに勉強し合う。 予習：自作曲、他学生の作った曲を演奏できるようにしておくこと。 復習：復習：完成した曲の楽譜をまとめてくること。

準備学習（予習・復習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。
授業内では常に電子オルガンの演習を行いますので、事前に練習を重ねましょう。自作曲を書くため、楽譜を作成します。次回の授業時までに予習復習を欠かさないでください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 編曲作業の積極性についての評価 2. 演奏技術についての評価 ３．演奏表現についての評価	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

評価方法
定期試験（レポート試験）100％

教科書

授業時に毎回プリント配付。

参考書等

書名：「管弦楽器法概論」／著者名：河江一仁　出版社：ヤマハ音楽振興会　出版年：1991 年
書名：「はじめてのオーケストラ・スコア」／者名：野本由紀夫　出版社：音楽之友社
出版年：2003 年

学習支援・履修上の注意

創作を行うので毎回の授業時までに曲についてのアイデアを前向きに出していくこと。フレーズや和音、響きを大切に創作に取り組みましょう。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分程度、１号館１階「講師教員センター」を利用すること。）

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
252SP070	ポリフォニーの演奏法	２年	後期	講義	2	新井啓泰

授業概要

ポリフォニーは多声音楽の事である。モノフォニー、ポリフォニー、ホモフォニーといった時代とスタイルの変化を改めて見直しながら、多声部による音楽の魅力を学ぶ。演習を通して、ポリフォニックな楽曲の基礎的な演奏法を身につける。

到達目標（学習の成果）

歌ったり、ピアノを用いて、一人で、または複数人で演奏し、多くのポリフォニック作品にふれる。複数の旋律による音楽の構造を理解できるようになる。多声の音楽表現のために必要な観点と、基礎的な演奏技術を身につけ、その美しさを表現できるようになる。

授業計画

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 ポリフォニーの概要	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 「多声音楽」の概念を説明し理解する。 身近な音楽のポリフォニーを聴き、導入とする。 予習：皆川達夫『バロック音楽』等を読み、予備知識を得ること。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
2回	音楽史に見るポリフォニーの歴史	音楽史の流れにおいて、どのようにポリフォニーが生まれたのか、またその変遷を概観する。 予習：音楽史の参考書等で時代の特徴をよく理解しておく事。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
3回	モノフォニーとポリフォニーを聴き比べる	単旋律の音楽と多声音楽の違いを知る。 予習：音楽史の参考書等で音楽用語の特徴をよく理解しておく事。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
4回	ポリフォニーとホモフォニーを聴き比べる	楽曲の中で、ポリフォニックな部分とホモフォニックな部分をさがす。 予習：音楽史の参考書等で音楽用語の特徴をよく理解しておく事。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
5回	多様なポリフォニーの種類にふれてみる	カンツォーナ、リチェルカーレ、カノン、フーガを聴き比べる。 予習：音楽史の参考書等で音楽用語の特徴をよく理解しておく事。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
6回	カノンの種類を知る	平行カノン、反行カノン、逆行カノンを理解する。 予習：音楽史の参考書等で用語の特徴をよく理解しておく事。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
7回	カノン演習	カノンを歌ってみる、パッヘルベルのカノンを演奏してみる。 予習：音楽史の参考書等で音楽用語の特徴をよく理解しておく事。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
8回	バッハのポリフォニー概論	ポリフォニー音楽の大家であるバッハが、その手法をどのように芸術的表現として使っていたか、宗教作品などで確認する。 予習：バッハに関する解説書・参考書等をよく読んでおくこと。

		復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
9回	バッハ演習①	アンナ・マグダレーナの小品を用い、演習する。 予習：指定された作品をよく練習しておくこと。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
10回	バッハ演習②	インヴェンションとシンフォニアを用い演習する。 予習：指定された作品をよく練習しておくこと。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
11回	バッハ演習③	平均律クラヴィーア曲集を用い、演習する。 予習：指定された作品をよく練習しておくこと。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
12回	バッハ以降のポリフォニー①	ホモフォニー全盛の古典派時代における、ポリフォニーの扱われ方を考察する。 予習：音楽史の参考書等で音楽用語の特徴をよく理解しておく事。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
13回	バッハ以降のポリフォニー②	ロマン派作品におけるポリフォニックな手法の扱われ方を見る。 予習：実技で学んでいる曲の楽曲分析をすること。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
14回	バッハ以降のポリフォニー③	近現代作品におけるポリフォニックな表現を見ていく。 予習：実技で学んでいる曲の楽曲分析をすること。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。
15回	演奏発表定期試験へ向けたまとめ	各自がポリフォニックな作品を演奏発表する。レポート試験に向けて、ポリフォニー作品への理解をまとめる。 予習：実技で学んでいる曲の楽曲分析をすること。 復習：授業で学んだことをノートにまとめること。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目2単位なので、授業時間90分以外に60時間の授業外学習が必要になります。

・演習課題の練習・復習（バッハ「インヴェンションとシンフォニア」や組曲等）（1時間×15回）

・参考文献や授業で紹介した文献を読み、その内容をノートにまとめること。(1時間×15回)

・授業で課されたアンサンブル課題についてのリハーサル(1時間×15回)

・最終発表課題のレポート作成と演奏準備(1時間×15回)

授業では、ほぼ毎週、演習を行う予定である。演奏課題を事前に出すので、しっかりと練習して授業にのぞむこと。自分の担当パート以外の部分も、内容を理解し、複数の声部を把握することに努めること。

事前学習：を取り上げるので、各自練習しておくこと。

事後学習：授業で扱った内容や専門用語をよく復習すること。

成績評価の評価・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
・多声音楽の演奏法を身につけている。 ・多声音楽の構造を理解できている。 ・音楽史上のポリフォニー	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない

音楽の変遷の理解をしている					
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
定期試験（レポート）　50%
授業内演奏　50%

教科書　使用テキスト
授業で使用する資料、楽譜はその都度、配付する。
参考文書等
皆川達夫　『バロック音楽』講談社
江端伸昭『バッハ・キーワード辞典』春秋社

履修上の注意・学習支援
ポリフォニーの演奏技術の向上には、着実な理解と、日頃から複数声部への地道な意識づけが肝心である。分析や、パートの取り出した練習などを欠かさないこと。

オフィス・アワー
授業内容や自己の向上に向けて質問や不明点があればオフィス・アワーを利用して下さい。
研究室で質問や相談を受け付けます。
質問メールはいつでも受け付けます。(arai@ujc.ac.jp まで)

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP071	ピアノ指導法	1年	後期	講義	2	田島恵理

授業概要

受講生が各自の「音楽教室」を開くことを前提として授業を進める。15回の講義を通じて、楽器店や自宅でのピアノ指導や、教育の現場で必要とされる基本を学ぶ。ピアノに関わる広い職種に適う知識・技術を学ぶ。受講生の専攻やピアノの進度は問わない。講義形式のほか、模擬レッスン、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて行う。

到達目標（学習の成果）

指導者としての社会での役割を知り、自立・自律した生活の知識・技術を身につける。（知識）
ピアノ指導の現場で想定される様々なパターンを想定し、演習を通じて対応・対処法を学ぶ。（技術・方法）
教則本や教材などの特徴を把握し、指導のポイントを見つけ出せるようにする。（技術・方法）

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 ピアノ指導者になるために1	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を説明する。教わること、教えることの立場を認識する。 予習:音楽をはじめたきっかけとこれまでの音楽体験を想起する 復習：指導者の立場や役割を記述する。
2回	ピアノ指導者になるために2	ピアノを通した様々な社会活動を知る。国内外の実例から考察する。 予習：どのような音楽教室があるのかを調べる。 復習:授業内容を整理し、自分の目指す音楽教室のビジョンを立てる。教室理念を定義する。
3回	ピアノ指導者になるために3	教育理念とは何か、ピアノを教える意義を見出す。 予習：ピアノ指導者としての役割を考える。 復習：講義で紹介するエピソードを参考に、自分の目指す指導者のあり方を記述する。
4回	ピアノ指導法1	0歳児からのコンサートや、1，2歳児の指導法と海外を含めた代表的なメソッドを知る。 予習：0歳児、1，2歳児の特徴を調べる。 復習:講義内で紹介するコンサートや実例を参考にし、体験レッスンの構想を立てる。
5回	ピアノ指導法2	未就学児における導入期の指導、国内の代表的なメソッドを知る。 予習：1.2歳児の特徴を調べる。 復習:講義内で紹介する実例をもとに、1，2歳児を対象とした指導法を、教室理念に沿った形で想起する。
6回	ピアノ指導法3	未就学児における導入期の指導、海外の代表的なメソッドを知る。 予習：未就学児の子供の特徴を考える。 復習:講義内で紹介する実例をもとに、導入期の指導法と体験レッスンの構想を立てる。

7回	ピアノ指導法４	学齢児童における導入期の指導、代表的なメソッドと教材を知る。 予習：学齢児童の子供の特徴を考える 復習：学齢児童に適した教材と指導法についての構想を立て指導用楽譜の選定案に繋げる。
8回	ピアノ指導法５	学齢児童生徒における発展期の指導、代表的な学習方法を知る。 予習：小学校高学年、中、高校生のそれぞれの特徴や状況を考える 復習：小学校高学年からの生徒の指導法について構想を持ち、指導用楽譜の選定案に繋げる。
9回	ピアノ指導研究	学齢児童生徒における発展期の指導において知っておくべきこと。課題発表(プレゼンテーション)。 予習：これまでの内容を整理し、子供向けの音楽教室における指導法、課題発表の準備。 復習：課題発表(プレゼンテーション)をふり返り、発表した内容でレポートを作成。
10回	ピアノ指導法６	一般向け(大人の方を対象にした)レッスン指導法を学ぶ。 予習：大人を対象としたレッスンでは、どのようなことが求められているかを考える。 復習：大人の方に適した教材と指導法についての構想を持ち、指導用楽譜の選定案に繋げる。
11回	ピアノ指導法７	一般向け(シニアの方を対象にした)レッスン指導法を学ぶ。 予習：シニアを対象としたレッスンでは、どのようなことが求められているかを考える。 復習：シニアの方に適した教材と指導法についての構想を持ち、指導用楽譜の選定案に繋げる。
12回	ピアノ指導者として【運営】	ピアノ教室を主宰、運営していく方法を考察する。 予習：教室のホームページや広告(チラシ)などの作成に必要なことを考える。 復習：ピアノ教室を運営していく上で必要なことを整理する。
13回	ピアノ指導者として【就職】	音楽教室採用試験・グレード試験に向けてどのような準備が必要かを知る。演奏スキルを高めていくことの重要性を知る 予習：講師として勤務する上で大切なことを考える。 復習：募集を行っている教室の情報収集をする。
14回	ピアノ指導者として【社会貢献】	音楽を通して社会で貢献できることを知る。 予習：社会の中での音楽の役割を考える。 復習：社会で貢献できることを記述する。
15回	ピアノ指導者として【発表】	授業内で学習した内容を軸に、『ピアノ指導者として活躍するために』のテーマで発表する。(レポート試験) 予習：発表の準備をする。 復習：発表したことをレポートとして提出する。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 2 単位ですので、授業時間 90 分以外に 15 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

授業では毎回 Chromebook を持参し、予習・復習についても記録する。
シラバス内容に目を通し、課題確認と調べ事等をまとめて授業に臨むこと。
一回毎に配布する資料(コピー)は復習し、保管する。
ピアノ指導法 1～7 は実習形式での模擬レッスンを行うため、事前に課題曲に目を通しておく。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1.教材の本質を理解したか。(実習課題) 2.指導法についての知識を段階的に習得したか。(レポート) 3.既存の意見を整理し、自らの考えを説明できる。(プレゼンテーション)	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
１．授業内の演習課題(30%)
２．定期試験　レポート　指導法(30%)
３．プレゼンテーション(40%)

教科書

使用する教科書　なし
資料を配布する。

参考書等

『あなたがピアノを教えるべき 11 の理由』ヤマハミュージックメディア
『もうひとつのピアノ指導法』山本英子著
『リズムの本』学研

学習支援・履修上の注意

本科目は、講義科目（２単位）ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要となります。
・卒業後は音楽専門家として多様な対応が求められる。学習内容には興味の濃淡があると思われるが、受け身の学びではなく、仕事現場を想定して積極的に演習に臨むこと。
・学習内容について、不明なことは常に調べ、質問すること。
・必要な配慮のある場合は事前に相談すること。

オフィスアワー

質問等があればオフィス・アワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP072	演奏表現法	１年	前期	講義	２	阿久澤政行

授業概要

音楽における基本的な理論と演奏技術を学ぶとともに、美しい演奏姿勢や演奏表現の在り方を、様々な演習を取り入れながら進める。幅広い体験が出来ることで、「音楽を通した自己表現」が見えてくる内容になっている。豊かな感性を磨き、音楽に携わる全ての学生を対象とし、音楽に関わる広い職種に適う知識・技術を学ぶ。受講生の専攻やピアノの進度は問わない。

到達目標(学習の成果)

１．卒業後の音楽活動に役立つ演奏知識を実践的な形式で学び、舞台上での自己表現の向上を目標とする。
（知識・技術・態度）
２．配布資料や実習記録をファイルし、各自のオリジナル教材として活用できるようにする。(知識・方法)

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 演奏表現法の概念 演奏家としての心得	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 演奏表現法の定義を理解する。２年次の学内演奏会に先がけて、舞台上でのマナーを学び、演奏会の運営法を学ぶ。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおくこと。 復習：講義内でのノート、資料をまとめること。
２回	演奏会の設計図	様々な演奏会情報を元に、演奏会を催す際に必要なノウハウを学ぶ。 予習：様々な演奏会の情報を集め、特徴について調べる。 復習：講義内でのノート、資料をまとめること。
３回	演奏家としての姿勢	美しい演奏姿勢とは何か、舞台上での実践形式にて学ぶ。 予習：様々な演奏家の情報を集め、特徴について調べる。 復習：講義内でのノート、資料をまとめること。
４回	表現力のトレーニング 朗読と音楽１	舞台上での演奏にて必要とされる表現力を、様々な視点から追及する。朗読する本の設定。 予習：過去に朗読したことのある本をまとめること。 復習：講義内で使用する本の特徴をまとめること。
５回	表現力のトレーニング 朗読と音楽２	舞台上での演奏にて必要とされる表現力を、様々な視点から追及する。朗読する本に対する楽曲の選曲。 予習：設定した本に相応しい楽曲をまとめること。 復習：講義内で使用する楽譜をまとめること。
６回	表現力のトレーニング 朗読と音楽３	舞台上での演奏にて必要とされる表現力を、様々な視点から追及する。設定した内容についての考察。 予習：設定した本の朗読をすること。 復習：講義内で指導した朗読法を練習すること。
７回	表現力のトレーニング 朗読と音楽４	舞台上での演奏にて必要とされる表現力を、様々な視点から追及する。設定した各課題についての表現法。 予習：講義内で指導した朗読法を練習すること。 復習：講義内で指導した演奏法を練習すること。
８回	表現力のトレーニング 朗読と音楽５	舞台上での演奏にて必要とされる表現力を、様々な視点から追及する。朗読と音楽の実践発表。 予習：朗読と音楽の披露に向け、練習すること。 復習：講義内で指導した朗読法/演奏法をまとめること。
９回	コンサートホールを知る	国内外のコンサートホールの特徴を学び、本学ホールでの演奏対応に備える。 予習：様々なコンサートホールの情報を集め、特徴について調べる。 復習：講義内でのノート、資料をまとめること。

10 回	表現力のトレーニング 映像と音楽１	映像での演奏にて必要とされる表現力を、様々な視点から追及する。 テーマとする楽曲を選曲する。 予習：動画配信サイトを活用し、映像と音楽のモデルをまとめること。 復習：映像作成で使用する曲の特徴をまとめること。
11 回	表現力のトレーニング 映像と音楽２	映像での演奏にて必要とされる表現力を、様々な視点から追及する。 映像技術の知識を学ぶ。 予習：講義内での動画配信サイトを予習し、特徴をまとめること。 復習：映像作成で必要となる知識と技術をまとめること。
12 回	表現力のトレーニング 映像と音楽３	映像での演奏にて必要とされる表現力を、様々な視点から追及する。 映像における表現の考察。 予習：設定した楽曲における映像のイメージをまとめること。 復習：映像作成で必要となる素材をまとめること。
13 回	表現力のトレーニング 映像と音楽４	映像での演奏にて必要とされる表現力を、様々な視点から追及する。 映像を活かしたオリジナル作品制作①(演奏)。 予習：設定した楽曲の演奏をまとめること。 復習：映像作成で必要となる演奏と素材をまとめること
14 回	表現力のトレーニング 映像と音楽５	映像での演奏にて必要とされる表現力を、様々な視点から追及する。 映像を活かしたオリジナル作品制作②(映像)。 予習：設定した演奏と映像をまとめること。 復習：映像作成で必要となる全ての素材をまとめること
15 回	表現力のトレーニング 映像と音楽６	映像での演奏にて必要とされる表現力を、様々な視点から追及する。 映像作品の発表。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 2 単位ですので、90 分の授業時間以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。

・毎回、学習内容によく目を通し、前週に出された課題や持参資料を確認して授業に臨むこと。

・各回に配布物やレポートまたは演習の課題がある。毎週内容が変わるので、演習後は自分のものになるまで反復が必要である。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
1.朗読と音楽 (課題の実習発表) 2.映像と音楽 (課題の実習発表) 3.レポート (既存の意見を整理し、自らの考えを説明できる)	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

・朗読と音楽作品（実習課題)40%　映像と音楽作品（実習課題)40%　定期試験(レポート)20%

※課題に対しては、授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
なし

参考テキスト
・映像資料として活用するため、https://www.youtube.com/@user-fg5mu9rp1f(宇短大チャンネル)を各自登録する。
・毎回資料をコピーして配布する。

学習支援・履修上の注意
１．卒業後は音楽専門家として多様な対応が求められる。学習内容には興味の濃淡があると思われるが、受け身の学びではなく、仕事現場を想定して積極的に演習に臨むこと。
２．学習内容の疑問・質問、また進め方に対する要望は常時受け付けるので、授業中に発言して差し支えない。

オフィス・アワー
授業内容についての質問や課題の問い合わせは、オフィスアワーを利用すること（事前予約(akuzawa@ujc.ac.jp)のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SP073	初見・伴奏法	2 年	前期	講義	2	田島恵理

授業概要

音楽の専門家は様々な場面で、初めて見る楽譜から直ちにその構成を理解し表現することが求められる。ピアノ指導者となる上でも必須となる読譜力と演奏力の向上を目指し、初見のトレーニングを講義と演習を通して学ぶ。伴奏法を学ぶことは、アンサンブル音楽における芸術表現と理解ができるようになる。伴奏法を学び、両方の演習を通じて専門的技能の基礎を学ぶ。

到達目標（学習の成果）

初見演奏の向上に必要な学び、段階的な学習方法を説明できるようになる。(知識)
読譜力と演奏力について学び、予見する力と集中力の向上を目指す。(技術)
授業内の課題に取り組み、向上を目指す。基礎的な伴奏付けができるようになる。(方法)
演奏スキルの向上を目指す喜びを知り、積極性を養うことができる(態度)

授業計画

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 初見演奏について	授業計画、授業方法、予習・復習・成績評価の方法等を説明する。初見奏法は演奏スキルの向上にどのような役割を果たすのかを学ぶ。 予習：初見奏法はどのような場面で役に立つのかを考える。 復習：効果的に初見力を向上させるためのトレーニング方法を記述する。
2回	初見トレーニング１	予見とブラインドタッチについて(音の高低) 予習：予見にすべきことは何かを考える。 復習：授業内の課題を復習する。
3回	初見トレーニング２	予見とブラインドタッチについて(スケール、カデンツとアルペジオ) 予習：スケール、アルペジオを練習する。 復習：授業内の課題を復習する。
4回	初見トレーニング３	予見とブラインドタッチについて(伴奏系の和音と転回形) 予習：ブロークンコードを練習する。 復習：授業内の課題を復習する。
5回	初見トレーニング４	予見とブラインドタッチについて(よく使われる音型と運指) 予習：ツェルニー30 番を予見しておく。 復習：授業内の課題を復習する。
6回	初見　楽曲課題１	楽曲課題に取り組む。(ピアノソロ楽曲) 予習：楽曲課題に取り組む準備をしておく。 復習：授業内の課題を復習する。
7回	初見　楽曲課題２	楽曲課題に取り組む。(伴奏楽曲) 予習：伴奏付き楽曲課題に取り組む準備をしておく。 復習：授業内の課題を復習する。
8回	伴奏　伴奏付けの基本コード	歌唱曲の伴奏付けを行い、伴奏者が担う音楽上の役割を知る。 予習：文部省唱歌はどのようなものがあるかを調べておく。 復習：授業内の課題を復習する。

9回	伴奏　伴奏譜における音楽表現１	歌唱曲の伴奏譜から、伴奏者が担う音楽上の役割を知る。 予習：基本的なコードネームを覚えておく。 復習：コードネームを見ながら伴奏付けができるように応用課題に取り組む。
10回	アンサンブル音楽について	アンサンブルにおける伴奏の役割を知る。 予習：アンサンブルとソロの音楽的な違いを考えておく。 復習：アンサンブルの特徴を活かした演奏の準備をする。
11回	伴奏　伴奏譜における音楽表現２	コンコーネ 50 番の伴奏譜から、旋律と伴奏の役割を知り、音楽的表現を学ぶ。 予習：作曲家コンコーネについて調べておく。 復習：授業内の課題を復習する。
12回	伴奏　伴奏譜における音楽表現３	ドイツ歌曲における伴奏譜から、旋律と伴奏の役割を知り、音楽的表現を学ぶ。 予習：ドイツ歌曲をいくつか視聴しておく。 復習：ドイツ歌曲の伴奏の役割を記述する。
13回	弦楽器における伴奏について	弦楽器における伴奏において、その役割と音楽的表現を知る 予習：弦楽器とピアノのための作品を視聴する。 復習：弦楽器の特徴とピアノ伴奏の役割を記述する。
14回	管楽器における伴奏について	管楽器における伴奏において、その役割と音楽的表現を知る。 予習：管楽器とピアノのための作品を視聴する。 復習：管楽器の特徴とピアノ伴奏の役割を記述する。
15回	演奏発表	アンサンブル課題と伴奏課題の発表 予習：課題の発表を準備する。 復習：今後の演奏に役立てるためにフィードバックをする。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 2 単位ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。
音楽家は瞬時に集中する力と時間内でのパフォーマンスが求められることから、この授業で指示した課題については、開始と終了時刻を決めて行うこと。授業で学んだことを活かし課題に取り組むこと。
繰り返し練習を基盤とする実技レッスンとの違いをしっかり理解して取り組むこと。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
1（欄外記載） 2（欄外記載）	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

1. 初見演奏における読譜力と演奏力の習得度。伴奏とアンサンブルにおける役割の理解と習得度。授業内の小テスト(70%)

2. 音楽の意義についての理解と、自己および他者を理解し、自立した音楽家への歩みが見受けられる。定期試験　レポート課題(30%)

教科書　なし
授業で使用する資料と楽譜は毎回配布する。
参考書等
コンコーネ 50 番(東京音楽書院)
チェルニー30 番(ヤマハミュージックメディア)
学習者のためのピアノ初見視奏小曲集(ドレミ楽譜出版社)
教師のためのピアノ伴奏入門(東洋館出版社)

履修上の注意・学習支援
初見課題、伴奏課題ともにピアノを使用するが、ピアノ学習進度は問わない。
必要な配慮のある場合は事前に相談すること。アンサンブルをするときは、一人で演奏するのではないことをよく理解し、十分な準備をしてのぞまなければならない。また伴奏合わせの際は、より高い演奏を目指しつつも、相手への配慮ある態度が大切である。音楽人としてのマナーを学ぶこと。

オフィスアワー
質問等があればオフィス・アワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15 分間程度、1 号館 1 階「講師教員センター」)を利用してください。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP074	音楽療法Ⅰ（基礎）	１年	後期	講義	２	大島美知恵

授業概要

対象者（障害児・者　高齢者、精神科領域　その他）についての障害の特性を理解し、音や音楽の効果的な選択や使い方、音楽活動の発達促進やコミュニケーションを深める視点を学ぶ。また、映像を通して、音楽療法場面で起こるやりとりを見取ることや対象者に合わせた音や音楽の応用を体験することを通して、実践に向けての基本的な理論を学ぶ。

到達目標

本講義の到達目標は以下の２点である。（DP2）

１）対象者別の音楽療法の実際を知り、対応と課題を理解し、まとめることができる。

２）幼児期から老年期までの音楽が果たす役割や自分の人格形成における音楽の役割を説明できる。

３）様々な音や音楽の使い方を通して、自分自身の音楽に対する捉えを明確に説明できる。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	ライフサイクルと音楽	乳幼児期から青年前期の発達課題と音楽活動及び音楽の役割を知る。 予習：シラバスの内容をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答
２回	ライフサイクルと音楽	青年後期から成人後期の発達課題と音楽活動及び音楽の役割を知る。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
３回	子どもを捉える発達の見方	感覚受容と運動表現を高めるという見方を知り、障害児の発達促進の課題について理解する。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
４回	発達水準に合わせた音・音楽の使い方	発達の各水準を把握し、発達促進するための音や音楽の活用の仕方を理解し、実際に体験する。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
５回	母子音楽療法（障害幼児）	母子関係成立や子どもの障害理解、子どもの発達促進に音楽療法はどのように関与しているか知る。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
６回	障害児童・生徒の音楽療法	特別支援学級や特別支援学校での音楽療法を用いた授業や支援事業等における音楽療法セッションの実際を知る。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
７回	障害成人の音楽療法	施設や自主グループにおいて、コミュニケーション促進、余暇の楽しみとしての音楽療法セッションの実際を知る。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
８回	高齢者の音楽療法	高齢者の方の心理、病理、整理についての基礎知識を得て、課題と対応について知る。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
９回	認知症高齢者の音楽療法	認知症の方の実態と対応について知り、音楽療法の内容や方法（特に回想法）について、学ぶ。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
10回	パーキンソン病の発話会話を促す音楽療法	パーキンソン病の特性や対応を知り、特に発声・発話への取り組みと音楽療法の効果について理解する。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。

		復習：小テストの回答および復習
11 回	介護予防のための音楽療法	認知症を予防する音楽の効果的活用について、知識と技術を学ぶ。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
12 回	精神科の音楽療法	精神科病棟の急性期、慢性期の患者さんの対して行われているセッションの実際を知る。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
13 回	緩和ケアの音楽療法	緩和ケア病棟や地域医療として行われている緩和ケアの実情を知り、音楽療法の役割を考察する。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
14 回	世代交流、地域に広げる音楽療法	コミュニティ音楽療法としての現場での事例を取り上げ、音楽療法の範疇の広さや深さを知る。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習
15 回	自分と音楽（レポート）	自己を振り返り、自分史の中で、音楽とどう向き合ってきたか、自分にとっての音楽は何か確認する。 予習：教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 復習：小テストの回答および復習

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 2 単位なので 90 分の授業時間以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
①対象者別の音楽療法の課題を理解し、まとめることができる。 ②幼児期から老年期までの音楽が果たす役割を説明できる。 ③自分自身の音楽に対する捉えを明確に説明できる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

各回の小テスト 70％　定期試験　レポート 30％
※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

日野原 重明 監修『標準　音楽療法入門　下　実践編』　春秋社　2009 年　3,520 円
藤本禮子『高齢者音楽療法　楽器演奏のすすめ　心をつなぐ合奏曲 38』　春秋社　2012 年　2,640 円

参考書等

履修上の注意・学習支援

学習内容によって、机の配置等を変える場合があるので、承知してください。

オフィス・アワー

疑問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約((oshima@ujc.ac.jp)のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

宇都宮市子ども発達センター若葉園　音楽療法士
宇都宮市子ども発達センター若葉園　かすが園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会　すぎの芽学園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会デイサービスセンターすぎの芽　音楽療法士
社会福祉協議会　宇都宮市障がい者福祉センター音楽療法士
認知症カフェアダージョでの音楽療法実施
栃木県那須町黒田原第二保育園にて肢体不自由児に対する音楽療法研修実施

［実務経験と授業科目との関連性］

知的障害児、肢体不自由児、成人領域、高齢者における音楽療法の実践

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SP075	音楽療法 （臨床）	２年	前期	講義	1	大島美知恵

授業概要

高齢者及び障害児・者（知的障害・肢体不自由・病弱・重複障害等）等における実践ビデオの視聴や、模擬セッションを通して、対象者の理解や個人及び集団音楽療法の選択、プログラムの立案方法を学ぶ。また対象児・者の音・音楽に対する反応の捉え方、その反応に対する関り方を模擬セッションから身につける。セッションの記録方法や課題の整理の仕方、評価の観点についても学ぶ。

到達目標（学習の成果）

１）高齢者や障害幼児の実態を把握し、治療目標、プログラム立案ができる（知識・技術）。
２）模擬セッションを通して、相手の反応や動きを見て対応する姿勢を身につける（技術）。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	能動的音楽療法と受動的音楽療法	二つの分類の概念の把握とどちらの音楽療法を用いるか、また併用するのかについての知識と技能を知る。 予習：資料を読んでおく 復習：小テストの回答。授業の内容をまとめておく。
２回	個人セッションと集団セッション	対象者の治療目的により選択する。個人セッションと集団セッションの違いと利点、切り替えについて学ぶ。 予習：資料を読んでおく 復習：小テストの回答と復習。授業内容のまとめ。
３回	音楽の選択と効果的な活用① （児童・緩和ケア）	幼児が好む音楽、視覚と聴覚の優位性を配慮した歌や楽器の選択、病気の痛みを緩和する音楽、心を解放する音楽、会話を引き出す音楽等、目的に沿った選択をする技術を学ぶ。 予習：資料を読んでおく 復習：小テストの回答と復習。
４回	セッション案作り （緩和ケア）	緩和ケアを対象としたセッション案を作る。仲間同士で意見交換する。 予習：授業内容をもとにセッション案の作成。 復習：意見交換の内容をまとめておく。
５回	模擬セッション （緩和ケア）	立案したセッション案で、実際に模擬セッションを行う。体験した結果、気づいたことを意見交換する。また評価の観点を学ぶ。 予習:意見交換の内容をもとにセッション案を書き換える。 復習:意見交換の内容をまとめる
６回	肢体不自由児の音楽療法	肢体不自由児の実態の捉えと治療目標の設定の手立てを学ぶ。 予習：資料を読んでおく 復習：授業の内容をまとめておく。
７回	知的障害児の音楽療法	知的障害者の実態の捉えと治療目標の設定の手立てを学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業の内容をまとめておく。
８回	発達障害児の音楽療法	発達障害者の実態の捉えと治療目標の設定の手立てを学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業の内容をまとめておく。
９回	セッション案作り （児童）	児童を対象としたセッション案を作る。仲間同士で意見交換する。 予習：セッション案を作成する 復習：意見交換の内容をまとめておく

10 回	模擬セッション （児童）	立案したセッション案で、実際に模擬セッションを行う。体験した結果、気づいたことを意見交換する。また評価の観点を学ぶ。 予習:意見交換の内容をもとにセッション案を書き換える 復習:意見交換の内容をまとめておく
11 回	高齢者の心と体	高齢者の心理や病理についての知識を学ぶ。 予習：資料を読んでおく 復習：小テストの回答。授業の内容をまとめておく
12 回	対象者のアセスメントと目標設定	高齢者の生活の様子、自分史、音楽の好み等の情報から、現在の課題を見取り、治療目標を設定する手立てを学ぶ。 予習：資料を読んでおく 復習：小テストの回答と復習。授業内容をまとめておく。
13 回	音楽の選択と効果的な活用 （高齢者）	対象者の時代、なじみ、好み、音域、リズム、ハーモニー、手の使い方、身体の動き、セラピストの音楽力を考慮した歌や楽器の選択技術を学ぶ。 予習:資料を読んでおく 復習:小テストの回答と復習。授業内容をまとめておく。
14 回	セッション案作り （高齢者）	高齢者を対象にしたセッション案をつくる。仲間同士で意見交換する。 予習：11・12・13 回の内容をもとにセッション案を作る。 復習：意見交換の内容をまとめておく
15 回	模擬セッション （高齢者）	立案したセッション案で、実際に模擬セッションを行う。体験した結果、気づいたことを意見交換する。また評価の観点を学ぶ。 予習:意見交換の内容をもとにセッション案を修正する。 復習:意見交換の内容をまとめておく。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 1 単位なので 90 分の授業時間以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
①プログラム立案ができる。 ②相手の反応や動きを見て対応できる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

①グループワーク（コモンルーブリック・グループワーク評価基準を用いる。）40%
②プログラム案などの課題提出物（アセスメントを基盤とした目標をたてることができている、各領域の対象者の特性を捉えたプログラム作りができる））30%
③定期試験　レポート 30%で評価
※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

なし

参考書等

甲谷至『歌うことが口腔ケアになる』あおぞら出版社　2008 年　2,095 円

履修上の注意・学習支援

プログラムの立案にはパソコン・またはクロムブックを利用するので持参すること。

オフィス・アワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。（事前予約 (oshima@ujc.ac.jp)
のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

宇都宮市子ども発達センター若葉園　音楽療法士
宇都宮市子ども発達センター若葉園　かすが園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会　すぎの芽学園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会デイサービスセンターすぎの芽　音楽療法士
社会福祉協議会　宇都宮市障がい者福祉センター音楽療法士
認知症カフェアダージョでの音楽療法実施
栃木県那須町黒田原第二保育園にて肢体不自由児に対する音楽療法研修実施

［実務経験と授業科目との関連性］

知的障害児、肢体不自由児、成人領域、高齢者における音楽療法の実践

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SP076	音楽療法Ⅲ (技法)	２年	前期	講義	1	大島美知恵

授業概要

発達やコミュニケーション促進し、社会性の育成する手遊び、身体表現、楽器の活用や、生活の質の向上に役立つ歌や伴奏、鑑賞曲の選択など音楽療法に必要な音や音楽の活用について学ぶ。編曲、作曲、視覚教材の用い方について、ワークを中心に学び、対象を支援できる教具製作についても学ぶ。

到達目標(学習の成果)

１）対象者に合わせて音楽を提供でき、やりとりができる知識や技術を身につける(知識・技術)。
２）対象者に合わせた鑑賞教材を演奏できる技術や視覚教材を制作し適材適所で用いる技術を身につける(技術)。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	声でのやりとり	呼吸・発声・構音、共鳴の機能を高める音域や声の種類、声量、息遣い、抑揚等、声の機能についてワークしながら学ぶ。 予習：資料を読んでおく 復習：授業で行ったワークを行い記録をつける
２回	歌の治療的意味は	歌（口腔ケア、コミュニケーション、言語発達促進、年代共通の歌、歌による回想）の活動を通して歌の効果について学ぶ。 予習：資料を読んでおく 復習：授業で行ったワークを復習する。
３回	即興演奏	打楽器等を用い、相手を受け止め、相手に合わせ、関わることを通して、自己理解、他者理解を図る。 予習：資料を読んでおく 復習：授業で行ったワークを復習する。
４回	即興演奏・即興絵画	グループワークにより、相手を感じ、集団の影響を受け、自己表現や創作を通して、共有感を高めることを体験する。 予習：資料を読んでおく 復習：授業で行ったワークを復習する。
５回	コード、伴奏付	治療目標に適した伴奏付け、コード付けを学び、演奏を通して、すぐに楽しめる場づくりの体験をする。 予習：資料を読んでおく 復習：授業で行ったワークを復習する。
６回	音の使い方	日常生活の中で生じている音が人に与える影響について考えセッションへの活用方法を探る。 予習：資料を読んでおく 復習：授業で行ったワークを復習する。
７回	打つ、振る、回す、はじく、吹く楽器作りと効用	触覚ビーズや響き線、ミルク缶太鼓、ヤクルトマラカス、ストロー笛、両手カスタ版の一つを作り、その機能をまとめる。 予習：資料を読んでおく 復習：授業で行ったワークを復習する。
８回	楽器活動	集団楽器活動では、水準に合った役割取得ができる編曲の方法を学ぶ。音楽の要素から予測できる構造に作る技術を学ぶ。 予習：資料を読んでおく 復習：授業で行ったワークを復習する。
９回	紐、布、ゴムを使った手遊び、身体表現	教材制作することで、身体の粗大運動を促進したり、移動の始点終点を理解しやすくし、自己像を高める。 予習：資料を読んで教材製作をしておく。 復習：授業で行ったワークを復習する。

10回	動き・リトミック・身体表現・ダンス	音や音楽を聞いて、体の動きや移動、踊りなどが空間認知をやリラクゼーションを高めることを実感する。 予習：資料を読んでおく 復習：授業で行ったワークを復習する。
11回	バックグラウンドミュージック	BGM の働きが体や心に与える影響を知り、場面設定と音楽選択で、お互いに聞き合う体験をする。 予習：資料を読んでおく 復習：授業で行ったワークを復習する。
12回	視覚教材作りと効用	対象の実態に合わせた教材作り（文字譜、絵譜、写真、楽譜づくり）を行うことで、対象者理解につなげる。 予習：資料を読んで視覚教材を製作する。 復習：授業で行った内容をもとに教材を作り直し、活用方法を復習する。
13回	パネルシアター作りと効用	教材制作を通して、大小、多少、形、色の弁別など、音と手の動きで、認知学習や物語をイメージ化することを学ぶ。 予習：資料を読んでパネルシアターを製作する。 復習：授業で行った内容をもとに教材を作り直し、活用方法を復習する。
14回	高齢者と障害児のための必須使用曲のリスト作り	この回までに 20 曲を弾けるように練習しておき、伴奏及び歌詞集を作り、お互いに弾き歌いし、意見を述べ合う。 予習：自分が選んだ曲を練習しておく 復習：授業で行ったワークを復習する。
15回	リクエスト大会	14 回での意見交換を活かして 20 曲の中から、リクエストされたものを、お互いに弾き歌いし、音楽活動につなげる方法を話し合う。 予習：自分が選んだ曲を練習しておく資料を読んでおく 復習：授業で行ったワークを復習する。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 1 単位なので 90 分の授業時間以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
①対象者に合わせて音楽をやりとりができる知識や技術を身につける。 ②対象者に合わせた教材製作とそれを活用する技術を身につける	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価の方法

ワークの内容 40%、定期試験レポート 30%、製作課題 30%で評価
※課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

菅田文子『弾き語りキーボード・セッションー4　音楽療法の必須 100 曲　ノスタルジー編』
あおぞら出版社　2014 年　2,915 円

生野里花・二俣泉『静かな森の大きな木』春秋社　　2001 年　2,420 円

参考書等

なし

履修上の注意・学習支援

動き易い服装で受講すること。

オフィス・アワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。（事前予約 (oshima@ujc.ac.jp)
のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

宇都宮市子ども発達センター若葉園　音楽療法士
宇都宮市子ども発達センター若葉園　かすが園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会　すぎの芽学園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会デイサービスセンターすぎの芽　音楽療法士
社会福祉協議会　宇都宮市障がい者福祉センター音楽療法士
認知症カフェアダージョでの音楽療法実施
栃木県那須町黒田原第二保育園にて肢体不自由児に対する音楽療法研修実施

[実務経験と授業科目との関連性]

本科目で習得する技法を用いた知的障害児、肢体不自由児、成人領域、高齢者における音楽療法の実践

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP077	邦楽概論Ⅰ	１年	前期	講義	２	前川　智世

授業概要

日本音楽史の流れを学ぶ。また、それぞれのジャンルごとに区分し、時代と共に変遷する日本音楽を音源資料や映像資料を交えながら進める。前期は日本音楽のはじまりの古代から中世にかけての音楽を中心に学習する。

到達目標

日本音楽史の流れを掴むことで、現代にまで伝わっている音楽がどのように受け継がれ、また変遷を遂げてきたのかを感じ、演奏に活かせるようになる。また、様々なジャンルの日本音楽を学び、日本音楽史全般の基礎知識を習得することができる。

授業計画

回	表題	学習内容
１回	授業の進め方 古代の音楽① 邦楽を知る	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 邦楽とは何か考え、これから勉強していく日本音楽の種類を時代ごとに分けてそれぞれのジャンルの位置づけを確認する。 予習：邦楽について調べる。 復習：授業を振り返って理解を深める。
２回	古代の音楽② 日本音楽のはじまり	縄文時代の楽器・弥生時代の楽器と古代の歌謡について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
３回	古代の音楽③ 各種の渡来楽	大陸から日本へ輸入された音楽の種類について知り、またそれぞれの音楽の特徴について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
４回	古代の音楽④ 雅楽（１）	雅楽とは何か。雅楽の種類と雅楽に使用されている楽器について学ぶ。雅楽寮の設置・東大寺大仏開眼会について 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
５回	古代の音楽⑤ 雅楽（２）	雅楽の音楽制度改革左方右方の分立について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
６回	古代の音楽⑥ 雅楽（３）	雅楽の音楽理論音律や調子・リズム・形式について学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
７回	中世の音楽① 声明	声明とは何か。声明の種類と特徴を学び、また、声明が後世へ与えた影響等を知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
８回	中世の音楽② 歌謡	歌謡 その心と言葉変革期の歌謡、「梁塵秘抄」「白拍子」「早歌」「閑吟集」等を知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
９回	中世の音楽③ 平家	平家の成立と展開、琵琶楽の流れについて知る。平家音楽の構造・楽器・奏法等を学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
10回	中世の音楽④ 能（１）	能の成立、猿楽から世阿弥の登場、そして古典化へ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

11 回	中世の音楽⑤ 能（２）	能の音楽、謡・構成・囃子・舞について学ぶ。能の上演、上演方式・舞台と演技について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
12 回	中世の音楽⑥ 能（３）	能と狂言の違いについて学ぶ。狂言について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
13 回	まとめ①	前期のまとめ日本音楽史の古代と中世をまとめ、理解を深める。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
14 回	まとめ②	前期のまとめ補足として音源・映像資料を鑑賞し、理解を深める。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
15 回	後期の流れ	前期の学習内容を踏まえ、後期に学習する日本音楽史の流れを把握し、備える。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目（２単位）ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要となります。
・学習内容に示した部分のテキストを予め読んでおくこと。授業内で配布する資料を事前に読み込むこと。
・授業後は理解を深めるため指定の範囲を復習し、ノートにまとめること。前回の小テストを行う場合もある。
・各レポートは図書館などを積極的に利用し、３つ以上の参考文献・音源資料・映像資料を参照し、まとめること。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 古代・中世の日本音楽史の理解度 2. 日本音楽の基本用語の習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
・定期試験（レポート）100％

教科書

教科書は使用しない。レジュメや資料等を配付する。

参考書等

書名：日本の伝統芸能講座
発行：淡交社

書名：図解　日本音楽史
発行：東京堂出版

履修上の注意・学習支援
疑問があれば、オフィス・アワーを利用すること。

okotomoyo.m@gmail.com　終日受け取り可。

オフィス・アワー
okotomoyo.m@gmail.com にて受付。終日受信可能。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP078	邦楽概論Ⅱ	１年	後期	講義	２	前川　智世

授業概要

日本音楽史の流れを学ぶ。また、それぞれのジャンルごとに区分し、時代と共に変遷する日本音楽を音源資料や映像資料を交えながら進める。後期は日本音楽の大成期である近世を中心に学習し、近代（現代）に至るまでを辿る。

到達目標(学習の成果)

日本音楽史の流れを掴むことで、現代にまで伝わっている音楽がどのように受け継がれ、また変遷を遂げてきたのかを感じ、演奏に活かせるようになる。また、様々なジャンルの日本音楽を学び、日本音楽史全般の基礎知識を習得することができる。

授業計画

回	表題	学習内容
１回	授業の進め方 近世の音楽① 箏曲（１）	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 近世に大成した日本音楽の種類を知る。 箏の伝来から筑紫流箏曲成立までをたどる。 予習：日本音楽の種類を調べる。 復習：授業を振り返って理解を深める。
２回	近世の音楽② 箏曲（２）	現在の箏曲の祖と呼ばれる「八橋検校」の生涯と業績を知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
３回	近世の音楽③ 箏曲（３）	生田流箏曲の誕生とその 100 年後に誕生した山田流箏曲の発展について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
４回	近世の音楽④ 箏曲（４）	関西における箏曲の発展と純箏曲の復興について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
５回	近代の音楽 箏曲（５）	近代以降の箏曲の発展（明治・大正・昭和戦前期） 宮城道雄と宮城による「新日本音楽」の誕生について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
６回	現代の音楽① 箏曲（６）	現代邦楽をリードした作曲家たち（昭和戦後期～） 洋楽系作曲家の進出（楽器の種類や楽曲のジャンル等） 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
７回	現代の音楽② 箏曲（７）	現代邦楽と演奏家の新しい動き 伝統音楽の新しい動き 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
８回	近世の音楽⑤ 琵琶音楽	琵琶の種類と琵琶楽の流れについて知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
９回	近世の音楽⑥ 三味線音楽	様々な三味線音楽の種類とそれぞれの音楽の特徴を知る。（地歌・荻江節・歌祭文・小歌曲） 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
10 回	近世の音楽⑦ 尺八音楽	尺八楽の流れについて知り、また尺八の種類と特徴を学ぶ。 新日本音楽から現代の日本音楽への展開

		予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
11 回	近世の音楽⑧ 浄瑠璃（１）	浄瑠璃の流れを把握し、古浄瑠璃と義太夫節について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
12 回	近世の音楽⑩ 浄瑠璃（２）	江戸時代初期での人形劇との結びつきから、歌舞伎との結びつきについて知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
13 回	近世の音楽⑪ 長唄（１）	長唄の成り立ちについて 江戸歌舞伎の三味線音楽からお座敷長唄への発展。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
14 回	近世の音楽⑫ 長唄（２）	お座敷長唄から鑑賞用の長唄への発展。 近代以降の創作活動について 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
15 回	まとめ	近世から近代･現代までの日本音楽史をまとめ、理解を深める。 日本音楽史の総復習。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目（２単位）ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要となります。
・学習内容に示した部分のテキストを予め読んでおくこと。授業内で配布する資料を事前に読み込むこと。
・授業後は理解を深めるため指定の範囲を復習し、ノートにまとめること。前回の小テストを行う場合もある。
・各レポートは図書館などを積極的に利用し、３つ以上の参考文献・音源資料・映像資料を参照し、まとめること。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 近世・近代・現代の日本音楽史の理解度 2. 日本音楽の基本用語の習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
・定期試験（レポート）100％

教科書

教科書は使用しない。レジュメや資料等を配付する。

参考書等

書名：日本の伝統芸能講座
発行：淡交社

書名：図解　日本音楽史
発行：東京堂出版

履修上の注意・学習支援
疑問があれば、オフィス・アワーを利用すること。

okotomoyo.m@gmail.com　終日受け取り可。

オフィス・アワー
okotomoyo.m@gmail.com にて受付。終日受信可能。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP079	療法音楽研究	１年	前期	講義	1	大島美知恵

授業概要

対象者の傍で演奏できるオートハープ、ギター等の伴奏楽器を用いて、コードの仕組みや進行について理解し、伴奏法、即興方法を身に付ける。また音楽療法で使用される数多くの楽器を様々な観点から分析し、それぞれの楽器の特徴から、実践においてどのような働きかけが有用であるかを考察する。

到達目標(学習の成果)

１）ピアノとその他の伴奏楽器においてコード進行や旋法について学習し、活動に合わせた即興演奏を行うことができる。
２）音楽療法で使用される、各々の楽器の特徴を捉え、対象者に合わせた働きかけができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	オートハープ① （伴奏と弾き歌い）	３コードでの伴奏法を学び、セッションの「始まりの歌」「終わりの歌」を自作し、弾き歌いができるようにする。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲を練習する。
２回	オートハープ② （対象者との演奏方法）	対象によって楽器の構え方、音出しの方法を工夫する必要性を理解し、様々な方法で弾き歌いをして、意見交換を行う。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。
３回	ギター① （特殊調弦による伴奏法）	左手３本指で３コードを弾ける特殊な調弦方法による伴奏法を習得し、弾き歌いを行う。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。
４回	ギター② （３コード伴奏）	３コードを習得し、Ｆについては簡易な押さえ方から習得し、セッションでよく使われる曲の伴奏を行う。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。
５回	ピアノ①（３コード）	Ｃｋｅｙ３コードで伴奏できる曲に対して、メロディー譜を見て、弾き歌いを行う。Ｇ・Ｆｋｅｙへ移調する。
６回	ピアノ② （バッキングパターン）	セッションでよく使われる曲から数曲を選び、バッキングパターンを数種類考えて、活動に応じた演奏を行う。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。
７回	ピアノ③ （コード進行による即興演奏）	Ｃｋｅｙの副３和音も含めたコード進行を用いた即興演奏を学ぶ。２人組でワークを行い、対象者役の相手に合わせた演奏ができるようにする。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。
８回	ピアノ④ （旋法による即興演奏）	教会旋法やペンタトニック等を用いた即興演奏を学び、打楽器等との即興演奏を行う。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。
９回	オムニコード	オムニコードの奏法を習得し、活用法を考える。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。
10回	楽器の分類・分析	音楽療法で使用される様々な楽器を奏法、材質、音色など様々な視点から分類することにより、その特徴を捉える。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。

11 回	打楽器① （音程のない打楽器）	音楽療法で使用される音程のない打楽器をとりあげ、その奏法と作用について学ぶ。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。
12 回	打楽器② （音程のある打楽器）	メタルフォン、シロフォンなど音程のある打楽器を取りあげ、奏法、作用を学ぶと共に、即興の方法についてワークを行う。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。
13 回	笛類	対象によっては非常に難しいものであるが、口腔への刺激に活用される重要な吹奏楽器の活用方法について学ぶ。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。
14 回	トーンチャイム・ミュージックベル	音楽療法の現場で、使用頻度の高いミュージックベルとトーンチャイムを取り上げ、その多彩な使用方法を習得する。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。
15 回	楽器活動のセッション	楽器活動のセッションプランを立ててワークを行い、楽器の組み合わせ方などについても配慮できるようにする。 予習：配付の楽譜、資料を読んでおく。 復習：授業内で学んだ曲や奏法を練習する。

準備学習（事前学習・事後学習について）

本科目は、講義科目 1 単位なので 90 分の授業時間以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
①ピアノとその他の伴奏楽器において即興演奏を行うことができる。 ②各々の楽器の特徴を捉え、対象者に合わせた働きかけができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

実技小テスト 70%　　定期試験　楽譜及びセッションプラン等の提出物 30%
※課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

なし

参考書等

吉田豊『開放弦でできる実践ギターセラピー～簡単ギター奏で始めよう～』あおぞら音楽社　2011 年
1,870 円

履修上の注意・学習支援

動きやすい服装で参加すること。

オフィス・アワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。（事前予約 (oshima@ujc.ac.jp)
のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

宇都宮市子ども発達センター若葉園　音楽療法士
宇都宮市子ども発達センター若葉園　かすが園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会　すぎの芽学園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会デイサービスセンターすぎの芽　音楽療法士
社会福祉協議会　宇都宮市障がい者福祉センター音楽療法士
認知症カフェアダージョでの音楽療法実施
栃木県那須町黒田原第二保育園にて肢体不自由児に対する音楽療法研修実施

［実務経験と授業科目との関連性］

本科目で習得する楽器を用いた知的障害児、肢体不自由児、成人領域、高齢者における音楽療法の実践

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP080	音楽基礎演習Ⅰ	１年	通年	演習	1	益子　徹

授業概要
近年、多くの音楽家は、楽曲の創作をほとんど放棄しているのが現状です。この科目では、基礎理論を通し、身近に作曲を試みます。

到達目標(学習の成果)
作曲を試みることにより、本質的な創作技法の修得をすることができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	授業の進め方 音楽形式の概要	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を確認する。 音楽形式について理解を深めるために、多様な形式を確認する。 予習：楽典の知識を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
２回	２部形式の概要	第１回で学習した音楽形式を踏まえ、２部形式について学習する。 予習：音楽形式の知識を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
３回	和声進行の選定	創作のベースになる和声進行を、様々な曲を参考にしながら選定する。 予習：和声進行の知識を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
４回	伴奏型の選定	創作に使用する伴奏型を、様々な曲を参考にしながら選定する。 予習：伴奏形の知識を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
５回	伴奏型の創作	第４回で学習した伴奏型を参考に、独自の伴奏型の創作を試みる。 予習：伴奏形の種類を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
６回	モチーフの展開方法	モチーフの展開方法を、実例を用いながら検討し、創作に取り入れる。 予習：モチーフを考えておく。 復習：学習内容を整理する。
７回	ゼクエンツの利用	モチーフの展開方法の一つとして、ゼクエンツを利用するための方法を学ぶ。 予習：モチーフを修正しておく。 復習：学習内容を整理する。
８回	旋律の創作１	創作に用いる旋律を、和声進行を参考にしながら創作する。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を整理する。
９回	旋律の創作２	第８回で行った旋律の創作を、加筆修正しながら、発展させる。 予習：作品を修正しておく。 復習：学習内容を整理する。

10 回	ピアノ曲の創作１	C dur で今まで学習した内容を用いて、ピアノ曲の創作を試みる。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
11 回	ピアノ曲の創作２	a moll で今まで学習した内容を用いて、ピアノ曲の創作を試みる。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
12 回	ピアノ曲の創作３	F dur で今まで学習した内容を用いて、ピアノ曲の創作を試みる。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
13 回	ピアノ曲の創作４	d moll で今まで学習した内容を用いて、ピアノ曲の創作を試みる。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
14 回	ピアノ曲の創作５	G dur で今まで学習した内容を用いて、ピアノ曲の創作を試みる。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
15 回	総合演習	既習の内容を総合して、さらに難易度の高い創作に取り組む。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
16 回	音楽形式の概要	音楽形式について理解を深めるために、多様な形式を再度確認する。 予習：形式を確認しておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
17 回	３部形式の概要	第１回で学習した音楽形式を踏まえ、３部形式について学習する。 予習：3 部形式を確認しておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
18 回	和声進行の選定２	創作のベースになる和声進行を、様々な曲を参考にしながら、発展的に選定する。 予習：和声進行の知識を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
19 回	伴奏型の選定２	創作に使用する伴奏型を、様々な曲を参考にしながら、前期より高度なものを選定する。 予習：伴奏形の知識を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
20 回	伴奏型の創作２	第４回で学習した伴奏型を参考に、独自の伴奏型の創作を前期より高度なものを試みる。 予習：伴奏形の種類を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
21 回	モチーフの展開方法２	モチーフの展開方法を、実例を用いながら検討し、創作に取り入れる。 予習：モチーフを考えておく。 復習：学習内容を整理する。

22 回	ゼクエンツの利用２	モチーフの展開方法の一つとして、ゼクエンツを利用するための方法を学ぶ。 予習：モチーフを修正しておく。 復習：学習内容を整理する。
23 回	旋律の創作３	創作に用いる旋律を、和声進行を参考にしながら、前期より高度なものを創作する。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を整理する。
24 回	旋律の創作４	第 23 回で行った旋律の創作を、加筆修正しながら、発展させる。 予習：作品を修正しておく。 復習：学習内容を整理する。
25 回	ピアノ曲の創作６	G dur で今まで学習した内容を用いて、ピアノ曲の創作を試みる。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
26 回	ピアノ曲の創作７	e moll で今まで学習した内容を用いて、ピアノ曲の創作を試みる。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
27 回	ピアノ曲の創作８	D dur で今まで学習した内容を用いて、ピアノ曲の創作を試みる。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
28 回	ピアノ曲の創作９	d moll で今まで学習した内容を用いて、ピアノ曲の創作を試みる。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
29 回	ピアノ曲の創作 10	B dur で今まで学習した内容を用いて、ピアノ曲の創作を試みる。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。
30 回	総合演習	既習の内容を総合して、さらに難易度の高い創作に取り組み試演する。 予習：作品を考えておく。 復習：学習内容を修正・整理する。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、演習科目 1 単位なので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・ジャンルにとらわれず、様々な楽曲を注意深く聞くようにする。
・それらの楽曲の旋律や和声進行の分析を心がける。
・創作と演奏がリンクするので、課題の練習，修正を忘れず行う。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
創作技法の修得をすることができる	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期実技試験　課題の創作と発表　100%

教科書

その都度レジュメを配付

参考テキスト　書名：和声と楽式のアナリーゼ　著者名：島岡譲　出版社：音楽之友社

学習支援・履修上の注意

創作は難しいことではありません。最初はシンプルな作曲を心がけ、次第に高度なレベルを目指していきます。

オフィス・アワー

メール：mashiko@ujc.ac.jp へ連絡してください。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SP081	音楽基礎演習Ⅱ	２年	通年	演習	1	益子　徹

授業概要
近年、多くの音楽家は、楽曲の創作をほとんど放棄しているのが現状です。この講義では、基礎理論を通し、身近に作曲を試みます。

到達目標(学習の成果)
作曲を試みることにより、本質的な創作技法の修得をすることができる。（知識・技術）

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 音楽形式の概要	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を確認する。 音楽形式について理解を深めるために、多様な形式を再度確認する。 予習：楽典の知識を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
2回	変奏曲の概要	第１回で学習した音楽形式を踏まえ、変奏曲について学習する。 予習：変奏曲の知識を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
3回	和声進行の選定	創作のベースになる和声進行を、様々な曲を参考にしながら、選定する。 予習：和声進行の知識を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
4回	伴奏型の選定	創作に使用する伴奏型を、様々な曲を参考にしながら選定する。 予習：伴奏形の知識を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
5回	伴奏型の創作	第４回で学習した伴奏型を参考に、独自の伴奏型の創作を試みる。 予習：伴奏形の種類を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
6回	テーマの創作１	変奏曲に用いるテーマを、和声進行を参考にしながら創作する。 予習：テーマを作曲しておく。 復習：学習内容を整理する。
7回	テーマの創作２	第６回で創作したテーマを、加筆訂正し、さらに良いものに発展させる。 予習：テーマを修正しておく。 復習：学習内容を整理する。
8回	刺繍音による変奏１	創作したテーマを、刺繍音を用いながら変奏曲に仕上げていく。 予習：刺繍音について確認しておく。 復習：学習内容を整理する。
9回	刺繍音による変奏２	第９回で行った刺繍音による変奏を、加筆訂正しながら、発展させる。 予習：前回の作品を修正しておく。 復習：学習内容を整理する。

10 回	経過音による変奏 1	創作したテーマを、経過音を用いながら変奏曲に仕上げていく。 予習：経過音について確認しておく。 復習：学習内容を整理する。
11 回	経過音による変奏 2	第 10 回で行った経過音による変奏を、加筆訂正しながら、発展させる。 予習：前回の作品を修正しておく。 復習：学習内容を整理する。
12 回	倚音を混合した変奏 1	創作したテーマを、倚音を用いながら変奏曲に仕上げていく。 予習：倚音について確認しておく。 復習：学習内容を整理する。
13 回	倚音を混合した変奏 2	第 12 回で行った倚音を用いた変奏を、加筆訂正しながら、発展させる。 予習：前回の作品を修正しておく。 復習：学習内容を整理する。
14 回	変奏曲創作 1	今まで学習した内容を踏まえた上で、新たな変奏曲を創作する。 予習：作曲をしておく。 復習：学習内容を整理する。
15 回	変奏曲創作 2	第 15 回で行った変奏曲の創作を、加筆訂正しながら、発展させる。 予習：前回の作品を修正しておく。 復習：学習内容を整理する。
16 回	音楽形式の概要 2	音楽形式について、多様な形式を再度確認する。 予習：形式について再度確認をしておく。 復習：学習内容を整理する。
17 回	変奏曲の概要 2	第 1 回で学習した音楽形式や前期の内容を踏まえ、変奏曲についてより深く学習する。 予習：変奏曲について再度確認しておく。 復習：学習内容を整理する。
18 回	和声進行の選定 2	創作のベースになる和声進行を、様々な曲を参考にしながら、さらに高度なものを選定する。 予習：和声進行について再度確認しておく。 復習：学習内容を整理する。
19 回	伴奏型の選定 2	創作に使用する伴奏型を、様々な曲を参考にしながら、発展的に選定する。 予習：伴奏形の種類を再度確認しておく。 復習：学習内容を整理する。
20 回	伴奏型の創作 2	第 4 回で学習した伴奏型を参考に、独自の伴奏型の創作を試み、高度なものに発展させる。 予習：伴奏形の種類を整理しておく。 復習：学習内容を整理する。
21 回	テーマの創作 3	変奏曲に用いるテーマを、和声進行を参考にしながら前期よりも発展させ、創作する。 予習：テーマを作曲しておく。 復習：学習内容を整理する。
22 回	テーマの創作 4	第 6 回で創作したテーマを、加筆訂正し、さらに良いものに仕上げる。 予習：前回の作曲作品を修正しておく。 復習：学習内容を整理する。

23 回	刺繍音による変奏３	創作したテーマを、前期の内容を踏まえ、変奏曲を創作していく。 予習：作品を作曲しておく。 復習：学習内容を整理する。
24 回	刺繍音による変奏４	第 23 回で行った刺繍音による変奏曲を、加筆訂正しながら、仕上げる。 予習：前回の作品を修正しておく。 復習：学習内容を整理する。
25 回	経過音による変奏３	創作したテーマを、前期の内容を踏まえ、変奏曲を創作していく。 予習：作品を作曲しておく。 復習：学習内容を整理する。
26 回	経過音による変奏４	第 25 回で行った経過音による変奏曲を、加筆訂正しながら、発展させる。 予習：前回の作品を修正しておく。 復習：学習内容を整理する。
27 回	倚音を混合した変奏３	創作したテーマを、前期の内容を踏まえ、変奏曲を創作していく。 予習：作品を作曲しておく。 復習：学習内容を整理する。
28 回	倚音を混合した変奏４	第 27 回で行った倚音を用いた変奏を、加筆訂正しながら、発展させる。 予習：前回の作品を修正しておく。 復習：学習内容を整理する。
29 回	変奏曲創作	今まで学習した内容を踏まえた上で、新たな変奏曲を創作する。 予習：作品を作曲しておく。 復習：学習内容を整理する。
30 回	総合演習	既習の内容を総合して創作を行い、内容を確認し、試演する。 予習：作品の修正をしておく。 復習：学習内容を整理する。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、演習科目 1 単位なので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・ジャンルにとらわれず、様々な楽曲を注意深く聞くようにする。
・それらの楽曲の旋律や和声進行の分析を心がける。
・創作と演奏がリンクするので、課題の練習，修正を忘れず行う。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
創作技法の修得をすることができる	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
定期実技試験　課題の創作と発表　100%

教科書
使用テキスト　その都度レジュメを配付。
参考テキスト　書名：和声と楽式のアナリーゼ　著者名：島岡譲　出版社：音楽之友社

学習支援・履修上の注意
創作は難しいことではありません。最初はシンプルな作曲を心がけ、次第に高度なレベルを目指していきます。

オフィス・アワー
メール：mashiko@ujc.ac.jp へ連絡してください。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SP082	音楽療法総合演習	２年	後期	演習	2	大島美知恵

授業概要

音楽療法実習に向けての目的、内容、方法を習得し、臨床姿勢や臨床責任、臨床倫理について学ぶ。模擬セッションを通して、自己洞察や他者理解を深め、セラピストとしてのスキルを習得する。

実習後の記録用紙での記録方法、VTR を視聴しながらの分析方法、評価方法を学び、音楽療法のプロセスを体験し、理解する。

到達目標(学習の成果)

1）クライアント体験を通して、自己の客観視、他者理解の観点を説明できる。
2）セラピストとしての姿勢や心構えを身に付ける。
3）セッションを行うまでに必要なプログラム立案、教材製作、楽譜の編曲等の技術を学ぶ。
3）実習後の記録方法、スタッフへの説明の仕方、評価方法を習得する。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	セラピスト・クライアント体験① 集団セッションについて	集団セッションにおけるセラピスト・クライアントの相互体験から感じたことを率直に議論し、セラピストに必要な姿勢・配慮事項等を学ぶ。 予習：配付された資料を読んでおく 復習：授業の内容をノートにまとめておく。
2回	セラピスト・クライアント体験② 個人セッションについて	個人セッションにおけるセラピスト・クライアントの相互体験から感じたことを率直に議論し、セラピストに必要な姿勢・配慮事項等を学ぶ。 予習：配付された資料を読んでおく 復習：授業の内容をノートにまとめておく。
3回	模擬セッション① 役割について	各自が作成したプログラムを基に模擬セッションを行い、メインセラピスト、コセラピスト、ピアニストの役割を学ぶ。 予習：配付された資料を基にプログラムを作成しておく。 復習：授業の内容を基にセッション案を訂正する。
4回	模擬セッション② 記録について	メンバーの模擬セッションの記録係を体験する。互いの記録を見せ合い、意見交換をして記録の観点を学ぶ。 予習：配付された資料を基にプログラムを作成しておく。 復習：授業の内容を基に記録の観点をノートにまとめておく。
5回	模擬セッション③ プログラムのまとめ	これまでの模擬セッションを振り返り、ピアニスト、セラピスト、コ・セラピストの役割、治療構造、音楽・楽器の使い方について理解する。 予習：配付された資料を基にセッション案を作成しておく。 復習：授業の内容を基にプログラムを仕上げる。
6回	実践と記録① 集団セッションについて	実習施設での集団セッションの記録を基に、自身が行ったセッションについてスタッフへ説明する際の視点を学ぶ。 予習：記録用紙を基にセッション内容を報告できるようにしておく。 復習：授業の内容をノートにまとめておく。
7回	実践と記録② 個人セッションについて	実習施設での集団セッションの記録を基に、自身が行ったセッションについてスタッフへ説明する際の視点を学ぶ。 予習：記録用紙を基にセッション内容を報告できるようにしておく。 復習：授業の内容をノートにまとめておく。
8回	VTR 分析① 対象者の反応	VTR のセッション記録から、対象者の反応の分析の視点を学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。

		復習：授業の内容をノートにまとめておく。
9回	VTR 分析② 音楽や楽器・教具	VTR のセッション記録から、使用した音楽や楽器・教具等の分析の視点について学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：授業の内容をノートにまとめておく。
10回	VTR 分析③ セラピスト・コセラピスト	VTR のセッション記録から、セラピストやコセラピストの動きの分析の視点を学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：授業の内容をノートにまとめておく。
11回	評価① 対象者の反応	対象者の反応の分析結果をどのように評価し、今後の課題をどのように設定するのか、その手法を学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：授業の内容を基に評価表を作成する。
12回	評価② 音楽や楽器・教具	使用した音楽や楽器・教具の分析結果をどのように評価し、今後の課題をどのように設定するのか、その手法を学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：授業の内容を基に評価表を作成する。
13回	評価③ セラピスト・コセラピスト	セラピストやコセラピストの関わりについての分析結果をどのように評価し、今後の課題をどのように設定するのか、その手法を学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：授業の内容を基に評価表を作成する。
14回	模擬セッション④ 評価に即したプログラム	11～13 回で行った評価を基にプログラムを作成し、模擬セッション、意見交換を通して評価の妥当性を検討する手法を学ぶ。 予習：評価を基にしたプログラムを作成する。 復習：意見交換の内容をノートにまとめる
15回	プロセスについて	実習を通して経験した「アセスメント→計画→実行→記録→評価」のプロセスについて総合的な観点から学ぶ。 予習：配付したチェックリストに記入をしておく。 復習：授業の内容をレポートにまとめる

準備学習（事前学習・事後学習について）

本科目は、演習科目 2 単位なので 90 分の授業時間以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
①自己の客観視、他者理解の観点を説明できる。 ②セラピストとしての姿勢や心構えを身に付ける。 ③プログラム立案、教材製作、楽譜の編曲等ができる ③記録方法、スタッフへの説明の仕方、評価方法を習得している。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

演習に対する積極的な取り組み 20%、プログラム、評価表等の提出物 70%、定期試験レポート 20%

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

なし

参考書等

高橋多喜子『補完・代替医療　音楽療法』　金芳堂　　2017 年　2,100 円

履修上の注意・学習支援

パソコンかクロムブックを持参すること。

オフィス・アワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。（事前予約 (oshima@ujc.ac.jp)
のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

宇都宮市子ども発達センター若葉園　音楽療法士
宇都宮市子ども発達センター若葉園　かすが園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会　すぎの芽学園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会デイサービスセンターすぎの芽　音楽療法士
社会福祉協議会　宇都宮市障がい者福祉センター音楽療法士
認知症カフェアダージョでの音楽療法実施
栃木県那須町黒田原第二保育園にて肢体不自由児に対する音楽療法研修実施

[実務経験と授業科目との関連性]

知的障害児、肢体不自由児、成人領域、高齢者における音楽療法の実践

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SP083	音楽療法実習	２年	後期	講義	3	大島美知恵

授業概要

施設における実習生としてのマナーや基本的態度について学ぶ。実習内で行う音楽療法セッションでは、対象者のアセスメント→計画→実践→記録→評価の順で進めるが、そのプロセスについて学ぶ。
事前事後指導や実習体験を通して、実習中は施設での生活体験により、施設スタッフ（関連領域）の仕事内容と対象者の生活の様子を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

１）計画立案に基づいて、セッションを行い、臨機応変な対応ができる。
２）施設の他の領域の仕事の内容を把握し、対象者の生活の様子を理解することができる
３）実習での体験をまとめ、説明することができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
１回	事前指導	実習での心得、守秘義務、規則厳守など実習生としてのマナーを学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：授業の内容をノートにまとめておく。
２回	実習施設について	施設の構造、利用者の生活の様子、仕事範囲の確認など、施設の仕事内容から実習中に行うことを学ぶ。対象者について施設からの情報を基にアセスメントする。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：授業の内容をノートにまとめておく。
３回	実習計画について	実習までに行うべきことの計画案を作り、メンバーとの作業内容の分担を話合い、プログラム作成に向けた作業を学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：授業の内容をノートにまとめておく。
４回	セッション案作り	２回での対象者のアセスメントを基にプログラムを作成し、アセスメントから実践内容を計画する手法を学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：プログラムを仕上げておく。
５回	実践に向けた演習と記録	プログラムに基づき練習を行うと共に記録の付け方について意見交換を行う。その意見を基に記録フォーマットの作り方について学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：プログラムを仕上げておく。
６回	実習に向けた実務について	実習に向けての準備物（写真、検査、提出書類等）を確認する。また実習ノート記載事項の確認、印刷製本を行い実習手順を学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：授業内で確認した準備物の手配に取り掛かる。またその手順についてノートにまとめる。
７回	音楽療法プログラム実践準備	音楽療法実践に向けた歌詞カード、必要な教材を製作し、使用する楽器や教具等の確認を行い実践の手順を学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：授業内で確認した準備物の製作に取り掛かる。またその手順についてノートにまとめる。
８回	実習後の楽器・教具の扱いについて	使用した楽器・教具等は消毒、汚れや破損等の点検を行い、整理して保管する。また次の利用に備えチェック表に記入し、共同で利用する楽器・教具等の扱いやマナーについて学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：授業の内容をノートにまとめておく。

9回	実習後の自己評価	実習ノートをまとめ、本実習全体を通しての自己評価を行い、メンバーとの意見交換をする。自己評価の客観的視点を学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく。 復習：メンバーからの意見を整理してノートにまとめておく。
10回	VTRによる検討会	音楽療法の実践のVTRをメンバーと共に視聴しながら意見交換を行い、成果と今後の課題についてまとめる。振り返りのポイント、課題の見極め方について学ぶ。 予習：配付資料を読んでおく 復習：授業内での意見をノートにまとめておく。
11回	実習発表テーマの決定	10回の内容を踏まえて発表テーマについて検討する。メンバー間でも意見交換を行い自己決定する。適切なテーマを選択していくポイントを学ぶ。 予習：10回の内容を振り返り、幾つかのテーマを考えておく。 復習：授業内での意見をノートにまとめておく。
12回	発表パワーポイント作成	11回で決定したテーマに沿ってパワーポイントの資料を作成する。資料作成の手法について学ぶ。 予習：テーマに関する文献、過去の発表資料を読んでおく。 復習：授業内での指導を参考に資料を仕上げる。
13回	発表読み原稿の作成	12回で作成した資料に対する読み原稿を作成する。分かり易い説明方法について学ぶ。 予習：読み原稿を書いておく。 復習：授業内での指導を参考に読み原稿を仕上げる。
14回	実習体験発表のリハーサル、準備	プロジェクターの使い方、発表原稿の読み方をリハーサルし、互いに意見交換を行う。明確な説明の方法について学ぶ。 予習：各自でリハーサルを行う。 復習：授業内での意見を参考に練習をする。
15回	実習体験発表及び卒業生との情報交換	発表会で発表する。参加教員から質問やアドバイスを受ける。終了後、卒業生と情報交換会を行う。参加者の意見から新たな課題を見いだす視点を学ぶ。 予習：授業内での意見を参考に練習をする。 復習：発表会で得た意見をノートにまとめておく。

準備学習（事前学習・事後学習について）

本科目は、講義科目3単位なので90分の授業時間以外に90時間の授業外学習が必要になります。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
①臨機応変な対応ができる。 ②施設の仕事内容を把握し、対象者の生活の様子を理解することができる ③実習での体験をまとめ、説明することができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価の方法

ワークへの積極的な取り組み 20%、課題提出物 20%、実習先での評価 30%、
実習発表 30%で評価
※課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

なし

参考書等

高橋多喜子『補完・代替医療　音楽療法』　金芳堂　　2017 年　2,100 円

履修上の注意・学習支援

パソコンかクロムブックを持参する。

オフィス・アワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること。（事前予約 (oshima@ujc.ac.jp)
のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

宇都宮市子ども発達センター若葉園　音楽療法士
宇都宮市子ども発達センター若葉園　かすが園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会　すぎの芽学園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会デイサービスセンターすぎの芽　音楽療法士
社会福祉協議会　宇都宮市障がい者福祉センター音楽療法士
認知症カフェアダージョでの音楽療法実施
栃木県那須町黒田原第二保育園にて肢体不自由児に対する音楽療法研修実施

[実務経験と授業科目との関連性]

知的障害児、肢体不自由児、成人領域、高齢者における音楽療法の実践

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP084	楽器調整法〈和楽器〉	１年	通年	演習	２	和久　文子

授業概要

楽器の構造の基礎を学ぶ。箏は糸締の方法等を実践する。三絃の糸の替え方、楽器の組み立て方を実践する。尺八の楽器構造等を学ぶ。箏・三絃・尺八の製造過程を学ぶため、楽器工房を見学。様々な箏特有の調絃法を学び、演奏に至るまでの基礎を習得する。伝統的な合奏法である「三曲形態」の箏・三絃・尺八の基礎を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

楽器（箏・三絃・尺八）に関する構造と調整法（メンテナンス）の理解を深め、箏の糸締め方法や三絃・尺八の扱い方を習得し、主科に活かす。

授業計画

回	表題	学習内容
１回	授業の進め方 三曲形態とは	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 箏・三絃・尺八の三曲形態について学び、また各楽器の特色と違いを知る。 予習：三曲形態について調べる。 復習：授業を振り返って理解を深める。
２回	箏―①	箏の定義 箏の各部名称・材質について学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
３回	箏―②	箏の種類 糸（絃）について（糸の材質・糸の太さ・音色の変化） 箏の演奏に関連する付属品について学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
４回	箏―③	箏の製造過程について学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
５回	箏―④	糸締めの実践 糸締めの手順を学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
６回	箏―⑤	箏の調絃法 様々な調絃の種類と調整の仕方を学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
７回	三絃―①	三絃の種類、三絃の各部名称・材質、三絃の糸の種類を知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
８回	三絃―②	三絃の糸のかけ方の実践を学ぶ。 三絃の三つ折りの方法、三絃の組み立て方を学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
９回	三絃―③	三絃の駒の種類と調整法を知る。 「サワリ」の付け方を学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

10 回	尺八―①	尺八の各部名称・材質ついて知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
11 回	尺八―②	尺八の種類と音色の関連性について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
12 回	尺八―③	尺八の仕組みと音程調整について学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
13 回	楽器工房の見学	箏・三絃の楽器製造過程を見学する。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
14 回	メンテナンス①	メンテナンスについて学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
15 回	メンテナンス②	これまでの学習内容をまとめ、メンテナス実践ができるようにする。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
16 回	三曲形態とは	15 回までの学習内容を踏まえ、さらに理解を深める。箏・三絃・尺八の三曲形態について学び、また各楽器の特色と違いを知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
17 回	箏―①	箏の定義 箏の材質の見極め方 楽器の修理法について（こくそう）学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
18 回	箏―②	箏の演奏に関連する付属品について（１） 箏爪づくりの実践・欠けた箏柱の活用法（小柱づくり）を学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
19 回	箏―③	箏の演奏に関連する付属品について（２） 各流派による記譜法の違いについて知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
20 回	箏―④	糸締めの実践 糸締めのコツを学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
21 回	箏―⑤	十七絃 箏の種類について知る 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
22 回	三絃―①	三絃の撥とねじについて学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
23 回	三絃―②	三絃の皮張りの実践をする。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
24 回	三絃―③	三絃の管理法について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

25 回	尺八①	尺八のメンテナンスについて学ぶ。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
26 回	尺八②	尺八の材質の選定の仕方を知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
27 回	尺八③	尺八の製造原理を知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
28 回	露ふき	露ふきを作成する。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
29 回	楽器工房の見学	尺八工房の楽器製造過程を見学する。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
30 回	まとめ	これまでの学習内容をまとめ、メンテナンス実践含めできるようにする。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、演習科目 2 単位ですので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・学習内容に示した部分を事前に調べ、予習したことをノートにまとめてくること。
・授業の復習を踏まえ、糸締めの実践練習を行うこと。）
・授業で指示した事柄について、参考文献で調べまとめてくること。
・授業後は振り返りを行い、課題を確認し、レポートを作成すること。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 箏・三絃・尺八の楽器構造の理解度 2. 糸締め等の基礎技術の習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

・定期試験（レポート）50%　　授業内実技テスト（メンテナンスの実践）50%

教科書

教科書は使用しない。レジュメや資料等を配付する。

参考書等

書名：「生田流の箏曲」
発行：講談社　　著者：安藤政輝

履修上の注意・学習支援

疑問等受付はオフィス・アワーを利用。

オフィス・アワー

疑問があれば、wakuwaku.koto@gmail.com にメールをください。終日受け取り可。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SP085	邦楽合奏研究	２年	通年	演習	２	和久文子・前川智世

授業概要
合奏することで学生同士互いに向上し合い、一つの曲を仕上げる。また、呼吸の合わせ方の基本を学ぶ。
様々な種類の楽曲に取り組み、邦楽特有のアンサンブル能力を高める。

到達目標(学習の成果)
アンサンブルを通して、聴く耳を鍛えることができる。
呼吸の合わせ方を習得できる。各々の楽器の特性を知り、合奏に活かすことができる。

授業計画

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 合奏①－１ ＜箏二重奏＞	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 同じ調絃のアンサンブルを通して、基本的な呼吸の合わせ方を習得する。 予習：アンサンブルについて調べる。 復習：学んだ課題を復習する。
2回	合奏①－２	互いのパートを聴く力を身に付け、アンサンブルの基礎を固める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
3回	合奏②－１ ＜箏二重奏＞	同じ調絃のアンサンブルを通して、基本的な呼吸の合わせ方を習得する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
4回	合奏②－２	互いのパートを聴く力を身に付け、アンサンブルの基礎を固める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
5回	合奏③－１ ＜箏・尺八二重奏＞	箏・尺八の二重奏を通して、邦楽特有の間の取り方を習得する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
6回	合奏③－２	尺八のフレーズの理解をより深め、尺八の呼吸を読む力を身に付ける。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
7回	合奏④－１ ＜箏二重奏＞	各々のパートの役割を楽譜の中から読み取る力を養う。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
8回	合奏④－２	各々のパートの役割を理解した上で、それらを意識しながらアンサンブルに活かす。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
9回	合奏⑤－１ ＜箏二重奏＞	メトロノームを利用し、正確なテンポ感を身に付ける。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
10回	合奏⑤－２	正確なテンポ感を互いにキープし合い、アンサンブルの完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。

11 回	合奏⑥－１ ＜三曲合奏＞	箏・三絃・尺八の異なる楽器の役割を考える。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
12 回	合奏⑥－２	歌とのバランスを考慮した上で、箏・三絃の両方の楽器の音量バランスをとる練習を行う。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
13 回	合奏⑦－１ ＜三曲合奏＞	箏・三絃・尺八の異なる楽器の役割を考える。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
14 回	合奏⑦－２	歌とのバランスを考慮した上で、箏・三絃の両方の楽器の音量バランスをとる練習を行う。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
15 回	仕上げ	アンサンブルとしての呼吸の合わせ方を学ぶ。曲を理解する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
16 回	合奏①－１ ＜箏三重奏＞	十七絃とのアンサンブルの練習 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
17 回	合奏①－２	十七絃の特性を理解し、アンサンブルに活かす。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
18 回	合奏②－１ ＜箏・十七絃・尺八による三重奏＞	箏・十七絃・尺八のアンサンブルの練習 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
19 回	合奏②－２	各々の楽器の音量バランスを考えながら合奏する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
20 回	合奏③－１ ＜箏三重奏＞	箏二面と十七絃の合奏の研究。リズムの絡みを考え、合奏に活かす。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
21 回	合奏③－２	リズムの嚙み合わせをより完成度の高いものに仕上げる 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
22 回	合奏④－１ ＜箏四重奏＞	互いの音を聴く耳を養う。テンポを正確に保つ練習を行う。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
23 回	合奏④－２	一章と二章の変化を意識し、より音楽性の高いものにする。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
24 回	合奏⑤－１	強弱や音色の変化を付ける。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
25 回	合奏⑤－２ ＜箏・尺八による四重奏＞	リズムを正確に繊細なテクニックを身に付ける。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
26 回	合奏⑥－１	箏二面・十七絃・尺八の役割を考え、情景の変化を曲に活かす。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。

27 回	合奏⑥－２ ＜大編成による合奏＞	様々なバリエーションを通して、表現の幅を広げる。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
28 回	合奏⑦－１	各々の変奏に合わせた音色の変化を活かし、アンサンブルの完成度を高める。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
29 回	合奏⑦－２	箏の高調子を通して、正確なリズムを習得する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
30 回	仕上げ	箏の低調子を通して、低調子ならではの弾き方、音の立ち上げ方を習得する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、演習科目 2 単位ですので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・課題曲の復習と予習。
・合奏をより理解するため、他のパートの譜読みをすること。
・試験課題曲について、参考文献を参照しまとめること。
・試験課題曲の復習と予習。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 合奏楽曲の理解度 2. 呼吸の合わせ方の習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
定期試験　レポート 50%、授業内実技テスト 50%

教科書

教科書は使用しない。資料等を配付する。

参考書等

大日本家庭音楽会発行公刊楽譜
正派公刊楽譜
邦楽社発行公刊楽譜
ミュージックエス公刊楽譜

履修上の注意・学習支援

レッスン前に演奏の準備を整える。

オフィス・アワー

疑問があれば、wakuwaku.koto@gmail.com にメールをください。終日受け取り可。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SP086	邦楽総合演習	２年	通年	演習	２	和久文子・前川智世

授業概要

舞台での実践。演奏と共に企画・舞台設営・裏方の仕事を学び、実際の演奏会を想定して総合的に舞台での経験を積む。また、互いに聴き合い、客観的に舞台での姿勢や音の鳴り方を判断する力を養う。

到達目標(学習の成果)

演奏会およびリサイタル等の開催に必要な企画力やプロセスを身に付けることができる。
舞台裏についても学ぶことで、奏者と裏方の両面から物事を考えられるようになる。

授業計画

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 企画演習①	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 演奏会（リサイタル等）を開催するにはどのような準備が必要かディスカッションする。 予習：演奏会の運営について調べる。 復習：授業を振り返って理解を深める。
2回	企画演習②	演奏会の企画を考える。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
3回	企画演習③	実際に企画書作成の演習を行う。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
4回	企画演習④	予算案を考える。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
5回	企画演習⑤	プログラム・チラシの作成 効果的なチラシを作成するにはどのような工夫すべきか調査する。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
6回	企画演習⑥	チラシの配布計画を立てる。 集客方法を具体的に考える。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
7回	企画演習⑦	演奏会開催にあたり、どのようなスタッフが必要か、またその役割について考える。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
8回	企画演習⑧	御招待状・御礼状の書き方演習。 舞台に必要な項目をあげ、舞台図・タイムテーブルを作成する。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
9回	企画演習⑨	これまでの企画演習を踏まえた上で、演奏会（リサイタル等）の企画案を発表する。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
10回	舞台実践①	独奏をはじめ、箏・三絃・尺八等による合奏を行う。 また、舞台に必要な裏方を経験する。（１） 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

11 回	舞台実践②	舞台の環境（座奏・立奏）を変えて演奏を行う。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
12 回	舞台実践③	録音・録画等の記録を実施し、客観的に舞台を見て反省点を見つける。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
13 回	舞台実践④	客観的に見た反省点を生かし、より完成度の高い舞台にする。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
14 回	舞台実践⑤	独奏をはじめ、箏・三絃・尺八等による合奏を行う。 また、舞台に必要な裏方を経験する。（2） 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
15 回	まとめ	15 回までの総復習を行う。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
16 回	舞台演習①	舞台の構造と装置、備品について学ぶ。 各名称と役割について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
17 回	舞台演習②	毛氈の種類と毛氈の敷き方について知る。 屏風の種類と屏風の立て方について知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
18 回	舞台演習③	舞台に対しての楽器の配置について様々なパターンを考える。 舞台図の作成。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
19 回	舞台演習④	舞台配置の実施。 どのように配置したら舞台が美しく見えるか研究する。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
20 回	調絃法①	箏の調絃の種類について調べる。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
21 回	調絃法②	様々な種類の調絃を実践し、またその調絃をとるコツを掴む。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
22 回	調絃法③	多種ある調絃を把握できたか実践をもってテストする。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
23 回	楽器取扱①	舞台上（本番）における、箏の扱いについて学ぶ。 事故防止法、対処法を知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
24 回	楽器取扱②	舞台上（本番）における、三絃の扱いについて学ぶ。 替三味線の役割を知る。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

25 回	舞台実践①	独奏をはじめ、箏・三絃・尺八等による合奏を行う。 また、舞台に必要な裏方を経験する。（１） 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
26 回	舞台実践②	舞台の環境（座奏・立奏）を変えて演奏を行う。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
27 回	舞台実践③	録音・録画等の記録を実施し、客観的に舞台を見て反省点を見つける。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
28 回	舞台実践④	客観的に見た反省点を生かし、より完成度の高い舞台にする。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
29 回	舞台実践⑤	独奏をはじめ、箏・三絃・尺八等による合奏を行う。 また、舞台に必要な裏方を経験する。（２） 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
30 回	総合的演習	後期の総復習を行う。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、演習科目２単位ですので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要となります。
・授業前に学習内容に示した事柄を考えノートにまとめること。
・調査が必要な項目については、図書館などを積極的に利用し調べること。
・演習に実技を伴う場合には復習と予習を行うこと。
・復習として演奏会の現場で実践し、演奏会後にはレポートを提出すること。
（例：学生邦楽フェスティバル等で演者と裏方の両方を経験すること。）

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 舞台演奏でのマナーの理解度 2. 調絃法の習得度 3. 楽器の取り扱いの習得度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
定期試験（レポート）100％

教科書

教科書は使用しない。レジュメや資料等を配付する。

参考書等

大日本家庭音楽会発行公刊楽譜
正派公刊楽譜
邦楽社発行公刊楽譜
ミュージックエス公刊楽譜

履修上の注意・学習支援

質問等はオフィス・アワーを利用すること。

オフィス・アワー

疑問があれば、okotomoyo.m@gmail.com にメールをください。終日受け取り可。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP087	吹奏楽概論Ⅰ	１年	前期	講義	2	田村和久

授業概要

吹奏楽とは何なのか、様々な視点からその概要を学びます。
指導に必要な運営、奏法、スコアリーディング、指揮法などの基礎的知識を学びます。

到達目標（学習の成果）

吹奏楽の基礎知識を学び、実践に活かすことができる。
吹奏楽で使用される楽器の奏法基礎を学び、合奏指導に活かすことができる。
吹奏楽の現状と運営を学び、自主性や協調性といった自己の活動にも活かすことができる。

授業計画

回	表題	学習内容
１回	授業の進め方 吹奏楽指導の役割	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 吹奏楽指導者としての役割、心構え 予習：必ず役立つ吹奏楽ハンドブック指導者編を使用し、事前に発表資料を準備 復習：各人の発表および講義を元にレポート作成
２回	指導と運営Ⅰ(指導)	技術指導、音楽表現 音楽の基礎知識 予習：JBC バンドスタディ他教本等を参考に指導プランを準備 復習：各人の発表および講義を元にレポート作成
３回	指導と運営Ⅱ(運営)	部活(団体)の運営(スケジューリング・マニュアル) 練習マニュアル 予習：指導と運営Ⅰを実行するための運営プランを準備 復習：各人の発表および講義を元にレポート作成
４回	吹奏楽の歴史	吹奏楽の歴史と編成の変化 予習：世界と日本の吹奏楽の歴史を調査 復習：歴史と編成の変革についてレポート作成
５回	練習指導法Ⅰ(初心者)	ブレス、アンブシュア、バズィング 予習：効果的な練習法を提示準備 復習：各人の発表および講義を元にレポート作成
６回	練習指導法Ⅱ(初心者)	ロングトーン、タンギング、リップスラー、スケール、アルペジオ 予習：効果的な練習法を提示準備 復習：各人の発表および講義を元にレポート作成
７回	木管楽器	アンブシュア、構え方、音域、運指、奏法 予習：JBC バンドスタディを使用し事前学習 復習：注意点をレポートに集約

8回	金管楽器	アンブシュア、構え方、音域、運指、奏法 予習：JBC バンドスタディを使用し事前学習 復習：注意点をレポートに集約
9回	打楽器	種類、奏法 予習：JBC バンドスタディを使用し事前学習 復習：注意点をレポートに集約
10回	スコアリーディング(初級)	移調楽器の知識スコアリーディングの実際 予習：スコアリーディングに強くなる移調楽器入門を使用し事前学習 復習：移調楽器について復習する
11回	個人練習(基礎)	毎日の基礎練習 予習：効果的な基礎練習について事前調査 復習：各人の発表および講義を元にレポート作成
12回	個人練習(応用)	基礎練習と楽曲練習の連動 予習：各人簡単な楽曲を準備し、基礎練習の活用について検証する 復習：各人の発表および講義を元にレポート作成
13回	パート練習(基礎)	パート、グループで行う基礎練習 予習：パートおよびグループで行う基礎練習についてプランを作成 復習：各人の発表および講義を元にレポート作成
14回	パート練習(応用)	基礎練習を活かした楽曲練習 予習：全日本吹奏楽コンクール課題曲 2024－Ⅳを使用し１つのパートについての練習計画を作成 復習：講義を元にレポート作成
15回	分奏・セクション練習Ⅰ	グループ、セクション練習における計画 予習：全日本吹奏楽コンクール課題曲 2024－Ⅳを使用し１つのパートについての練習計画を作成 復習：講義を元にレポート作成

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 2 単位ですので、授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

今までの経験から、または主科、副科(管楽器)の楽器、練習などの事柄を整理し、発表できるようにしてください。カリキュラムやマニュアルの作成を行います。PC やソフト等の操作に慣れるよう心掛けてください。

今までの経験と学習後の現場運営を客観的に観察し、実際運営に役立ててください。

客観的に教科書を活用し、現場での活用を視野に整理してください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
吹奏楽の基礎知識の理解度 吹奏楽で使用される楽器の奏法基礎の習熟度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期試験　レポート　60%　　授業内小テスト　40%

教科書

プリントを配付します

参考書等

ＪＢＧバンドスタディ指導書／ヤマハミュージックメディア

スコアリーディングに強くなる移調楽器入門／東亜音楽社

必ず役立つ吹奏楽ハンドブック指導者編／ヤマハミュージックメディア

履修上の注意・学習支援

講義内で学んだ知識を実際の運営で活用していきます。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分間程度、１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP088	吹奏楽概論Ⅱ	１年	後期	講義	2	田村和久

授業概要

吹奏楽とは何なのか、様々な視点からその概要を学びます。
指導に必要な運営、奏法、スコアリーディング、指揮法などの基礎的知識を学びます。

到達目標（学習の成果）

吹奏楽の基礎知識を学び、実践に活かすことができる。
吹奏楽で使用される楽器の奏法基礎を学び、合奏指導に活かすことができる。
吹奏楽の現状と運営を学び、自主性や協調性といった自己の活動にも活かすことができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 分奏・セクション練習Ⅱ	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 グループ、セクション練習における楽曲練習 予習：全日本吹奏楽コンクール課題曲 2024－Ⅳを使用し１つのパートについての練習計画を作成 復習：講義を元にレポート作成
2回	楽曲研究Ⅰ	吹奏楽におけるオリジナル曲、アレンジ曲 予習：吹奏楽におけるオリジナル曲、アレンジ曲を各３曲選出し、事前学習 復習：自分以外の選曲について視聴しておく
3回	楽曲研究Ⅱ	選曲とスコアの活用 予習：選曲の着目点について事前調査 復習：着目点についてスコアで確認し、レポート作成
4回	楽曲研究Ⅲ	コンクールおよび演奏会においての選曲 予習：前年度吹奏楽コンクール曲、演奏会について３曲以上事前にリストアップ 復習：講義内容をリストアップ
5回	スコアリーデイングⅠ	スコアの仕組み 予習：全日本吹奏楽コンクール課題曲 2024-Ⅲを事前学習 復習：メロディラインをマーキング
6回	スコアリーデイングⅡ	スコアリーディングの基礎知識 予習：スコアに記載されている内容を事前学習 復習：パートのグルーピングを確認
7回	スコアリーデイングⅢ	実際の指導においてのスコア使用法 予習：各パートの役割について事前学習 復習：グループ毎の指導案を作成

8回	指揮法実践Ⅰ(基礎合奏)	基礎合奏のカリキュラムを元に模擬指導 指揮のポイント、時間配分等 予習：メトロノームと同じ速さでテンポをとる練習を実施 復習：講義内容を参考に復習練習
9回	指揮法実践Ⅱ(楽曲応用)	楽曲研究Ⅱで選曲したものを元に模擬指導 指揮のポイント、時間配分等 予習：全日本吹奏楽コンクール課題曲 2024-Ⅲを使用し、指導案を作成 復習：講義内容をスコアに記入
10回	アンサンブルⅠ	アンサンブルの編成と選曲 予習：編成違いのアンサンブル楽曲を３曲以上選曲し、視聴 復習：講義内容を元にリストアップ
11回	アンサンブルⅡ	スコアリーディング　構成と指導のポイント 予習：事前配布の楽曲について指導案を作成 復習：講義内容をスコアに記入し、レポート作成
12回	アンサンブルⅢ	模擬指導 予習：指導案を元に模擬指導の準備 復習：指導のポイント、注意点についてレポート作成
13回	ソロレパートリー	コンテスト、コンクールを見据えた選曲 予習：専攻楽器以外のソロ楽曲を２曲以上視聴し事前学習 復習：各人の選曲および講義内容をリストアップ
14回	総括(指導)	指導者としての資質 予習：指導者として必要なスキルや注意点等について発表準備 復習：各人の発表と講義内容を元にレポート作成
15回	総括(運営)	運営の重要性 予習：運営と指導の関係性について発表準備 復習：各人の発表と講義内容を元にレポート作成

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 2 単位ですので授業時間 90 分以外に 60 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

今までの経験から、または主科、副科(管楽器)の楽器、練習などの事柄を整理し、発表できるようにしてください。カリキュラムやマニュアルの作成を行います。PC やソフト等の操作に慣れるよう心掛けてください。

今までの経験と学習後の現場運営を客観的に観察し、実際運営に役立ててください。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
講義内の演習および小テスト	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期試験　レポート　60%　　授業内小テスト　40%

教科書

プリントを配付します

参考書等

ＪＢＧバンドスタディ指導書／ヤマハミュージックメディア

スコアリーディングに強くなる移調楽器入門／東亜音楽社

必ず役立つ吹奏楽ハンドブック指導者編／ヤマハミュージックメディア

履修上の注意・学習支援

講義内で学んだ知識を実際の運営で活用していきます。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分間程度、１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP089	アンサンブル演習	1年	前期	演習	1	林美智子

授業概要

特にフレキシブル編成において、個々の特性を生かした選曲、編曲が出来る知識を身に付けます。
様々なジャンルの音楽の、表現の違いを学びます。

到達目標（学習の成果）

個々の特性について知り、それに見合った選曲、編曲が出来るようになる（知識・技術）。
表現の違いを学び、楽曲に合った演奏が出来るようになる。（知識・方法・技術）。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	楽曲を選ぶ（クラシック作品）	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 クラシック音楽を題材にした作品の中から個々の特性を生かせる楽曲を選曲し、必要であれば編曲を行う。 予習：本科目のシラバス記載内容について読んでおくこと。 復習：題材にした作品への理解を深めること。
2	楽曲の譜読み	調合やアーティキュレーションを確認しながら譜読みを進める。 予習：楽譜に書かれている楽語を理解しておくこと。 復習：調合やアーティキュレーションが正しく演奏できていたか確認すること。
3	楽曲練習（1）	テンポをゆっくりにし、リズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：スコアを見て自分の役割を把握しておくこと。 復習：特に難しい箇所は入念に練習すること。
4	楽曲練習（2）	個々の特性を理解しながら、ハーモニーや旋律などのバランスを考える。作曲家の意図を汲み、曲全体の流れを作る。 予習：作曲者について理解を深めておくこと。 復習：特に難しい箇所は入念に練習すること。
5	楽曲の仕上げ	楽曲の指定テンポに近づけながら、曲を仕上げていく。 予習：スコアを見て全体を把握しておくこと。 復習：意図したように表現できていたか確認すること。
6	新たな楽曲を選ぶ（ポップス作品）	ポップス音楽を題材にした作品の中から個々の特性を生かせる楽曲を選曲し、必要であれば編曲を行う。 予習：ポップス作品について理解を深めておくこと。 復習：題材にした作品への理解を深めること。
7	新たな楽曲の譜読み	調合やアーティキュレーションを確認しながら譜読みを進める。 予習：楽譜に書かれている楽語を理解しておくこと。 復習：調合やアーティキュレーションが正しく演奏できていたか確認すること
8	新たな楽曲練習（1）	テンポをゆっくりにし、リズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：スコアを見て自分の役割を把握しておくこと。 復習：特に難しい箇所は入念に練習すること。
9	新たな楽曲練習（2）	個々の特性を理解しながら、ハーモニーや旋律などのバランスを考える。クラシック作品との表現の違いを感じながら、曲全体の流れを作る。

		予習：作曲者について理解を深めておくこと。 復習：特に難しい箇所は入念に練習すること。
10	新たな楽曲の仕上げ	楽曲の指定テンポに近づけながら、曲を仕上げていく。 予習：スコアを見て全体を把握しておくこと。 復習：意図したように表現できていたか確認すること。
11	新たな楽曲を選ぶ（オリジナル作品）	アンサンブル用に作曲された作品の中から個々の特性を生かせる楽曲を選曲し、必要であれば編曲を行う。 予習：オリジナル作品について理解を深めておくこと。 復習：題材にした作品への理解を深めること。
12	新たな楽曲の譜読み	調合やアーティキュレーションを確認しながら譜読みを進める。 予習：楽譜に書かれている楽語を理解しておくこと。 復習：調合やアーティキュレーションが正しく演奏できていたか確認すること。
13	新たな楽曲練習（1）	テンポをゆっくりにし、リズム、強弱、音程などを確認しながら練習する。 予習：スコアを見て自分の役割を把握しておくこと。 復習：特に難しい箇所は入念に練習すること。
14	新たな楽曲練習（2）	個々の特性を理解しながら、ハーモニーや旋律などのバランスを考える。作曲家の意図を汲み、曲全体の流れを作る。 予習：作曲者について理解を深めておくこと。 復習：特に難しい箇所は入念に練習すること。
15	新たな楽曲の仕上げと総仕上げ	楽曲の指定テンポに近づけながら、曲を仕上げていく。 それぞれの楽曲の違いを感じながら、これまでの曲を発表する。 予習：スコアを見て全体を把握しておくこと。 復習：意図したように表現できていたか確認すること。

準備学習（予習・復習について）

この講義は演習科目 1 単位なので、授業時間 90 分以外に 15 時間の授業外学習が必要になります。

・デイリーエクササイズ、ウォームアップ。）

・楽曲選定に向け、配布された出版楽譜一覧を読み、候補曲をノートにまとめること。

・課題曲について、参考文献を参照しまとめること。

・課題曲の復習と予習。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
1．個々が担当する楽器と演奏技術についての理解、または習得度。 2．表現の違いについての理解、または習得度。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

演習（80%）定期試験　レポート（20%）

教科書
教科書は使用せず、各回、参考資料をコピーして配付する。

参考書等
主要な楽譜出版社の出版楽譜一覧を学期初めに一括で配布。

履修上の注意・学習支援
編曲にアプリやソフトを使用する場合は、インストールを済ませ基本的な操作を出来るようにしておくこと。

オフィスアワー
質問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約 m.hayashi@ujc.ac.jc のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って指示する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1SP090	楽曲編曲	1年	後期	講義	1	菊地由記子

授業概要

楽曲を編曲するためには、深く楽譜を読み、楽曲の構造を理解することが必要です。授業では、楽曲を分析し、楽器編成や編曲方法の可能性を追求していきます。分析したことをもとに、実際に編曲の演習も行います。

到達目標

授業で学んだ内容を、知識としての理論にとどめることなく、実際の編曲にいかすことを目指します。
教育現場、また音楽演奏の現場等において、音楽的な指導ができるような楽譜の読み方、また、自らの手で生きた編曲が実現できるように実習を積んでいきます。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 基礎知識の確認	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 既習の音楽理論について、身についているか今一度確認していきます。楽譜を正しく読み、正しく書くための必須の知識です。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおきましょう。 復習：ノートに記載した内容を確認しましょう。
2回	楽器について(1)	各楽器の演奏可能な音域、音域による音色の違いを確認します。また、楽曲内で適切な箇所に適切な音域で用いることを学びます。 予習：該当する内容についてプリントを読んでおきましょう。 復習：ノートに記載した内容を確認しましょう。
3回	楽器について(2)	各楽器の得意・不得意な音型を実際の譜面で確認していきます。また、移調楽器の知識について確認していきます。実音、記音を理解した上で、実際に音を譜面に書く練習をします。 予習：該当する内容についてプリントを読んでおきましょう。 復習：ノートに記載した内容を確認しましょう。
4回	編成について	編成の種類について学びます。編成によってどのような配慮が必要になるか、また原曲に適した編成は何なのか、考えていきます。 予習：該当する内容についてプリントを読んでおきましょう。 復習：ノートに記載した内容を確認しましょう。
5回	書法(1)	対旋律のありかたについて考えていきます。対旋律は、編曲の要でもあります。音楽的な対旋律が書けるよう演習していきます。 予習：該当する内容についてプリントを読んでおきましょう。 復習：ノートに記載した内容を確認しましょう。
6回	書法(2)	編曲の方法もさまざまです。原曲をどのように発展させていくのか、何に焦点をあてて編曲をするのか、方法を見つけていきます。 予習：該当する内容についてプリントを読んでおきましょう。 復習：ノートに記載した内容を確認しましょう。
7回	楽譜の書き方(1)	編曲をするには、楽譜を書く力が必要です。演奏者に必要な情報を与えられるのが楽譜です。イメージ通りの演奏になるような楽譜作りをします。 予習：該当する内容についてプリントを読んでおきましょう。 復習：ノートに記載した内容を確認しましょう。
8回	楽譜の書き方(2)	前回に引き続き楽譜の書き方を学びます。スコア譜、パート譜ともに書き方を練習します。 予習：該当する内容についてプリントを読んでおきましょう。 復習：ノートに記載した内容を確認しましょう。

9回	編曲演習(1)	小編成のアンサンブル編曲の演習をします。原曲の和声分析をし、音楽の土台になる和声をしっかり作ります。その後編成を決定します。 予習：原曲譜をよく読んでおきましょう。 復習：ノートに記載した内容を確認しましょう。
10回	編曲演習(2)	各楽器についての知識をもとに、主旋律・対旋律を担当する楽器を選択します。楽譜の下書きを始めます。 予習：原曲譜やプリントをよく読んでおきましょう。 復習：下書きした音の確認を、実際に音を出して行いましょう。
11回	編曲演習(3)	主旋律・対旋律以外のパートについて、楽器の選択をします。下書きを進め、音響バランスが適切であるか、考えていきます。 予習：該当箇所について原曲譜やプリントを参考に考えてみましょう。 復習：下書きした音の確認を、実際に音を出して行いましょう。
12回	編曲演習(4)	ピアノで弾きながら音の重なりを確認します。それぞれが音楽的に動いているかを確認します。また、試演に向けてパート譜の作成をします。 予習：該当箇所について予め考えてみましょう。 復習：作成したパート譜に必要な修正を行いましょう。
13回	編曲作品の試演	編曲作品を試演します。編曲者は、イメージしていた響きになっていたか、注意深く聴いて確認します。 予習：編曲譜を念入りに読み、響きのイメージをもちましょう。 復習：編曲譜に修正箇所があるか見直しましょう。
14回	楽譜の改訂	試演によって見えた課題について、改善方法を考えていきます。それらを楽譜に反映させます。 予習：改善点を予め楽譜に書いてみましょう。 復習：適切に修正できたか振り返りましょう。
15回	編曲法の総括	これまで学んだ知識や試演で得た経験を、次の編曲作品にどのように生かしていくか考えます。 予習：作品全体を見直してみましょう。 復習：今後の課題について書き出してみましょう。

準備学習（予習・復習）について

本科目は、講義科目1単位なので授業時間90分以外に30時間の授業外学習が必要です。
学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

編曲は実技の練習と同じく、日頃の積み重ねが必要です。
・編曲する作品の分析を常に行いましょう(続けて分析することで常に新しい発見があります)。
・授業で扱った内容の復習をし、得たことを次回に活かせるよう自身の編曲作品に照らし合わせて熟考しましょう。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
楽曲編曲に必要な知識を身につけ、音楽的に充実した編曲楽譜を作成することができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

評価方法
定期試験(レポート)　100%

教科書
使用テキスト
レジュメや資料(参考楽譜等)を毎回の授業で配布します。
参考書等
書名：吹奏楽のためのスコア入門　著者名：小林恵子　出版社：株式会社ヤマハミュージックメディア

書名：新総合音楽講座８「管弦楽法概論」　著者名：河江一仁　発行所：一般財団法人ヤマハ音楽振興会

書名：管弦楽法　著者名：伊福部昭　出版社：音楽之友社

学習支援・履修上の注意
音楽的な編曲をするためには、確かな知識と、書いた譜面の響きをイメージする力が必要です。それらを身につけるため、常日頃から積極的に楽曲を分析すること、さまざまな楽器の響きに意識的に耳を傾けることを心がけてください。前時の内容を復習して授業に臨んでください。

オフィス・アワー
授業開始前後に受け付ける(1 号館 1 階：講師教員センター)

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SP091	吹奏楽実践演習	2年	前期	演習	2	田渕哲也

授業概要

吹奏楽の顧問は、教員はもちろん個人レッスンの先生でもあり、基礎合奏を通してサウンド作りをするバンドディレクター、合奏を指揮する指揮者でもあります。一人三役四役をこなすスーパー先生でなければなりません。実際に指揮台に立ち言葉、指揮を通じてどうしていけば良いのか実践して学びます。

到達目標（学習の成果）

個人の練習の方法、パート練習の方法、分奏、基礎合奏、楽曲合奏の方法を学び、指導、指揮ができるようになる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 バンドのチューニング音楽の基礎の確認	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 バンドのチューニングの目的と重要性を知りその方法を学ぶ。 ソルフェージュ（歌）とブレストレーニングの習得。 音楽の基礎である楽典の確認をする（音名、リズムなど） 予習：楽典の基礎を予習する。 復習：学んだ課題を復習する。
2回	ユニゾン練習とバランス練習	同じ音（ユニゾン）を合わせる時のポイント、方法を学ぶ。 同じ音（ユニゾン）をグループに分けて透明感のある豊かな響きを作る。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
3回	スケール練習とハーモニー練習	音楽の基本であるスケールを美しい合奏として練習する。美しいハーモニーを作るために第3音の扱い方を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
4回	リズム練習	共通のリズム感を持ち「音の形」を学ぶ。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
5回	基礎合奏と歌を生かした演奏実践	簡単な曲を使い、歌を歌い正しいピッチ、音程感覚、音楽の表現を身につけ楽器で実践する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
6回	基礎合奏と歌を生かした総合課題	テキストを用いいろいろな曲を歌と楽器で実践する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
7回	基礎合奏と個人練習Ⅰ	基礎、楽曲を用い個人練習の方法をワンツーマンで、レッスン方式で行う。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
8回	基礎合奏と個人練習Ⅱ	前回のレッスンの成果、宿題をチェックし修正、見直しをする。ソロのレッスン 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
9回	基礎合奏とパート練習Ⅰ	基礎、楽曲を用いパート練習の方法をパート毎に行う。

		予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
10 回	基礎合奏とパート練習Ⅱ	前回のレッスンの成果、宿題をチェックし修正、見直しをする。アンサンブルのレッスン 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
11 回	基礎合奏と分奏Ⅰ	楽曲を用い分奏の練習の方法を分奏で行う。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
12 回	基礎合奏と分奏Ⅱ	前回のレッスンの成果、宿題をチェックし修正、見直しをする。アンサンブルのレッスン 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
13 回	基礎合奏と楽曲合奏Ⅰ	楽曲を用い実践的な合奏を行う。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
14 回	基礎合奏と楽曲合奏Ⅱ	前回の合奏での反省点をチェック、見直し修正する。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。
15 回	基礎合奏と楽曲合奏Ⅲ	楽曲を仕上げる。 予習：課題を練習する。 復習：学んだ課題を復習する。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、演習科目 2 単位ですので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して
内容の理解を深めてください。

（予習）
事前準備がとても大切になるので教材及びプリントを用意し配付できるように準備する。吹奏楽概論の中で基礎合奏の内容、進め方をシュミレーションしておく。
基礎合奏及び楽曲の指揮の振り方、スコアリーディングを事前にしておく６０分×１４回

（復習）
演習後、指導、合奏の進め方、指揮の振り方、指示が適切であったか確認（指導教員アドバイス、吹奏楽アンサンブル専攻学生同士のアドバイス、録音録画）し次回に活かせるようにする６０分×１４回

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
計画表：演奏会・コンクールまでの練習計画・日程表の作成、基礎合奏・合奏の内容・進め方のプログラム作成、個人・分奏・合奏の役割分担の作成ができる。 演習：計画通り指導できる楽曲の理解・指揮の習得、生徒に寄り添いやる気を引き出	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない

すことができる。					
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期試験　レポート　30%　　計画表　20%　演習　50%

教科書

楽譜や資料等を配付する。

参考書等

３Ｄバンドブック/YAMAHA
JBC バンドスタディ/YAMAHA
スーパーサウンドトレーニング/WindsScore
ジュニアクラスの楽典問題集/ドレミ楽譜

学習支援・履修上の注意

積極的、主体的な態度で受講してください。
（11 回目～15 回目の内容を，特別演習として行うことがあります。）

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分間程度、
１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

［実務経験の概要］

吹奏楽指導者として，中学校や高等学校の吹奏楽部への指導，また一般バンドでの指揮や指導に携わっている。

［実務経験と授業の関連性］

吹奏楽においての指揮や指導の経験を，具体的な実例を示すなどして生かしている。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2SP092	吹奏楽運営法	２年	前期	講義	2	田村和久

授業概要

吹奏楽部や団体の運営に必要な知識や方法を、事務面と実践面の両面から学ぶ。
運営環境を整えるために必要な書類の作成や運営、指導計画について学ぶ。
指導法と運営を結び付け、効率化を計る方法や実践での注意点などを検討、研究する。

到達目標（学習の成果）

必要書類を作成できる。
楽器の特性や日常管理を学び、指導に活かしていく。
知識を実践の場で使用できるよう、模擬演習で確認する。

授業計画

回	表題	学習内容
1回	授業の進め方 運営環境	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 吹奏楽部(団体)運営の状況、心構え 予習：部活の地域移行について問題点や展望について発表準備 復習：講義内容を元にレポート作成
2回	運営管理と計画・必要書類の作成１	年間計画の確認と必要書類の作成および名簿の作成 予習：名簿の種類について事前調査 復習：名簿の修正および完成
3回	運営管理と計画・必要書類の作成２	名簿作成の意味と活用法 年間計画に基づいた月間練習予定表の作成 予習： 名簿および月間、年間の活動予定の必要性について発表事前準備 復習：月間練習予定表の完成
4回	運営管理と計画・必要書類の確認、	名簿、月間練習表の管理、注意点、活用 予習：名簿、月間練習表活用時の注意点について発表事前準備 復習：講義内容を元にレポート作成
5回	楽器概論Ⅰ	木管楽器の構造とメンテナンス、管理 予習：木管楽器のメンテナンスについて事前調査 復習：講義内容を元にレポート作成
6回	楽器概論Ⅱ	金管楽器の構造とメンテナンス、管理 予習：金管楽器のメンテナンスについて事前調査 復習：講義内容を元にレポート作成
7回	楽器概論Ⅲ	打楽器の構造とメンテナンス、管理 予習：打楽器のメンテナンスについて事前調査 復習：講義内容を元にレポート作成
8回	活動管理	日常活動の現状、注意点と運営の工夫 予習：活動を管理する上での注意点や工夫を事前調査 復習：講義内容を元にレポート作成

9回	楽曲研究Ⅰ	出版社の種類と特徴、選曲上の注意 予習：吹奏楽およびアンサンブルの出版社とその特徴について事前調査 復習：講義内容を元にレポート作成
10回	楽曲研究Ⅱ	様々な編成と定番曲、効果的な選曲と著作権 予習：編成別に1曲以上選曲 復習：各人の選曲と講義内容を元にレポート作成
11回	活動計画	依頼演奏や合宿、合同練習等の手配と実働管理 予習：練習拠点外での活動についての手配について事前調査 復習：講義内容を元にレポート作成
12回	安全管理	活動上の事故防止と対応 予習：活動において想定されるトラブルについて事前調査 復習：講義内容を元にレポート作成
13回	コンサート企画・制作Ⅰ	スケジューリング、舞台機構、舞台用語 予習：コンサート企画するにあたり、大まかなスケジュールを事前作成 復習：スケジュール表を完成
14回	コンサート企画・制作Ⅱ	定期演奏会やミニコンサートの計画および制作① 予習：コンサート制作のコンセプトについてレポート作成 復習：講義内容を元に、詳細内容をリストアップ
15回	コンサート企画・制作Ⅲ	定期演奏会やミニコンサートの計画および制作② 予習：前講義の内容を元に更に作成を進める 復習：13～15回講義の内容をまとめファイリング

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目2単位ですので、授業時間90分以外に60時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

・学内、学外問わず、演奏会の企画および制作には積極的に参加してください。
・練習や運営の現状を把握し、いかに効率良く、かつ効果的に進められるか研究してください。
・楽器の構造やメンテナンスを覚え、日常に活かすとともに、本番時のトラブルを未然に防げるよう研究してください。
・すべての講義内容をファイリングして、今後の活動時に活用してください

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
必要書類を作成できる。 楽器の特性や日常管理を学び、指導に活かせる。 知識を実践の場で使用できるよう、模擬演習ができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

評価方法
模擬演習　50%、定期試験レポート　50%

教科書

必要なプリントを講義内で配付する。

参考書等

指導者必携 吹奏楽部運営便利帳／ドレミ出版
必ず役立つ吹奏楽ハンドブック指導者編／ヤマハミュージックメディア(吹奏楽概論と共用)

履修上の注意・学習支援

講義内で得た知識を実際の運営で確認することで、より実用性の高いものにします。
特徴的な内容で専門家が必要な時は招致し、より的確なものとします。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分間程度、
１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1EC093	教育原理	1年	前期	講義	2	田上富男

授業概要

教育とは何か、学校とは何か、そしてそれらを支える理念や思想とは何かを考え、そうした理念や思想が生じた歴史的・社会的背景を学ぶ。また現場の教育を支えている制度や経営について学びつつ、この社会において教育に求められる社会的機能を理解しながら、現代社会において生じている様々な教育問題について理解を深める。

到達目標（学習の成果）

・教育に関しての原理・原則及び基本的な考えや概念を理解する。
・教育の歴史と思想、制度及びその背景を知ると共に、近年の我が国の教育改革と教育の現代的課題について理解する。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 教育とは何か、理想の教育と現実の課題	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 教育とは何か　教育の本質や目的、学校教育の必要性や目的・目標を理解し、変わりつつある学校について学ぶ。 予習：なぜ教育が必要か、考えをまとめておく。 復習：教育の目的、学校教育の目的・目標をまとめる。
2	教育思想の変遷①	教育思想の変遷について、古代ギリシャ・ローマや中世及び近代までの代表的な教育家や教育思想について学ぶ。 予習：ソクラテス、プラトン、アリストテレスを調べる。 復習：中世の代表的な教育家についてまとめる。
3	教育思想の変遷②	１８・１９世紀の教育思想、新教育運動と教育論及び現代の代表的な教育学者及び教育哲学者の考えについて学ぶ。 予習：新教育運動について調べておく。 復習：ヘルバルトとデューイについてまとめる。
4	教育と社会	教育の社会的機能を踏まえ、その変遷と現代社会と学校の関係及び学校教育、家庭教育、社会教育の関係を学ぶ。 予習：家庭教育と社会教育について調べておく。 復習：学校と社会の関係について整理する。
5	近代教育のはじまり	ドイツ、アメリカ、イギリス、フランスにおいて、近代学校教育制度が始まり、確立していった背景と歴史的経緯を学ぶ。 予習：近代学校教育制度について調べておく。 復習：左４カ国の教育制度の経緯を整理する。
6	日本の教育の歴史と学習指導要領の変遷	学制発布以降の日本の教育の歴史を学ぶと共に、戦後教育の根幹を成す学習指導要領の変遷について学ぶ。 予習：現行学習指導要領改訂の要点を調べておく。 復習：学習指導要領の変遷について整理する。
7	教育と法制度	教育を支える法制度、約 60 年ぶりに改正された教育基本法、法定研修や教員免許制度及びその創設の背景を学ぶ。 予習：教育基本法改正について調べておく。 復習：教育関連法制度について整理する。中間課題レポートの作成。
8	学校と子供　家族と家庭教育	教育という営みを支える学校と子供、家庭、社会、家族と家庭教育など、現代に至るまでの歴史について学ぶ。 予習：子供、家庭、社会の関係性をまとめておく。 復習：家庭教育の重要性について整理する。中間課題レポートの作成。
9	教育における学校・家庭・地域の連携	教育における学校・家庭・地域の連携として、PTA、開かれた学校と学校評議員制度、学校運営協議会について学ぶ。 予習：PTA 活動について調べておく。

		復習：学校協議員制、学校運営協議会について整理する。
10	学力問題と全国学力･学習状況調査	学力問題の変遷と戦後実施された全国学力テスト及び現在実施されている全国学力・学習状況調査について学ぶ。 予習：学力とは何かについて考えをまとめておく。 復習：全国学テと PISA の関係性について整理する。(3 時間)
11	現代社会と教育①	いじめ問題の現状と課題、いじめの深刻化といじめ定義の変遷及びいじめ防止対策推進法について学ぶ。 予習：過去のいじめ問題について考えをまとめておく。 復習：いじめ防止対策推進法について整理する。
12	現代社会と教育②	不登校の現状、不登校の歴史的経緯(学校恐怖症、登校拒否、不登校)及び学校の取組と課題について学ぶ。 予習：不登校数の推移を調べ考えをまとめておく。 復習：不登校の歴史的経緯を整理する。
13	現代社会と教育③	学校週 5 日制のためのスリム化問題、教師の子供と向き合う時間の確保、現在の教師の働き方改革について学ぶ。 予習：現在の働き方改革についてまとめておく。 復習：教師の多忙化の歴史的経緯を整理する。期末課題レポートの作成。
14	現代社会と教育④	学校事故や不審者侵入、教職員の不祥事、毎年発生する自然災害への対策など、学校の危機管理について学ぶ。 予習：学校事故について調べておく。 復習：学校の危機管理について整理する。期末課題レポートの作成。
15	これからの教育と学び続ける教師	変化の激しい先行き不透明な２１世紀に生きる子供たちに必要な教育と学び続ける教師の重要性について学ぶ。 予習：学習指導要領が求める生きる力を調べておく。 復習：これからの教育と教師について整理する。

準備学習

本科目は、講義科目(2 単位)なので、授業時間 30 時間と準備学習 60 時間が必要です。

1. レジュメや配付資料で授業の復習をすること。
2. 授業時に取り上げた専門用語等については、参考書及びその他の専門書を通して理解を深めておくこと。
3. 授業中に積極的に質問等ができるように準備しておくこと。

成績評価の基準・方法・

観点	S	A	B	C
･教育に関しての原理･原則及び基本的な考えや概念の理解	十分できている。	ほぼ十分できている。	一定程度できている。	努力している。
教育の歴史と思想、制度及びその背景の理解と、近年の我が国の教育改革と教育の現代的課題についての理解	十分できている。	ほぼ十分できている。	一定程度できている。	努力している。

期末に課す最終レポート 60%、中間課題レポート　30%　　授業態度　10%

教科書

なし

毎時間授業レジュメ配付及び参考資料配付

参考書等

深谷潤・広岡義之編著『教育の原理』ミネルヴァ書房，2021

履修上の注意・学習支援

授業中の課題には積極的に取り組み、指名されたらしっかり発言するなど、前向きな態度で受講してください。

話したいこと、何かわからないことがあったら、授業担当まで遠慮なく相談してください。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分間程度、
１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

実務経験の概要・実務経験と授業科目との関連性

［実務経験の概要］

１９８１年～２０２１年　小中学校教員、中学校長、教育委員会事務局指導主事、教育次長、教育事務所長、教育長

［実務経験と授業科目との関連性］

教員・校長としての学校現場での体験や教育行政機関での経験から身につけた、教育の本質的な意味や考え方は、本科目の授業内容と関連性が非常に高い。それらを生かし、現在の教育の実情を踏まえた講義が実施できる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1EC094	教職概論	１年	前期	講義	2	梅澤圭子

授業概要

学校教育における教職の意義や教員の職務内容と役割、必要な資質・能力、学校組織、教育課程等について多角的に学び、学校教育への理解を深め、教職への自覚と意欲を高める。

到達目標（学習の成果）

1　教職の意義、学校の組織、教員の役割・資質能力、職務内容等について理解している。
2　学校内外にわたって連携・分担して組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。
3　教職に求められる資質能力のうち基礎的な部分を獲得している。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 教職の意義	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 多様な教育活動と学校教育 について学ぶ。 予習：自分が教職課程を履修する意味をまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
2	教員の役割	学校教育の推移、現状と課題について学ぶ。 予習：教職とはどういうことか、自分はどのような教員になりたいか、まとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
3	教育関係法規	教員の身分と義務、教育関係法規の概要について学ぶ。 予習：教育関係法規を確認しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
4	専門職としての教職	教職に求められる専門性について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
5	学校の組織と教員の職務内容（1）	校務分掌について学ぶ。 予習：授業以外の教員の仕事を調べておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
6	学校の組織と教員の職務内容（2）	各種研究会・会議とその企画・運営について学ぶ。 予習：保護者会の案内文を作成してみる。 復習：授業を振り返って理解を深める。
7	学校の組織と教員の職務内容（3）	学級経営と学年経営について学ぶ。 予習：学級とは何かを考察しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
8	学校の組織と教員の職務内容（4）	教科等の指導計画について学ぶ。 予習：学習指導要領を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
9	学校の組織と教員の職務内容（5）	事務処理、文書、会計について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
10	学校の組織と教員の職務内容（6）	連携とチーム学校について学ぶ。 予習：どのような「連携」があるのか調べておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
11	教育改革と学校（1）	教育に関する課題について学ぶ。 予習：現在の教育に関してどのような課題があるのか調べておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
12	教育改革と学校（2）	学校への期待について学ぶ。 予習：学校・教員にはどのようなことが期待されているのか、まとめておく。

		復習：授業を振り返って理解を深める。
13	教育改革と学校（3）	開かれた学校づくりと連携について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
14	教員のキャリア形成とライフサイクル	教員の研修制度などについて学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
15	教職の展望	学校教育の展望と教職の意義を考察する。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

準備学習（予習・復習について）

本科目は講義科目（２単位）なので、授業時間以外に授業外学習６０時間が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

また、以下の授業外学習を常に心がけてください。

・教育界の動向について、教育雑誌、新聞、文科省ＨＰなどで情報収集し、ノートにまとめておくこと。

・授業で取り扱った教育に関する用語については、関係の書籍等により理解を深めておくこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
1. 教職の意義等について理解している。 2. 組織的に対応することの重要性を理解している。 3. 教職に求められる資質能力の獲得を目指して努力している。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法　　定期試験(筆記試験)100％

教科書

教科書は使用しない。レジュメや資料等を配付する。

参考書等

内田良(編)「部活動の社会学―学校の文化・教師の働き方」岩波書店 2021 年 2640 円

学習支援・履修上の注意

積極的・主体的な態度で受講すること。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約 k.umezawa@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

［実務経験の概要］

栃木県立高等学校の教諭、総合教育センター指導主事・副主幹・部長補佐、部長、教頭、校長を 38 年間にわたって務めた。特に指導主事・管理職等時代に、現場のみならず教育行政を始めとする教育界全般の諸問題・諸課題について研究等を行い、研修の企画・運営や学校経営等に生かした。

［実務経験と授業の関連性］

学校現場（管理職）や行政組織での経験を、教育制度、学校の組織や教員の職務などの授業内容の実施にあたって、具体的な実例を示すなどして生かす。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1EC095	教育心理	1年	前期	講義	1	小浜　駿

授業概要

毎回の講義は、授業感想の返答10分、講義60分、関連トピック紹介10分、感想記入10分の計90分で行う。講義の60分では昔から重要視されてきた教育心理学の基礎理論を紹介する。関連トピックでは、講義内容を応用した身近な知見を紹介する。教員や親として、児童・生徒(子ども)に接するうえで役に立つ知見を紹介することに重点を置く予定である。

到達目標（学習の成果）

全体目標

a)幼児，児童および生徒の心身の発達の過程に関する基礎的な知識を身に着ける。b)彼らの学習の過程に関する基礎的な知識を身に着ける。そのうえで，各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

(a) 幼児，児童および生徒の心身の発達の過程における到達目標

1) 幼児，児童および生徒の心身の発達に関する代表的な理論を理解している

2) 幼児，児童および生徒の発達を多数の側面（運動，言語，認知，社会性）から複合的に理解している

(b) 幼児，児童および生徒の学習の過程における到達目標

1) 幼児，児童および生徒の発達的特性を踏まえたうえで，学習支援および学習評価に関する基礎事項を理解している。

2) 幼児，児童および生徒の発達的特性を踏まえたうえで，主体的な学習を支援するための要因について広く理解している。

3) 幼児，児童および生徒による主体的な学習を支援するために必要な実践的な指導知識を得ている

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	講義契約と 教育心理学の概要	本講義と教育心理学の概要を述べる。また、評価方法や注意事項などについて説明する。 予習:シラバスを読んでおく 復習:アップロード済みの資料のうち，興味が持てそうなところに目を通しておく。
2回	発達と成熟	発達と成長の違いについてまず説明し、発達に必要な要因に関する諸理論を紹介する。また、発達曲線について解説する。 予習:第2回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/120007160809
3回	条件付けと学習	学習の定義についてまず説明し、その後に条件付けをとりあげながら学習の諸理論について説明する。 予習:第3回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/130007954403
4回	ピアジェの認知発達理論	ピアジェの認知発達理論における4つの発達段階について説明する。 予習:第4回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/120006479147
5回	人格と感情の発達	子どもの感情と愛着の発達について述べる。また、エリクソンを中心に人格発達に関する諸理論を紹介する。 予習:第5回資料を読んでおく 復習: https://drive.google.com/file/d/1d6DOj50Y-6DP2Fa5QN5ngGM2f7jOcpZw/view?usp=sharing
6回	知能	代表的な知能テストを紹介するとともに、知能観と学業成績との関連についても説明する。 予習:第6回資料を読んでおく

		復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/110006429015
7回	測定と評価	児童・生徒の習熟度を適切に測るために、テスト作成ではどのように工夫するべきか説明する。 予習:第 7 回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/130003376533
8回	教師のふるまい	教師のリーダーシップや児童・生徒への言葉かけについて概説する。 予習:第 8 回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/120006819232
9回	色々な学習方法	知識を定着させやすい学習方略や授業方法について紹介する。 予習:第 9 回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/130006391553
10 回	動機づけ	動機づけの自己決定理論を中心に、児童・生徒の動機づけを左右する要因について紹介する。 予習:第 10 回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/120007037266
11 回	認知カウンセリング	学業場面でつまずいた児童・生徒への援助方法を具体的に説明する。 予習:第 11 回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/110004570824
12 回	やる気のない子ども	セルフ・ハンディキャッピングや先延ばしの原理について説明を行う。 予習:第 12 回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/130005062916
13 回	虐待・ひきこもり・いじめ	近年特に関心を持たれているこれらの現象について、心理学の観点から専門的に解説する。 予習:第 13 回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/130007378893
14 回	学校適応と対人関係	学校適応の測定方法および学校適応が精神的健康に与える影響について概説する。その後，学校適応の規定因として考えられている対人特性について紹介する。 予習:第 14 回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/120007100235
15 回	挫折と成長	挫折は，単なる失敗とどのように異なるのか。また，挫折を経て成長するために必要なマインドセットは何か，解説していく。 予習:第 15 回資料を読んでおく 復習:https://ci.nii.ac.jp/naid/130008116965
準備学習（予習・復習について） 復習の項に記載された URL は，当該箇所に関連した論文の書誌情報である。必要に応じて目を通すこと。 なお，すべての授業回において，予習 30 分，復習 90 分で実施するとちょうどいい分量と概算している。 個人差があると思われるので，各自で調整してほしい。		

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
諸理論や用語の理解	十分に暗記し，応用的な理解もある	十分に暗記している	ある程度暗記している	最低限暗記している	諸理論や用語の理解
実践的な理解	実践理解が十分であり，的確に文章化されている	十分な実践理解がある	ある程度の実践理解がある	最低限の実践理解がある	実践的な理解
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

テストとレポートによって 50%ずつ評価する。

前半6回は暗記を要する基礎的な事項であるため、第7回開始時に 30 分の小テストを行う。第8回以降は教育実践に役立つ知識を提供するため、内容理解と応用的な発想をレポートによって評価する。このレポートを期末課題とする。

教科書

使用しない。毎回授業資料を配布する。

参考書等

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学 第 4 版』有斐閣アルマ 2015 年

履修上の注意・学習支援

毎回授業感想を記入する時間を設ける。考えついたことは何でも書いてほしい。自分の着想を否定しないことが勉学上達の一番の近道である。

オフィスアワー

授業前後に問い合わせすること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1EC096	特別支援教育	1年	前期	講義	1	松岡展世

授業概要

通常のクラスにも在籍する、発達障害をはじめとする様々な障害や特別な教育的ニーズのある児童・生徒について把握し、子どもの困り感を理解し、個別の教育的ニーズと適切な援助について考えられるようにする。講義だけでなく、演習や模擬体験等を通じて、特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達過程を理解し、支援方法について学ぶ。児童・生徒が必要な支援を受けながら、共に生活に参加する実感や達成感をもち、生きる力を身につけていける援助の方法を学ぶ。更に、教員同士の連携やチーム援助、保護者への支援や家庭との連携、他機関との連携の大切さについて理解する。

到達目標（学習の成果）

1. 特別の支援を必要とする児童・生徒の障害の特性及び心身の発達について理解し説明できる。(知識・理解)
2. 特別の支援を必要とする児童・生徒の教育課程や必要な支援・援助の方法を理解し説明できる。(知識・理解)
3. 障害の有無にかかわらず特別の教育的ニーズのある児童・生徒の把握や支援について適切に考えを伝えられる。(思考・判断)
4. 特別な教育的ニーズのある子どもの課題に関する専門的な援助方法に触れ、関心を深め、具体的援助についてのポイントを示すことができる。(興味・関心)

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 「障害」があるということの理解	授業計画、予習・復習、成績の評価基準、方法等を知る。 障害があるとはどういうことかについて自ら考え周囲と意見を交換し、気づきを得る。 予習：小説・ドラマ・マンガや自分自身の体験などによる自らの障害児のイメージはどのようなものか書き出す。 復習：自分の障害観と新たに学んだことを照らし合わせ、学びと気づきをまとめる。
2	障害児教育の歴史と理念	障害児教育の歴史、思想や理念、障害の捉え方について学ぶ
3	配慮が必要な生徒の理解	障害の有無によらず、気になる児童生徒、家庭の事情やことば・文化の違いなど、特別の教育的ニーズのある生徒についての理解を深める。 予習：“障害児教育”について下調べをし、疑問を書き出す。 復習：障害児教育の歴史と理念について理解したことをまとめる。
4	肢体不自由児等の理解と支援	体の不自由な子どもや病気がちな児童・生徒(肢体不自由・医療的ケアなど)の教育とかかわりの視点を学ぶ。
5	知的障害児の理解と支援	知的な遅れのある児童・生徒の教育について、発達上の課題について理解し、かかわりに必要な視点を学ぶ。 予習:体が不自由な子どもの直面しそうな困難を書き出す。 復習:身体的障害および知的障害の理解と対応についてまとめる
6	視覚障害児の理解と支援	視覚障害児の困難さ（情報の取り入れ・生活動作等）や発達上の課題について理解し、かかわりの視点を学ぶ。
7	聴覚障害児の理解と支援	聴覚障害児の困難さ（情報のやり取り・危険認知等）や発達上の課題について理解し、かかわりの視点を学ぶ。 予習：目や耳が不自由な子どもの直面しそうな困難を書き出す。 復習：視覚障害と聴覚障害にまつわる特徴と対応をまとめる。
8	発達障害の理解	発達障害の特性と、それによって生じる生活上の困難や行動や情動の調整の難しい児童・生徒について理解する。
9	発達の特性に応じた支援	ASD, ADHD, LDなどの特性をもつ生徒への関わりに必要な視点を理解する。 予習：発達障害に関して気になることをまとめる。 復習：発達障害の特徴と支援についてまとめる。
10	通常学級における特別支援教育	通常学級で支援が必要な児童生徒の実態と支援について理解する。
11	通級指導学級における特別支援教育	通級指導教室における特別支援教育の実際と支援について理解する。

		予習：通常学級で支援が必要な子どもの特徴を書き出す。 復習：通常学級と通級指導学級による指導についてまとめる。
12	個々が大切にされる教育計画と展開	個別の教育支援計画･個別の指導計画について学び、その意義や大切さについて学び、作成のポイントについて理解する。
13	個別教育計画の立案	具体的な事例に基づき、支援の必要な児童生徒に対するかかわりを考え、個別教育計画の一部を立案する。 予習：個別教育計画について調べ、どのような形式があるのか理解しておく。 復習： 個別教育計画の立案で気づいたことをまとめる。
14	家族理解と保護者支援	障害のある児童・生徒の家族（保護者・きょうだい児等）の直面しやすい課題と支援について学ぶ。
15	教育の質を高めるために	全ての子どもが必要な支援を受けながら共に育ち合う教育についてまとめ、発表し、自身の学びを振り返る。 予習：これまでの学びを振り返り、要点を再確認し、質問事項があれば授業内に解決できるようにまとめておく。 復習：学び全体を振り返り、自分なりの視点と見解をまとめる。

準備学習（予習・復習について）

本科目は講義科目１単位ですので、授業時間（1 回につき 90 分）の他に、総計 30 時間の授業外学習が必要となります。学習内容に記載された予習・復習時間を実践して内容の理解を深めてください。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
１．障害の特性及び心身発達についての理解 ２．教育課程や必要な支援・援助の方法の理解 ３．特別の教育的ニーズの把握と支援の判断 ４．専門的な援助方法への関心	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

1　授業外レポート（30%）：毎授業後に学びについて振り返り、気づきや考察を分かりやすく述べる。事前準備学習の欄を確認のこと。

2　発表（20%）：主体的に活動に参加し、ディスカッションや体験からの学びを自らの言葉で表現できる。

3　授業内試験（50%）：授業内の学びを踏まえて用語や概念を正しく理解し、支援や援助の方法を適切に述べられる。

＊課題については次回の授業の中でフィードバックを行い、適宜補足説明を加える。

教科書

使用しない

毎回の授業で、内容に合わせて理解を深めるための資料を作成し、配布する。

その他、映像資料・スライド資料等を視聴する。

参考書等

宮﨑英憲監修「特別支援学校のすべてがわかる 教員をめざすあなたへ」ジアース教育新社

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所著「特別支援教育の基礎・基本 新訂版」ジアース教育新社

安藤隆男編「講座 特別支援教育３ 特別支援教育の指導法［第２版］」教育出版

上野一彦監修「平成 29 年版 学習指導要領改訂のポイント 通常の学級の特別支援教育」明治図書出版

柘植 雅義著「特別支援教育−多様なニーズへの挑戦（中公新書）」中央公論新社

履修上の注意・学習支援

個別に配慮が必要な場合には、事前に相談すること。
授業内で、質問を随時受け付けます。積極的に質問し、できる限りその場で解決しましょう。

オフィスアワー

水曜日 16:25～17:55　(5 号館 2 階　松岡研究室)
・授業内で解決できなかった疑問・質問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約の上、時間を設定する）。具体的な日時は追って指示する。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
・東京都の区立教育相談室（10 年）及び栃木県の大学院附属臨床センター（10 年）にて心理相談員
　幼児期から中学生までの子どもの発達援助、発達検査、保護者や成人の心理相談、園の巡回相談など
・東京都及び栃木県の複数自治体で、乳幼児の子どもや親子への発達支援、園の巡回相談（14 年）
・東京都公立中学校スクールカウンセラー（5 年）

[実務経験と授業科目との関連性]
・臨床心理士として、乳児期から中学生まで、発達障害や知的障害、学習障害等を持つ子どもや被虐待等の背景を持つ子ども、支援の必要な子どもに対しての発達・心理アセスメントと援助に関わり、保護者への子育て支援、園や教諭へのコンサルテーションに携わってきた。これらの経験を踏まえ、特別な支援が必要な児童生徒の理解とその対応に関して、具体的な観点を交えた授業を行う。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2EC097	道徳教育の指導法	２年	前期	講義	1	梅澤圭子

授業概要

道徳教育の意義、基本理念及び内容等について学ぶ。また、主たる道徳教育の場である道徳科の目標、内容、指導計画等についての理解を深め、実践的な指導方法を学ぶ。さらに学校の教育活動全体を通じての道徳教育の在り方についても考察する。

到達目標（学習の成果）

1　学校教育における道徳教育の意義、内容やしくみについて理解している。
2　道徳科の目標、内容、指導計画等について理解を深め、授業実践上の具体的な技法等を習得している。
3　学校の教育活動全体における道徳教育及び道徳科の指導の在り方について理解している。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 学校生活の思い出	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 学校生活と道徳教育について振り返る。 予習：学校における道徳教育の意義について考えておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
2	今日的な教育課題と道徳教育	問題行動等の概要とその背景について学ぶ。 予習：児童生徒の問題行動の動向についてまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
3	道徳教育の意義	道徳性の発達と道徳教育について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
4	道徳教育の基本方針	学習指導要領に示された基本方針について学ぶ。 予習：学習指導要領で確認してまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
5	道徳教育と道徳科	道徳教育及び道徳科の目標と内容について学ぶ。 予習：「学習指導要領解説」で確認してまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
6	道徳科の指導内容(1)	指導内容、道徳的価値について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
7	道徳科の指導内容(2)	指導内容Ａ，Ｂについて学ぶ。 予習：「学習指導要領解説」で確認してまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
8	道徳科の指導内容(3)	指導内容Ｃ，Ｄについて学ぶ。 予習：「学習指導要領解説」で確認してまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
9	全体計画と年間指導計画	全体計画と年間指導計画の意義と内容について学ぶ。 予習：「学習指導要領解説」で確認してまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
10	指導資料	指導資料の選定と提示の工夫について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
11	学習指導案(1)	学習指導案作成の手順とその構想について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
12	学習指導案(2)	学習指導案を作成する。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：模擬授業の学習指導案を作成する。

13	学習指導案(3)	模擬授業を実施する。 予習：学習指導案を完成し、教材研究をしておく。 復習：授業を振り返って成果と課題をまとめる。
14	道徳教育の評価	評価の方法、意義について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
15	道徳教育の課題と展望	道徳教育を支える多様な教育活動と連携について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

準備学習（予習・復習について）

本科目は講義科目（１単位）なので、授業時間以外に授業外学習３０時間が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

また、以下の授業外学習を常に心がけてください。

・道徳科の授業で使える資料の収集…日常から、生徒に提示し読ませたいものや、考えさせたいことなどについて、資料を収集しておくこと。

・道徳教育の動向について、教育雑誌、新聞、文科省ＨＰなどで情報収集しておくこと。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 道徳教育の意義等について理解している。 2. 道徳科の授業実践上の技法等を修得している。 3. 学校教育活動全体における道徳の指導の在り方を理解している。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法　　定期試験（筆記試験）100％

教科書

文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」教育出版 2018 年 172 円

レジュメや資料等を配付します。

参考書等

中学校道徳科教科書「改訂 新しい道徳　１～３」東京書籍

中学校道徳科教科書「中学道徳　あすを生きる　１～３」日本文教出版

柳沼良太「道徳の理論と指導法」図書文化 2017 年 2420 円

学習支援・履修上の注意

教育実習期間中には、音楽科だけでなく道徳科の授業も実践します。

積極的・主体的な態度で受講してください。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約 k.umezawa@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

［実務経験の概要］

栃木県立高等学校の教諭、総合教育センター指導主事・副主幹・部長補佐、部長、教頭、校長を 38 年間にわたって務めた。特に指導主事・管理職等時代に、現場のみならず教育行政を始めとする教育界全般の諸問題・諸課題について研究等を行い、研修の企画・運営や学校経営等に生かした。

［実務経験と授業の関連性］

学校現場（管理職）や行政組織での経験を、道徳教育の指導法に関する授業内容の実施にあたって、具体的な実例を示すなどして生かす。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2EC098	総合的な学習の時間の指導法	２年	前期	講義	1	山口　宏

授業概要

総合的な学習の時間の意義等について学び、自ら課題を見付け、よりよく課題を解決するための資質・能力の育成を目指すための指導計画の作成、具体的な指導の方法、学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けることができる。

到達目標（学習の成果）

1　総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解することができる。（知識）
2　総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。（技術・方法）
3　総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解し実践できる。（態度）

授　業　計　画

回	表　題	学習内容
1回	総合的な学習の時間の総説	改定の経緯　改定の趣旨及び要点（教科書第１章） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：改定の趣旨や要点について内容を整理すること。
2回	総合的な学習の時間の目標	目標の構成と趣旨　育成を目指す資質・能力 （教科書第２章） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：目標の構成や趣旨について内容を整理すること。
3回	各学校において定める目標及び内容	目標と内容、その取扱い（教科書第３章） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：目標及び内容について整理すること。
4回	指導計画の作成(1)	指導計画作成上の配慮事項（教科書第４章第１節） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：指導計画作成の配慮事項について内容を整理すること。
5回	指導計画の作成(2)	内容の取扱いについての配慮事項（教科書第４章第２節） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：内容の取扱いの配慮事項について内容を整理すること。
6回	指導計画の作成(3)	全体計画と年間指導計画（教科書第５章第１・２節） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：全体計画と年間指導計画について内容を整理すること。
7回	指導計画の作成(4)	育成を目指す具体的な資質・能力 （教科書第５章第３節１～３） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：探究課題や育成を目指す資質能力について内容を整理すること。
8回	指導計画の作成(5)	考えるための技法（教科書第５章第３節４、第４節） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：考えるための技法について内容を整理すること。
9回	指導計画の作成(6)	単元計画の作成と運用（教科書第６章） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：年間指導計画や単元計画について内容を整理すること。
10回	総合的な学習の時間の学習指導(1)	学習指導の基本的な考え方（教科書第７章第１節） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：生徒の主体性や適切な指導の在り方について内容を整理すること。
11回	総合的な学習の時間の学習指導(2)	主体的・対話的で深い学び（教科書第７章第２節） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：主体的・対話的で深い学びについて内容を整理すること。

12 回	総合的な学習の時間の学習指導(3)	探究的な学習の指導（教科書第７章第３節） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：学習過程を探究的にし、協働的・主体的な学習活動について内容を整理すること。
13 回	総合的な学習の時間の評価	学習評価の充実　教育課程の評価（教科書第８章） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：目標に準拠した評価について内容を整理すること。
14 回	総合的な学習の時間を充実させる体制づくり(1)	校内組織の整備　授業時数の確保と弾力的な授業時数の運用　（教科書第９章１～３節） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：校内組織の整備や授業時数の確保について内容を整理すること。
15 回	総合的な学習の時間を充実させる体制づくり(2)	校内の環境整備　外部との連携（教科書第９章第４・５節） 予習：該当する章について教科書をよく読んでおくこと。 復習：環境整備・外部との連携について内容を整理すること。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目１単位なので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。学習内容に記載された予習・復習課題を実践して内容理解に努めてください。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
①総合的な学習の時間の意義や考え方の理解 ②総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方の理解とその方法 ③総合的な学習の時間の指導と評価の考え方を理解し実践する態度	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

定期試験〈筆記試験〉（50%）＋　授業内評価〈小テスト・レポート等〉（50%）で評価する。

教科書

『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総合的な学習の時間編』文部科学省　408 円

参考書等

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校　総合的な学習の時間
国立教育政策研究所

履修上の注意・学習支援

・毎回パワーポイント資料を配付します。
・配慮が必要な場合には事前に相談してください。
・教育実習期間中には、音楽・道徳・学活等だけでなく総合的な学習の時間の指導も実践することになります。積極的・主体的な態度で受講してください。

オフィス・アワー

疑問・質問があれば、オフィス・アワーを利用してください。（授業開始前、1 号館 1 階「講師教員センター」）具体的な時間は追って指示します。

実務経験の概要］
・栃木県公立中学校教諭として 17 年間勤務
・栃木県教育委員会事務局における教育行政経験、および独立行政法人教員研修センター主任指導主事・主幹としての指導経験
・ 学校現場及び行政における実務的な経験は、本科目の授業内容と関連性が深く、より具体的な講義が実施できると考えます。

［**実務経験と授業科目との関連性**］
・総合的な学習の時間の意義や教育課程における役割、および指導計画や指導と評価の考え方等について、実務経験に基づき講義の中で具体的な中学校の事例を示しながら解説を行います。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1EC099	特別活動の指導法	1年	後期	講義	1	田上富男

授業概要

学校教育における特別活動は，「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ，様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み，互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して資質・能力を育成する」ことを目標としており，授業では，特別活動の指導の視点となる「人間形成・社会参画・自己実現」についての理解を深めるとともに，特別活動の実践的な指導の基礎となる事項を学ぶ。

到達目標（学習の成果）

学習指導要領における特別活動の教育的意義及び特別活動の成立，歴史的変遷についての理解を深める。また，話合い活動における合意形成やそれに基づく意思決定の過程、自主的・実践的な活動，自発的・自治的な活動についての学習を進め，個性と社会性を備えた児童生徒の育成のため，特別活動における基礎的・実践的な指導力を獲得する。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 学校教育における特別活動	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 学校における実際の教育活動を通した特別活動を理解する 予習：学校教育について調べる。 復習：授業を振り返って理解を深める。
2	特別活動の学習指導要領上の位置付け	学習指導要領における特別活動の活動内容を理解する 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
3	特別活動の変遷	学習指導要領における特別活動設定の趣旨及び歴史的変遷を学ぶ 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
4	特別活動の教育的意義	教育の目的・目標から見た特別活動と特別活動の目標及び育成を目指す資質・能力を知る 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
5	教育課程編成と特別活動の計画①	教育課程編成における特別活動と全体計画の作成を学ぶ 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
6	教育課程編成と特別活動の計画②	学級活動の年間指導計画の作成を学ぶ 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
7	教育課程編成と特別活動の計画③	生徒会活動の年間指導計画の作成を学ぶ 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
8	教育課程編成と特別活動の計画④	学校行事の年間指導計画の作成を学ぶ 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
9	特別活動の内容①	学級活動(1)の指導内容及び指導法を学ぶ 話合い活動における「合意形成」を知る 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
10	特別活動の内容② 学級活動の実際	学級活動(2)の指導内容及び指導法を学ぶ 「意思決定」のための活動過程を知る 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

11	特別活動の内容③	学級活動(3)の指導内容と指導法を学ぶ 学級活動を要としたキャリア教育を知る 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
12	特別活動の内容④	児童会・生徒会活動の指導内容及び指導法を学ぶ 自主的・実践的な活動及び自発的・自治的活動を知る 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
13	特別活動の内容⑤	学校行事の指導内容及び指導法を学ぶ 異学年集団の活動の実際を知る 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
14	特別活動における地域連携	地域との連携による特別活動及び地域の教育資源の活用を学ぶ 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
15	特別活動の評価	自己評価と相互評価、ポートフォリオ評価等を知る 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

準備学習（事前学習・事後学習について）

本科目は、講義科目 1 単位ですので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要です。

○　レジュメや配付資料の復習を行うこと。
○　授業中における専門用語等については参考書等の専門書を通して理解を深めておくこと。
○　授業中に積極的に協議・質問等ができるよう準備しておくこと。

成績評価の基準・方法

評価項目	S	A	B	C	D
・学習指導要領における特別活動の教育的意義や特別活動の成立，歴史的変遷についての理解 ・特別活動における基礎的・実践的な指導力の獲得。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

定期試験７０％，課題等の提出物・授業中の発表等３０％

教科書

文部科学省「中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説・特別活動編」東山書房 424 円

参考書等

毎時間授業レジュメ配付及び参考資料配付

履修上の注意・学習支援

○各授業テーマを確認し，問題意識をもって受講すること。

オフィスアワー
　質問等があれば、オフィスアワー（原則、講義終了後（開始前でも可）15 分間程度、
　１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

実務経験の概要・実務経験と授業科目との関連性
［実務経験の概要］
１９８１年～２０２１年　小中学校教員、中学校長、教育委員会事務局指導主事、教育次長、教育事務所長、教育長
［実務経験と授業科目との関連性］
教員・校長としての学校現場や教育行政機関での経験から、特別活動の基本的な考え方や指導法等について、学校現場の実態を踏まえて、具体的な実例を示しながら講義を実施できる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1EC100	教育課程・方法論	1 年	後期	講義	1	溜池善裕

授業概要

我が国の義務教育学校において戦後蓄積されてきた教育実践における教育方法について，どのような児童・生徒を教科指導を通した育てたかについてその具体を知るとともに，教科における教育の技術をどのように位置付けることが出来れば児童・生徒の学習に意義あるものになるかについて，過去の授業実践等を検討することを通して理解する。

到達目標（学習の成果）

①教育方法が教科の内容等を超えて，児童・生徒の成長に深く関わることを理解する。
②具体的な授業の方法（ICT を含む）が，授業の目的と整合的であることを理解する。
③指導要領の目的や内容を理解し，生徒の実態に応じた指導計画を立てることができる。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 教える・学ぶ　発問	授業計画，授業方法，予習・復習，成績の評価基準・方法等を知る。 教えることは，生徒が学ぶことを通して行われることを理解する。 予習：教える・学ぶについて考える。 復習：授業を振り返って理解を深める。
2	自律的な学習１　板書	学習指導要領にある「深い学び」とはどういうものであるかを，具体的な授業事例から検討する。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
3	自律的な学習２　ノート指導	学習指導要領にある「深い学び」と，個々の生徒の自律的な学習との関係について，具体的な授業事例から検討する。 予習：ノート指導とな何かを考える。 復習：授業を振り返って理解を深める。
4	協働的な学習１　学習指導	学習指導要領にある協働的な学びが，具体的にどのようなものであるかを，具体的な実践事例から検討する。 予習：話し合いがどのような意味を持つかについて考える。 復習：授業を振り返って理解を深める。
5	協働的な学習２　評価（1）	学習指導要領にある協働的な学びに必要な手立てについて，具体的な実践事例から検討する。 予習：生徒が学習を作るとは何かについて考える。 復習：授業を振り返って理解を深める。
6	各教科とカリキュラム・マネジメント１ 評価（2）	教科に閉じた学びが，他教科とつながるために必要な具体的な指導方法について学習する。（教育課程） 予習：指導要領を読む。 復習：授業を振り返って理解を深める。
7	各教科とカリキュラム・マネジメント２ 評価と学習指導	他教科とつながる学びによって，生徒がどのような能力を獲得するかを具体的な事例を通して理解する。 予習：カリキュラム・マネジメントについて調べる。 復習：授業を振り返って理解を深める。
8	授業研究の方法１ 授業分析・授業記録	授業方法を含むカリキュラム・マネジメントの改善に必要な，授業研究法のうち，授業記録を使った方法について知る。（授業研究，授業記録，授業分析） 予習：授業記録を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

9	授業研究の方法２　ICT の活用	授業動画をもとに，授業分析を行う方法について考究する。 予習：動画の授業記録を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
10	授業の方法１　教育課程，指導計画	学習指導要領を読み，それをどのように授業にしていくかを考究する。 予習：指導要領の内容について理解を深めておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
11	授業の方法２　指導案	指導計画に本時を位置づけ，指導案を作成する。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
12	授業の方法３　教材研究	指導計画と本時を具体化するための教材研究を実際に行うことで，その具体的方法について理解する。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
13	授業の方法４　実施（１）板書計画	模擬授業を実施する 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
14	授業の方法５　実施（２）ICT の活用	模擬授業を実施する 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
15	全体のまとめ	全時間を振り返り，自分にはどのような課題があるかを確かめる。 予習：資料を読んでおく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

準備学習（事前学習・事後学習について）

本科目は，講義科目(1 単位)なので，授業時間90分以外に30 時間の授業外学習が必要です。

・事前・事後において，配布された資料（授業記録，指導案等）については，あらためて読み直し，そこにどのような子供達の学習があるのかについて，具体的に確認・整理し，分からないことについては自分で調べたり，次回質問したりする。

成績評価の基準・方法

成績評価の方法

評価項目	S	A	B	C	D
・音楽の理論と技術を，教育課程や教育方法に位置づけることができる。 ・具体的な授業の方法（ICT を含む）が，授業の目的と整合的であることを理解する。 ・指導要領の目的や内容を理解し，生徒の実態に応じた指導計画を立てることができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの，到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの，到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない

100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
小テスト６０％
定期試験　レポート４０％

教科書
・「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編」（東洋館出版社）250円
参考書等
・授業時，適宜資料を配布する。

履修上の注意・学習支援
・実際の子供達の学びの具体を通して，教えることの意味や楽しさが分かるような，主体的な参加を希望します。

オフィスアワー
質問等があれば，オフィスアワー（原則，講義終了後（開始前でも可）15 分間程度，
１号館１階「講師教員センター」）を利用すること。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1EC101	教育とＩＣＴ活用	1	後期	講義	1	益子　徹

授業概要

今日，情報通信技術は急激な進歩を遂げ，学校教育現場においても様々な場面で各種デジタル機器が活用されるようになってきている。
本授業においては，各種情報機器の概略と活用方法を理解し，それらの機器を実際に利用した模擬授業等を通してその効果的な活用法について体験的に学習していく。

到達目標(学習の成果)

① ICT機器やソフトの操作法を知り，教育現場での活用の意義と在り方を理解している。
② ICT機器を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに情報モラル教育について理解している。
③ 各教科の特性を考慮した指導事例（デジタル教材の作成・利用を含む。）を理解し,指導法を身に付けている。

授業計画

回	表　題	学習内容
1回	授業の進め方 ICT 機器の利用	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 ICT 機器の動作確認や基本操作を学ぶ。 予習：本科目のシラバスの記載内容について読んでおく。 復習：各機器の使用方法をしておく。
2回	ICT 機器の種類と理解	ICT 機器の種類や使用方法を理解する。 予習：ICT 機器の種類や種類を調べておく。 復習：各機器の種類を整理する。
3回	ICT 機器の活用と情報モラル	ICT 機器の学校内での活用，ICT 環境の整備の在り方及び情報社会で適正な活動を行うためのモラルやセキュリティの理解 予習：活用方法やモラルについて調べておく。 復習：学習内容を整理しておく。
4回	校務の推進の在り方	校務支援システムなどを含む ICT を効果的に活用した校務の推進への理解 予習：校務での活用方法を考えておく。 復習：学習内容を整理する。
5回	画像処理と文書作成	画像編集，画像の取り込みと簡単な文書作成 予習：操作方法を確認しておく。 復習：操作方法を理解し，整理しておく。
6回	プレゼンテーションソフトの活用	プレゼンテーションソフトの使用方法，サンプル教材の作成 予習：操作方法を確認しておく。 復習：操作方法を理解し，整理しておく。
7回	遠隔授業の現状	Web 会議ソフトやドキュメント共有を通した学習指導 予習：操作方法を確認しておく。 復習：操作方法を理解し，整理しておく。
8回	遠隔授業の理解	オンライン上でのデータ活用，評価，効果的な活用 予習：操作方法を確認しておく。 復習：操作方法を理解し，整理しておく。

9回	楽譜作成ソフトの活用方法	楽譜作成ソフトの紹介と使用方法 予習：操作方法を確認しておく。 復習：操作方法を理解し，整理しておく。
10回	録音・録画方法と編集（1）	録画・録音の実践，編集ソフトの種類と紹介 予習：操作方法を確認しておく。 復習：操作方法を理解し，整理しておく。
11回	録音・録画方法と編集（2）	編集作業の実践 予習：操作方法を確認しておく。 復習：操作方法を理解し，整理しておく。
12回	音楽科における ICT 活用の考察	授業内で活用できる ICT 分野のまとめ 予習：活用方法を考えて整理しておく。 復習：活用方法を理解し，まとめておく。
13回	模擬授業（1）	プレゼンテーションソフトを用いた模擬授業 予習：操作方法を確認しておく。 復習：活用について理解し，整理しておく。
14回	模擬授業（2）	文書作成ソフトを用いた模擬授業 予習：操作方法を確認しておく。 復習：活用について理解し，整理しておく。
15回	模擬授業（3）	音源・動画を用いた模擬授業 予習：操作方法を確認しておく。 復習：活用について理解し，整理しておく。

準備学習（予習・復習について）

本科目は、講義科目 1 単位なので、授業時間 90 分以外に 30 時間の授業外学習が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

1 積極的に Chrome Book を用い，ICT 機器の操作に慣れる。

2 それぞれ目的に応じたアプリケーションソフトの操作に慣れる。

成績評価の基準・方法

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
① ICT機器やソフトの操作法を知り，教育現場での活用の意義と在り方を理解している。 ② ICT機器を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに情報モラル教育について理解している。 ③ 各教科の特性を考慮した指導事例（デジタル教材の作成・利用を含む。）を理解し，指導法を身に付けてい	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない

る。					
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

プレゼンテーション課題 20% 録音課題 30% 定期試験 50%

教科書

必要に応じて，レジュメを各回の授業で配付する。

参考書等

文部科学省 中学校学習指導要領

音楽科教育と ICT （著）深見友紀子・小梨貴弘 音楽之友社 2000 円＋税

今すぐ使える！Google for Education 技術論評社 2280 円＋税

学習支援・履修上の注意

課題内容をよく確認して取り組み，わからないことは最初に自ら解決方法を探し，それでも解決できない場合はすぐに質問してください。

オフィスアワー

疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。事前予約(mashiko@ujc.ac.jp)

[実務経験の概要]

県立高校の全日制及び定時制にて音楽を担当。指導・評価・資料作成に取り組んだ。また，ソルフェージュや音楽理論の科目では，楽譜作成ソフト等を用い教材作成や授業展開を行った。

[実務経験と授業科目との関連性]

公務や授業での活用，全般的なモラルなど，学校現場での経験を具体的な実例を示すなどして講義に生かしている。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1EC102	生徒･進路指導	隔年	集中講義	講義	1	梅澤圭子

授業概要

学校教育において、生徒指導と進路指導はともに「生きる力」を育む上で重要な役割を担っている。

本講義では、両者の意義、理論、方法等について、具体的事例を通して理解を深め、組織的に生徒指導、進路指導・キャリア教育を進めていくために必要な知識や実践的方法を身に付ける。

到達目標（学習の成果）

生徒指導及び進路指導・キャリア教育についての基本と実践的方法を理解している。
①基礎的な知識が身に付いている。
②理論に基づいた生徒支援や校内体制の在り方について必要な知識・技術が身に付いている。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 生徒指導の意義	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 生徒指導とは何か、生徒指導の理論と目標について学ぶ。 予習：教科書の該当ページを読んでまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
2	教育課程と生徒指導	学習指導と生徒指導、道徳教育における生徒指導、 特別活動と生徒指導、教育相談と生徒指導について学ぶ。 予習：教科書の該当ページを読んでまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
3	生徒理解と生徒指導(1)	青年期をめぐる現代的課題、青年期の心理、青年期における社会性の発達について学ぶ。 予習：教科書の該当ページを読んでまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
4	生徒理解と生徒指導(2)	生徒理解の方法、生徒理解と資料収集について学ぶ。 予習：教科書の該当ページを読んでまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
5	生徒指導の進め方(1)	生徒指導の原理、生徒指導体制の在り方、関連法規について学ぶ。 予習：教科書の該当ページを読んでまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
6	生徒指導の進め方(2)	学級経営と生徒指導、安全教育について学ぶ。 予習：教科書の該当ページを読んでまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
7	生徒指導の進め方(3)	非行、不登校等の理解と対応について学ぶ。 予習：教科書の該当ページを読んでまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
8	生徒指導の進め方(4)	いじめ、情報機器利用にかかわる諸問題等の理解と対応について学ぶ。 予習：教科書の該当ページを読んでまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
9	進路指導・キャリア教育の意義(1)	進路指導・キャリア教育の意義について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
10	進路指導・キャリア教育の意義(2)	進路指導・キャリア教育の位置付けと指導の在り方について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
11	進路指導の進め方(1)	組織的な指導体制、家庭や他機関との連携について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

12	進路指導の進め方(2)	キャリア教育について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
13	進路指導の進め方(3)	キャリア教育の実際について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
14	進路指導の進め方(4)	進路指導・キャリア教育上の課題について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
15	進路指導の進め方(5)	キャリア・カウンセリングについて学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

準備学習（予習・復習について）

本科目は講義科目（１単位）なので、授業時間以外に授業外学習３０時間が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

また、以下の授業外学習を常に心がけてください。

・生徒指導と進路指導の動向について、教育雑誌、新聞、文科省ＨＰなどで情報収集しておくこと。

・授業で取り扱った教育に関する用語については、関係の書籍等により理解を深めておくこと。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
生徒指導、進路指導について 1. 基礎的な知識を身に付けている。 2. 生徒支援や校内体制の在り方についての知識・技術を身に付けている。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法　　定期試験（筆記試験）100％

教科書

文部科学省「生徒指導提要　令和 4 年 12 月」東洋館出版社 2023 年 990 円

レジュメや資料等を配付します。

参考書等

高原史朗「中学生を担任するということ」高文研 2017 年 2090 円

藤田晃之「キャリア教育基礎論」実業之日本社 2014 年 2200 円

学習支援・履修上の注意

積極的・主体的な態度で受講してください

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約 k.umezawa@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

［実務経験の概要］

栃木県立高等学校の教諭、総合教育センター指導主事・副主幹・部長補佐、部長、教頭、校長を 38 年間にわたって務めた。特に指導主事・管理職等時代に、現場のみならず教育行政を始めとする教育界全般の諸問題・諸課題について研究等を行い、研修の企画・運営や学校経営等に生かした。

［実務経験と授業科目との関連性］

学校現場（管理職）や行政組織での経験を、生徒指導･進路指導の基本的な考え方や様々な生徒指導･進路指導上の課題などに関する授業内容の実施にあたって、具体的な実例を示すなどして生かす。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2EC103	教育相談	隔年	集中講義	講義	1	梅澤圭子

授業概要

教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。また、生徒指導の一環として位置づけられるものであり、その中心的役割を担うものである。本講義では、事例、演習等をとおして、教育相談の基本的な位置づけ、内容、方法等について理解を深め、基礎的知識を身に付ける。

到達目標（学習の成果）

教育相談についての理解を深め、生徒理解や生徒支援の在り方についての基礎的知識を身に付けている。
①教育相談に関する知識と基礎的な対処法を身に付けている。
②生徒理解の方法や組織的な対応の重要性について理解している。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 教育相談とは	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 教育相談の意義、理論、課題について学ぶ。 予習：教科書の該当ページを読んでまとめておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
2	教育相談の方法(1)	カウンセリングの基礎について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
3	教育相談の方法(2)	学校教育におけるカウンセリングについて学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
4	教育相談の方法(3)	子どもの心の問題の背景と概要について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
5	子どもの心の問題	背景と概要、代表的な疾患について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
6	不登校の理解と対応	不登校の実態とタイプ、不登校への対応について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
7	いじめ問題の理解と対応(1)	いじめの定義と実態について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
8	いじめ問題の理解と対応(2)	いじめ問題への対応について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
9	非行・反社会的行動の理解と対応(1)	非行・反社会的行動の概要と実態について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
10	非行・反社会的行動の理解と対応(2)	非行・反社会的行動の心理学的理解と対応について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
11	校内の協力体制	校内協力体制の必要性について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
12	他機関との連携	他機関との連携の必要性と実際について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

13	保護者に対する援助	家族関係と保護者の問題、保護者への対応について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
14	児童生徒の多様性の理解と対応	事例理解の方法と援助について学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
15	発達支持的な教育相談	発達支持的な教育相談、ソーシャルスキル・トレーニングについて学ぶ。 予習：教科書と授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

準備学習（予習・復習について）

本科目は講義科目（１単位）なので、授業時間以外に授業外学習３０時間が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

また、以下の授業外学習を常に心がけてください。

・教育相談の動向について、教育雑誌、新聞、文科省ＨＰなどで情報収集しておくこと。

・授業で取り扱った教育に関する用語については、関係の書籍等により理解を深めておくこと。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
教育相談について 1. 基礎的な知識・対処法を身に付けている。 2. 生徒理解の方法やや組織的対応の重要性について理解している。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法　　定期試験（筆記試験）100％

教科書

文部科学省「生徒指導提要　令和 4 年 12 月」東洋館出版社 2023 年 990 円

レジュメや資料等を配付します。

参考書等

荻上チキ「いじめを生む教室 子どもを守るために知っておきたいデータと知識」PHP 新書 2018 年 1122 円

榎本博明「わかりやすい教育心理学」サイエンス社 2021 年 2530 円

学習支援・履修上の注意

積極的・主体的な態度で受講してください。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約 k.umezawa@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

［実務経験の概要］

栃木県立高等学校の教諭、総合教育センター指導主事・副主幹・部長補佐、部長、教頭、校長を 38 年間にわたって務めた。特に指導主事・管理職等時代に、現場のみならず教育行政を始めとする教育界全般の諸問題・諸課題について研究等を行い、研修の企画・運営や学校経営等に生かした。

［実務経験と授業科目との関連性］

学校現場(管理職)や行政組織での経験を、教育相談の基本的な考え方や様々な教育相談上の課題、生徒理解などの授業内容の実施にあたって、具体的な実例を示すなどして生かす。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M1EC104	教育実習	１年・２年	1年後期・ 2年前期	実習	5	梅澤圭子

授業概要

教育実習の目的は、大学での教職科目及び専門科目等で身に付けた教育に対する知見を、実際の学校現場での実践的な体験学習を通して、教師の資質・能力や実務について実践的に研究することである。

本講座では、教科、道徳、学級経営、評価等に関する基本的な技能について確認するとともに、教育実習の意義や心構え等について多角的に学び、教職への使命感や意欲を育て、自己の教職に対する能力・適性について自覚できるようにする。

教育実習を経験し、教職に必要な資質能力や実務の基礎を身に付ける。

この授業は、教育実習及び介護等体験の事前指導及び事後指導を含んでいる。

到達目標（学習の成果）

①教育実習及び介護等体験の意義について理解している。
②学校現場等での実践的な体験学習を通して、教員としての資質能力や実務の基礎を身に付けている。
③教職への使命感や意欲を育て、自己の教職に対する能力・適性について自覚している。

授業計画

１年後期	２年前期
表題	**表題**
○　授業の進め方、評価方法等	○　教育実習直前指導
○　教育実習についての全体説明	○　学習指導案作成と模擬授業
○　教育実習の目的・意義	○　道徳教育について
○　教育実習の心構え・注意事項	○　音楽科の教材研究
○　上級生の教育実習体験談・助言を聴く	○　ピアノ伴奏練習〔各自〕
○　介護等体験の意義	○　教育実習記録簿の記入について
○　介護等体験の心構え・注意事項	○　中学校における教育実習〔３週間〕
○　施設及び特別支援学校における介護等体験〔７日間〕	○　教育実習報告会
	○　教育実習報告書の提出
○　介護等体験の体験発表とレポート提出	○　教育実習の事後指導
○　学習の評価について	○　下級生への教育実習体験談・助言
○　学習指導案の作成と模擬授業	○　教員採用試験受験者に対する指導
○　教育実習事前準備	
○　ピアノ伴奏練習〔各自〕	

準備学習（事前学習・事後学習について）

授業時間以外に授業外学習が必要になります。
また、以下の授業外学習を常に心がけてください。

・２年次の教育実習に向け、実習校の状況把握、学習指導および道徳の指導についての再確認、ピアノ伴奏の練習等を確実に実施しておくこと。
・ピアノ伴奏については、ピアノ担当教員の指導・助言も得ながら、十分な事前準備に取り組むこと。
・介護等体験及び教育実習については、実施後は記録簿等の記入や振り返りを行い、発表及びレポート提出に備えること。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 教育実習及び介護等体験の意義について理解している。 2. 実践的な体験学習を通して、教員としての資質能力や実務の基礎を身に付けている。 3. 教職への使命感や意欲を育て、自己の教職に対する能力・適性について自覚している。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

・１年後期　　定期試験（筆記試験）50%＋授業外の課題（介護等体験報告等）50%
・２年前期　　教育実習実施校による評価 70%＋授業外の課題（教育実習報告書等）30%

教科書

文部科学省「中学校学習指導要領解説 音楽編」 教育芸術社 2018 年 250 円
レジュメや資料等を配付します。

参考書等

本図愛実、末冨芳(編著)「新・教育の制度と経営［四訂版］」学事出版 2023 年 2530 円

学習支援・履修上の注意

積極的・主体的な態度で受講してください。
また、実習にあたっては、十分に準備し、全力で臨んでください。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約 k.umezawa@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

［実務経験の概要］

栃木県立高等学校の教諭、総合教育センター指導主事・副主幹・部長補佐、部長、教頭、校長を 38 年間にわたって務めた。特に指導主事・管理職等時代に、現場のみならず教育行政を始めとする教育界全般の諸問題・諸課題について研究等を行い、研修の企画・運営や学校経営等に生かした。

［実務経験と授業科目との関連性］

学校現場（管理職）や行政組織での経験を、学校の組織や教員の職務、授業実践などの授業内容の実施にあたって、具体的な実例を示すなどして生かす。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
25M2EC105	教職実践演習（中学校）	２年	後期	演習	2	梅澤圭子

授業概要

教職課程の集大成となる科目である。これまでの学習の基盤に立ち、人間形成にかかわる教職の重要性についての理解を深めるとともに、自己の資質・能力、課題等を確認し、学校教育の課題解決に関する能力など実践的指導力を身に付ける。

到達目標（学習の成果）

教職に求められる資質・能力の向上を図り、実践的指導力を身に付けている。
①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち、生徒とともに成長しようとする姿勢が身に付いている。
②職業人としての社会性や対人関係能力の基本を身に付けている。
③学習指導、生徒理解、学級経営等に関する基礎的な力を身に付けている。

授業計画

回	表　題	学習内容
1	授業の進め方 教職概要(1)	授業計画、授業方法、予習・復習、成績の評価基準・方法等を知る。 教職課程の学習の成果と課題を振り返る。 予習：履修カルテを提出出来るよう記入しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
2	職能形成	教員としての資質・能力、新任教師の研修 について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
3	生徒理解(1)	多様な指導に向けての事例研究について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認時効を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
4	生徒理解(2)	特別支援教育について再確認する。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
5	生徒理解(3)	保護者・地域・関係機関との連携について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
6	学級経営(1)	学級経営の意義、学級経営案、担任の仕事について再確認する。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深めるとともに、学級経営案を作成する。
7	学級経営(2)	学級の組織と活動について再確認する。 予習：学級経営案を作成する。 復習：授業を振り返って理解を深める。
8	学級経営(3)	学級便りを作成する。 予習：学級だよりの構想を練る。 復習：学級便りを作成し提出する。
9	学習指導(1)	教材や学習指導案を作成する。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
10	学習指導(2)	模擬授業（教科）を実施する。 予習：学習指導案を作成する。 復習：授業を振り返って理解を深める。
11	学習指導(3)	模擬授業（道徳）を実施する。 予習：学習指導案を作成する。 復習：授業を振り返って理解を深める。

12	学習指導(4)	模擬授業（学級活動）を実施する。 予習：学習指導案を作成し提出する。 復習：授業を振り返って理解を深める。
13	学校経営(1)	安全・安心な学校づくりと危機管理について学ぶ。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
14	学校経営(2)	組織の一員としての在り方を考察する。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。
15	教職概要(2)	教職に関する資質・能力についてまとめる。 予習：授業レジュメで確認事項を整理しておく。 復習：授業を振り返って理解を深める。

準備学習（予習・復習について）

本科目は演習科目（２単位）なので、授業時間以外に授業外学習３０時間が必要になります。授業外学習方法に記載された予習・復習課題を実践して内容の理解を深めてください。

また、以下の授業外学習を常に心がけてください。

・模擬授業の準備は早めに開始すること。
・学級便りについては、日頃から内容構成について考えておくこと。
・これまでの教職課程の各科目について、その学習内容を整理・確認しておくこと。
・履修カルテを記入し、提出すること。

成績評価の基準・方法

成績評価の基準

評価項目	S	A	B	C	D
1. 教師としての使命感、責任感等が身に付いている。 2. 社会性や対人関係の基本を身に付けている。 3. 学習指導、生徒理解、学級経営等に関する基本的な力を身に付けている。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法　　定期試験（筆記試験）50％＋授業外の課題（課題内容は準備学習の欄を参照）50％

教科書

教科書は使用しない。レジュメや資料等を配付する。

参考書

文部科学省「中学校学習指導要領」
文部科学省「生徒指導提要　令和 4 年 12 月」東洋館出版社 2023 年 990 円

学習支援・履修上の注意

積極的・主体的な態度で受講してください。

オフィスアワー

質問等があれば、オフィスアワーを利用すること（事前予約 k.umezawa@ujc.ac.jp のうえ、時間を設定する）。具体的な時間帯は追って掲示する。

［実務経験の概要］

栃木県立高等学校の教諭、総合教育センター指導主事・副主幹・部長補佐、部長、教頭、校長を 38 年間にわたって務めた。特に指導主事・管理職等時代に、現場のみならず教育行政を始めとする教育界全般の諸問題・諸課題について研究等を行い、研修の企画・運営や学校経営等に生かした。

［実務経験と授業科目との関連性］

学校現場（管理職）や行政組織での経験を、学校経営、生徒理解など教員の職務全般に関する授業内容の実施にあたって、具体的な実例を示すなどして生かす。